

庄太郎氏ほか一名にして、理事は五名、監事は四名、統制委員十五名である。

遠州 氣 鐵道株式會社

電話 五五一番

當社は大正八年八月雨宮敬次郎氏經營の大日本軌道濱松支社線を買収し遠州軌道株式會社として創立され當時資本金百萬圓なりしも、大正十一年増資して現在の二百五十萬圓となり、同時に現名稱に改め、全線に互つて電化を實施した。線路十九軒、乗降客一ヶ月百三十餘萬人、取扱貨物十二萬噸、沿線には名勝舊蹟等遊覽の地多く、殊に遠州二俣驛より連絡バスのある秋葉山は遠州隨一の靈山として行客多く、山中には秋葉神社や秋葉寺がある。また二俣町附近の天龍川下りも有名であり、その他光明山、小堀谷の山洞窟、青谷不動の瀧、椎ヶ脇神社、岩水寺遊園、松茸山、平口不動尊、笠井院、有玉神社、天白社、晋濟寺、縣居神社等

がある。初代社長は竹内龍雄氏、現社長は鈴木信一氏、常務取締役青葉延太郎氏は取締役兼支配人坪井俊平氏にして、姉妹會社に、濱松電氣鐵道、氣賀自動車、遠州乗合自動車、濱松タクシーの各株式會社がある。

日本 樂器製造株式會社

濱松市 中澤町

當社は東洋に於ける最大唯一の樂器製造會社で世界屈指の完備した工場である。本工場は國定教科書にも掲載されて居り工場敷地二萬二千餘坪、建坪一萬二千坪を有し、従業員は約二千四百名を算す。主要製品は、山葉ピアノ、山葉オルガン、蝶印ハーモニカ、高級木工家具、山葉ベニヤ板、飛行機用プロペラー等にして、横濱には分工場あり、西川ピアノ、西川オルガンを製造してゐる。創立以來九十年の歴史を持ち、資本金は四百萬圓、ピアノ製造数は累計約二萬五千台、オルガンは約二十五萬台に達する。主なる納入

先は、宮内省をはじめ、陸海軍兩省、東京音樂學校、陸軍戸山學校、その他官公私立の音樂學校及び専門學校、全國中等學校、女學校、小學校の大部分に及び、

日本樂器製造株式會社

社長 川上嘉市

されてゐる。創業以來内外各地の博覽會に於て受領した名譽の大賞牌や、賞状は數十種にのぼる。因に社長は川上嘉市氏にして、常務取締役は吉田季三氏、林慶吉氏である。

秋葉神社

濱松市 三組町

當社祭神は火之加具土神にして周智郡犬居秋葉神社の大神と団体である。天正二年八月徳川家康は武田勝頼を光明山で

遊撃せるとき木部叶坊浄全なる修験者を道案内とした。勝頼は合戦に敗れ、退陣の際秋葉の社堂寺院に火を放ち別當職を引具し去りしたため、家康は浄全をして一時別當に就かしめ、濱松城に歸陣の後、浄全をして犬居秋葉を濱松に勧請せしめ家臣奥平和泉守九八郎の邸地に社殿を造營奉齊せしめたのが即ち當神社である。以來數百年餘庶人の崇敬は勿論、代々の濱松城主より金穀汁物等を奉り、また參

秋葉神社

社司 岡部 哲

動交代の諸大名當地を通過に際して幣帛

を献りて禮拜報謝せざることなく、殊に聖護院の宮稱は年々遠く京都より參拜せられた。境内には諸大名並に濱松宿全体より奉獻せられた燈籠數基現存し、また天正二年に家康公御手植の山揚梅になほ

現に繁茂してゐる。境内面積二千六十四坪、基本財産八千二百圓を有し、十二月十五六兩日の大祭には火ノ舞、劍ノ舞、弓ノ舞、里神樂の行事あり、一月二十八日の祭典には管粥祈禱の行事がある。また二月二十八日の鎮火祭も股賑を呈する現社司は岡部哲氏である。

帝國製帽株式會社

濱松市 砂山町

當社は明治二十九年六月の創立に係り資本金一百万圓(内拂込七十五萬圓)にして、濱松市に本社工場を置き、東京、大阪、名古屋、静岡に出張所を置く。従業員は本社及び工場が四百三十餘人、静岡バナマ工場五十人、各出張所三十五人を算し、中折帽子、中山帽子、ベロア帽子シルクハット、タキシードハット、本バナマ帽子、各種リボン、帽体、軍帽等を營業品目とする。大正五年、北白川宮殿下御台臨、昭和五年、聖上陛下御臨幸、昭和八年東久通宮裕彦王殿下御台臨、そ



の聞え高き鈴木仁一郎氏にして、専務取締役は鈴木繁治氏、外に取締役三名、監査役二名である。いづれも當地の財界に令名高き人物揃ひにて、本社の基礎強固なるを物語るに足る。

濱松市 船越町

日本形染株式會社

電話 三六番

當社は明治三十三年の設立にて當時は木綿中形株式會社と稱し資本金十二萬圓であつた。爾來社業頗るに及び、明治三十九年には資本金五十萬圓に増加、その



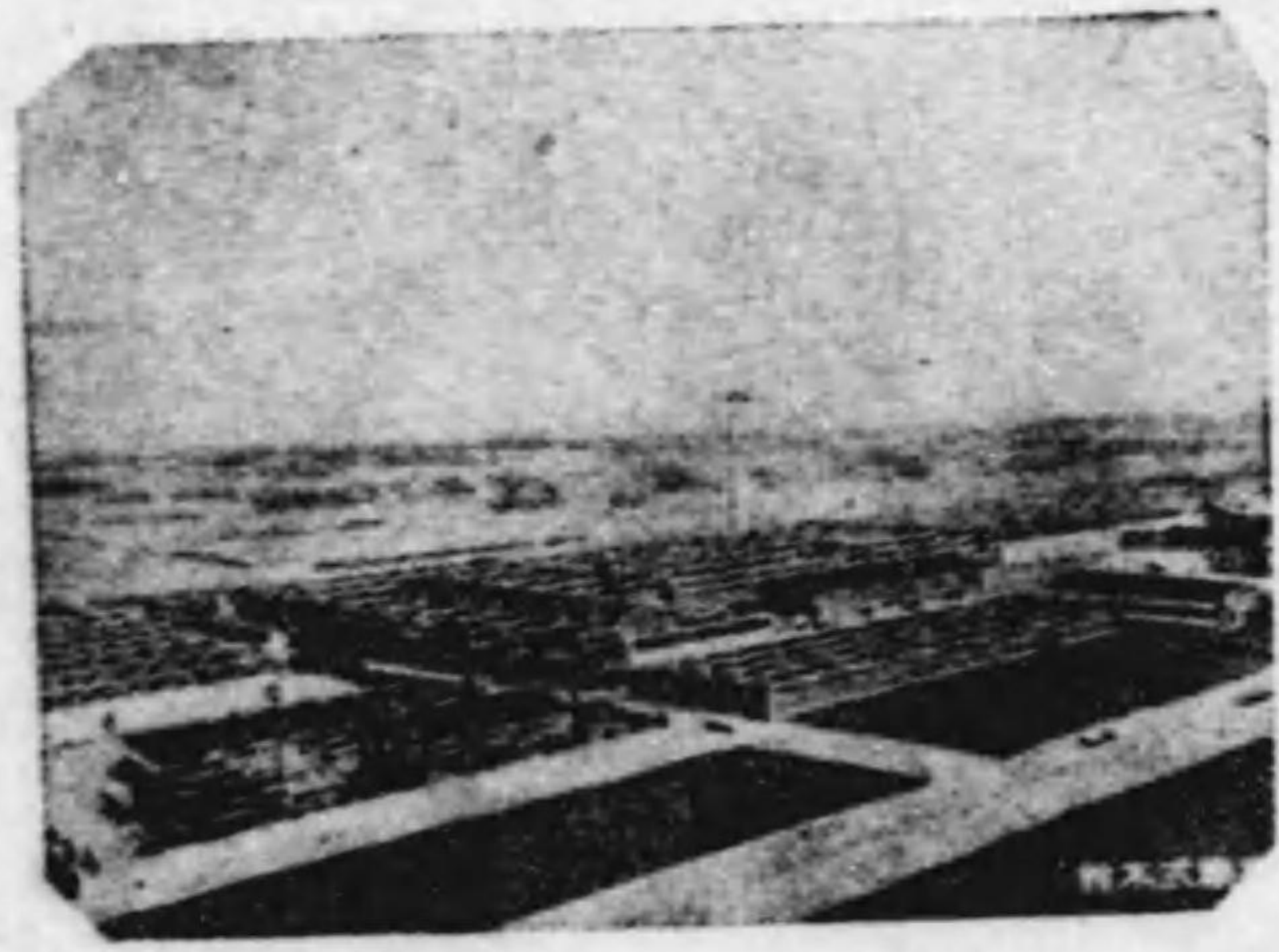
額を製織するに至つた。四十五年七十萬圓に増資し、夏物幾世耕、冬物風耕は非

常の好評を市場に博し、次で支那、印度南洋向更紗の製造を開始し、大正六年百五十萬圓に、同九年現在の三百萬圓に増資し、ます、業務の擴張充實を見て今日に至つた。近年特に支那、滿洲輸出製品に非常の發展をなし、昭和二年より三年にかけては工場及び設備に大改善を加へ、昭和六年末の金輸出再禁止後は南洋市場をも獲得して完全に歐洲製品を壓倒し、最近は更に進んでエチプト近東方面に進出し、年産三萬捆、八百萬圓に及ぶの盛況を呈してゐる。各種博覽會に於て受賞せること九回に及ぶ。社長は齋藤幸太郎氏、常務取締役は菅原潤一氏にして取締役は三名、監査役は二名である。

濱松市 相生町

鈴木式織機株式會社

本社は資本金一百萬圓にして、工場倉庫の建坪五千餘坪で、現在使用工員八百餘名を以て日々織機及び整染機械製作に従事し、普く日本全土は勿論、海外にま



改善も常に時勢の進展と共に平行し來たり、現在のごとく多數の優秀機械を網羅するに至つたのである。殊にサロン織機の製作には劃期的成功を收め、需要家の満足のため工場の擴張は勿論、能率的優秀工作機械を多數増設し、一方に於てはまた「装置は鈴木からの」定評に

で進出してゐる。日露戦争當時現社長が個人經營にて創始し、大正七年合資組織に改め

恥ぢざるやう、總ての裝飾的機構の研究を怠らず、最近賣出のダブルベルベット織機の如く新機の研究、製作にも意を注いでゐる。昭和八年、東久邇宮裕彦親王殿下には産業御獎勵の御趣旨を以て本社に台臨あらせられ、その他債商相、荒木陸相、右山第三師團長等多數名士の工場視察あり、各縣工業試験場或は工業學校に於て本社製品の優良なるを認めて研究材料として買上げてゐる。因に現社長は鈴木道雄氏、常務取締役は佐々木佐一郎氏にして、取締役監査役各三名である。

濱松市 名残町

濱松商工信用組合

電話一五八九番

當組合は大正十五年六月十五日の設立認可に係り、有限責任にて信用事業單營、區域は濱松市西北部の高地一帯及び市外入野村一圓である。組合員八百四十五名、出資一口二十圓の合計四千九百五十餘口を算す。事業狀況良好にして昭和

四年十月五日には縣支會より優良組合として表彰の光榮に浴した。最近、組合精神に則り貯金の利下げに伴ひ貸付金の利下げを行ひ、勉めて組合員の金融圓滑を圖り貸出に對してはよく資金の用途を見定めて貸付け、現在貸出總額十九萬五千餘圓に達する。一方貯金に對しては充分なる餘裕金(現在高三十萬五千餘圓)を存せしめ、不時の需要に應じ、一面貯金は年々増加して四十三萬六千圓に達し、資金需要に對しては頗る圓滑に應ずることを得、事業の進展ます、顯著なるものがある。現組合長中根秀治氏は縣立商業學校出身にて大正十二年濱松市會議員に當選、市政に活躍せる經驗を持ち、自治百般に對する蘊蓄の深きこと議員中の白眉といはれ、功績顯著なるものあり、衆庶長敬の的となつた。専務理事磯部松藏氏は陸軍三等主計正にて日清、日露の兩役に出征せる勇士、從五位勳四等を授與され、凱旋後は在郷軍人分會その他に關係して功勞が多い。

濱松市 廣澤町

普濟寺

電話二一七番

當寺は龜山天皇の勅願所で、開山は順徳天皇第三皇子寒巖法皇禪師である。禪師は再度入宋せられて、二度目の入宋の時、今や解纜歸朝せんとする際に臨み、忽然として靈神が顯現せられ、「我は佛法守護の叱咤尼天なり、爾今師の大法を扶翼し宗風を擧揚せしむべし。且つ師の教化を維持し道業を援助するものに對しては必ず其生業を保護し家運を隆昌ならしむべし。」と告げ、修法を授け、眞言を唱へ、倏忽として空中へ去られたので、開祖禪師歸朝の後、自ら尊像を彫刻し、日夜信仰を捧げられた。現在當寺に奉安する尊像は即ちその眞体である。また當寺の法派に屬する寺院を寒巖派或は法皇派と稱し、七、八百の末寺が全國に散在するが、その中主なるものは、古來から當寺の稻荷様の分靈を奉齋してゐる。この稻荷は開祖法皇禪師御一代の守護神で

明治維新の際、神佛分離のため一時稻荷様の發祀を中絶したが、その神祕不可思議の靈示に基いて復興奉齋すると、奉齋者が遽かに激増し、東京の渋谷、山口縣の長門峽、その他數ヶ所に分靈所を設け各地共隆盛を極めてゐる。寺の寶庫には種々多數の寶物收藏せられ、靈域には雄大なる普濟寺公園も設備されてゐる。

濱松市 田町

渡邊兼次郎

日本石油株式
會社特約店
東郷水糖製造
所、砂糖商、
乃木將軍銅像
建設事務所

祖先は尾州犬山城主の後裔にして、享保元年四月遠州濱名郡雄踏町に來住した七代目尊父渡邊郡藏氏は歳四十九にて永眠、長兄は當時十七歳なりしも、直に渡邊郡藏を襲名し、農業を営みつゝ、醬油醸造をなし、また雜穀肥料商を経営した。時に氏は僅か四歳であつた。九歳、十歳の二ヶ年間寺子屋に學び、十一歳の時か



縁とな

りたるも、去るに際して養父の石碑を成子町東漸次に建設し、資金六十一圓を持つて濱松田町に獨立し、三州新城町の米穀商にて帳簿製造もなし、新城領主の御用達もつとめた伯父渡邊源助氏の孫娘の女を後室に貰ひ、商品は砂糖のみにて小賣開店最初の賣上金三十八錢は神棚に上げ、拜禮して將來の大成を祈つた。日夜寢食を忘れて精勵これつとめ、妻女つるさんも、店の砂糖小賣の餘暇に裁縫の賃仕事などをして内助の功頗る多かつた

かくて明治三十六年には七千圓の資金が出來た。時に年三十九歳、大阪の日本精糖株式會社の信頼を得て、同社製品を信州・甲州・東北本線沿線、常磐線及び東海道一帯に互つて特約販賣し、一ヶ年賣上百五十萬圓に上り、同會社より金牌、銀牌數個を贈られた。先考開業當初、中兄岡藏氏の養子先たる堀内長三郎氏に金五十圓の借用を申込みしに、「経験の伴はぬ者に金を貸す人あれば其人は誠意のない人、資金は二圓でも三圓でも商業はそれより成功の基だ。」と論じて斷られた此言肝に銘じて着々成功したのであるが後に見越輸入の誤りで一萬圓の損害を被つた時、伯父長三郎氏は六千圓を無擔保で貸して呉れた。氏の未だに忘れられない感激である。また明治三十一年長兄郡藏氏と共に氷砂糖の製造に着手せしも、祝融の災に遭つて燒失のため一時中止し其後河合傳吉氏、河合鐵三郎氏、令兄堀内岡藏氏等と合資組織にて濱松市常盤町に氷糖製造所を起し、河合兩人が伊豆の

嶺山に去るや、令兄一人を誘つて氷糖商會と改め、利金は事業資金に積立てるべく盡したが時に利あらず、失敗のため同商會名義を堀内勝次郎氏に譲つて氏は退社した。しかし氷砂糖製造の有利なるを知悉せる氏は、該事業を見捨てるを得ず大正三年には堤德藏氏その他の人と東京品川町に合資會社を組織し、大正五年には廣田辰次郎氏と共に濱松市に製造所を建てるなど大いに努力したのである。日露戰爭當時、陸軍糧秣廠へ氷砂糖を納付し、この時東郷元帥の肖像を登録商標許可となり、爾來東郷元帥邸に伺候すること三十三ヶ年も續き、これに因んで資本金十萬圓で東郷氷糖株式會社を創立、後ち組織を改めて事業ますく、隆盛に赴きつゝある。大正十四年六月令閣逝去に遭ひ、東郷元帥閣下と御同席撮影する光榮を得しこと數回、令閣存命中の同情にて閣下より碑文御筆毫を頂戴した。かくて業成り名遂げ、巨萬の富を積んで成功者中の第一人者と謳はれるに至り、昭和元

年より八年間事業を休みたるも、昭和九年はる女、年二十三歳を妻に迎へて新に營業を開始、年齢古稀に及んで男子出生子爵小笠原長生閣下に兼雄と命名された因に當家には三つの家寶がある。その一は東郷元帥揮毫の支那の文天祥正氣歌三百十六文字で八枚屏風に表装され、他は兄郡藏氏及び令室つる女の碑文である。東郷元帥の銅像を東海道中央の辨天島に建設すべく、子爵小笠原閣下の手を経て十回以上も御願ひせるも、かゝる金を遣ふことは不可ぬと斷られ、さほど熱心なれば乃木大將の銅像を建てよと仰せられたので昭和五年静岡縣へ出願して同九年寄附募集の許可あり、台石四十尺、銅像全身十尺、合せて五十尺のものを太平洋を臨む東海道線北側二十間のところを建設した。因に氏は明治三十八年静岡行在所に於て氷砂糖御買上の光榮を賜りしほか、各地の博覽會や共進會、或は品評會等に於て賞狀賞品、金銀牌等を受領せること數回ならず、その歴史の古きと品質

の良好とは夙に市場に定評のあるところであり、これ偏へに氏が多年事業慾の旺盛なると人格の然らしむるとに起因するものである。

濱松市 馬込町

飯田式織機製作所

電話濱松六七番

當製作所は明治四十一年の創業にして大正七年株式會社組織となり、次で昭和四年合資會社となつて今日に及び、出資金三萬圓、織機轉換設置外十四件の特許を有する飯田式織機製作に従ひ、年産約八萬圓、全國織布業者を顧客とする。機構堅牢、運動輕快、動作正確なるため、消耗品を節約し得て取扱ひ簡易なるを當社製作品の最大特徴とする。大正四年、遠江織物同業組合主催第二回染色品評會に於て同組合より感謝狀を贈られ、昭和十年には濱松商工會議所より表彰されるの名譽に浴した。因に代表社員は手腕家を以て鳴る飯田彌吉氏である。

清水市

清水市富士見町

静岡自動車商會主
静岡自動車營業
組合聯合會副會長

池田萬吉

電話 七一九番

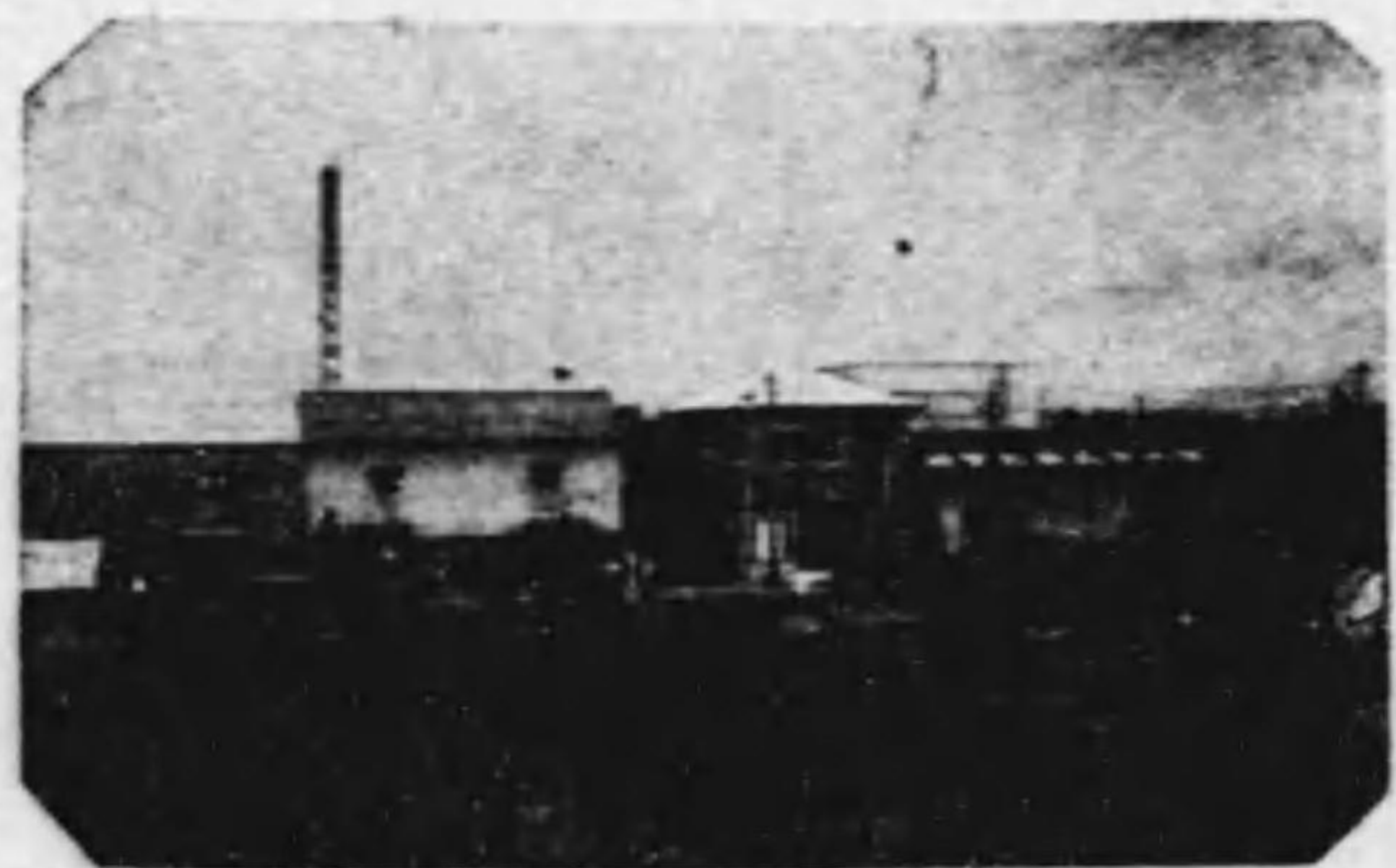
資性潤達、縣下自動車運輸界の先驅者たる氏は、庵原郡由比町東倉の産、明治十五年二月六日を以て生れ、同三十五年静岡歩兵聯隊に入營、日露戦争には花々



しき戦
功によ
り動八
等白色
桐葉章
論功章
を下賜

された。大正六年南滿洲鐵道社員となりその後陸軍御用達として軍部に入入、大正九年七月シベリヤより錦を飾つて歸省

音頭にまでうたはれる鮎織詰を業とし



萬圓餘に上り、清水市内に第一、第二、



興津に
第三工
場を置
き、従
業員三
百四十
餘名の

清水食品株式會社

電話 九一七番・六五〇番

當社は昭和四年十二月の設立に係り、當初資本金五萬圓なりしもその後増資して現在は五十萬圓である。

港ア清水よ お山 富士よ
國の寶は
おらが工場の 鮎詰め

るものあり、駿州木材株式會社の大株主としても知られてゐる。

清水市上清水一丁目
大安肥料店 松浦眞
代表社員 電話 八番

多數を擁し姉妹會社には丸東鐵詰株式會社、三共商會、旭海産興業株式會社、茨城水産工業株式會社、湊産業株式會社がある。曩に閑院若宮殿下、久通宮殿下の御台臨を仰ぎ、また徳川家達公、末次大將、安保大將、後藤文夫氏、徳富猪一郎氏等が視察された事あり。社長は創立當初より鈴木興平氏にして、専務取締役は植田朋八氏、取締役は稻名龜造氏ほか二名、監査役二名である。(寫眞植田氏)

材木商 畠山慶吉

清水市清水

業界の覇者として令名噴々たる氏は、頭腦明敏資性英邁なる紳商である。北洋材原木店としての畠山商店を知らざるものは恐らくないであらう。北洋材を主に内地材及び南洋方面移入材の販賣をなし、隆々として繁昌の限りを盡してゐるは、氏の商略に長じたるに依るは勿論のことにして、また一面人格の然らしむるところであるともいひ得るのである。趣味も豊かして、博覽強記、抱負また絶大な

清水市三保

三保造船所

電話三保五九番

當造船所は株式組織にして、本縣御前崎及び用宗清水等の漁業有力者の發起によつて大正八年五月資本金三萬圓を以て創立せられ、清水港三保に本社及び工場を設置して事業を開始し、同九年大型漁船の建造に着手、爾來技術の熟達と工場設備の改善と相俟つて製品に對する信用増大し、大正十一年農商務省に認定され本邦鯉漁船最初の冷蔵設備を有する大形優秀漁船海神丸の建造を見るに至つた。昭和三年鋼製油輪送船駿遠丸建造、同七年鋼製油輪送船第三駿遠丸を建造と同時に工場設備の大改良を行ひ優秀船舶の建造修理に全力を致し以て技術の向上發展に努力しつゝある。創立以來の建造船は三十艘、モーターボート七隻に及ぶ。社長は植田猪吉氏、常務取締役は遠藤茂助氏、取締役兼主任技師は道家長松氏で共に有数の事業家としてその聞え高し。

清水市村松

不二見信用組合

當組合は明治三十四年設立の古き歴史を有し、組織は有限責任、舊不二見村一圓を區域とし、組合員五百十餘名をかぞへる。出資千八十餘口(二口五十圓)、準備積立金三千六百圓、借入金千百圓、餘裕金二萬二千七百餘圓の資金を有し、最近農村經濟不況の影響あると雖も積年の貯蓄心は依然として變らず、當組合はこの間に處し自給資金の貸出をなし、一方滞貸金の整理を繼續し、内容の充實につとめ、ますます堅實な成績を示してゐる。貸付金は二十三萬二千圓に上り大部分が産業資金である。また貯金は三十五萬五千餘圓の巨額に達してゐる。歴代組合長は江川唱平、大石源兵衛、松田米次郎、江川政平、内藤松太郎、山梨正作、望月善左衛門の諸氏にて、現組合長大橋進氏は元村會議員にして清水市が町制時代から吏員として多年勤続の功勞者である。

清水市清水

望月貞策

清水港北洋材 協會幹事長 電話 七二五番



資性潤達、明敏なる頭腦の所有者として知られる氏は、清水港木材會の重鎮である。生ツ粹の清水子にして、先代は製紙事業を營んで令名高かりし人、氏は中年に至つて原木商に轉向した。北海、海、樺太、沿海州、米國産木材の直輸入を專業とし、店員六名を使用し、各方面に歡迎されてゐる。清水港木材商同業組合評議員、清水港北洋材協會幹事長、清水商工會議所觀光部長、同工業部長等の要職をつとめ、また清水港木材倉庫會社の大株主として名あり、店は東邦火災、中央火災各保險會社の代理店を兼ねる、なほ氏は旅行に

多大の趣味を有す。

清水市入江大曲

芝口虎吉

清水市青果乾物 市場代表社員



政治的才腕あり、一面營業的手腕に富む氏は市内實業家中の錚々たる一人にして、昭和七年五月には資本金二萬圓を以て合資會社清水市青果乾物市場を創立し同市場統一に當つても小市場の紛紜を快刀亂麻を斷つが如く解決し、鮮やかな手腕を發揮し、解決後代表社員に任じて鋭意市場の發展に盡し、商人間にも好評を以つて迎へられてゐる。なほ氏は商工會議所職員として市勢の發展向上に盡しつゝありその功績は實に大なるものがある。今後氏の活動を大いに期待すべきである。

渡邊銀作

清水市駒越(大橋河岸) 商工會議所 電話 三六〇番・一一三六番

渡邊材木店の經營者にして、清水港製材製函業界の麒麟兒と謳はれる氏は素封家の生れにして、二十五の時不二見青年團長となり、同年中に獨立製材業を創始し、よく時勢を遠慮し、銳意業務に精勵して遂に今日の大製材所の基礎を築きあげ、今や個人經營の同業者中では斷然一頭地を抜き、今後ともなほ旭日昇天の勢を以て發展せんとしてゐる。しかもその裏面には賢夫人の内助の功も與つて力ありといはれてゐる。なほ氏の主なる名譽職としては清水庵原安倍木材同業組合評議員、縣同業組合評議員、商工會議所議員等である。

清水市日之出町

静岡縣購買販賣聯合會

電話 一〇八四番・九一六番

當聯合會は購販事業の促進を計らんが

清水市江尻町

木村醫院

電話 三二三番

外科、皮膚科、花柳病科の診療に従事



千葉醫大)を卒業し、清水市石本正治醫院に入つて臨床上の經驗を積み、また兵役に服して三等軍醫に任ぜられた。頭書三科に對しては方技特に優れ、開業醫たる傍ら清水市醫師會理事、學務委員、醫師會看護婦養成所主事を兼ね、曾ては江尻小學校醫囑託たりしこともある。令閨は静岡市の人、東京女子醫專出身の女流刀圭家、氏との間に五人の令嬢あり、長女は静岡高女在學中の才媛で、和氣瀧々たる家庭である。

清水市入船町一丁目

市議員、内
外米穀穀類
糧輸入商
小野壽一郎

電話 二九五番・七七〇番

人格と努力の結晶ともいふべき氏は、静岡市の産、温厚朗朗なる紳士にして且つ社交家である。今より三十年前清水市に移り、當時一般に辱知されざりし台湾米の輸入業をはじめ、漸次隆盛に赴いて遂に今日の確固たる地位を築くに至つた。家業のかたはら市會議員に選ばれること二



回、目下市参事會員、臨時出納検査立會人、港灣利用調査委員を兼ね、また清水市商工會議員にして商業部長の役でありその他諸方面に關係して市勢發展につくし、殊に移入販賣の功勞者として知られ

現に清水港台湾米移入協會乾事長に擧げられてゐる。

清水市入船町

清水港木材株式會社

電話六二四番

當社は昭和六年資本金十萬圓を以て伊藤良三氏これを創立し、同十一年八月資本金二十六萬八千圓に増資し龜田浦吉氏が社長となつた。清水港原木會社として屈指のうちに數へられ、北海道産の北洋材買及及び委託販賣を業とし、昭和十年度の賣上總額は百七十六萬圓に達した。製材製函業者に格安に原木を供給し清水港重要物産たる木材界の進展に寄與するを以て營業の根方方針とし、長野縣南佐久郡河上村に原山林工場を有し、東京市深川區木場に出張所を設置してある。初代社長伊藤良三氏、現社長龜田浦吉氏にして、取締役は中村卯太郎氏ほか三名、監査役は西村甚助氏ほか一名である共に業界の重鎮として重きをなしてゐる。

清水市江尻

庵原郡 **茶業組合**

電話六一八番

當組合は六千六百餘名の茶業者を以て組織し、四千八百五十餘名をかぞへる生葉買業者最も多く、次で製造業者は千三百六十餘名を算する。組合員茶園千二百二十町歩餘、製茶産額は年九十七萬貫を突破し、一番茶がいふまでもなく最も多く金額にして約八十二萬圓を越える。また種類別では玉緑茶、普通煎茶が多く、紅葉がこれに次ぎ六千餘貫の産がある。組合では常任検査員を任用して生葉茶の取扱ひ及び製茶の不正不良の取締検査をなし品質の向上に努めてゐるほか、指導技術員を設置し、或は茶業講話會を開き、また製茶傳習會を開催するなど、特に茶業者の共同改良事業には補助金を出して奨励してゐる。現組合長は聲望頗る高き柴田忍氏で、今後の組合發展に對し、充分なる信念と期待を以て臨んでゐる。

清水市江尻

清水市自動車
商工組合長、
各種自動車修
理工作業

吉田市太郎

電話一〇二九番

成田山の信仰篤き氏は東京市下谷區の人、長じて足立區北千住に於て自動車修繕工場を興し、爾來繼續約二十年、昭和二年清水市方面に同業者なく斯界に不便を感ずること多大なるため、開發の目的を以て江尻驛前に移轉し來り、當地の先驅者として名譽日毎に高きを加へ、昭和七年現地に工場を移轉改築した。目下従業員五名、フォードサービス、ステーションとして相當繁忙を呈してゐる。昭和十一年清水市自動車商工組合生るゝや副組合長に推され、爾來組合向上のため献身的努力を捧げてゐる。家庭には令閨ヒデ氏のもとにヒサ子令嬢あり、母堂カネ刀自と共に圓滿至福を極めてゐる。

清水市築地

清水鑄造所 **遠藤市太郎**

電話六八九番

近代文明の力は凡ゆる科學工業の基礎を築いて來たが、就中鑄造工業はその進展に於て實に驚異の感に堪えない。氏はこの鑄造工業界の錚々たる人物、明治十四年遠藤市藏氏の二男として宮城縣名取郡岩沼町に生れ、郷愛を出るや東京市本所區堅川鑄造所に入り、更に横濱市平沼藤井鑄造所に轉じ、修業實に十六箇年大正八年當地に遠藤鑄造所を興し、昭和三年九月合資會社となし自ら代表社員に任じ、同十一年度に於て鑄造額十二萬圓餘に達し、當地同業者中屈指の地位にある。發動機が主なるもので、従業員六十名、販路は内地一圓及び台灣にまで伸びてゐる。長男耕一氏は静岡工業學校を経て日本大學専門部に學び、現時家業に従事し、ますます隆盛を極めつゝある。因氏に成田山不動尊の信仰が厚い。

清水市入船町

日本鮎類罐詰業水産組合 清水支店

電話七一八番

當社は日本鮎類罐詰業水産組合の代行機關たる性質を有するものにして、鮎類罐詰の販賣並に受託販賣及びこれに附帯する諸般の業務を營み、本社を東京市麴町區大手町に置く。資本金は十萬圓、一、五十圓にして、總數二千株である。而して株主は前記水産組合に加入したるものに限られてゐる。各地に支店を有し、鮎類罐詰業の發達向上に寄與貢獻するところ頗る多い。

清水市上清水

清水市醫師 **成島貫一**

電話一七三番

方技卓抜の刀圭家として令名四隣に普き氏は明治二十二年九月一日の出生である。静岡中學校二十一回卒業生にして、熊本醫學專門學校に學び、刻苦精勵克く登雪の功を積み、卒業と共に東京順天堂

病院に入つて實地の研究に従事すること三箇年、歸つて現地に獨立開業し、爾來患者の往來日に増し多く、文字通り履は戸外に溢るの盛況を呈し、また開業と同時に看護婦養成所を開設して今日までに二百餘名の卒業生を出してゐる。更に曩には少年團長たりしことあり、同團關係で南洋方面に視察旅行をしたこともある。現在産婆會長、市醫師會副會長、商業學校及び女學校各校醫を兼ねてゐる。

清水市 仲町

清水市藝妓組合

當組合は昭和八年江尻見番と清水見番とが合併して設立されしものにて、所屬藝屋二十八軒、藝妓六十餘名をかぞへる。清水市に遊べる一日、最寄の料亭によつて一席を楽しくするならば、數十名の美娘はいづれ劣らぬ花あやめ、サーピス満點にして必ず旅のつれづれを慰めて遺憾ならしむることであらう。誰彼の

名ざしは君子のよくするところならず、旗亭に清水情緒の備へあり、詳しく列傳を載せてゐる。三味によし、舞ひによし、唄ひによし、心意氣なら、水の次郎長、氣遣は富士の立姿、更けて港の出船の笛も君あらばなんの佗びしき、と正に情緒纏綿として百パーセントの恍惚境である。因に現組合長は久保田安次郎氏にして副組長は後藤かま氏である。

清水市 築地町

寺田鐵工所

電話七九〇番

公認艦船工業として名譽高き當鐵工所は鐵骨建築、鐵塔鐵管、タンク、陸船汽罐、諸機械製作、罐詰用機具等のほか一般艦船工業、諸船鐵類工事、各種酸素工業を營み、經營者寺田喜代志氏は事業熱旺盛なる手腕家にして、明治二十六年横須賀に生れ、長じて東京市月島に於て寺田鐵工所を經營すること七箇年、大正十二年の大震災後現地に移つて今日に及び



目下朝鮮各營林署に進出しつゝあり、重用工業工場として信望が篤い。氏はまた家業の傍ら一區六番組評議員、清水鐵工業組合幹事等を兼ねる。令夫人トシさんけ靜

望月鐵工所

電話九八番

清水市 日之出町



榮に赴く當鐵工所は、陸船用ディーゼル機關、陸船用セミディーゼル機關、汽機汽罐等の製作並に修理に従ひ、斯業の雄といはれる。經營者望月辰藏氏は望月家四代目の當主にて、先代茂助氏の長男である。

明治三十四年 吳海兵團に入り、日露大戦

には出征して、勳八等白色桐葉章を授けられた勇士で、除隊後大阪造船所に入社在勤九箇年、大いに技を練り、歸省と同時に望月鐵工所を起して今日に至つた。自宅は港町二ノ八二にある。従業員五十名、個人經營としては當地屈指のものである。因に氏は温厚よく徒弟の教育に盡し、静岡中部鐵工業同業組合の創立せられるや清水市選出幹事となり、また清水市鐵工業組合副組合長を兼ねてゐる。

清水市 入船町

清水木材倉庫

電話七〇五番

當倉庫は株式會社組織にて、資本金二十四萬圓(六萬圓拂込済)、株主は鈴木與平氏、小宮小四郎氏、三十五銀行、島田銀行、小宮好一氏、片岡録助氏等三十四名である。三角置場、巴川貯木場、駒込貯木場等あり、木材界の好況によつて保管數量その他に影響するところあるも、常に順調に進み、資本金減額等のことありしも最近に社礎いよいよ固きを増してゐる。試に昭和十年年度中の収益を見るに保管料一萬九千圓、荷揚料二百七十圓、手数料三千五百圓、その他千四百餘圓である。社長は鈴木與平氏、取締役は松村郷太郎氏ほか三名、監査役は平尾源六氏

清水市 上清水

清水高等女學校

電話三九六番

當校は明治四十四年巴高等小學校に附

設されたる巴女子技藝學校に濫觴し、その後巴實科高女、巴高女と改名し、經營も十ヶ町村組合から安倍郡に、更に静岡縣に移管せられ、昭和六年二月校名を現在の如く改稱、同十年補習科を開設した關富吉、長徳太郎、小林文夫、相良三之助、五十嵐了悟の諸氏が校長の椅子に就き、現校長は昭和十年三月拜命の西村恒雄氏である。氏は京都帝大の出身、名教育家の聞えが高い。職員は十九名、生徒生四百四十名、縣營移管になつてから今日までの卒業生は千四百名を越える。

清水市 港町

片山七兵衛

電話一〇六番

堅實な營業により業界に輝かしい發展を遂げつゝあるが片山七兵衛氏は、識見豊富、人格高潔の聲え高く、夙に船具塗料、油等の營業に従事し、大正六年事業の擴大につれて資本金三萬五百圓の合資會社片山船具店を創立し、代表社員と

して一意その發展と繁榮に盡瘁して今日に至り、大東製網株式会社、關西製網株式会社、東京製網株式会社の各代理店をつとめ、マニラロープ、ダードロープ、ワイヤーロープ等を取扱ひ、水産業者に薄利主義で臨み多大の便益を與へてゐる因に家庭には五男二女がある。

清水市入江元屋敷

貸座敷同業組合

清水遊廓は清水市の西北にある。舊名元屋敷新地、今は大曲りと呼ぶ。新法令により宿場遊廓許されず、華街は街道筋より二町以内に沿ふべからずの法度により江尻より移轉せるもの、然るに移轉早々十二間道路が出来て従来以上の便を供するやうになつた。山湖樓、第二山湖樓千疊樓、加島樓、吉本樓、大坂樓、菊村樓、壽々木樓、常盤樓が軒を並べ、遊女八十名、冬は龍爪を背に屏風とし、夏は吹き送る河風涼しく、中の小唄の主の顔もちらほら、名にし負ふ駿河の氣風をう

けて、ここも清水、港町に珍らしい温雅なサーピスに魂も奪はれ、いづれを梅かさくら花、散らん風情のまた限りなくいとしいものである。因に組合取締は高田璋一氏、副取締は鈴木澤太郎氏である花代は一時間一圓五十錢、半夜二圓五十錢、全夜三圓である。

清水市駒越

大力製材合名會社

電話一三三四番

當社は大正十一年十五萬圓の資本金にて株式會社に設立されたが、その後昭和八年組織を改めて合名會社とし、資本金も五萬圓に減資して今日に至つた。代表社員酒井登志郎氏はすでに二十二年前酒井製材所として個人經營にて製材業を創始し、當社は即ちその後身である。製材を専門とし、信州上伊那郡赤穂村に分工場あり、鶴見に營業所を置く。年産數十萬圓に達し、販路は内地一圓のほか滿洲支那、佛領印度支那、南洋諸島、臺灣に

も輸出し、年々擴張を見てゐる。

清水市巴町

清水市ペンキ塗 堀谷又三 看板業組合長

氏は魂の人であり熱の人である。仕事に對しては烈々燃ゆるが如き意氣を有し仕事以外には何者も存在しなくなるのである。明治二十七年四月二十三日堀谷伊三郎氏の四男として呱呱の聲をあげ、幼時はずでに英邁の資性を讃へられ、長じて静岡歩兵三十四聯隊に入營、大正五年除隊後は専ら家業に精勵し、温容二歳の童兒も懐しむ一面氣骨稜々として統御の才に長ずるところあり、曩には全國塗裝業組合聯合會清水支部長に擧げられ、今また清水市ペンキ塗看板業組合長の要職に推され、信望を以て知るべく、功勞多き故を以て銀盃を贈り表彰されてゐる。家庭には二男二女を有し、よき父親振りを發揮してゐる。氏の熱と力と人格とは打つて一丸となり、恐らく前途多望なるは贅言の要はあるまい。

清水市清水

東海製罐詰工業組合

當組合は昭和十年十二月の設立認可に係り、蜜柑罐詰工業の改良發達を圖るため共同の施設をなすを以て目的とし、靜岡縣下一間をはじめ千葉縣、神奈川縣、東京府を以て區域とする。蜜柑罐詰は新時代に最も適應せる産業の一にして、本組合ではこれが發達と販路の擴張をはかるため、製品の検査並に取締、販賣及び生産の統制、製品の委託販賣、營業に必要な物資の供給、資金の貸付等の事業を行ひ、また營業に關する指導研究及び調査などを行つてゐる。本組合の製品はすべて品質優良なるを以て知られ、市場の網羅筆紙に盡しがたく、ますます販路の擴張を見てゐる。

清水市辻相生町

清水瓦斯株式會社

電話五三三話

當社は昭和四年十月の創立に係り、翌

五年十月より事業を開始した。資本金五十萬圓、うち二十萬圓拂込にて、株主は十五名である。瓦斯供給を以て事業とし市民日常生活に便たらしむること頗る多い。初代社長は雨宮豊次郎氏にして現社長は前川道平氏、取締役鈴木與平氏、同廣田種雄氏、同中村秀平氏、同榛專一氏同兼支配人杉坂三郎氏、監査役松山高四郎氏、同雨宮治良氏、相談役中村圓一郎氏である。

清水市三保

三保共同出荷組合

當組合は昭和元年の設立に係り、胡瓜、苺、ピース、玉葱、枝豆、インゲン、トマト、甘藷、青瓜、馬鈴薯等の共同出荷事業を營み、組合員は七十三名である。組合設立前は各個人々々にて出荷した爲め對外的に不利なること多く、共同施設による共同事業の有利なるに着目して本組合の設立を見たのであるが、當社は認められること尠く、昭和四五年より漸く

清水市萬世町

海電社

電話一〇五四番

當社は大正十三年合資會社海電社として設立され、當時資本金一萬三千一百圓なりしが、昭和十一年に至つて株式會社組織に改め資本金を二十萬圓に増資した村田式電燈裝置器具機械、村田式電氣浮標燈及び集魚燈を製作するほか、硝子綿及び硝子纖維版の製造販賣、蓄電池及び材料、電氣メッキ一式を行ひ、農林省、海軍省をはじめ、各府縣水産試験所や漁業組合の御用工場をなしてゐる。また各縣各港には、代理店を置き、就中、北海道の函館製網船具會社は、全國有数の會

社として知られるものである。社長村田達平氏は榛原郡坂部村字坂の出身、大正元年横須賀海軍團に入り、歐洲大戦には青島攻略に参加、海軍電信部付にて活躍し、勳七等瑞寶章を授けられし勇士、大正十三年一等兵曹となつて除隊後海軍事業の有望なるに目をつけて海電社を起し今日に至れる才幹である。

清水市相生町

清水市信用組合

電話 四七七番

當組合は大正十五年五月五日の事業開始にして、現在組合員千餘名、出資四百餘口(一口二十圓)をかぞへ、準備金及び各種積立金九千餘圓、借入金八萬一千餘圓、裕金六萬八千餘圓を有し、事業内容、數量共に順調なる發展をなし、貸付金利子の収入歩合も大いに好轉してゐる。貸出金は三十二萬三千圓、貯金は二十六萬五千餘圓の現在高に上り、貯金は利用、更新會、普通、定期、當座、簡



小川隆三氏は會て縣會議員、市會議員、町會議員(舊)等を兼任せる人である。

易 福徳等の種類がある。清水本町、江尻魚町、三保には各出張事務所を置き、土地の繁榮は組合の利用から、モット一とし、擴充の一路を辿つてゐる。組合長

清水市港町

天野廻漕店

電話 七九四番・七九五番

當店は從來天野九右衛門氏の個人經營

清水市相生町

清水港商同業組合

電話 一七番

當組合は元庵原、清水、安倍材木商同

たりしが、大正十二年資本金十萬圓の株式會社に改め、廻漕業及び船舶代理業を營みつ、今日に至り、取締役支配人平岡昌一氏の卓抜の手腕により今後益々發展の傾向にある。社長天野九右衛門氏は土地の舊家にして代々九右衛門を襲名して廻漕業を營み、先考は町會議員、郡會議員等自治方面にも功勞ありし人、當主はその男にして明治十年四月に生れ、長じて静岡歩兵三十四聯隊に入營、日露戰爭には功により勳七等を賜ひ、軍曹に任ぜられた。郷にあつては家業の傍ら町會議員、市會議員に選ばれ、また大正九年以來消防組頭たるほか現時清水商工會議所常議員、清水運送株式會社取締役を兼任する。家庭には二男二女有り頗る圓滿である。

業組合地區内にあつたが、大正十二年關東大震災以來北洋材の入荷急増し、沿岸に製材工場の建設著しくなるに至つて、内地材を主とする郡部方面の業者とは自然利害相伴はざる結果を招來せるため、昭和四年同滿協商を遂げて分離し、同年十一月新に當組合の設立認可を得た。組合員百二十名、製材、製函、原木販賣、製材販賣、製函販賣、木材周旋、木材保管等の業者を以て組織し、昭和六年には現事務所の新築落成を見た。製材製函の規格統一、各地商況及び原産地の狀況視察、販路の擴張、講習話會の開催、流材防止施設等の事業を行ひ、組合員の共同利益の増進を圖つてゐる。現組合長高龜一氏、副組合長福島庄太郎氏。

清水市 新港町

清水運送株式會社

電話 七四二番・七四三番

當社は、鈴與運送店、中駿委託株式會社、丸惠運送店、天野運送店、丸尾運送

店、長坂運送店、袖師運送株式會社、大林組等を合同して設立し、資本金百萬圓(一株五十圓)にて株主は鈴木與平氏、上中甲堂氏、天野廻漕店等百六十人である。清水驛前には支店を置く。なほ現任重役は次の如し。

社長 鈴木與平
專務取締役 入谷 麟助
常務取締役 藤浪 芳作
取締役支配人 長坂 至
取締役 小川常吉、天野九右衛門
鈴木眞治
監査役 上中甲堂、望月和一郎

清水市日之出町

清水倉庫株式會社

電話 二九九番

當社は明治四十四年一月に設立され、當地倉庫業界屈指の古き歴史を有するものにして、資本金十萬圓(一株五十圓)、倉庫業のほか海陸運送業、委託販賣業、金融業を兼營する。倉庫は三十棟、二千

八百坪に達し、專賣局の塩指定倉庫になつて居るものもあり、新港町には出張所を置く。主なる株主は前川道平、北野文助氏等にて、社業益々固きを加へて居る現任重役は左の如し。

社長 前川 道平
取締役 中村圓一郎、鈴木與平、竹内辰雄
監査役 杉坂 慶平

清水市江尻

山田醫院分院

電話 三番

當醫院は醫學得業士山田昌榮氏の經營に係り、内科及びX光線科を主とし、病室九、藥劑師一名、看護婦二名、見習看護婦二名、運轉手一名の設備と従業員を有し、患者に親切、難疾と雖も治せざるなく、痼疾と雖も癒えざるなく、繁榮の限りを盡して居る。抑々山田家は代々醫を以つて業とし、初代昌榮、二代昌悖、三代昌庵、四代昌齋、五代昌庵と相次ぎ

當院長山田昌榮氏は昌庵氏の令弟、明治十六年六月十六日の出生にして、長じて



分家獨立して今日に至り、静岡縣醫師會健康保

險審査委員、同醫務指導員、縣醫師會議員、清水市醫師會長、清水市信用組合理事、水道委員、衛生委員、奥町區長、氏子總代、愛國看護婦會取締役社長等を兼ね、佛學に興味を有し、令聞との間に二男あり、長男は慈惠醫大に勉學中である。

清水市 元道分

市會議員、小 府川 平作
作調停委員

府川家は遠く文化文政以前より追分の羊羹屋として知られたる舊家、代々美

製造を以て業とし、東海道を旅する者は必ず立寄つてこれを土産にしたといふ、今より四代前直右衛門氏は八代將軍の遺志を体して遠く四國に渡つて製糖法を研究、歸來後當地方の製糖王と稱され斯業に從ふものにして翁の訓練指導を受けざるはなかつた。翁に關しては静岡縣史中にも特に府川文書なる一項を留めた文獻不朽に傳はり、實に家門の榮譽といふべきである。先々代佐太郎氏は特に徳川慶喜公の知遇に浴し遊獵の相手をせしこと一再でなかつた。當主平作氏は明治二十四年九月二十三日先代松太郎氏の長男に出生、濃厚篤實の紳士にして日蓮宗の信仰深く、市會議員、小作調停委員、都市計畫地方委員、入江耕地整理組合長等の要職にある。尙家庭に五男二女を有す。

清水市 辻

清水市 柿橋商同業組合

當組合は昭和二年十月の設立認可に係り、組合員協同一致柿橋營業上の弊害を

清水市 辻 駿州銀行

當銀行は昭和三年七月岩淵、富士川、蒲原、由比、庚子、江尻の六銀行を合併し資本金二百七十萬圓を以て創立せしものにて、同七年四月更に清水銀行を合併し現在資本金は二百五十二萬圓にして、株主千二百餘名を數へる。近時非常時局に處し内外狀勢の認識に最大の注意を傾け

不變一貫の努力を以て業務に邁進し業態順調を呈して居る。清水市内二ヶ所のほか興津町、庵原郡松野村、由比町、蒲原町、富士川町、庵原郡袖師村、同郡庵原村、同郡飯田村等に支店を有し、更に清水市その他に四出張所がある。現在預金總額八百四十五萬圓、貸付七百四十八萬五千圓を算し、初代頭取原保太郎氏、二代目青柳市太郎氏にして、現頭取は平野敏氏である。

清水市大曲り本通り
鈴木自動 櫻井 源作
車工場長

濃厚篤實にして克く物事に理解ある近代的紳士たる氏は北海道の産、長じて吳海兵團に入り十餘年の海上生活を送り退役後は清水市鈴木商店に入社して永年保險部勤務たりしが、その手腕と人格とを認められ、鈴木與市氏の秘書に用ゐられ昭和八年五月鈴木自動車工場創立されるや同十年四月工場長の重職に据ゑられた國産千代田スミダ等の販賣及び縣下各地

自動車會社使用車の修繕等に精勵し、昭和十一年十月清水市自動車商工組合を創立せられるや、初代組合長に推され、その他幾多の要職を兼ね業界のため貢献して居る。因に鈴木商店は、昭和十二年一月、秩父宮、同妃兩殿下産業御獎勵の恩召を以て、同店經營の食料品會社その他御視察の光榮に浴して居る。

清水市 入江 清水合板製作所

電話一〇七六番

當製作所は昭和十年五月伏見萬次郎氏の個人經營により創立されしものにて、資本金約二十萬圓と稱せられ、専らベニヤ板の製作販賣を行つて居る。近代文化の發展につれ各種建築その他各方面に於けるベニヤ板の需要は年々多きを加へつつあり、當製作所は新設備を以て作業能率を増進しつゝ、あるも注文殺到して需めに應じ切れぬ程である。これ偏へに製品の優秀なるに起因することいふまでもな

く、全國は勿論、臺灣、朝鮮、北支那等にまで販路を持つて居る。製作所長伏見萬次郎氏は東京市小石川區原町の人、江戸の氣風を次郎長の港で生かす大丈夫である。

山梨肥料合資 山梨 重多
會社代表社員

その信念たる肥料報國の赤誠に燃えて一意良心的使命に精進して居る氏は明治二十二年一月の出生である。初めは教育師範學校を卒業し縣下各地に教鞭を執ること多年、教壇を退いてからは専ら意を自治産業の發達に用ひ、減私奉公の念を以て事に當り、遂に山梨肥料合資會社を設立、農家經濟に利益をもたらすと共に近代農藝化學の粹を集めた施肥による合理的經營改善の一助たらしめ、社業ますます隆盛を加へて居る。趣味は將菜及び旅行、また學務委員その他の要職に推舉

されてゐる。

清水市 三保

宮城島清吉

三保養鶏組合 長、市議員
その數に於て、またその質に於て特に優れてゐるといはれる三保養鶏組合の生みの親ともいふべき氏は、明治三十一年十二月七日宮城島文藏氏の男として呱呱をあげ、現在市議員、學務委員、市税滞納整理委員、港灣發展調査員を兼任し躍進清水のため多大の功勞を致してゐる三保養鶏組合は昭和二年十一月の設立に係り、天惠的地勢に恵まれ、逐年養鶏業の發展を見つゝ今日に至り、現在組合員六十五名、共同出荷所、孵化場、飼料及び鶏卵運搬トラック等の設備あり、氏を組合長に戴いて清水市農會管下中最優秀の成績を挙げ、殊に飼料調製所は他の模範と稱せられる。因に令閨ヤイは賢婦人として内助の譽れ高く四人の令嬢あり共に才媛の麗人として世人から稱讃せられて居る。氏との間には四人の令嬢がある。

清水市 上清水

望月 徹彌

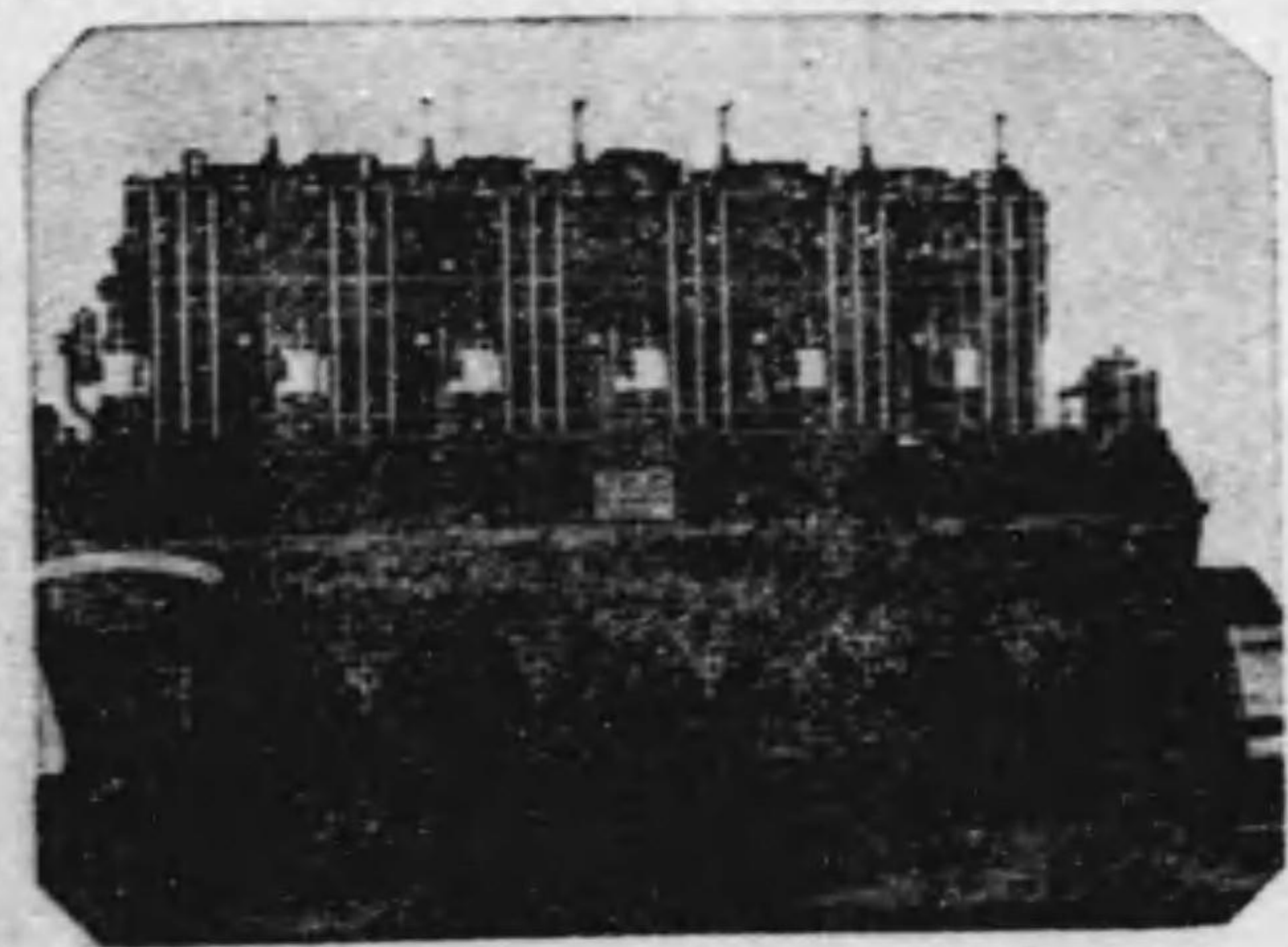
駿河鳩協 會副會長
電話一二二五番

軍用鳩の飼育訓練家として知られ、一朝有時の際國家のため活躍せんことを期してゐる氏は明治三十八年十一月十七日の出生、極めて沈着且つ温良の紳士にして、現時駿河鳩協の副會長に推されてゐる。同協會は昭和八年の設立にて、協會員三十名、飼育鳩四百五十羽、會長は堀義一氏である。主として岡山仙台間飛翔の訓練を施し、清水仙台間七時間六分清水岡山間七時間五十分レコードを有し訓練の優秀なるは夙に東西に知られ二十九旅團長及び三十四聯隊長より感謝状或は賞状を受け視察に接してゐる。氏も亦個人として旅團長より感謝状を贈られた鳩のほか絹及び青色観音竹の培養に興味を持つてゐる。因に國家非常時に際して益々鳩の必要に迫られつゝ、ありて國家的事業として前途愈々多望にして洋々たるものあり。

清水市 清開

伊藤 鐵工所

當鐵工所は明治三十六年六月伊藤福太郎氏創業し、當時各種蒸汽機關及び内燃機關の修理を開始し、同三十九年始めてユニオン式石油發動機の製作を完了した



工場従業員百名ありて孰れも十年以上二十年或は三十年動積の内燃機關専門の熟練工にして、改善せる設備と深き經驗により優秀なる伊藤式無氣噴由ディーゼル機關を製作しつゝ、今日に至り、益々たる好評を

博して居る。資本金五十萬圓、一ヶ年の生産額八十萬圓、農林省認定及び陸軍省御用工場にして、工場面積千六百坪、建坪六百五〇坪、現工場主伊藤徳太郎氏は大正八年より同十二年まで新潟織工場設計部及び試運轉場に奉職し、ディーゼル機關の製作に従事研究せる實際的權威者である。

清水市 江尻

柑橘同業組合

本組合は庵原郡及び清水市を以て區域とし、柑橘栽培業者並に同苗木買業者四千七百六十餘名を以て組織し、柑橘業の改良發達を企圖し、販賣上の弊害を矯正し、組合員共同の利益を増進するため、移出苗木の燻蒸及び驅除、ルビー蛹虫一齋驅除、農藥製造、剪定整枝指導、肥料の購入配合施用上の指導、講習會の開催、早生温州持寄り研究會などの事業を行つて居り、就中病害虫驅除豫防獎勵を目的とする機械油乳劑石灰硫黄合劑

清水市 清水町

山本 量平

接ローノ製造事業は年と共に目覚ましい進展を示してゐる。因に常組合員の柑橘生産合計二百五十五萬圓に上り、苗木生産數量は三萬四千六百餘本に達し、内地は勿論、合衆國、加奈陀、支那、滿洲、露西亞、歐洲等にまで輸出される。現組合長は杉山鋼太郎氏にして、副組合長は加藤和作氏である。

清水市 議員、在郷聯合分會長

氏は市議員に當選すること三期目、現に副議長として議長を輔佐、盡力し、また帝國在郷軍人聯合分會長の要職をも占めて献身的の努力を敢てなしてゐる直情徑行の人、名利を度外に措いて邁進市政淨化の上に於て阻むものあれば、忽ちにして義憤燃え、熱情溢れて相手の何人たるを問はず、怒聲化聲、自説に屈伏するまでは止まぬといふ氣骨があり、また市會に於ける快男子でもある。在軍聯合分會長としては、常に郷土出身兵の慰

間に極力努め、これまで渡滿して在滿將士を親しく訪問して慰藉し併せて今後の勤務を



獎勵すること數度に及んでゐる。氏は當市政界の重鎮、今後の進出が期待されてゐる。本年四十六歳。

清水市 港町

杉本 敬一

氏は快速自動車商會並に八洲自動車商會を經營、多年交通方面に盡力して來た人で、本年四十七歳、義侠心に富み、慈悲心の深い衆望家であり、また趣味の極めて豊かな士でもある。市議員に當選すること二回、常に言論よりも實行を主とし、市政淨化を中心に旺んに活躍してゐる。そして市の參事會員でもあり、土

木委員でもあり、國防協會方面にも際立つて活動をしてゐる。氏の信念一度動けば、前途に何物が横はつてゐようと、猛進して必ずこれを開拓、通過せしむるに措かぬ底の人である。多くを語らず、何よりも先づ實行からかゝるといふことが、市民の輿望を負ふてゐるわけで、今後市のためへの活躍を期待されてゐる。

清水市入江巴川畔

株式 巴川製紙所

電話 六六六・六九八番

緑濃い入江巴川畔に新築、増築また増築と老なる近代工場を築き上げた巴川製紙の創立以来の發展振りこそは、眞に目まぐるしいものがあり、殊に駭々乎たる文化の進運に伴ふて、更に一層の旺盛を極め、この進運と併進せんとしつゝ、あることは、社會進化のために大に祝すべきことである。縣下製紙業者の多きが中であつて、當社が所謂鶏群の一鶴流に斯業界に躍進しつゝ、あることは、當社の

基礎に於て、業績に於て健實に、生じて極めて眞摯なることを裏書してゐるもので、當社の將來の向上發展は、確かに豫期以上の成果を収め得るに違ひない。尙靜岡市用宗に支社工場を設立、營業中で電話は靜岡三二〇九番である。

清水市 下清水

清水商工会 原田三左衛門

議所議員

氏は明治四十五年、東京帝大工科應用化學科卒業の工學士、東海學士會々員で台灣東洋製糖會社に入社したが、實業界活躍の第一歩であつた。次で鈴木商店に入社、當時同店は絢爛最も華かだつた頃で氏は豊年製油株式會社大連工場長として赴任、後ち鳴尾の工場長に轉じ、更に現在は同社清水工場長として、社の向上發展に努力しつゝ、ある。昭和五年の五月、長くも 聖上陛下、縣下行幸の砌、同工場に臨御、御休憩遊ばされた光榮に浴してゐる。工場では聖恩の洪大無邊な

るに感奮して、日夜記念の御下間に臣下の禮を捧げてゐる。氏はこの光榮に浴して以來ますます、精進してゐる。商工会議所議員たること二期目、現に副會頭である。岡山縣出身、五十歳。

清水市 入船町

清水市會議員、清水商工会議所會頭 鈴木與平

氏は當年五十四歳、株式會社鈴木與商店の社長であり、他面公共方面に進出、大正十三年二月、清水、江尻、辻、入口、不二見、三保の六ヶ町村を一元として清水市制を布かるや、市會議員に當選、既に四期連続、現に市會議長として市會の牛耳を握り、また縣會議員に推されて當選すること數度、この議長として縣治並に清水港の開發等に盡瘁貢獻するところ甚大なるものがあり、清水市史上傑として光つてゐる。氏はまた實業界方面にあつても大立物、縣内外の斯業界に名を列ねて活躍、其寄與するところ多大なるものがあり、更に幾多の名譽職に携はり

以てし、全く清水市の代表的人物として崇敬、多大なる人望と信頼とを高む。

清水市

清水商工会議所

當清水市に市政を實施されたのは大正十三年であつたが同時に市内商工業界先覺者の間に、今後の業界發展のため、商工会議所創設の事が提議され、鈴木與平氏を中心とし、協議を重ねたが、その頃の當市はまだ部落的對立の空氣濃く終に協議が一致せず物別れの止むなきに立ち至つたのである。越えて昭和三年四圍の物情漸く緩和するに及んで、商工会議所創立の説再燃し、主唱者は各方面の有志を説いて認識を深からしめ、同年七月、第一回の準備委員會を開催し、鈴木與平氏を委員長に、當時の市收入役守屋文太郎氏を事務擔任に推し、その他の委員を決定してますます結束を固め、市内十數ヶ所に於て講演會、座談會等を開いて業者一般にその必要を呼びかけ、始め



て九百餘名の賛成を得たのである。於て同五年五月二十七日、總會を開催し

て直ちに認可の手続きを了し、同月十日商工大臣の認可を得、續いて同八月十日第一回議員選舉を執行し、同二十二日、初議會を招集、會頭以下各役員及び理事に市收入役守屋文太郎氏の決定を見、始めて完全な清水商工会議所が成立したのである。そして第一期商議當選者は、會頭鈴木與平、副會頭望月房吉、同中村藤太郎、石野乙吉、中山助一、山本惣吉、山田平一、福島庄太郎、小長井鎌太郎、遠藤茂助、望月貞策、中村新太郎、小野壽一郎、土屋匡二郎、久保田勝五郎、荒

井榮次郎、杉山謙蔵、原田三左衛門、(先代)長澤重兵衛、井上源之丞、伊藤徳太郎、渡邊庄次郎、渡邊銀作、長島榮吉、宮城島晴男、原田實、荒井悠三、加藤濱吉、川島松蔵、山田龜吉、天野九右衛門、青柳市太郎、土谷保爾、高塚龜一、長阪省吾、櫻田虎蔵の三十六氏等である。

清水市 辻島崎

清水商工会 阪上政次郎

氏は本年六十歳、年に於ては既に老境に入つてはゐるが、その意氣や冲天、壯者を凌ぐものがある。今、清水港原木移輸入商の花形として業界に進出、縦横に活躍して商事調停委員、清水木材移輸入商組合顧問、流材製理組合長、庵原清水安倍材木商矯正會長、靜岡縣材木聯合會評議員、その他幾多の名譽職を双肩に擔つて、それからそれへと盡力貢獻してゐる。人望と信頼とは氏の一舉手一投足毎に加はつて、當清水市の大立物たらしめてゐる。商工会議所議員に當選すること二期目、それだけに氏の狙ふ重點もヒツトし、一般商工業者の愁眉を開いて呉れるに違ひない。氏はまた政治的團體の容山會々長に推され、この方面にも手を伸ばしてゐる。

木委員でもあり、國防協會方面にも際立つて活動をしてゐる。氏の信念一度動けば、前途に何物が横はつてゐようと、猛進して必ずこれを開拓、通過せしむるに措かぬ底の人である。多くを語らず、何よりも先づ實行からかゝるといふことが、市民の輿望を負ふてゐるわけで、今後市のためへの活躍を期待されてゐる。

清水市 入江巴川畔

株式 巴川製紙所

電話 六六六・六九八番

緑濃い入江巴川畔に新築、増築また増築と大なる近代的工場を築き上げた巴川製紙の創立以来の發展振りこそは、眞に目まぐるしいものがあり、殊に駭々乎たる文化の進運に伴ふて、更に一層の旺盛を極め、この進運と併進せんとしつゝあることは、社會進化のために大に祝すべきことである。縣下製紙業者の多きが中であつて、當社が所謂鶏群の一鶴流に斯業界に躍進しつゝあることは、當社の

基礎に於て、業績に於て健實に、生じて極めて眞摯なることを裏書してゐるもので、當社の將來の向上發展は、確かに豫期以上の成果を收め得るに違ひない。尙静岡市用宗に支社工場を設立、營業中で電話は静岡三二〇九番である。

清水市 下清水

清水商工会 原田三左衛門

議所議員

氏は明治四十五年、東京帝大工科應用化學科卒業の工學士、東海學士會々員で台灣東洋製糖會社に入社したが、實業界活躍の第一歩であつた。次で鈴木商店に入社、當時同店は絢爛最も華かだつた頃で氏は豊年製油株式會社大連工場長として赴任、後鳴尾の工場長に轉じ、更に現在は同社清水工場長として、社の向上發展に努力しつゝある。昭和五年の五月、長くも 聖上陛下、縣下行幸の砌、同工場に臨御、御休憩遊ばされた光榮に浴してゐる。工場では聖恩の洪大無邊な

るに感奮して、日夜記念の御下間に臣下の禮を捧げてゐる。氏はこの光榮に浴して以來ますます、精進してゐる。商工会議所議員たること二期目、現に副會頭である。岡山縣出身、五十歳。

清水市 入船町

清水市會議員、清水商工会議所會頭 鈴木與平

氏は當年五十四歳、株式會社鈴木與商店の社長であり、他面公共方面に進出、大正十三年二月、清水、江尻、辻、入口、不二見、三保の六ヶ町村を一九として清水市制を布かるや、市會議員に當選、既に四期連続、現に市會議長として市會の牛耳を握り、また縣會議員に推されて當選すること數度、この議長として縣治並に清水港の開發等に盡瘁貢獻するところ甚大なるものがあり、清水市史上傑出して光つてゐる。氏はまた實業界方面にあつても大立物、縣内外の斯業界に名を列ねて活躍、其寄與するところ多大なるものがあり、更に幾多の名譽職に携はり

以てし、全く清水市の代表的人物として崇敬、多大なる人望と信頼とを高む。

清水市

清水商工会議所

當清水市に市政を實施されたのは大正十三年であつたが同時に市内商工業界先覺者の間に、今後の業界發展のため、商工会議所創設の事が提議され、鈴木與平氏を中心とし、協議を重ねたが、その頃の當市はまだ部落的對立の空氣濃く終に協議が一致せず物別れの止むなきに立ち至つたのである。越えて昭和三年四圍の物情漸く緩和するに及んで、商工会議所創立の説再燃し、主唱者は各方面の有志を説いて認識を深からしめ、同年七月、第一回の準備委員會を開催し、鈴木與平氏を委員長に、當時の市收入役守屋文太郎氏を事務擔任に推し、その他の委員を決定してますます結束を固め、市内十數ヶ所に於て講演會、座談會等を開いて業者一般にその必要を呼びかけ、始め



て九百餘名の賛成を得たのである。於て同五年五月二十七日、總會を開催し

て直ちに認可の手続きを了し、同月十日商工大臣の認可を得、續いて同八月十日第一回議員選舉を執行し、同二十二日、初議會を招集、會頭以下各役員及び理事に市收入役守屋文太郎氏の決定を見、始めて完全な清水商工会議所が成立したのである。そして第一期商議當選者は、會頭鈴木與平、副會頭望月房吉、同中村藤太郎、石野乙吉、中山助一、山本惣吉、山田平一、福島庄太郎、小長井鎌太郎、遠藤茂助、望月貞策、中村新太郎、小野壽一郎、土屋匡二郎、久保田勝五郎、荒

井榮次郎、杉山謙藏、原田三左衛門、(先代)長澤重兵衛、井上源之丞、伊藤徳太郎、渡邊庄次郎、渡邊銀作、長島榮吉、宮城島晴男、原田實、荒井悠三、加藤清吉、川島松藏、山田龜吉、天野九右衛門、青柳市太郎、土谷保爾、高坂龜一、長阪省吾、櫻田虎藏の三十六氏等である。

清水市 辻島崎

清水商工会 阪上政次郎

議所議員

氏は本年六十歳、年に於ては既に老境に入つてはゐるが、その意氣や冲天、壯者を凌ぐものがある。今、清水港原木移輸入商の花形として業界に進出、縦横に活躍して商事調停委員、清水木材移輸入商組合顧問、流材製理組合長、庵原清水安倍材木商矯正會長、静岡縣材木聯合會評議員、その他幾多の名譽職を双肩に擔つて、それからそれへと盡力貢獻してゐる。人望と信頼とは氏の一舉手一投足毎に加はつて、當清水市の大立物たらしめてゐる。商工会議所議員に當選すること二期目、それだけに氏の狙ふ重點もヒツトし、一般商工業者の愁眉を開いて呉れるに違ひない。氏はまた政治的團體の容山會々長に推され、この方面にも手を伸ばしてゐる。

志太郡

年額数千圓の契約寄附をなし、公益事業の助成につとめてゐる。社長は片山七兵衛氏である。

もに好果を収め、信用部に於ても相當の利益を擧げてゐる。

焼津水産株式會社

往昔當地には魚類販賣機關としては個人問屋があつただけであるが、漸次發展改革されて、明治二十三年三ヶ所に水産會社が設立された。明治三十九年三會社を合併して生れたのが當社の前身たる焼津水産會社である。當時資本金五萬圓であつたが、時代の進運に伴ひ大正十年資本金五十萬圓の株式會社組織に變更し、益々業務の發展を圖り、大正十四年には更に資本金百萬圓に増額した。株主は漁業者及び仲買人ほゞ同數にて、重役もまた同數を選出し協同的營業をなす。會社の使命は出漁資金及び魚商仲買人の金融の中樞經濟を司り、一方焼津水産會發展のため年額一萬数千圓の契約的寄附をなし、更に漁業組合にはこれまた

焼津信用販賣購買組合

鯉鮪の漁業を主体とする當組合は、保證責任組織にて、信用購買販賣利用の四種事業を經營する。焼津町及び小川村を區域として明治四十一年に設立されし焼津生産組合が本組合の前身である。大正二年には出資五萬二千餘圓の全額拂込を完了し、鯉鮪漁船の設備は大小合せて四十四隻となつた。大正十一年産業組合法により新に改組され、二年後の大正十三年には全國産業組合大會に於て成績良好なりとして表彰を受けた。昭和四年には六萬二千圓を投じて鯉鮪倉庫を設備した。その後一時財界不況の影響を受けて成績の如くならざりしも、昭和八年から再び舊に戻り、現在では組合員八百八十名出資拂込額二十八萬圓、販賣購買利用と

焼津漁業組合

當組合は往古よりあり、申合組合を明治三十五年漁業組合法によりて設立しなほせるものにして、遭難救恤をはじめ諸種の事業を行ひ、漁獲高の二百五十分の一は漁業者獎勵費として漁獲高に應じ年末に至り各船に分ち漁業者に賞與しつゝあり、また明治四十一年以來大日本水産會船員養成所清水支部へ入所せしめたるもの二百餘名に達し、更に大正六年以來當組合が中心となつて、水道設備を行ひ大正十四年には無線電信電話及び私設焼津燈台を設置して漁業者の便益を圖り、その他各種税金の支辨、無線通信士の養成など事業範圍は廣汎にわたつてゐる。現在組合員百十五名を算し、年漁獲高は二百十餘萬圓に上る。理事組合長は片山七兵衛氏にして、理事は見崎平左衛門氏

ほか三名、監事は北原吉太郎氏ほか二名である。

焼津水産會

水産焼津を背負つて斯業の發展向上並に同業の福利増進をはかるため、社團法人組織を以て設置されたる當水産會は常に潑刺たる意氣に燃えて目的貫徹に向つて邁進しつゝあり、業界に利益を齎すところ頗る甚大にして、今や必要缺くべからざる存在となつてゐる。市場經營の改善、優良漁業地の視察、水産思想の普及、共同出荷など、その行ふところの事業は常に良好な成績を収めてゐる。理事は松村長五郎、池谷郁太郎、長谷川友吉、村松永一、長谷川長太郎、内田松三郎の諸氏である。

焼津丸産信用購買組合

當組合は明治四十年十一月七日の創立

駿陽鑄造株式會社

非常時日本は今や準戰時体制下のもと

焼津水産同志會

會員二百名を擁して水産焼津に重要な存在を示してゐる當同志會は、昭和元年水産聯合組合より分離獨立せる連帶保證團にして、製箱工場を兼營し、會員にのみ頒賣し、その年額三萬五千圓に達し、

また鱈の頭を漁業用餌料として販賣し、年一萬四千程度の賣上げあり、その他残品は悉く肥料用として一般に販賣し、これまた一千五百圓の年販賣高を示してゐる。現會長は清水平太郎氏、副會長は長谷川幸一氏にして、幹事は天野鹿之助氏ほか九名、事務員に青木清作氏ほか二名を有し、支部は七つに分れ、各支部毎に支部長を置く。

總津町 新屋

興行 家 藤本仙太郎

豪放磊落を以て鳴る氏は、明治二十三年東京に呱々の聲をあげ、長じて静岡市に來り橋館を經營し、後昭和九年より當地に移り獨力にて左の劇場を經營してゐる。

淺草座 — 大都新興映畫上映
港 座 — 大都日活映畫上映

前者は七年前より、後者は十五年前より既に經營されてゐたが、氏の手に移つてから一層目覚ましい發展を示すに至り、

現在では二劇場を合せて月々二萬人以上の觀覽者を消化してゐる。上映映畫は特に教訓となるものを選び、近郷小學校兒童に好評がある。従業員は説明者二名ほか十四名、家族的待遇をなし、また觀客には全員揃つて親切本位をモットーとしてゐる。

總津町

東海漁業株式會社

當會社は明治四十年十一月に創設され、資本金五十萬圓、第五東洋丸以下三十四隻の漁船を有し、鮪漁に常に凱歌をあげ、設立當時の漁獲は鮪漁のみにて僅か十萬七千圓に過ぎなつたが、大正三年から鮪と鮪の兩方面に乗り出して四十六萬圓を算し、十年後の同十三年には百四十萬圓といふ驚異的發展を示した。漁獲物は生魚のみ、販賣するほか水産工業部に於て加工し、トンボ鮪油漬、鮪鮪油漬、鱈鮪詰等三十七萬圓を突破する盛況である。事務取締役は片山七兵衛、取締役は

甲賀英逸、齋藤重五郎、村上保市、片山啓助の四氏、監査役は甲賀菊太郎、中野修の二氏である。

總津町 新屋

燒津果委託株式會社

電話 三一五番

當會社は昭和二年五月十五日創立と同時に事業開始せるものにて、同四年八月八日縣指令商第五二六號を以て市場業務規定許可あり、越えて同六年一月六日には縣指令商第一五四號を以て食品卸賣市場開設の許可を得た。資本金一萬一千圓である。日常生活必需品たる食糧品—主として蔬菜、果實、乾物、漬物類の新鮮にして低廉なる優良品を潤澤に供給し市場の人氣を博してゐる。創立發起人は清水國藏、中野森太郎、中野文太郎、新村清太郎、松永榮太郎、石野潤策、新村鑛一郎、村瀬鎮平、鈴木正一、加藤清正、鈴木金作、松永安次郎、松永清太郎、黨科保の諸氏にして、株主合計七十二名、

社長に清水國藏氏が就任し、重役に中野森太郎、中野文太郎、新村清太郎、松永榮太郎、石野潤策、村瀬鎮平、鈴木正一の諸氏が擧げられてゐる。

岡部町

岡部町信用購買組合

電話 四三番

當組合は昭和三年十一月有限責任組織にて設立認可され、翌年初頭より事業を開始せるものにして、昭和九年十月末日保證責任組織に變更した。信用販賣購買利用の四種事業を經營し、區域は町一圓組合員六百二十餘名を算し、出資額五萬四千圓にのぼる。貯金は据置、定期、當座、普通、普通四種にて總額三十萬圓を突破し、貸出は約十五萬圓、定期貸付がその半數を占める。本町最主要物産たる柑橘は組合にて統制販賣し、また農家副業を益々隆盛ならしむるため昭和十年より鶏卵の販賣も統制することとなつた。購買利用事業も成績よく、組合員の實情と組

合本來の使命に鑑み、専ら慎重細心の注意を拂



にして、理事は椿原彌市氏ほか七名、監事は渡邊彌之助氏ほか五名である。

岡部町

三輪信用購買組合

電話 四六番

當組合は大正三年八月二十一日の創立に係り、有限責任岡部町三輪信用購買販

賣生産組合と稱したが、昭和三年四月に至り生産を利用に改めて今日に至つた。

三輪區一圓を區域とし貸付三萬八千餘圓貯金五萬三千五百圓、購買年額一萬五千餘圓、販賣年額一萬六千圓弱の事業成績にて、堅實なる經營方針により組合の基礎は確固たるものがある。設立功勞者として池田徳吉、片山彌市郎、井田久次郎、大畑孝一、大畑久三、松永長吉の諸氏が擧げられ、現組合長たる池田徳吉氏は元區長及び町議員をつとめた材幹にて現に學務委員を兼ね、事務理事片山内記氏は專任組合事業に盡瘁し、その嚴父彌市郎氏は町長、町會議員、區長、學務委員等に選ばれ貢献多からざる人であるが今は黄泉の旅人である。

岡部町 子持坂

子持坂信用販賣組合

電話 岡部二二番

當組合は大正八年十二月九日の設立認可に係り、子持坂ほか二字を區域とし、

組織は有限責任にて、信用購買販賣利用の四事業を経営し、役員員の献身的な努力並に組合員一同の理解協力により漸次順調なる發展を致し、遂に今日の隆盛を招來するに至つた。組合員僅か四十名に足らざるも、出資總額は一萬圓以上にのぼる。組合精神の普及徹底せること他にその比を見ず、事業利益を擧げるよりも組合員に便益を與へることを以て經營の根本方針としてゐる。初代組合長は西村平八氏、二代目鳴谷誠助氏にして、現組合長三代目西村廉吉氏は曩に岡部町助役として町政に貢献裨益し、現時町會議員に選ばれて一意町勢發展に盡してゐる。

岡部町 桂島

町會議員 近藤 小七

當家は四百年前より當地に住し、代々近藤を姓とし當主にて十七代に及ぶ舊家にして、世々農を業とし、祖先には御料林術士をつとめた者もある。氏は明治十

五年四月二十一日傳次郎氏の男に生れ、同三十五年歩兵第三十四聯隊に入營、日露戰役には第二軍に屬し、得利寺及び大石橋の會戰に参加、功により勳七等に叙された。



凱旋後 助役、在郷軍人分會長をつとめ

現在町會議員五期目たるほか町農會評議員、信用組合理事、學務委員、土木委員區長、岡部軍友會長等を兼ね、また梅林寺檀徒總代としては四萬餘圓の巨費をあつめて莊嚴なる本堂再建をなせる手腕家にて、資性濃厚、大正十二年時の在郷軍人會長川村大將より褒賞され、昭和七年にも軍事功勞者として表彰された。令息俊雄氏は専心家業に従事してゐる。かくて一家ますます繁榮に赴き、令名いよいよ高きを加へつゝある。

藤枝町 本

志田郡 茶業組合

當組合は明治二十年志太郡、益津郡茶業組合と稱して設立され、同三十一年益津郡廢止により現名稱に變更、爾來組合施設事業ますます多端、且つ製造法研究等の必要により、明治四十二年藤枝町に事務所及び研究場を新築、大正五年には研究所を、同八年には事務所をそれら増築し、大正十五年郡役所廢止に伴ひ事務所をその跡に移した。伊聖芭蕉が駿河路や花橋も茶の匂ひ

と吟んだ茶處として、志太茶の聲價は内外市場に普く、郡下二十八ヶ所には模範茶園を設置し、また各町村に摘採試験茶園を設け、その他茶園改良事業に費すところ多く、製造方法にも日進月歩の跡を示してゐる。現在組合員一萬二千三百戸を越え、組合長は人望高き山口忠五郎氏、副組合長は朝比奈權一氏、會計監督は大井牧太氏である。

藤枝町 市部

天理教益津分教會

當教會は明治二十三年四月十五日先代小栗市十氏によつて設立され、爾來教義の眞正と布教の熱心とにより漸次發展し明治四十二年には縣より正式に認可を得るに至つた。現在志太郡下に二十五ヶ所の宣教所あり、これを綜合して一心會なるものを組織し、毎月十四日當分教會に於て集會、布教上の種々の協議を行つてゐる。行事は例祭のほか、一月十九日の春季大祭、十月十九日の秋季大祭があり共に三百餘名の信者が一堂に會して盛大を極める。現教會長小栗清三郎氏は明治十二年十二月四日の誕生、青年時代滿洲地方に於て布教に従事することあり、明治四十二年以來當教會長として活躍し、資格は少教正である。

青島町内瀬戸岩田山

岩田神社

當社に天照皇太神及び豊受大神を祭神

島田町

島田銀行

電話 一五番・一六番

當行は昭和九年二月資本金百萬圓の島田銀行(頭取酒井友次郎氏)と資本金百萬圓の西駿銀行(頭取森淑氏)とを合併し、新に株式會社島田銀行として創立されしものにて、資本金百萬圓、一株の金額五十圓、株主六百四十名を數へ、地方銀行としてはその基礎に於て且つその規模に於て全國屈指の大銀行といふべきである。支店は島田町内に五丁目、七丁目、向谷の三あり、ほかに志太郡大富村中根新出の大富支店、榛原郡下川根家山の家山支店等合計五支店を有す。昭和十一年度にて創立後僅か三ヶ年なるに拘らず陸目に價する成績を擧げ、概況は次の如くである。

準備金	一萬五千圓
預金	二百五十八萬七千圓
諸貸付金	百九十六萬八千五百圓
割引手形	八萬二千五百圓

所有有價證券 三十一萬二千四百圓
現金 九萬圓

一般の商業界の状況は活気に乏しく従つて金融の緩慢は止むを得ざるころであり、いはゆる低金利政策に順應し鋭意業績の伸暢に努めて居るため、顧客を増し預金・貸金共に著しき増加の現象を見て居る。資金の運用は堅實と地方金融の圓滑に留意し、専ら内容の充實につとめて居る。頭取は森淑氏、取締役支配人は酒井銀七氏である。

駿遠醫療利用組合

電話四二五番

當組合は昭和九年九月の事業開始にて十四ヶ町村を區域とし、組合員六千名に近く、川資一口五圓の總計五千三百圓、院長は醫學博士棚橋貞雄氏、副院長は醫學博士磯部潤氏、他に醫員八名を擁し、内科、外科、婦人科、耳鼻咽喉科、皮膚泌尿科を診療、病院の成績向上と共に組

合員も増加し、利用者も亦夥しく多くなつた。昭和十年二階建十四病室を増築、同年度に於て患者總計五萬二千人、利用料は七萬圓弱に上つた。組合長北川惣太郎氏は元大長村長にして現在大長産業組合長の任にあり、専務理事藥科財治氏は大長村會議員、區長を兼任し、當組合のため勞苦を厭はずよく盡瘁して居る。因に組織は保證責任にて、單獨經營としては全國的にも類少く、事業また成績良好である。

島田町信用購買組合

電話六六番

當組合大正五年九月一日御假屋區を區域とし、無限責任御假屋信用組合として創立され、事務所は御假屋に置いた。大正十一年二月六日有限責任に改め、區域十五區とし、島田信用購買組合と稱した。至十二年四月二十五日には更に區域と事業を擴大して島田東部信用購買販賣利用

組合と改めた。昭和六年十月二十九日區域を全町一圓となし、名稱を島田町信用購買販賣利用組合とし更に昭和八年五月十五日には組織を保證責任にし、同十一年三月現事務所に移轉した。貯金も貸付も略々同額の四萬餘圓を算し、組合長には石間博一、石間英太郎、甲賀歌吉、大石彌三吉の諸氏が歴任し、現在は缺員中、専務理事八木吟太郎氏が全事業を統率して居る。因に昭和七年十二月一丁目に設立せる支部は昭和十一年度に於て廢止した。

相川村上新田 藁品眞一

藁品家は代々農耕の業を営みて部落の舊家にして、氏は明治十四年六月一日を以て時平氏の男に生れた。同三十四年兵役に服し、日露戦役には從軍出征して各地に軍功あり、ために勳八等に叙された。郷に在つては家業の傍らよく公共に盡し、學務委員、區長、信用組合監事を歴任、



現在村會議員六期目の任にあるほか信用組合理事、村農會長、神社氏子總代等を兼任し、私心を捨て、一意社會公共の福利に貢献してゐる。家庭には四男一女有りて、長男慎吾氏は在郷軍人分會にあつて重きをなし、次男榮氏は現に軍務に服してゐる父子三人揃つて皇國のために盡す、誠の名譽の限りである。

相川村 森下百太郎

博覽強記、手腕あり識見豊かなる氏は明治元年九月の岳降である。家は代々農を營める部落の舊家にして、亡父は九郎右衛門と稱し令名近在に噴々たるものがあつた。加ふるに代々篤農家として知ら

れたる家柄である。氏は夙に家業に精勵する傍ら自治公共の事業に竭し功勞少なからざるものあり、村會議員たること二十數ヶ年、現にその任にあるほか、會では學務委員、郡會議員等に任じ公益のため盡瘁貢献するところ甚大にして、村内の信望を一身にあつめ、遂に村長の要職に推され今日に至つた。

相川村 川村牧三郎

聲望普く村内に充つるわが川村牧三郎氏は明治九年六月二十五日の岳降である。先代太郎氏は村會議員、區長その他をつとめたる自治功勞者として知らる、抑々川村家は代々農を以て業とし、氏は家業の傍ら明治四十一年十一月創立の相川産業組合設立發起人となりて東奔西走し、自ら組合長の重任に就き、昭和九年まで半生を組合事業の發達と組合員の福利増進のために捧げ、曩に縣支會長より功勞

相川村 下井留 大畑新一郎

大畑家は七八代を繼續する舊家にして代々農を營み、幕政の頃は庄屋職をつとめたる名譽の家柄である。當主たるわが大畑新一郎氏は明治六年三月十八日を以て亡父新右衛門氏の男に生れ、夙に公益に盡瘁するところ多く、明治三十三年收入役に推され勤続二期、更に助役となり大正四年には引續き村長に當選、二期八年間自治産業に身を賭して努力し、一時退職したが、大正十五年再度村民の懇望をいれて村長の椅子につき、更に二期

近くつとめた。村治に關與すること實に前後三十一箇年、以上のほか村會議員、消防組頭、村農會長等を歴任せる功勞者である。因に養子良平氏は大洲小學校長として縣下教育界に令名高き人である。

相川信用購買組合

電話宗高一四番

當組合は信用購買販賣利用の四種事業を兼營する有限責任組織の組合にして、明治四十一年十一月の設立に係り、爾來當事者の努力により累年加入者の増加を來し、大正八年より同九年に互り、當村に存立せる上泉組合と相川組合を合併せんとしたが圓滿なる結果を見ず、止むなく區域を擴張して下江留、上新田、西島の三字に及ぼし、相川販賣組合を合併して現在の組織に改めた。昭和五年三月現事務所並に農業倉庫の新築を見るに至り、從來の事業に加ふるに倉庫部を設置し、爾來引續きその改善と擴充に邁進し以て

今日に及んだ。組合員三百六十名にして拂込出資金三萬圓弱、貯金は二十二萬圓餘、貸付は十萬圓餘に上り、購買販賣共に數萬圓を前後する。組合長は齋藤惠助氏である。氏は役場書記、收入役、助役等を多年歴任し、現に村會議員及び學務委員を兼ねる相川村自治産業界の元老である。

上泉信用購買組合

相川村上泉

當組合は明治四十年の設立に係り、爾來役職員をはじめ組合員一同の一致協力によつて順調なる發展を遂げて今日に至り、四種事業を經營組合員九十五名を擁し、出資一口三十圓、總額一萬四千七百圓にして、最近の情勢を見るに次の如き成績を示してゐる。

貸付總額	二萬一千圓
貯金	六萬圓
購買價額	二萬四千三百圓
販賣價額	四萬四千六百圓

石上醫院

電話一五番

當醫院は石上薫氏の經營に係る内科、小兒科、産婦人科、外科、眼科を診療し設備完全の醫院で、先代當時よりの開業にて、先代は仁術の傍ら村會議員として村治に貢献すること多年、令名普きものあり、十五年前不幸不歸の客となつた。當主たる石原薫氏は明治二十一年の出生京都醫科大學出身の俊才にして、開業醫たるほか相川小學校醫、生命保險醫、逓信省保險醫、藤枝町青島町組合醫等を囑託されて多忙なるに拘らず、よく自家用自動車を走らせて患者を見舞つてゐる。家庭には一男一女あり、長男孝行氏は明

治四十五年の出生にて現時東北醫科大學に在學中である。

相川村 下江留 自治功勞者 大畑 榮 消防組頭

自治功勞者として知られる氏は、明治二十六年二月十七日の出生である。嚴父鹿之助氏は本村役場書記その他の公職を歴任せる人にて四年前歸らぬ旋の人となつた。家業は農であつたが、氏は十年前より木工場を營み、農村工業化に先鞭をつけた先覺にて雇人七人を使用し、今以てその業は盛大を極める。家業の傍ら村會議員たること四期、昭和三年よりは消防組頭の要職につき消防組を二部に分ち各部長によつて統一活動せしめつゝあり郡内有數の優良消防組たらしめた功勞者で、曩に其功により警察署より表彰の光榮に浴した。また會では青年團長たることもあり。毎朝海岸に行つて投網を打つを趣味とし健康な生活に日々を過してゐる。因に子女は男二人女七人の子福者。

相川村上泉 志太庵原兩郡 畜産組合理事 山下幸三郎

氏は明治三十年一月九日の出生にて齡不惑を越へて幾許もなく、相川村中堅の有力人物として、重きをなしてゐる。亡父茂八氏は夙に村助役並に村長を歴任せる村治の功勞者にして、



る村治の功勞者にして、父文右衛門氏は明治十八年より相川村小學校に教鞭を執り、在職三十餘年に及ぶ功勞者にして、氏もまた早くより教育界の人となり、後ち大正五年助役に推され次で同十一年村長に選任、同十五年までつとめ、現在は村會議員、信用組合理事方面委員、區長の名譽職を兼ね、更に大日本報徳社參事兼全國講師及び報徳社志太郡聯合會長として、二宮尊徳翁の流れを汲んで防貧、思想善導、報徳精神普及徹底に一身を捧げ努力盡瘁してゐる。誠に非常時日本を救ふ根本精神は報徳思想であり、報徳思想の徹底普及は氏の奔走に俟つところ多い。因に長男は教員とし

共のことに關與盡瘁し、青年團支部長として若きチエネレーションを指導し、村會議員(二期)としては村勢の發展につくし、その他區長代理、上泉信用組合理事、相川村外二ヶ村用水組合會議員等の要職に推され、更に志太、庵原兩郡の畜産組合理事を現在し、地方産業の振興開發に貢献するところ頗る多い。五男一女

相川村 大日本報徳會參事 兼全國講師、報徳社志太郡聯合會長 小島利市

大日本報徳社より數回に互つて表彰せられたる氏は明治二年の岳降である。亡父文右衛門氏は明治十八年より相川村小學校に教鞭を執り、在職三十餘年に及ぶ功勞者にして、氏もまた早くより教育界の人となり、後ち大正五年助役に推され次で同十一年村長に選任、同十五年までつとめ、現在は村會議員、信用組合理事方面委員、區長の名譽職を兼ね、更に大日本報徳社參事兼全國講師及び報徳社志太郡聯合會長として、二宮尊徳翁の流れを汲んで防貧、思想善導、報徳精神普及徹底に一身を捧げ努力盡瘁してゐる。誠に非常時日本を救ふ根本精神は報徳思想であり、報徳思想の徹底普及は氏の奔走に俟つところ多い。因に長男は教員とし

て將來を囑望されしも五年前に逝去、令孫三人のうち年長淳司君は志太中學校四年に在學し秀才の譽れ高く將來を囑望せられて居る。

相川村

信用組合理事 大畑太郎藏
家屋税調査員

稟性英邁にして氣力に富み、誠實を以て事に當る氏は、明治十三年十二月二日の誕生である。農耕を以て家業となし、夙に篤農家としての開き高く、また自治に關與公共に盡瘁し、用水組合理事國勢調査員たりしほか、昭和八年より一期間村會議員として活躍し、また區長代理二十箇年勤績の後區長となつて今日に至り、更に家屋税調査員、信用組合理事及び氏子總代を兼ねてゐる。家庭には四男一女あり、次男昇氏は陸軍歩兵少尉にして現在縣廳保險課に勤務し、三男信氏は海軍三等兵曹にして除隊後東京市役所に勤務し、今日に至つてゐる。

和田村

村會議員、志太 小長谷重一
郡青年團副團長

資性潤達にして清廉、加ふるに博識且つ統御の才充分なる氏は明治三十六年七月二十四日の誕生、若冠よく村内有力者に互して氣焔を吐いてゐる。家業は農に



して副業に製を營み、常に新方式を採用して

産業の向上改善に盡しつゝあり、更に騎兵第廿六聯隊に勤務せる騎兵上等兵にして現に軍人分會長に推され郷軍の發展と活潑なる事業の指導に當り、村會議員としては正論よく邪を制し、二十五歳より四十歳までのもの百五十名を以て組織する産業組合青年聯盟幹事長の重任を帯びまた青團長、志太郡青年團副團長等の要職

和田村

成道寺

當寺は六百年の古き歴史を有する靈刹にして勉之敢廻禪師の開山と傳へ、曾ては臨濟宗に屬してゐたが、現在は曹洞宗中の一山にして木像の釋迦尊を本尊とする。本寺は高田の常樂院である。末寺は近郷に十ヶ寺をかぞへる、寶物等多數藏し、貴重にして得難きものが多かつたが十七代住職の時これを失つてしまつたことは、返す／＼も口惜しい限りである。境内には藥師如來を祀る御堂あり、御藥師様と稱し、靈驗あらたかなるため參詣人頗る多く、靈域に人影を絶つことがない。檀徒總代は村上保郎、良致佐吉の二氏、現住職は伊久眞仰山師にして陰徳多く檀徒は勿論全村民より尊敬さる。

和田村

郷社 和田神社

當社は神倭伊波禮毘古命(神武天皇)を祭神とし、舊村社八幡宮を合祀して明治十年郷社となりしものにて、神武天皇の御威徳を仰ぎて崇敬するもの頗る多い。例祭は毎年四月三日、攝末社に須賀神社ほか四社がある。崇敬者約六百、氏子約三百をかぞへ、氏子範圍は和田村全体にわたる。現社司神谷英次氏は神谷家九代目の當主にして國學院の出身、現に保護者會長、氏子總代會評議員、神職會幹事等の要職を兼ね、敬神思想の普及徹底による國民精神の作興につとめてゐる。長男は現在國學院大學に在學中の秀才にてその將來は大いに囑望されてゐる。

吉永村

吉永信用購買組合
販賣利用組合

當組合は大正二年五月の創立に係り、當初事務所は組合長大石久治氏宅の一部を使用し、信用事業のみを営んだが、後

吉永村

飯淵醫院

醫は昔から仁術といはれ、濟生を以てその目的とした。然るに資本主義の發達

吉永村

村會議員 飯田 宇平

吉永村の有力者にして手腕力量人望を兼ね備へたる氏は、夙に製茶業を營み、一箇年約一萬貫程度を製造し至誠を以て事に當り撓まざる精力は遂に今日の盛大を見るに至つた。實に當地製茶業の先覺者にて、現今の機械製法に轉じてからで

さへ二十有餘五年の長きに及びその間常に研究的態度を以て製茶の改良改善に先鞭をつけ、茶業發達の偉大なる恩人ともいふべき人である。茶業組合聯合會或は志太郡茶業組合等が主催する品評會にはしばしば出品し、優等賞を得たること前後數回に及んでゐる。因に家族は十一人である。

吉永村

吉永村青 鈴木 要一

資性潤達にして清廉、常に社會公共のため第一線に立つて功勞多からざる氏は、明治四十五年二月十五日の出生、年齢未だ而立に至らざるもよく公益につきし、青年男女の間に人望頗る高く、將來の大成は期待をかけて待たれてゐる。清水商業學校第五回卒業生にて、昭和十年本村青年團長に推されるや、統制指導よく業を率ゐて誤りなく、不世出の異材とさへいはれる。家業は醤油醸造を以て立

ち、嚴父久一郎氏は現に本村學務委員の要職にあつて教育事業に貢献裨益するところ大なるものがある。父子揃つて一村の範となる、誠に稀といふべきである。

吉永村

吉永水産市場

當市場は明治二十三年頃に設立され、水産關係品を取扱つて隆盛を極めてゐたが、事業の擴張と時代の趨勢に應じて昭和七年六月二ヶ所にありし市場を合併すると共に、資本金一萬圓の株式會社に改めて今日に至つた。創立功勞者たる望月惣吉氏は日露戰爭に従軍せる勇士にて、勳七等瑞寶章及び白色桐葉章を授與され現在村會議員として本村發展のため専心努力盡瘁してゐる信望家である。市場はサクラ海老及びシラスを主とし、五、六萬圓の賣上げがある。因に社長は手腕家として謳はれる鈴木昇一氏、常任理事は前記功勞者たる望月惣吉氏でその前途は益々遼遠である。

吉永村

吉永郵便局

電話一七番

昭和二年度創設以來、地方住民に多大の便益を與へてゐる當郵便局は、初代局長大石久治氏の奔走により設立されたのである。抑々大石家は代々醤油醸造を以て業とする本村屈指の舊家にして、傍ら養魚業(鰻)を行ひ、本村に於ける養魚事業の創始者といはれ、現在年々數千貫に上る鰻を市場に出してゐる。現局長大石利久太郎氏は初代局長の息、大正三年の出生にて、昭和七年志太中學校を卒業せる新人、郡内郵便局長中の最年少者としてその將來を期待されてゐる。因に局事務員は男一名、女二名を擁し、親切迅速をモットーとしてよく働いてゐる。

大洲村

方面委員、村會議員、土地調査員 中村清次

旅行を趣味とし、博識多才なる氏は、

明治二十七年七月七日の誕生である。先考洋一郎氏は大洲村小學校長をつとめた郷土の先覺者にて、氏はその養子、業種商並に雜貨商を營み、農村の「三越」といはれ顧客が多い。また藤相鐵道の株主でもあり、家業の傍ら大正十五年四月より引續き今日まで村會議員の任にあるほか産業組合理事、學務委員二期、方面委員二期、氏子總代三期、土地調査員等の諸職を現任し、會ては在郷軍人分會副會長區長、國勢調査員等に推されて貢献多き人材である。家族は六人にて二男二女あり、長女は藤枝女學校四年在學の才媛である。因に氏は濱松歩兵聯隊出身の上等兵である。

大洲村

村會議員、信用組合監事 中田穂一郎

熱心にして且つ眞摯なる氏は、明治十九年十一月二十六日の出生である。嚴父十年前黄泉の客となり、氏はその後を つてよく農業に精勵すると共に、自治

公共の事業に盡瘁し、現在村會議員二期目のほか、氏子總代、禮徒總代、信用組合監事、茶業小組役員、梨業組合役員用水組合役員等の要職を兼ね、また志太庵原兩郡麻業組合の組合長たること二期當村婦人會事業部主任となりてはよく農村婦人運動に貢献して表彰數回に及び、昭和三年には農業經營並に社會方面及び婦人會事業視察のため、約四十日間、東北地方、殊に裏日本に、縣より派遣せられ、昭和八年には功勞木杯一箇を贈與されるの榮譽に浴した。養嗣子寅松氏は騎兵上等兵にて、軍人分會班長並に消防組部長をつとめてゐる。

大洲村善左衛門

神明宮社掌 大塚鐵次郎

典型的神官として令名高き氏は、明治十一年八月十一日の出生である。同十四年十二月十八日より村社神明宮社掌となつて奉仕し、現在その他西益津村郡村社大井神社、同村中村社田中神社、大

大洲村

村社 八幡神社

富村大島村社野々宮神社、相川村西島村社鏡滿神社、同村下江留郷社八幡宮、饒津町縣社饒津神社等の神職を兼ね、一身を神社に獻行盡瘁してゐる。村社神明宮は毎年十月十六日を例祭とする古社である。また縣社饒津神社の碑は、荒木貞夫大將の書にして、昭和十一年十一月十八日には大將の御參詣あり盛大を極めたのである。

當神社は境内一反歩あり、社殿は九尺四面にして拜殿九坪あり、例祭は毎年舊八月十五日の満月の日に近郷近在の老若男女の參拜多く頗る股賑を呈する。創建は享祿四年といふ。社有財産に土地三段六畝歩あり。氏子數四十五戸、氏子總代四人である。現社掌内藤圓作氏は、明治三年の岳降、同二十六年一月以來神官となり、當社のほか大洲村五平の八幡宮同忠兵衛の稻荷神社、同矢左門の稻荷神

社、同下新田の稻荷神社、同土湍の八幡宮、相川村上泉村の八幡宮、六合村細島の八幡

内藤 圓作



の八幡 神社、 青島町 内瀬戸 の岩田 神社及 び大井 神社等 の神官 を兼務 する。 長男内 藤文雄

氏は明治四十年の誕生、神官の學校出身にて、在學中静岡淺間神社、秋葉神社等に奉仕し、現在は岡部町神明神社及び木舟神社、朝比奈神社に神職となり將來を囑望されてゐる。父子揃つて聖職にあること内藤氏の如き、誠に相應しく、村民衆望を聚めてゐるのも當然である。

大洲村彌左衛門 大洲 信用購買組合

本組合は大正七年五月二十九日の設立認可に係り、當時有限責任大洲信用組合



と稱し 事務所 を役場 内に置 いた。 大正十 一年に 販賣購 買の事 業を初 め、翌 十二年 には利

用部を加へて四種事業となし、昭和三年現在の事務所を新築移轉、同八年二月十一日の佳節を卜して保證責任に組織を改めた。大洲村一圓を區域とし、出資一口

三十圓の九百八十口、組合員四百八十五名にて、貸付十萬八千圓、貯金二十一萬六千餘



開を算 する。 農業倉 庫は昭 和七年 五月に 設立さ れたも ので、 建坪五 十二坪 の一棟

である。歴代理事長には鈴木辰次郎氏、大塚達藏氏が就任し、現組合長理事は人望高き岩本信之助氏、常務理事には大塚定吉氏が推され、全力を傾けて組合の發展に盡してゐる。人々の尊い努力は組合を守り育てる上に今後とも必然的に缺くべからざるものである事は言を俟たぬ。

小川 村

小川 信用販賣組合

當組合は大正九年二月五日の設立認可に係り、初めより有限責任にて四種事業を經營した。區域は村内一圓とし、組合員三百八十名弱、出資一口三十圓にて總額二萬圓である。現在貸付總額十三萬八千圓餘、貯金十四萬五千圓に達する。不景氣のドン底より擡頭せる活氣も未だ農村部落までは及ばず、一般の經濟界は保守的にして投資の觀念少く、農村は疲弊後未だ活氣乏しく、金融は固定して圓滑を缺き、運用全からざるは遺憾である。殊に米の凶作、茶、蔬菜、梨果等の廉價なるはまた一打撃たるを免れず、當組合は力めて自重し債權の確保に努力しつゝある。購買販賣にありては可成統制的に進出すべく、共同の精神に於て組合員の利潤をはかり、昭和十年度中に於て購買品賣却高一萬五千五百圓餘、販賣高五萬五千八百圓に上つた。利用部に於ては特

に電力利用に力を用ひつゝあり、親摺機は全般に利用せらるゝに至り米質向上の進展に貢献するところが多い。歴代組合長には藪崎清八氏、會根猪之助氏、小澤傳八郎氏、小池吉藏氏が就任した。現組合長會根辰之助氏は元區長、村會議員等をつとめ、昭和二年組合理事に推され、組合長就任は現在二度目である。また常務理事杉山徳一氏は消防小頭及び在郷軍人分會長を現任中にて、大正十三年組合事務員となり、昭和十一年一月現職に推された手腕家である。その他理事に吉田龜吉、内田嘉吉、大澤惣一の三氏、監事に會根猪之助、小梁治祿、石崎戸吉の三氏がある。因に昭和三年から石津に出張所を新設して事業の敏活なる運用をはかつてゐる。

ふものその數を知らざるほどであつた。郷人死者の靈を葬ふため字骨堂の地に一字を創建し、後現在の地に移轉したのである。開山は觀音祐崇師と傳へ、淨土宗に屬し、増上寺を大本山とし、静岡市の寶台院を本寺とする。御本尊は阿彌陀如来である。七代目住職巖谷禪師の時に徳川家康は鷹狩の途次當寺に立寄られ家康公の水領茶碗は、法然上人書の經文と共に、寺寶として今も藏されてゐる。毎年三月の法然上人の御年忌、七月の施餓鬼十月の十夜祭には股賑を呈する。境内面積千五百坪。檀徒總代は松村鎮吉ほか五名。現住職北山忍星師は二十八代目に當る。長男淳友氏はフランクフルト大學卒業後暫らく獨逸にあり、現時日獨協會主事として重きをなす。

小川 村 教念寺

當寺は永承年間の創設に係り、當時近海に大海嘯ありて田畑は流れ、人命を失

小川 村 動七等 小池 吉藏 村會議員

池の中に大きな石を投ずれば、大きな音響と共に大きな波紋を起すが、小さな

石では小さな波紋を起してすぐ消えてしまふ。わが小池吉藏氏が自治界に投じた石は、大きな石であつた。だから波紋も大きく、公共のため役立つこと甚大なものがある。明治十五年生をこの世に享け適齢に達すや海軍兵となり、一等兵曹に昇進、日露戦役に出征し功により勳七等桐葉章を賜り、凱旋後は家業たる農に従事する傍ら奉公の誠を致し、本村消防組の創立に際しては特に功勞多く、曩に組頭たるほか區長、在郷軍人分會長、産業組合理事等の重任を歴任、また現在村會議員二期目の任にあり、ますく郷黨のため盡瘁してゐる。因に氏の家族は八人である。

小川村 池ヶ谷榮太郎

すべて公職といふものは、そこに安住してしまふのではなくて、更に大きな活躍の基となつて、はじめて立派な任務といふことが出来るのである。わが池ヶ谷

榮太郎氏こそ實によく職業を生かし、且つ公職に就いて大きな功績を積んでゐるものといへよう。家業は農にして、副業は製茶を営み、單に自分一個人の經營改善のみを願はず、村の産業經濟の發展のために己が職業を試験台として常に研究を怠らず、村會議員或ひは區長に選ばれてはよく公共のために私利を捨て、文字通り減私奉公の念に燃えた材幹である。家族は八人の多人數、信仰は曹洞宗である。

小川村 小池力藏

村當局より表彰されること前後四回、志太郎氏子總代會よりは表彰と共に銀盃を贈られ、信望郷黨に普き氏は、明治二年の出生である。代々農を以て家業とし先々代斧右衛門氏は寺小屋を營んで子弟約六十人位を教育せる先驅者である。現在農耕の傍ら梨の栽培を副業とし、二段歩の梨畑には、秋になる長十郎梨の新鮮

な匂ひがむれ返るのである。また夙に自治公共の事業に關與し、村會議員たること二十二年の長きに及び、書記、收入役助役、區長等をも歴任し、小學校創立以來今日まで約三十年間學務委員として貢獻するほか村社氏子總代たる事すでに二十年、功績は一々枚舉に遑なき程である。家族は七人、信仰は佛教眞宗である。

小川村 石崎戸吉

公正にして誠實、事に當つて熱心なるはわが石崎戸吉氏である。年齒すでに古稀を過ぐるもなほ精灼たる元氣を有し、加ふるに温厚神の如き材幹である。農を業とし、尊父は收入役及び村會議員をつとめたることある村治の功勞者にして、氏は日清、日露の兩役に從軍して皇國のために奮戦し、功により勳七等に叙されたる勇士である。會て助役及び收入役等を歴任の後、村長に就任すること三回、

その手腕力量は何人も等しく認め且つ長敬するところであり、また消防組頭たることもあり、現在は村農會長及び産業組合監事を兼任する。信仰は曹洞宗、家族は八人にて、長男は縣廳山林課勤務の公吏である。因に氏は曩に郡町村長會長より感謝狀を贈られてゐる。

小川村 向坂均一

資性温厚夙に意を自治の振興に注ぎ、且つ地方産業及び教育の充實に意を用ひて貢獻多からざる氏は、明治十二年二月三日向坂實次郎氏の長男として生をこの世に享けた。幼にして頭腦明敏の譽れあり、長じて家業に精勵する傍らよく公共の福祉につとめ名噴々たるものがある。東京高等商業學校の出身にて、學術にも長じ、人格識見並びなき人材として村會議員にも重きをなしてゐる。長男保治氏は東京帝國大學法科出身の俊才にして現在盛岡地方裁判所に勤務し、將來あ

る司法官として多大の期待をかけられてゐる。因に當向坂家は妙くとも十二代を經る舊家にして代々庄屋職をつとめた家柄である。

大津村長 曾根忠治

自治功勞者にして篤農家たる氏は、また學徳兼備の人として陰徳も多く、名聲四隣に普き人望家である。明治七年十一月十三日を以て風聲をあげ、家業に精勵する傍ら早くより自治公共のことに關與貢獻し、明治三十七年には若き助役に任じ、時恰も日露戦役に際して内治の功勳八等に叙せられた。明治四十四年村長に推され、爾來引續き今日までその責を盡し、郡内町村長中の最古參者として長敬され、大正十三年には多年自治の發達に貢獻せる廉により勳七等に陞叙された老ひて益々矍鑠、壯者を凌ぐ。恐らく氏のある限り、大津村は平和であらう。

朝比奈信用販賣組合

當組合は明治四十一年四月二十八日の設立に係り、最初は有限責任朝比奈信用購買販賣生産組合と稱したが、昭和八年組織を保證責任に改めると共に販賣を主とし、生産を利用に變更した。區域は朝比奈村玉取、青羽根、宮島及び安倍郡中藥科富厚里、奈良間、富澤、清澤村黒俣南藥科村小瀬戸とする。第一第二の支所を大字宮島に置く。出資一口五十圓の全額保證にて、昭和八年以來擴充五ヶ年計畫のもとに着々事業の進捗を見つゝあり現在組合員二百五十名に達し、各種貯金の獎勵に力めたる結果、總額十一萬二千四百餘圓を算し、計畫に於ける年七千圓増加を遙かに凌駕し、貸付に於ては組合員救済の目的を以て最低利十ヶ年々賦償還方法を設定し、現在總額は七萬一千五百餘圓である。出荷統制委員の活動と組合員の理解と相俟つて、主要物産たる柑橋、製茶、木炭、蒟蒻等の出荷統制は大

にその成績の向上を見、就中柑橋、菊木炭の増加は驚愕に慣する。購買は組合事業中最も古い歴史を有するものにして産業及び経済物の物資は殆んどその全部を取扱ひ、総額八萬九千餘圓に達し、殊に政府米の拂下、配合肥料の配給は成績がよい。利用部には靴室その他の設置あり、利用率甚大である。寺坂文平氏、竹田留吉氏、浮島精一氏等が代々組合長となり、現組合長寺坂貞次氏は初代組合長の息にして村會議員を兼任する。

朝比奈南部 信用購買組合

當組合は明治四十一年十二月二十五日に創設され、有限責任朝比奈村南部信用購買販賣組合と稱したが、昭和八年保證責任に変更すると同時に新に利用を加へて今日に至つた。組合員百四十名、出資一口五十圓の總額九千三百五十圓を算し、貸付金二萬一千餘圓、貯金三萬餘圓にして組合員一同時難に鑑み自力更生に邁進

して克くその實を擧げてゐる。販賣は柑橋、生椎茸、木炭等を取扱ひ、その量は年々増加の傾向にあり、購買部も頗る良好な成績を収めてゐる。現任組合長は朝比奈順之、朝比奈要平、大石銀之助、柴田金太郎の諸氏にして、現任役員は組合長前島金藏氏、理事村越藤一郎氏ほか七名、監事村越藤太郎氏の四名である。

朝比奈村 浮島精一 村會議員、産 業組合理事

大朝比奈を背負つて村長の重責にある氏は明治十八年の岳降、幼にしてすでに頭腦明敏と謳はれ、「梅檀は双葉より芳し」の譽への通りであつた。村内に人望あつきは云ふまでもなく、近郷近在に令名高く、朝比奈の浮島氏といへば誰知ぬ者もない。現在村長の椅子にあるほか、三期目の村會議員、消防組頭等を兼任し、比類稀なる識見を以て村政を執掌し、曾ては學務委員とし、教育の強化に盡瘁せ

ることもあり、また十餘年を産業組合長として貢献し、現に理事として重きをなすなど、正に文字通り本村の至寶とも呼ぶべき人材である。

朝比奈下 信用販賣組合

當組合は明治四十二年一月二十二日有限責任朝比奈下信用購買組合として創立され、昭和八年販賣利用の二事業を加へると共に保證責任に変更した。羽佐間部落一圓を區域とし、組合員六十餘名、出資一口五十圓にて總額九千七百五十圓である。貸付貯金共に現在五千圓を突破するが當組合の特色とするところは購販事業の充實にあり、購買高年九千餘圓、販賣高年八千餘圓にのぼる。組合長理事は小柳津茂一郎氏にして、氏は他朝比奈村助役として貢献してゐる。理事は望月義作、前島兼作、小柳津英藏、前島保、望月庄作、小柳津逸次郎の諸氏、また監事は前島要助、前島善吉、福島傳一、小

柳津實藏、小柳津兼吉の五氏にして、事務員に福島松藏氏がゐる。

豊田 信用販賣組合

當組合は大正八年四月二日の設立の設立認可にて當初は有限責任豊田信用販賣購買利用組合とし、昭和八年に至つて保證責任に改めた。組合員四百五十名、出資一口三十圓にて總計二千餘圓、全額拂込済である。昭和九年より組合内に家庭會を組織活動せしめ家庭内面より農家經濟の更生を計つて徐々とその効果を擧げてゐる。貸付は二十萬圓弱、貯金は十七萬五千圓を算し、販賣は、米に於て二百石、鶏卵八千三百貫、柑橋類一萬五千貫を轉換して生産向上に貢献し、また生産用品の購買は大部分組合で統轄しつゝある。利用部は未だ幼稚なるため、目下これが擴張改善策が講じられてゐる。歴代組合長は奥田高士、藪崎作藏、金原彌

吉、金原羅伊太郎(現任)の諸氏にして、金原氏は創立發起人の一員にて、爾來役員として常に組合の發展に力を用ひし功勞者である。

大 永 寺

當寺は曹洞宗に屬する古刹にして、古來當地住民の信仰の中心をなした。本尊釋迦如來は木像にて、本堂の中央に安置せる姿は、佛道の具現そのものである。開山は心丘寺六世開業須多和尚といはれ、二十四代住僧は昭和九年堂宇の大改築を行ひ、面目を一新し、靈域の美感は一入深くなつた。境内に稻荷様と稱する御堂あり、靈驗顯著なるによつて老若男女の參詣するものが頗る多い。境内面積は五百坪に餘る。檀家は本村内は勿論、藤枝、焼津、高洲、大島、弘幡等の町村にも散在し、檀徒總代は現豊田村長ほか四名である。

静濱 信用販賣組合

當組合は大正五年の設立に係り、當初有限責任であつたが、後ち保證責任に改め、信用購買販賣の四種事業を經營する組合員四百二十五名、出資は一口三十圓の全額保證、總口數五百七口に上り、貸付金十三萬一千餘圓、貯金十三萬四千餘圓を算し、農村連年の不凶にも拘らず、貸付利息の収入は好成績を得つゝあり、これ偏に組合員各自がよく組合事業の精神を理解せる結果に他ならず、將來の發展のため大いに喜ぶべき現象である。購買取扱は年々ほど同分量にして、掛資金及び利息の収入は稍々良好なる成績を擧げつゝあり、梨業者中には不況に憚むものも多少あるも養鶏事業を營むものは、最近の卵價上騰飼料の割安にて相當好況を呈してゐる。利用部には産業用拔根機一台を設備するのみにて、特に記すべきものはない。歴代組合長は池谷祥之助、

池谷壽一、朝比奈權一の諸氏にて、現組合長池谷久一氏は多年小學校長として育



英事業に携はれる人昭和十年以来組合長の任に

あり、傍ら村會議員に選ばれ、村自治方面にも貢献するところ多い。なほ理事は池谷熊一郎氏ほか六名、監事は横山藤作氏ほか四名である。

静演村長 朝比奈權一

人望もあり手腕もあり、名村長と謳はれる氏は明治七年一月二十日の出生にて郡内町村長中の古参株である。先代権右衛門氏は収入役、村會議員等をつとたる本村自功勞者にして、氏もその血を引き明治三十二年四月役場書記に命ぜられて

より一意村治に盡瘁し、同三十六年書記を退職するや、翌年三十七年四月には村會議員に當選、爾來前後三期間をつとめ

また明治四十三年十一月より大正十三年まで村長の椅子にあり、昭和十年再度村長に選任爾來今日に至り、村農會長、信用組合理事二十九年、同組合長等を歴任、村治功勞者としてその功を顯彰され、また貯金獎勵の功により逓信大臣より表彰を受けたることある逸材である。

郷社 大井神社

當社は延暦年間に創建されたる古社にして譽田別命を祭神し、徳川家康の信仰厚く、大井川満水を干水となしたる御神徳に感じ、家康は八幡の二字を書して奉納した。攝末社四社を有し、境内五百餘坪、建物百五十坪にあまり、基本財産三千一百圓を算す。家康祈願によりて靈驗ありしにより目通り一圓の土地を寄附された。田遊祭(田植祭)は特殊神事として

著名である。氏は大字藤守全部にて約二百戸、總代は三名である。現社司太田良福太郎氏は明治三年八月十七日の出生

累代神職の家柄にて氏を以て三十八代目とし、氏は當社のほか淺間神社、八幡神社、稻荷神社、三輪津具神社、天満宮等を兼務する。長男碩治氏は法學士にて東京に教員をつとめ、次男直次氏は從六位勳七等の海軍少佐、三男は家にあり、四男は國學院出身にて大阪府別格官幣大社阿部神社掌典である。

葉梨 信用販賣組合

當組合は明治三十九年の設立に係り、信用購買の二事業を開始し、その後漸次順調の發達をなし、基礎も次第に鞏固となりたるにより、明治四十三年販賣事業を兼營する事となり、大正三年には工場を設けて柑橋共同販賣を實施した。かくて柑橋共同販賣事業は組合經營の中心と

なり、販路も年次擴大して、今や遠く北米合衆國、加奈陀及び支那、滿洲、朝鮮と海外にまで進出し、組合員の全生産額實に百萬貫を突破するに至り、事業の進展に伴ひ作業上の狹隘を感じ、昭和二年第一工場を改築し、同四年第二工場八十四坪を新築、更に昭和九年百坪の作業場を建設翌十年には、百五十一坪を増築して、今や最初の目的たる組合員全生産額の殆んど全部を取扱ふに至つた。なほ柑橋以外にも製茶、筍、蒟蒻、鶏卵、馬鈴薯を併せ取扱つてゐる。販賣事業のほか信用購買利用事業も成績よく、産組中央會及び全國産組大會に於て表彰の榮譽を擔ひ、また曩に御大典記念事業の一として葉梨組合裁縫女塾を新設して専ら組合員子女の教養につとめるなど、産業組合中心主義理想郷建設を目標に邁進してゐる。現組合長は八木吉次郎氏にして、理事は倉澤陸平氏ほか五名、監事は森谷林造氏ほか三名である。

葉梨中部 信用販賣組合

當組合は明治四十二年九月有限責任中部信用購買販賣生産組合として創立され翌四十四年二月區域を擴大すると共に葉梨中部信用販賣購買利用組合と改め、昭和八年組織を保證責任に変更した。組合員三百五十名、出資一口三十口にて合計千五百十口を算し、貯金十四萬八千圓餘り、貸付十萬二千圓餘りに達し、販賣部では従來の柑橋、筍等のほか最近に至つては生葉茶、蒟蒻玉、製茶を取扱ひ、いづれもその結果は極めて良好である。購買は肥料飼料を主とし、利用部は主として米、麥の精白、肥料の粉碎、三輪車の活用及び養鶏部の育雛等で、些細の利益を目標とせず、ただ一般の便宜を圖る方針で經營してゐる。歴代組合長は杉村吉之助、大橋熊次郎、渡邊吉藏の諸氏で現組合長は寺田猪之左衛門氏で信望手腕共にその聞え高く組合の前途は期して俟つべきもの多く非常に囑望されて居る。

助宗 信用販賣組合



當組合は大正八年五月八月有限責任助宗信用購買販賣生産組合として設立され昭和三年一月の總會に於て生産を利用と改め、昭和八年一月保證責任組織となし購買販賣を販賣購買と變更した。元助宗區だけを範圍としたが、昭和八年十一月以來村一圓を區域とした。組合員九十名を算し出資一口二十圓の總口數九十口、昭和十

一年度中の成績を見るに、貸付約一萬圓貯金一萬八千餘圓、購買一萬五千二百圓、販賣一萬七千餘圓、利用料三百圓弱をあけてゐる。歴代理事長には大塚徳作氏及び大塚春吉氏が就任し、現任役員は大塚重吉、岸庄五郎、大塚助、大塚春吉、森田爲吉、飯塚卯太郎の六理事、大塚徳作大塚七太郎の二理事があり、事務員は大塚鹿藏氏がゐる。

高洲村 信用販賣組合

當組合は明治四十年に設立されたる高柳購買組合に産賜する。當時拂込出資金四百五十圓を以て事業を初め、本郡下に於ける第四次設立の組合にて、小部落區域ながら本村産業組合の嚆矢をなした。大正十年解散に至るまで十五ヶ年、經營に施設に、區域擴張に、或は組合精神の涵養に、主旨の徹底に、頻發する數次の難關に遭遇しつゝ、も幾多の刷新改善を加へ、部落組合として相當の業績を挙げた。



高洲村 信用販賣組合 事務所

を得て、今日の盛大を見るの礎は確立された。爾來役員の一貫せる努力と組合員同志の絶へざる協力支援により順調なる業態を表し、幾多刷新擴充を経て今日に至り、組合員の受けたる利益は各方面に互り相當大なるものあるは事實である。現在貸出金十二萬二千圓、貯金二十二萬五千圓餘、販賣年額十一萬圓弱、購買品賣却年額七十一萬三千圓に上り、利用事業は未だ見るべき蹟なく、農業倉庫は開始後日向産く特殊なる積極策は講じてゐ

のである。高柳 合の解散と同時に、區域を村一圓に擴大して、現組合保證責任高洲信用購買販賣利用組合が新に設立され、組合員四百五十五名、出資一口二十圓、口數千六百一口、拂込済出資金三千二百圓

ない。昭和十年には縣下中堅百組合運動參加組合に指定され、圓滑にして強力なる進展を企圖しつゝある。現組合長は杉井金次郎氏にして、理事は池谷寛次氏ほか九名、監事は杉井甫作氏ほか五名で共に地方に於ける有力者である。

高洲村 道上報徳社長 杉本喜策

常に意を教化のことに用ひて盡瘁せる氏は、明治二十六年二月十九日の出生である。嚴父喜多郎氏は慶應三年の岳降にて齡す



高洲村 道上報徳社長 杉本喜策

長にあり、明治三十六年大日本報徳社本部より社団法人に指定され、社員二十一名を擁し、會合は毎月一回宛開催し

つゝあり、本部より數回に互つて表彰を受けてゐる。現時財産一萬餘圓を有す。氏は喜多郎氏の長男、夙に道上報徳社を組織して社長に任じ、大正四年には本部より社団法人指定を受け、社員二十三名財産五千餘圓を有し、毎月一回講話會並に會計報告を行つて居り、これまた本部より表彰されること數回に及んでゐる。氏の長男喜久雄氏は千葉歩兵學校在學中の干城である。

東益津村演習目 郷社 那閉神社

當社は繼徳天皇三年四月の創建に係り祭神を事代主命とする。神域は海に面し海の神様として漁民の崇仰あつく出漁に先立つて必ず大漁祈願をする神社である。靈驗またあらかである。攝末社に稻荷神社、天王社、津島神社等あり、境内五百八十坪、本殿拜殿社務所を併せて建坪五十坪、基本財産一萬五千圓を有し、崇敬者一千名、氏子三百五十戸をかぞへる

例祭は十月十八日である。現社司松下清作氏は明治十七年八月十五日の出生にして、東益津村内十二社、焼津町内三社の神官を兼ねる。累代神職を以て立ち氏にて十三代目に當る舊家にして、長男正治氏は國學院卒業後茨城縣官幣大社鹿島神宮の掌典として今日に至つてゐる。

大富村 上小田 村松 憲

村松家は大富村屈指の舊家にして、先祖は庄屋、戸長等をつとめたる家柄である。先考半兵衛氏は自治制施行と共に初代村長に擧げられたる人望家にて、また郡農會副會長をつとめし功勞者である。氏はその男、明治六年十二月三日を以て生れ、中學校を卒業後軍務に服し、累進して歩兵中尉に任ぜられた。在郷軍人分會長、村農會長二期を歴任、覽望全村に普く現時村長たるほか上小田報徳社々長を兼務し一身を賭して公益に盡してゐる。長男村松順氏は農學校を経て千葉高等園

藝學校に學び、現在藤枝高等女學校教諭として生徒の人望をあつめてゐる。

廣幡村 志田郡柑橋同業組合

當組合は明治十四年郡内柑橋販賣業者十數名を一團として設立せる蜜柑改正組に産賜し、次で同二十四年志太益津郡蜜柑業同業組合となり、販路擴張、荷造の統一等極力その發達に盡し、越へて同三十四年十一月重要物産組合法により現在の組織に改め、爾來生産の改良に、販路の擴張につとめ、遂に今日あるに至つた。口碑によれば、本郡蜜柑栽培は今を去る三百年前即ち元和年間に初まり、現在では栽培業者三千六百名、果實賣買業者三百名を算し、生産五百萬貫餘に上り、今後益々發展する見込である。販路は米國滿洲、朝鮮及び内地全般に互る。生産獎勵その他組合事業も漸次活潑になると共に愈々繁多を加へてゐる。現組合長は人格高き山口忠五郎氏である。

六合村長、縣會 塚本 獲三
議員、勳七等

手腕と識見と人格とを兼備し、村内の信望を一身にあつめてゐる氏は、日露戦争當時すでに助役として活躍し、銃後の功多き故を以て勳八等に叙せられ、後ち自治に盡せる功によつて勳七等に昇叙されし人材にて、家業は酒醸造を營み、製品は縣内各地は勿論、縣外にまで移出して好評がある。郡制施行時代には郡會議員に選ばれて郷土のため貢献し、大正三年以來村長として重任今日に至り、郡下町村長中の古参者として重きをなし、加ふるに縣會議員として縣政壇上に獅子吼する活動家である。

東川根村

東川根村長 芹澤 實吾郎
勳七等

東川根村の元老として尊敬を一身にあつめてゐる氏は、明治三年の兵降、夙に自治公共の事に盡瘁、助役、村會議員

をはじめ村内公名譽職にて歴任せざるものなく、村治上の貢献一方ならず、眞に本村發展の功勞者といふべき事績は永遠に村史を飾るであらう。明治三十七八年日露戦争當時すでに村長に推され、銃後にあつて國防に功勞多き故を以て勳七等に叙されるの榮譽を擔へ、一時その職を退きたるも昭和七年全村民の切なる懇望によつて再び村長に就任今日に至り、自治に産業に教化に老体も厭はず晨夕も休まず一意精勵の誠を致してゐる。

廣幡村 信用販賣 組合

廣幡村 上富岡
廣幡村 信用販賣 組合
廣幡村 購買利用 組合
當組合は廣幡村一圓を區域とし、明治四十一年六月、産業組合の萌芽時代に設立されしものにして、組合員約八十名、出資金五千六百圓を算し、組織は保證責任である。積立金三千二百餘圓、借入金三千四百圓、預け金四千六百圓に達し各種事業とも頗る優勢にて、組合精神の普及せること他に類少なく、共存共榮の

旗幟の下に、反産運動の如き尻目にかけて一年と雖もかしの發展の一路を辿りつあり、貸付金の回収状態など殊に良好にて、貯金は約二萬圓に上り、販賣額八千三百圓、購買七千圓を突破する盛況にある。現組合長竹田文吉氏は、當組合をして今日あるを得しめた功勞者、オール組合員の信任を一身にあつてますます盡力貢献してゐる。

大石虎之助

町會 會長 大石虎之助
郡聯合分會長

氏の家は町に於ける舊家であり、そしてまた町に知られた有力者でもある。現在是在郷軍人分會長として町内の軍事精神普及に専心努力しつゝ、あると共に、志太郡聯合分會長に選ばれて、郡下分會の連絡統一を圖り、そしてこれが圓滿なる發展に資し、聯合會本來の目的達成に邁進してゐる。

庵原郡

從五位勳四等、山梨信太郎
陸軍三等軍醫正

氣力に溢れ氣骨に富む刀圭家として聲望普き氏は山梨源左衛門氏の男、明治七年六月六日の岳降にて、同二十八年第三高等學校醫學部(現岡山醫大)を卒業、身を軍籍に置き、果進して三等軍醫正に任じ、從五位勳四等に叙された。除隊後は開業の傍ら社會公共のために盡力し、町軍人分會長、郡聯合分會長、區長たること多年、また町會議員に當選二回、學務委員、土木委員等にも任じ功績極めて多く、現時校醫に囑託され、郡學校衛生會理事に推され、郡醫師會長にも擧げられて杏林に信望高く、人格また高潔である家庭には一男二女あり、長男行政氏は帝大醫學部在學中にて將來の大成を囑目されてゐる。

伏見 熊藏

町會議員

電話 七五番・一〇五番

當家は伏見五右衛門氏を始祖とし、爾來四百年十數代を経る舊家にして代々商を以て業とし、近代に至つて榨油、製糖農業の改善、商業の發達に相當の功績を致した。氏は寅藏氏の男、明治六年八月



二十四日を生れ日清戦争の際、大佐と

驅はれた佐藤聯隊長に従つて出征、勳八等に叙され、日露戦争に再度出征して勳七等に昇叙された。凱旋後は父祖の業を嗣いで呉服太物雜貨商を營む傍ら町政に盡し、町會議員、學務委員、商工會議員、家屋稅調査員、區會議員、土木委員等幾

多の名譽職をつとめ、消防部長としても多年熱瘁した。また劇場開演館を經營して業績觀るべきものがある。令息博氏は慶應大學を出て目下歩兵三十四聯隊現役中である。

興津町 承元寺
舊家、勳八等 北川由郎
土木委員

連綿として十餘代を相嗣ぐ北川家は、土地の名望家として聞え、先代富右衛門氏は町會議員五期をつとめて功績多大なる外、



學務委員、土木委員、區長、消防組長等主

なる町政に盡し、就中土木事業に於ては献身的努力を致して貢獻少なからざるは一般の知るところである。當主北川由郎

氏はその男、明治十二年二月十八日を以て呱呱をあげ、明治三十二年兵として歩兵三十四聯隊に入營、日露の役には沙河の激戦に参加、凱旋して勳八等に叙され、現時家業に精勵しつゝ、土木委員に任じ公益に盡瘁寄與するところが多い。家庭には三男五女あり。(寫眞は富右衛門氏)

興津町 谷津
元町議員 小泉 憲一
醸造家

その昔、小泉主計頭が當地に居を定め、から十四代、累代庄屋の職をつとめたる舊家にして由緒ある家柄たる小泉家は七代前より醸造業を經營し、藤右衛門、惣右衛門、平兵衛等を襲名した。三代前の平兵衛氏は富士郡小野田の住民にして武士なりしも當家に養子となつて後は醸造に精勵すると共に戸長等の要職に就きし名望家、先々代平兵衛氏は興津銀行頭取をつとめたる地方金融界の大立物、先代平一郎氏は町議員、區長、學務委員等に選ばれて自治に貢獻せる外、興津銀

行頭取にも推されし事業家である。當主憲一氏は父祖の業を嗣いで、銘酒「万里の譽」、同「駿河の灘」の名譽を更に高めると共に町議員、區長等に推されし有力者にして現時社寺總代の任にある。

興津町 清見寺
清見 鴻 信用販賣 組合
購買利用

當組合は明治四十四年有限責任にて四種事業兼營として創され、興津町産業組合と稱したが、大正八年鹿原郡産業組合と改め、



同十一年更に現名稱たる清見鴻信用購買販賣利用組合と變更した。區域は興津町兩河内村、袖師村の内柵砂、庵原村の内廣瀬及び吉原にして、組合員六百五十名、出資九千圓にて、常に財界の動靜に注意

しつゝ、經營に當り、堅實主義を主眼とし、内容の充實と組合員各目の便宜とを圖り、貸付金三十二万三千圓、貯金五十万七千圓を示し、購販利の事業も逐年發展の跡著るしきものがある。現組合長山梨金作氏は明治十三年の生れ、多年町會議員たりし外、學務委員、消防組頭等幾多の公名譽職に歷任、町内屈指の有力者にして自治功勞者である。組合には最初事務理事に任じて關係し、大正八年以來組合長に推されて今日に至つた。

興津町 興津驛前
町會議員、商 田中辰次郎
工會副會長

町會議員中での最有力者といはれる氏は明治二十六年の誕生、信念の人、人格の持主、且つ手腕と力量とを兼備し、夙に區長に推され、町會議員に選ばれること前後三回、現に議員中に重きをなし指導的地位に立つてゐる。また中駿米野同業組合長、町商工會副會長、社寺總代等

も兼ね、同業界のため裨益貢獻するところも多い。抑々當家の米穀商は三代前の祖父嘉七氏の創業に係り、爾來繁榮の一途をたどり、業界の雄として今日に至り先代辰次郎氏は家業の傍ら多年區長たりし人望家である。

興津町 興津
駿州銀行支店 山田 清治
長、勳八等 電話興津六七番

町の元老として人望あり、また當町有数の人格者たる氏は、明治十二年六月二十二日の出生である。尊父小平治氏は興



津外八ヶ村の戸長をつとめし手腕家である。氏

もまた夙に町會議員に選ばれて重選五回、その他消防組頭、學務委員、區長、町

農會副會長、青年團副團長、郡會議員、同參事會員、土地賃賃價格調査員郡相橋同業組合代議員等に任ぜし町治の功勞者にして且つ産業發達の恩人、加ふるに日露戰役出征の勇士にして勳八等の持主である。昭和四年駿河銀行支店長に任じ地方金融界に重きをなしつゝ、今日に至つた。家庭には長男宏氏の外、一男五女を有し至幸の日々を送られる。

興津町 八木間
元町長、自治功勞者 佐野角左衛門
電話興津六四番

秩序を尊び規律を重んじ、資性濃厚篤實、自治功勞者として重きをなす氏は明治九年の出生である。夙に町會議員に選出されて當選四回に及び、町政の運轉に絶大の貢獻をなし、區長、學務委員、町農會長町長等を歴任、事績は一々枚擧がなない。目下は一切の自治職を退きただ社寺總代をつとめるのみである。抑々佐野家は十四代に互る舊家にて、代々農を營



んで角左衛門氏を襲名し、庄屋を勤めたる家柄である。先々代角左衛門氏(後角藏)は戸長に任じ、嚴父角左衛門氏は助役、町

會議員、區長、學務委員、社寺總代等に推され、町治に功勞頗る多く、また郡會議員にも選出されたる人物である。因に嗣子重治氏は消防後援會長を現任する。

興津町 谷津
興津町産業組合長 小泉兵一
町農會副會長

當家は約六七代を重ね、代々篤農家として聞えた。先代清一氏は家業の傍ら區長、町會議員、學務委員、社寺總代、産業組合長、町農會評議員等、自治産業に盡瘁せる材幹、特に部落消防組の創設に際しては常人の及ばざる功勞あり組頭た

ること多年に亙り、惜しくも六十三歳を以て永眠した。當主兵一氏はその男、明治三十二年の出生である。藤枝農學校に學び、文字通り英器俊才と呼ぶべき人物にて、



青年團副團長に擧げられて若き人々の指導に當りし外現時産業組合長町農會副會

長、社寺總代等を兼ね、公益に盡すところ多く、事績大いに觀るべきものがある

興津町中宿 薩埵國吉
電話一三八番

當家は相當由緒ある舊家にして祖先傳來の家寶等多數藏し、先代長三郎氏は八十餘歳の高齡にて今日なほ壯健、昭和七年十月



興津橋の開橋に際し三夫婦揃つて渡り初めの式をつとめし事あり、圓滿具足の家

興津橋の開橋に際し三夫婦揃つて渡り初めの式をつとめし事あり、圓滿具足の家である。當主國吉氏は明治十六年八月二十九日を以て先代長三郎氏の男に生れ信念の人として聞え家業の傍ら町會議員及び學務委員二期目を現任し、町治上功績多く、曩には消防組頭に推されて一町警備の大任を果し、今また宗徳院檀徒總代として寺院の維持經營に盡力する所多し。長子莊一氏は横濱高商を出て三菱倉庫會社につとめ、次男は静岡商業出身にて東京の銀行につとめてゐる。その他一男二女を有す。

興津町中宿 伏見藤作
電話興九番

當家は開祖以來七代を經、當主藤作氏は明治十一年四月八日の出生、同三十年當所に醬油醸造業を開き、年々業績を擧げ、事業擴張に從つて會社組織となし、左記各



社の代表社員を兼ねる。(金額は資本金)

- 伏見醬油合名會社 金五萬圓
- 伏見商事合名會社 金八萬圓
- 中井商事合名會社 金三萬圓
- 清水市伏見商事會社 金一萬圓
- 醬油、ソース及び高級飲料たる紅茶シロップ、ミルチー等を製造し、興津工場が年産千五百石、二ノ宮(神奈川縣)工場

が二千五百石を産し、醬油は「亀甲藤」と稱し縣内各地に販賣され、高級飲料は主に南洋方面に輸出する。博覽會、共進會

興津町中宿
醬油 亀甲藤
電話興津九番

品評會等に於ける受賞一再ならず各製品とも品質の良好なるを以て好評がある。因に氏は名古屋聯隊に屬して日露戰役に參加し勳八等に叙された。令弟彰二氏を準養子とし、興津店舖は専ら彰二氏に任せ、自らは朝鮮京城府に店舖を持つてすべての營業經營は京城を本據としてゐる。

興津町中宿 飯田勝五郎
町會議員、興津商會會長
電話興津二四番

町會議員中指折りの有力者たる氏は、故飯田勝九郎氏の男として明治十二年十

月に出生した。亡父二代目勝五郎氏は今から約五十年前製紙業及び製紙原料商を創めて今日の基礎を築きあげた人である氏は勝九郎を襲名して三代目を嗣ぎ、夙に家業の傍ら公益に盡瘁し、區長その他を兼任、また商工會副會長を經、商工會長を現任し當町商工會の進歩發達及び共同利益の増進に貢献するところ多く、町會議員は四期目を現任、學務委員、氏子惣代、所得調査委員を兼ね令名噴々たるものがある。曩に家業の發展擴張に伴つて富士郡今泉村に丸合製紙株式會社を設立し自ら取締役社長に就任、業績を擧げてゐる。長男太郎氏は三島商業學校の出身にて家業に精勵してゐる。

興津町八木間 加藤和作
町會議員、興津産業組合長

人望高き有力者の一人たる氏は、亡加藤平兵衛氏の男、明治十八年の岳降である。部落の舊家として知られ、代々庄屋をつとめ、農を業とせる家柄である。氏

は明治三十八年兵役に服せる勇士にて、郷に在つては家業に精勵しつ、自治公共に盡し、區長をつとめ、町農會長の要職を經、寺院總代、町會議員三期目、消防組頭、學務委員、興津産業組合長等幾多の公名譽職を現在し、日夜奔走勞瘁功勞頗る多く、殊に縣購買組合聯合會農産物加工場主任としての功績は顯著である。同加工場は興津町にあり、昭和十一年八月の創立にて、柑橋罐詰、苜、莓の加工トマト、梨の罐詰をなし、年産二十萬圓餘に上り、縣産品の聲價を天下に普及してゐる。

興津町八木間 妙喜山法泉寺

當寺は日蓮宗に屬する古刹にして、弘安七年甲申、宗祖日蓮上人の直弟子たる日朗上人の開山に係り、初めは庵原郡横山にあつたが、元祿年間に至つて十八世通玄院日忍上人が現所に移し、本堂、庫裡、表門等を建築、輪奐の美々新たにし

た。故に同上人を中興の祖とする。二十
九世了達院日英上人は再中興の祖にて荒
廢せし本堂、表門、庫裡等を建直し、荒
地開墾して靈域を廣め、在職三十有餘年
大いに功勞があつた。現任職望月宗康師
は東洋大學印度哲學科を卒業し、昭和六
年八千圓の工費を投じて玄關を新装する
やら位碑堂及び本堂を修築するなど、寺
塔に一層の尊嚴を加へた。新時代の學問
に通曉し、庶民の信望が篤い。因に檀家
は百五十戸餘を數へる。

興津町 各津

興津町 信用販賣 組合

電話興津一〇三番

當組合は昭和三年一月の創立にして、
有限責任にて四種事業を開始したが、後
ち保證責任に改めた。各津、横山を區域
とし、組合員八十餘名、出資四百八十餘
口（二口三十圓）にして、貸付三万一千四
百圓餘、その三分の二は無擔保である。
貯金は四万八百圓を越え、年々増加の傾

向にあり、販賣は蜜柑を主に生茶、生繭
これに次ぎ年八万五千圓餘、購買品賣却
は三万圓弱に上る。農業多角經營化と家
計簿の記帳實行とは、將來富川合をして
益々發展せしめる原動力である。初代組
合長は小泉清一氏、現組合長は小泉與一
氏にして町農會副會長を兼ねる。理事は
十名、監事は五名、書記小泉常吉氏は創
立以來の勤続にて組合事務に通曉せる材
幹である。

興津町 中宿

興津町 信用販賣 組合

電話興津二四七番

當組合は、北米方面への柑橋輸出増加
に伴ひ三出荷組合が主なつて組織し、昭
和九年九月から事業開始した。組合員二
百七十名、出資五百三十口（一口三十圓）
にて、八木間、中宿、清見寺の三ヶ所に
出張所を置く。區域は各津を除く興津町
一圓にして、貸付二万七千六百圓餘、貯
金五万圓弱に上り、販賣購買は縣下有數

の成績を示し、柑橋五十數万貫をかぞへ
購買は肥料を主に約五万圓の金額に達し
設立後幾何ならざるに量に於ては兎も角
として質に於ては他の追隨を許さざるも
のがある。ただ利用事業のみは未だその
緒に就いてゐない。組合理事は創立以來
引續き加藤和作氏にして、専務理事塚口
國次郎氏、常務理事小谷與一郎氏、同石
川万平氏である。

興津町 中宿

興津町 信用販賣 組合

電話二〇九番

人望あり、温厚な人格者と稱される氏
は明治元年十二月八日塚口小左衛門氏の
男として生を享けた。祖先は關西、西ノ
宮から來たと云ひ傳へ、數代相續いて靴
製造を業とし今日に至つた。氏は夙に郡
會議員、區會議員、町會議員二期、學務
委員、町農會副會長、消防小頭、同部長
等に歴任せる地方自治の功勞者にして、
現在産業組合理事、農會會長、郡柑橋同

業組合評議員、寺社總代を兼任し専ら産
業方面の發展に貢献するところが多い。

塚口 國次郎

日清、
日露の
二大戦
役に
出陣
する
勇士
として
功

により勳八等を賜つた。養子勇作氏は元
青年團長及び消防小頭として活躍せる人
目下専心家業に勵んでゐる。

興津町 清見寺

興津町 信用販賣 組合

電話二四番

興津商工界の重鎮たる氏は明治二十七
年九月八日の出生、尊父梅吉氏は明治二
十五年海野家より分れて茶及び柑橋問屋
を創始し、一代にして興津有名商店の一
たらしめた事業家、町會議員、所得調査
委員、町商工會長をつとめ、昭和三年六



興津町 清見寺

十一歳を一期に永眠した。氏は父業を嗣
ぎ、現に興津合同運送株式會社社長たる外
町會議員に選ばれ、また清水庵原柑橋商
同業組合副組長を兼ねる。興津合同運送
會社は
興津
前に本
社を置
き、昭
和二年
富士中
運送株式會社、興津運送店、平塚運送店
を合併し、資本金十萬圓を以て生れ出た
もの、取締役に山田清治氏、大石才次郎
氏、長崎甚太郎氏あり、監査役は八木利
八氏及び佐野容造氏がある。

水 口 屋

電話 六番・二三番・(別荘)二五番

當旅館は驛より西へ約五丁、興津の中
央に位し、客室は南向で清見湯海岸に接



し、座ながら三保の松原、清水港、伊豆
半島、富士山等を眺望し、通風採光宜し
く、庭園廣く、その風趣特に園内常盤松
は數百年を経たる古木である。創業は凡
そ三百年前、明治初年、照憲皇太后陛下
御休憩の光榮に浴し、西園寺公を始めと
して歴
代の大
官その
他貴顯
紳士の
宿泊を
得てゐ
る。二
階建二
棟と閑
靜なる
離家數
棟あり

滞在は勿論、一泊の節にも家庭にあると
同じ心地でゐられる。宿泊料は朝夕食付
一泊二圓五十錢より六圓まで、本館各室

及び雑家各棟毎に私設電話あり、娯楽場の設備も整ひ、また別に大小十二棟の貸別荘もあり、旅館一碧樓水口屋は東海の誇りである。

興津町中宿
町會議員 八木利平

資性英邁、温雅なる人格の持主たる氏は明治二十年十二月十五日を以て生をこの世に享けた。嚴父良吉氏に至るまで八



世の間は代々農を業とせしも、氏の代に於けるに於ては、元來及んで燃紙業に轉じ今日に至つた。燃紙とは純日本紙を原料とし纖維を紐となし、帽子その他の加工品に用ふるものにして、内地にても需要多けれど主として海外輸出を旨とし、年々巨額の製産を

見、今や日本輸出品として世に重んぜられるに至つた。最近工場の擴張、従業員を増員を計つて殺到する註文に應ずべく準備を整へてゐる。尙氏は合同運送會社監査役、町會議員二期目、家屋税調査員等に任じ、自治方面にも功多く、温厚明朗にして商才に長じてゐる。

興津町 承元寺

舊家 内藤久吉

當家の祖は延寶年間當地に居を構へ、爾來十數世の間代々農を營んで今日に至つた。先考喜作氏は町會議員、學務委員、家屋税調査員、區長、土木委員、氏子總代等、その他町政のあらゆる方面に關係して功績多く、自治功勞者として讃へられる一面、鹿原郡柑橋同業組合代議員、同茶業組合代理委員等に擧げられ、柑橋貯蔵に關しては大正五年頃地方最初の貯蔵庫をつくつて同業者の模範となるなど、産業の隆盛に一方ならぬ力を致したが、前記諸職現任のまゝ、昭和七年五十二歳を

以て不歸の人となつた。わが内藤久吉氏はその男、明治三十八年二月十五日を以て生れ、若冠よく亡父の業を嗣いで奮闘努力し、兩親を失ひながら弟妹の教育にも力を盡して居り、模範的人物と稱される。

興津町 承元寺

町會議員 内藤泰太郎

文字通り温厚の士たるわが内藤泰太郎氏は明治二十一年九月十二日の出生、開



祖は年號不詳なるも約十數代を経過する舊家に於て嚴父熊右衛門氏は生存當時永らく町長をつとめ、また承元寺村にはじめてポンプを買入れて消防組の改善をはかり、更に土木方面にも相當功績ありし人であ

る。氏は豊橋砲兵隊に勤務し、除隊後家業に精勵すると共に公共事業に力をつくし、町會議員、消防組後援隊長、家屋税調査員、氏子總代、區長、衛生委員、柑橋組合代理委員、土木委員等町政に盡瘁し、昭和三年御大典記念事業たる興津川八幡橋の架梁に際して特に功績ありしは普く人々の知るところである。因に家庭には長男助一郎氏の外六男一女がある。

興津町 薩垂

勳八等、區長 小沼治作

當家は武田氏の家臣小沼雅樂介にその祖を發し、雅樂介は當地に來つて一家を建て爾來世々農を業として今日に至つた當主小沼治作氏は鹿原郡飯田村櫻井林助氏の三男、明治十四年十二月三日を以て生を享け、同三十九年小沼家の養子となつたのである。名古屋輜重兵第三聯隊に屬して日露の役に出征し、軍功ありし故を以て勳八等に叙された。資性温厚篤實庶人の信望高く、産業組合役員、薩垂報

徳社長、興津町薩垂區長等に擧げられ、



一意公共のため寄與貢獻するところが多し。家庭には二男一女あり、頗る圓滿平和である。

興津町中宿

町會議員 高山兵吾

電話三四番

一生不犯、一生奉公を念願とし、當地自治界のみならず、米穀商間には名譽噴々たるは高山兵吾氏である。資性温厚篤實一舉一動悉くこれ衆庶の模範たる人材である。明治三十三年一月二日を以て生をこの世に享け、祖業米穀商を繼いで精勤愈々大をなし、今や業界一方の雄たるに愧ぢざるものあり、傍ら自治に貢献多く

町會議員に選出二回、現にその任にあるほか消防組副組頭として重きをなしてゐる。年齒なほ春秋に富み、今後の活動こそ更に期待して俟つべきものがある。尙令夫人との間には一男一女を有し至福且つ至幸の家庭である。

興津町中宿

日蓮宗 不動堂

今から千三百年前、清和天皇の御代、阪上田村廣東征の途次戰勝祈願のため此地に不動尊を勧請したが、當不動



堂の初まりである。昔時は興津の氏神で現今山に残れる古堂は千三百年前の創設なりと云ふ。靈驗顯著にして當不動尊を安置崇拜すれば天災、海難等のことなしと云ひ

傳へられ、境内より興津灣内を瞰下し、眺望頗る絶佳、また諸病治癒の効験あるにより信者踵を接して後を絶つことがない。寶物に、有栖川宮殿下より下賜されし凡鐘及び行基菩薩の彫刻なりといふ立休不動尊あり不動尊の立休は日本三神の一なりといふ。正五九の例祭並に毎年節分會の追難祭は筆紙に盡せぬ殷賑を呈する。法燈を守る伏見法條氏は明治三十二年七月四日の出生、人格者として定評がある。

興津町 谷津
蓮性寺

當寺は身延本山十一代の院主H朝上人の開基に係り中興の開山として速成院日逢上人あり、本堂の改修、宗門の布教等大いに記すべきものがあつた。現住職大塚海音師は富士郡の人にして明治二十五年十月十三日の岳降である。宗派のため獻身的に努力し、大正十五年六月東京市豊島區本行寺より來つて當寺住職となり

日夜勤行に怠りなく今日に至つた。元來興津町谷津附近は人家の割合に諸宗派寺院多く、檀徒少きため、寺院の經營が非常に困難なところであるが、師はよく宗務のために盡し、また本寺の經營にも努力し、今日聊かの後顧の憂ひなきに至らしめた。信望厚き善知識と稱される。

興津町 臨垂
靈泉寺

當寺は永祿年間武田氏の時代信玄公の叔父穴山梅雪がこの地に來つて堂宇を建立せるに初まり、爾來年を経る毎に隆盛に赴いて今日に至つた。臨濟宗に屬し、地方屈指の古刹として遠近に知られ、境内古蹟としては穴山梅雪の墓がある。また梅雪の彫像は寺寶として藏される。現今の堂宇は寶永年間の改築によるものなりといはれる。現住職穴山大綱師は鹿原郡横砂町醫師長野金城の四男として明治二十九年四月十日に生を享け、八歳の時前任職穴山敬林師の養子となつた。長じ

て京都紫野大徳寺に宗門の修業をなし、大正九年六月法燈を嗣ぐ。資性温厚、檀徒の信任頗る厚し。

興津町 臨垂
薩埵山 東勝院

當寺は眞言宗醍醐派に屬し、大聖不動明王を本尊とし、舒明天皇六年の開創に係り、靈驗顯著なること古來普く世人の



知るところなれど、近くは皇族、華族等貴紳の

信仰を受け、以てその靈驗を一層知ることが出来る。すなはち近時、東伏見宮文秀女王殿下の御祈禱所として、また西園寺公、井上侯、松方公、川崎男等の御祈禱所として縣下第一の權威ある寺院と認められてゐる。地藏堂(本尊地藏菩薩)興之院弘法大師、護摩堂、書院、客



殿、庫裡等の建造物あり、境内約四百坪古代の寶物は今消滅したるも、乃木、東郷兩將軍の遺墨を藏し、丑辰未戌年の開張は盛大に執行され海道の名物となつてゐる。

附近は今川、足利、北條氏等の古戰場にて又望眺絶佳である。現住職は望月登岱師、信徒總代は鈴木清二郎、佐野磯次郎、佐野虎藏の三氏である。如斯寺院の住職として、師は全くの適任者であり、凡ゆる名譽を捨て、只管宗道のために盡力してゐる姿は涙ぐましい。

興津町 八木岡

正八位、見性寺住職、興津町在 郷軍人分會長 **大賀 亮谿**

銳器俊才と稱される氏は名古屋の産、明治三十三年七月三日吉田佐吉氏の次男に生れ、愛知中學校卒業後高田歩兵三十聯隊に一年志願兵として入營、昭和二年



少尉に任じ、正八位に叙せられた自治講習所第

二回卒業生にて昭和二年より興津町役場書記を拜命して今日に至り、在郷軍人分會長たること四ヶ年餘、同會長たること六ヶ年に及ぶ。十六歳の時越前永平寺に入門し、昭和五年見性寺住職となつた。家庭には長男素谿氏がある。見性寺は少室山と號し、如意輪觀音菩薩並に七觀音を本尊とする曹洞宗寺院、天正元年州山

宗易大和の開山に係り、月山泰明和尚を中興の祖とする。十二薬師像、豊川稻荷像等寶物も多く、總代は木下頌太郎、木下梅太郎、米澤民五郎氏等のほか四名である。

興津町 八木岡

元郡會議員 町治功勞者 **木下 新作**

當木下家の始祖は慶長年間の人、部落でも屈指の舊家にして、亡祖父彦兵衛氏



は庄屋をつとめ、亡父彦兵衛氏は區長、町會議

員等に推舉され、また土木委員、神社總代、寺院總代等に任じて事績多く、六十四歳を一期にこの世を去つた。當主木下新作氏は明治十年八月十九日の生れ、二

十四歳の時庶原郡役所に入り、六ヶ年に於て第四課長に抜擢され、その後縣柑聯合會幹事二ヶ年、町名譽助役一期をつとめ、また町會議員四期、學務委員、區長二期、町消防組頭九ヶ年、町農會長三期、郡會議員二期、同參事會員、所得調査委員一期、郡實業組合常議員、郡柑橘組合常議員、郡團業組合常議員等を歴任し地方自治の功勞者と尊敬され、現時社寺總代に任じてゐる。家庭には一男二女あり、令孫安津史君は縣立農學校に在學の秀才である。

興津町 承元寺

自治功勞者 内藤 安吉

渾厚なる逸材との定評ある翁は文久三年六月の出生である。慶安年間より當所に居住せる舊家たる内藤與八氏を父とする。町會議員、學務委員として町治各般に關與盡力せるほか、區長、國勢調査員、消防部長、氏子總代、産業組合理事等を歴任、功績一々枚擧に遑なく、自治功勞

者として一般に知られ、また尊敬されてゐる。現在は老齡の故を以て家督を牛次氏に譲



氏に譲り悠々自適閑雲野鶴を友とするの生活を

つゞけられる。牛次氏はよく家業農に従事し、その長子光夫氏は近衛歩兵第三聯隊に在營中の模範兵である。

富士川町 岩淵

天 龍 堂

内科、小兒科に優れて近隣に定評ある天龍堂は宮澤定衛氏の經營に係る。氏は長野縣上伊那郡南向村の産、明治八年三月三日を以て生を享け、同三十三年濟生學舎出身、翌三十四年國家試験に合格し東京市順天堂、山龍堂に研究勤務して臨床上の蘊奥を究め、更に富士川町富士病

院に入り、明治三十六年現在地に開業今日に至つた。明治三十八年以來町醫たる



ほか校醫を兼ね、學校衛生公衆衛生に實獻するところが多いが、また當ては町青年團長に擧

げられしことあり、郡醫師會役員たること多年及び、嗣子孝君は昭和二年北海道帝大醫學部を卒業せる俊才、昭和八年醫學博士の學位を授與され、曩に母校講師をつとめ、現時簡易保險局靜岡相談所に勤務し將來春秋に富む。

富士川町中ノ郷

町會議員 望月 卓三

和歌俳諧典雅なる趣味に生きる氏は資性渾厚篤實、頭腦明晰の典型的紳士である。明治十四年五月二日庶原郡小島村堀池作平氏の男として呱呱の聲をあげ、明治三十七年縣立尋常小學校を卒業、縣下小學校教員に任じて第二の國民の養成に當ること實に二十有餘年、この間望月家の養子となり、大正十一年教職を去ると同時に伊豆銀行に入り昭和十年まで勤務した。水道組合創立の功勞者にて組合長の任にあり、その他町會議員、家屋税調査員、戸數割調査委員を兼ね、新興生活館の設立者にして赤十字社員である。令閨との間には三人の令息あり、長男は沼津商業を出て伊豆銀行に勤務し、次男は清水商業卒業にて縣廳に奉職、三男は清水商業に在學中である。

富士川町 岩淵

立花 齒科醫院

文化の進むにつれて齒牙疾患は多くな

るといはる。謂は、文化病の一種であるされば齒科醫院、文化を補強する重大な



車軸であるといふことが出来る。わが立花齒科醫院は大正十一年の開業に係り、一般齒科口腔衛生に全國をあげて盡瘁し、最新の設備を有して來患者陸續として跡を絶たない。經營者立花平次氏は明治三十二年十一月八日の出生、前途いよく春秋に富み、技術の優秀は夙に定評のあるところ、昭和八年より齒科醫師會理事たるほか、昭和十一年には學校衛生理事に擧げられ現任し功勞尠なからざるものがある。古書蒐集に興味を有し、正に汗牛充棟の量に達してゐる。氏の圓熟せる人格は、その技術の練達と相俟つて畏敬と信頼の念を起こさしめる。

といはる。謂は、文化病の一種であるされば齒科醫院、文化を補強する重大な

富士川町中ノ郷

野山山住職 松橋 慈照



密教高野山派に屬する寺院にして聖徳太子並に弘法大師を本尊とする。慈照師は大正十

一年一月紀州の高野を發足し、觀法修業に適當なる土地を探ね歩きしに、同年六月當地に到り望みを達するを得て一字を

創立したのである。尊き三法諸佛の加被を蒙らぬなく、誠に筆舌に盡せぬ難有きあらはれを得たのだ。寺法に弘法大師の坐像及び聖徳太子像がある。一月一日を聖徳太子御誕生會、三月二十一、二日春期大祭、七月十五日弘法大師御誕生會、十月二十一、二日秋期大祭とし、行事は盛大に執行される。檀徒總代は若月直作渡邊徳藏、太田武丸、望月隆太郎、花田泰輔、勝呂重作、小笠原孝平、渡邊直吉塩澤淺次郎の諸氏である。

富士川町中之郷

富士川 信用購買組合

當組合は明治四十三年に設立されし購買組合に遷移し、同組合は一時瓦解し、大正九年改めて現組合を設立、役員の結果東固く、組合員も漸次増加し、大正十四年は縣支會より優良組合と表彰された。昭和十年度の事業を見るに組合員五百七十餘名、出資二千三百二十餘口（一口二十圓）にて、貯金は六十萬圓を越え、貸



付三十一萬圓、購買總額二十萬圓、販賣額十七萬圓に達し、組合員經濟の大部分は本組合に於て取扱ふに至つた。今後積極的施設を講じ、共存共榮の實を擧げ以て理想郷の建設に邁進せんとする。現組合

富士川町 岩淵

岩正山 光榮寺

長角替和一氏は明治二十六年九月二十五日の出生、町會議員三期目、常設委員、町農會長、縣購販利組合聯合會理事等を兼任し功勞頗る多き有力者である。強烈なる意志の宗教、日蓮宗の古刹たる當山は、宗祖日蓮上人の開山に係る。幾多の法難を受けつゝも正は常に理に勝ち、信仰日毎に多きを加へて今日に至つ

た。身延山久遠寺を本山とする。靈域の美、堂塔の古色は自ら由緒の古きを物語つてゐる。現住職小野知義師は法燈を嗣いでより約二十年、縣佛教會庶務部長を兼ね、佛教思想の普及徹底と佛門の徒の向上に力を致し、檀徒は勿論普き信望を一身にあつめてゐる。

富士川町 金指 明

披群の技術を有し、加ふるに設備の完全なるを以て聞える金指醫院の院長金指明氏は、加茂郡志賀村の人、明治三十三年十月十二日生をこの世に享け、夙に醫藥報國に志を有し、大正十四年日本醫科大學を卒業した。人格の高潔と洗練された教養とは自らその技にあらはれ、富士川町西川醫院に勤務研究の後昭和六年現在地に開業するや、治を請ふもの陸續として門を蔽き、正に文字通り門前市を



狩獵等高級な趣味を有す。

富士川町 岩淵

前富士川町長 勝呂重作

自治界及び建築界の第一人者として普く推獎される氏は明治十三年二月十三日の出生である。嚴父平右衛門氏は明治二十年建築請負業を開始して漸次業界に重きをなし、大正十年には法人組織に改め

成して今日に至つた殊に外科、内科、造詣深く王子製紙會社囑託醫を兼ねる。なほ撞球



勝呂組の名は錚々として冒すべからざる域に達した。氏は夙に父業を嗣ぎ、現に建築請負業勝呂組理事たるほか、岩淵台同運送、身延合同運送各理事、庵原絹糸組合長等の任にあり重厚の君子と評されその手腕は何人も畏敬してやまざるところ、曾ては大正十年より引續き二期半富士川町長に選任し、また縣會議員、郡町村會長等をも歴任し功績甚大なるものがある。

富士川町 岩淵

保生堂

杏林界の王座保生堂の名を知らないものはない。現經營主雨宮竹次郎氏は町の名望家たる故雨宮昇三氏の次男に

して明治五年三月九日の兵降、同三十六年濟生學舎を卒へ、同年十二月十五日現地に開業して今日に至つたもので、内科小兒科に造詣深く、明治四十年以來町醫院醫を三年毎に交替囑託され、昭和初年よりは専ら町醫として公衆の保健衛生に盡瘁し、また曾ては町會議員及び消防組頭に推されて町治に貢献し、現在消防組顧問、八阪神社氏子總代、光榮寺檀徒總代等に擧げられ、社會公共に盡される。趣味は園藝、因に令閨はつ女は内助の功多き賢夫人といはれる。

富士川町

勤八等 岩槻 正作

人格者を以て稱される氏は明治二年九月三日の出生である。祖父は武樹氏、尊父は直作氏と呼び、直作氏は町會議員、郡會議員、縣會議員等に選出され、人望家にて地方自治のため貢献裨益するところ甚大であつた。氏は日露戰役出征の勇

士にして功により勳八等に叙され、凱旋後は専ら意を社會公共の事業に用ひ、町會議員たること三期、郡會議員二期をとり、現時町長として噴々たる名聲を博してゐる。

富士川町中ノ郷

尾崎 初次郎

業界稀に見る徳望家として既に定評高き氏は明治三十六年五月二十三日の誕生新鋭の氣に充ち、潑刺たる氣概を有し、前途ますます多望なる人として畏敬信望される。尾崎製材店主としての氏の手腕は何人もよく知るところ、力量に於て才能に於て氏と匹敵するものは極めて少数である。好不況常なき木材界にあつても今日の隆盛を致せる一事を以てしても如何に商略に長じ、商機を見るに敏なるか、察しられる。昭和初年選ばれて町會議員に任じ、町政に參與貢獻するところ多く、現に議員中の中堅として重きをなす。

富士川町 岩淵 豊院

新

曹洞宗に屬して觀音菩薩を本尊とする當寺院は、今より二百七十年前の創建に係り、爾來善男女の信仰をあつめて隆盛し、當地有数の道場として繁榮した。自力を頼むな、それが觀世音の難有き教へである。傲らず、慢れず、一意信仰の境地に生きるこそ、佛門にあるもの、戒めである。現任職藤田彌天師こそこの教戒を實踐して範を衆に垂れ、普く尊敬をおつめてゐる稀有の人格的である。師を經て當寺の法光は彌々燦たるものあり、浦田彦作氏をはじめ總代のつとめも亦感服敬意を表するに足るものがある。因に當寺境内は一町四反歩、毎月十七日夜の觀音行事は殷盛を呈し、寺寶には新闢禪師一卷がある。

富士川町 岩淵

割烹旅館隱仙樓主 齋藤金平

富士川消防組頭 電話富士川一五番
豪放磊落、熱ゆるが如き事業熱を有す

る氏は明治三十年十月十七日の岳降である。實父徳次郎氏は町會議員、方面委員として町政に關與し、昭和七年七十六歳を一期に永眠した。氏は大正三年町役場書記を拜命、同七年まで勤務し模範吏員と稱され、



同七年まで勤務し模範吏員と稱され、

れた。昭和四年三十二歳の若さを以て町會議員に當選二期目を現任し、昭和五年消防部長、翌六年副組頭を経て、同七年以來組頭に任じ今日に至り、また曾ては青年團副團長にも推された人望家である。因に割烹旅館隱仙樓は先々代の創業に係り、親切本位をモットーに好評あり、設備も完全、無應指定旅館である。従つて陸續として杖を引くもの後を絶たず一度客となつた人は再び訪ねて行くべく心惹かれると云ふ。

富士川町

駿州銀行岩淵支店 望月宙一

世人の深い信頼をあつめ、當地人物中ト指のうちに加へられる氏は、資性英邁頭腦明敏の人格者にして、夙に銀行業務に従事し事務的才能業にすぐれ、加ふるに對外的にも好評噴々たるものあり、後ち拔推されて駿州銀行岩淵支店長に就任當地金融界に赫々たる名聲を放つに至つた。曩に町會議員選挙の行はれるや、町内の信望をあつめ高點を以て當選の榮をかち得、爾來町政の第一線に立つて當町の向上と繁榮に力を致し、功績多からざるものがある。

富士川町 木島

普門山 松雲寺

當寺は曹洞宗に屬し、開山以來二百七十年を閱する古刹、遠近の男女の信仰厚く、檀家の數も多い。靈域の自らなる森嚴さは詣でるものをして襟を正さしめ、



彌陀の淨土もかくやと思はせる。朝夕の鐘樓の鐘、勤行の聲、取りも直さず衆生救済の尊き響きである。現任職齊賀善隆師は博識多才縣佛教會富士川町分會長の任にあたり、檀徒は勿論庶民の信望の篤く、眞に見る善知識である。

富士川町 岩淵

岩淵郵便局

當局は明治十二年九月集配局として開局され、富士川町及び松野村を管轄區域とする。明治三十五年十月内外電信事務取扱開始、同四十三年十二月電話が通じ翌年から一般交換を行ふに至つた。地方



り、大正十一年七月局長に昇任して今日に至る

駿河三等局長會第三部長の現職に在り、縣下局長間の有力者にて、富士川町青年團長をも兼任する。

由 比 町

元町會議員 和田修治

多年自治公共に盡力して功勞者中の尤なるものといはれる氏は明治二十六年九

月二十五日の岳降、町内屈指の舊家にし
て有力者。代々農を營み、亡祖父久作氏
は水産業も兼營し義侠心に富み社會公益
に利すること多かりし人。亡父徳松氏は
町會議員、郡柑橋同業組合代議員、同縣
聯合會議員、社寺總代、由比銀行取締役
等に任ぜし手腕ある實力家なりしも五十
四歳を以て永眠せられた。氏は靜岡中學
の出身にて、早くより町在郷軍人分會長
町會議員、軍友會長、由比銀行取締役等
を歴任せる人望家にて、現時合同運送會
社取締役及び丸大魚市場理事として業界
に重きをなしてゐる。

由比町 入山

元町長 望月 省三

自治功勞者
當家は望月家の總本家にて、村内有數
の舊家、代々農業にて庄屋をつとめた。
先考幸平氏は戸長、小區長、學務委員、
社寺總代等をつとめ、奉仕心に富み、由
比川に私費を以て橋梁を架し、また道路
を改修するなど、町のため私利を捨て、

盡瘁した功勞者なるも、六十六歳を一期
に物故された。當主は慶應二年十月四日
の岳降、長じて幸平氏の養子となつた。
山梨微典館に學び、入山小學校長を六ヶ
年、學務委員多年、區長十八年、町會議
員を自治制施行の最初から大正十年まで
町長三期、その他町農會副會長、同會長
郡蠶糸業組合長、郡畜産組合長、郡處女
會長、郡會議員、同參事會員等を歴任せ
る自治界の大立物で、現在は社寺總代の
みをつとめ野鶴を友として日々を送つて
ゐる。家庭には長男幸一郎氏をはじめ五
男二女を有する子福者である。

由比町 西倉澤

舊家 川島 恒

當家は足利時代末期より連綿今日に及
ぶ舊家にて、古より旅館兼小休所を營
み、柏屋と號し、參觀交代當時諸大名休
憩の記録も存する。明治元年、同二年、
同十一年の三年度に於て長くも明治大帝
の小休所に充てられしこと四回に及び、

曩に明治天皇聖蹟資料展覽會には御小休
建札、御座所木札、御席張札、御下賜金
包紙、その他九點十品を出品するの光榮
を有した。先代幸平翁は枇杷栽培の先覺
者にて自治にも功勞が多い。わが川島恒
氏は明治三十二年一月五日の出生、資性
濃厚恭謙、しかも烈々たる進取の氣象に
富み、胸中深く經倫を藏し、由緒深き家
門の長として將又公共の一員として一頭
地を擡んでゐる。曩に功により漁業組
合より金盃を贈つて表彰された。家庭に
は四男五女がある。

由比町 東山寺

町會議員 深澤 熊吉

私設消防組の創設に當つて特に功勞多
く、また區の水道堤防工事を主唱發起し
て事業完成に多大の盡力をなせる氏は、
在郷軍人分會幹事、消防組頭、區長二期
區會議員(五期)、町農會役員等を歴任せ
る町の有力者にて、現に町會議員に選ば
れるほか由比町産業組合評議員として重

きをなしてゐる。明治二十年二月二十五
日の出生にて、同四十四年深澤家の養子
となつた。明治四十年吳海兵團に入つて



一等機 關兵と なり、 同四十 三年の 大演習 には日

頃の成績優秀なるを以て特に御召艦に召
ぜられ、陛下より茶菓料を頂戴した。家
庭には一男二女あり、長男勝治氏は大正
三年生れ、長女は他に嫁し、次女愛子さ
んは大正七年出生である、因に養子源右
衛門氏は區長、區會議員、學務委員、農
會役員等を歴任せる人望家である。

由比町

産業組合長 由比 習治

當家は連綿十七代に及び、代々名主、
戸長等を歴任した。氏は由比熱堂氏の二

男、慶應元年を以て生れ、實兄郷衛門氏
の歿後家督を相続した。當地由比家の總
本家たる名門にして人望もあり陰徳も多
く、町のため私財を投じて消防組を創設
したり、産業關係方面や青年團への盡力
も少くない。由比川にかゝるタマホコ橋



が今度 木造橋 からコ ンクリ ート橋 に改架 され、

名稱も由比川橋と改められるに際し、同
橋を私費を以て架設し更に再三の修築を
なしたる入山村望月幸平氏の遺徳を永遠
に残さんがため、同橋畔にその由來を記
せる碑を建設すべく、目下有志と相計り
計畫中である。現時産業組合長の任にあ
る。因みに當家には、明治天皇東海行幸
の時宿舎にあてられし址蹟の記念室があ

由比町 阿曾

町會議員 産業 組合常任理事 青木 源作

當家は始祖以來十二代を累ねる舊家に
して代々名主、庄屋、或は戸長等をつと
めし家柄である。先代和三郎氏は區長、
町會議員等に選ばれて自治に貢獻少な
らざる信望家である。氏は明治二十五年
十一月十九日を以て呱呱の聲をあげ、長
じて當家の養子となり家督を繼いだ。實
業方面に専念しつゝ、他面自治公共のこ
とに意を用ひ、早くより區長をつとめ、
また町會議員に選ばれ、産業組合常任理
事に擧げられ、その手腕力量は何人も等
しく認めるところ、現時兼ねて庵原郡柑
橋同業組合代議員、縣柑橋組合協議員、
大日本柑橋販賣組合聯合會囑託等の任に
ある。長男秀夫君は帝大在學中、次男弘
君は靜岡中學に在學中、長女は藏前高工
出身の三浦三雄氏に嫁した。氏にとつて
かくの如き子寶を持ちうるのは當然であ
り、令息たちも又、父君に後顧の憂な

由比町 由比

由比郵便局

當局は明治四年三月の開局に係り東海道筋では古い歴史を有する局の中の一である。郵便集配局にして、由比町及びその近在を管區とし、明治十八年一月貯金



事務開始、次で二十四年二月には内外爲替事務

を、二十五年七月には電信事務を開始し大正三年十二月からは電話も通じ、同一年特別交換を開始、昭和七年普通交換も取扱ふに至つた。初代局長は朝日麟平氏、二代目朝吉松氏、三代目平野義明氏にして、四代目現局長中村鐵太郎氏は明治十八年の岳降、庚子銀行員たること前後二十五年、大正十五年四月局長に就

任、爾來銳意通信報國の一念に燃えて局務を執掌し、傍ら由比青年團長、區長、町會議員二期、消防組部長等を歴任、現時産業組合監事を兼ねる。

由比町

成島銳朗

元郡醫師會長 故 町治功勞者



當家の祖は甲斐武田家の侍醫にして、爾來代々皇漢醫とし令名高く、翁は四代道貫氏の男、慶應元年十一月十七日を以て生れ

た。濟生學舎卒業後田代義徳、栗本秀次郎等の先輩に就いて研究し、明治三十年由比町に開業、町醫、校醫を囑託され、明治三十六年には郡醫師會長に擧げられ、また郡町村醫會理事、同理事長たること多年、自治方面では町會議員、區長、消防組頭、寺社總代等に任じ、昭和四年十一月永逝するまで身を公共のために捧げ眞に仁醫たるの名に背かなかつた。三男二女を有し、長男道一氏は日本醫大出身にて泉橋慈善病院に研究勤務の後父業を嗣ぎ、内科、小兒科を専門とし好評を博し、鐵道囑託醫を兼ねる。次男道村氏は日本齒科醫專を出て望月家の養子となり三男道治氏は日本醫大に研究中である。

由比町

市川荒次郎

元由比銀行監査役、庚子銀行頭取

由比銀行創立の主唱發起人たりし氏は同行監査役たること多年に及び、地方金融界に見識ある實力家として重きをなし

また合資會社庚子銀行を創立して永らく頭取の椅子に就き金融界のため貢獻せるところ甚大である。信望をあつめて町會議員にも選出され、諸種の名譽職或は公職を兼任して名聲絶大なるものがあつた令息良一氏は京都帝大出身の俊才にて、町會議員、消防組頭等に擧げられた人望家である。

由比町 今宿

岩邊龜太郎

漁業組合長 町會議員

不羈奔放、正に天馬空を行くが如く絶大の手腕と力量とを以て公事に盡せる氏は慶應



元年七月十四日の出生である。慶應元年間

先考悅太郎氏が海産物商を始めてから今

日に至り、今や町内隨一の海産物商と呼ばれる。氏は今宿漁業組合を創立し、組合長として斯界の發達に努力しつゝ今日に至り、また町會議員二期、郡水産組合評議員を現任し、會では今宿に簡易水道を敷設し、由比驛設置の際に卒先唱導盡力して町當局より表彰されるなど事績頗る多く、一面由比町合同運送會社取締役丸大市場代表社員として事業界に令名高く、町内水産業者中の大立物である。三男二女を有し、長男信太郎氏は元消防組部長に任じ、目下銳意家業に奮勵してゐる。

由比町 北田

桑原熊太郎

正八位勳八等 元町會議員

當家の祖は北條新三郎氏の臣にして爾來十七、八代を經る舊家、醫を業としてからでも十五代に及び、先代半十郎氏は藥種商を營みつ、時の百姓代を務めし人當主熊太郎氏はその男にして慶應元年六月三十日の岳降である。明治二十一年由



比登記所書記を拜命してより、静岡治安裁判所蒲原出張所、静岡裁判所、再度蒲原出張所等に轉勤、明治二十七年蒲原出張所長

に榮進し、大正五年退職、その後は町會議員二期をつとめ、目下天神社及び本光寺總代の役にある。田中光顯伯、元司法大臣岡部子等の知遇を受け、また地方有数の俳人にして三代目沙堂千來を號する尙當家には桑原風通藥、桑原驅毒丸の家傳藥あり、全國各地より注文殺到の有様である。次男正彦氏は東京齒科醫專を出て當町に開業し、庵原郡清水市齒科醫師會理事、縣齒科醫師會代議員、同健康保險審査員等を兼任する。資性濃厚、思想穩健、人情に篤き點は周知の事實で、父子共に衆望と信頼を擔つてゐる。

由比町 平野 教

駿州銀行頭取 平野 教
町會議員
平野家は分家以來四代に及び、初代を英方氏と稱し、二代喜一郎氏は當時の村諸役をもつとめたる人望家、三代義命氏は郵便局長、由比町長等に任じて町勢の發展と繁榮とに寄與貢獻少なからざる功勞者、銀行業にも關係し、地方金融界の重鎮を以て遇された。當主平野敏氏は明治二十四年の誕生、信望をあつめて曩に町會議員に選出されるや克く一身の利害を超越して町政に盡瘁し、また實業界に於ては駿州銀行頭取として押しも押されぬ牢固たる地位を有し、業界の覇者町の有力者と稱揚されてゐる。

由比町 今宿 小澤 甚平

町會議員 産 業 組 合 理 事
小澤家は氏を以て三代目とし、先代は山梨縣出身、菓子製造販賣業を創始し、大正九年七十一歳にて逝去した、生前區

長一期をつとめ、區劃整理及び社會事業方面に貢獻少くない。氏はその次男、明治三十年九月十八日を以て生を享けた。曩に由比驛設置に關し、町議十八名中十



四名の反對を押し切り發起人となつて盡力奔走の

結果、昭和五年三月遂に開設を見るに至つた。然も寺尾今宿にて金額一萬圓の豫算のうち三千五百圓の負擔を單獨承認せる豪膽の人である。開通後町より功勞金五百圓を贈られしも、道路開修及び産業開發費として全部を町に寄附した。國勢調査員二回をつとめ、現時産業組合理事を兼ねる。尙當家には先祖傳來の中風の名灸秘法が傳り、治を請ふもの千客萬來の有様である。中堅町會議員としての氏に今後期待すべきもの甚だ多い。

由比町 西山寺 石川 烈三

町會議員
當家は石川佐渡守の末孫にして十二代を經る舊家、代々農を業とした。先々代は常藏氏と稱し、先代は初め新左衛門と呼び、後ち省吾と改め、町會議員、郡會議員をはじめ、紙業組合理事、學務委員、町農會副會長、同會長、町收入役、助役その他の公名譽職を多年歴勤せる町治の功勞者である。當主石川烈三氏はその養子、明治八年二月五日を以て生を享け、夙に公共事業に力を竭して令名あり、縣柑橋組合聯合會評議員、更生病院理事、收入役、學務委員を歴任、信望をあつめて町長の椅子に就き、現にその任にあるほか町會議員二期目、町農會副會長、郡柑橋同業組合評議員、産組中央會縣支會評議員を兼任する。また西山寺産業組合の設立には特に功績あり、目下組合長である、養子憲太郎氏は町在郷軍人分會長を経て、郡聯合分會副會長を現任する。

由比町 望月 佐一

町消防組頭
由比町産業組合 専務理事
鋭氣に減ち俊才を以て稱される氏は明治三十二年十一月六日を以て農佐平次氏の長男に生れ、高等小學校を卒業せるの



みなるに拘らず頭腦明敏、資性快活にし、活に於て豪膽眞剣を以て事に當り町内少壯有力者中を

の右に出づるものがない。昭和七年十二月産業組合の専務員として入り、短日



のうちに認められて翌八年には一團専務理事に推舉され、當時窮迫に陥りし組合の建直しに全力傾けて今日の隆盛を築く基礎を固め、その後組合長に擧げられた。會ては青年團長たりしことあり、現時消防組頭を兼ねる。諸方面より氏の出馬を請ふもの多きも、専ら意を産業組合と消防組の發展に用ひてゐる。

由比町 安部 左馬太

安部醫院長
當家は今より數代前分家創立せるものにて爾來代々農耕を以て家業とし、篤農家として聞えた。先代銀太郎氏は町收入役に任じて自治に參與し、その他諸種の役職員を兼任、由比町屈指の自治功勞者

由比町 原 保太郎

元縣會議長、元由比町長、由比運送株式會社社長

當町切つての舊家にして名門たる原家の當主原保太郎氏は、識見に富み手腕に長じ加ふるに人格の高潔を以て令名四隣に普く、夙に町會議員、郡會議員等選出され、地方自治に貢獻するところ多く信望を一身にあつめて町長に就任するや町治の向上に努め、土木事業、教育改善

等に力を致し、また縣會議員に當選、同議長に擧げられ、縣下有数の闘士と讃嘆された。その他郡町等の各種團體に關係して重きをなし、現時町農會長、町保勝會長、町商工會長等の重職にあり、一面事業界にも錚々たる名聲を博してゐる。養子樹氏もまた町會議員に選ばれて自治に盡瘁貢獻してゐる。

由比町

鹿原郡茶業組合 鈴木藤兵衛
長、町會議員

電話二一番

當鈴木家は初代藤吉氏以來六代を経て、一代目藤兵衛氏の時より藥種賣藥商を始めた。五代目藤兵衛氏は町會議員、收入役、區長等の任にあること二十年、六十七歳を一期に永眠した。當主六代目藤兵衛氏は清水市入江岩本仁平氏の長男、明治十八年七月一日を以て生れ、後ち鈴木家の養子となつた。明治三十七年東京藥學校を卒業、同四十五年から鈴木藥局と稱して祖業を繼承、傍ら町會議員當選



久保田陣太郎

二回、町保勝會の創立に盡力して副會長に推され、大正十四年以來郡茶業組合長に任じ、その他に任じ、消防委員、氏、子總代、照度量、衡協會、評議員、郡度量衡組合長等を現任し、犧牲の奉公心に富み、會つては學務委員をもつとめた。養子義次氏は千葉醫專藥學部の出身である。

由比町

久保田陣太郎

正八位 由比尋常 小學校長

當家は當地に獨立して以來五代を経て、代々農を以て業とした。初代は平助氏と呼び、三代啓次郎氏は家業の傍ら戸長、學務委員等に任じ、四代幾之助氏は町會議員に選ばれること三回、また區長をつ

由比町 東倉澤

杉山淺治郎

勳八等 元町會議員 學務委員

當家は東倉澤部落がそも／＼の初めに於て人家を敷へし頃から當地に住し、代々農を營んで今日に至れる舊家である。

先々代利平氏は特に精農家として聞え、先代佐平治氏はその養子にして農耕の業に携はる一面區長、氏子總代、區會議員其他の要職に歴任した。當主杉山淺治郎氏はその男として明治十五年十一月五日を以て生れ、三十五年歩兵三十四聯隊に入營、日露戰爭には滿洲の曠野に轉戦して功あり勳八等に叙された。資性濃厚にして人望高く、郷に在つては區長、町會議員三期、町農會總代、私設消防組頭等をつとめ、現時學務委員及び最明寺世話人の役に就き部落第一の有志である。なほ養子幸吉氏も公共に盡瘁裨益するところ多く現に消防組小頭として活躍されてゐる。

由比町

原宙一

由比冷蔵庫株式會社取締役社長
駿州銀行由比支店長
由比運送株式會社監査役

資性極めて豪宕にして些事に拘泥せず手腕に富み識見の豊富なる氏は明治二十

元町長 故望月駿

由比町

九年八月二十四日を以て先代芳太郎氏の男に生れた。幼時より頭腦明晰を以て知られ、明治四十四年由比銀行に入社、昭和三年同銀行が駿州銀行に合併するや引續き同行支店に勤務し、有力者中の第一人者と稱され、當地金融界及び事業界有数の人物にして、支店長のほか由比冷蔵庫株式會社社長、由比運送株式會社監査役を兼任する。從來の事績に徴して今後の活躍は更に期して俟つべきであらう。



石切山章

由比町 入山

石切山章

元町農會役員

當家は立家以來數代に及び、先々代文二郎氏は、農業のかたはら戸長をつとめて郷黨の信任厚く、先代純一氏は當地方稀に見る事業家にて福岡炭坑、北海道鐵道の經營に當り、また東京に於て寒暖計の製作を企劃せしことあるも不幸にして利あら

ず、全財産を失ふの己むなきに至つた。七十二歳を一期に永眠するまで寸暇を惜しんで仕事しつゞけ、事業經營のかたはら早くより區長、村會議員、由比町初代町長、縣會議員一期等に歴任した。當主

章氏はその三男、明治二十三年四月三日を以て生れ、静岡商業學校卒業後安倍郡梅ヶ岳に於て製紙原料材木商を十ヶ年間經營、後、生家に戻つて先代の失敗を挽回すべく精勵これつとめると共に養兎の普及獎勵に力を致してゐる。會では消防組及び町農會の役員として重きをなした

由比町入山
町會議員 望月保策
英君醸造本家

電話由比三四番

當地醸造業界の花形として望望四隣に普き氏は望月昌策氏の男である。抑々當家醸造業は明治十四年先代の創始に係り銘酒英君は各品評會や博覽會等に於て優等賞、特等賞を授與されしこと數限りなく、年産千五百石、左黨の絶讃を博し、縣下有數の大酒造家として牢固たる地位を占めてゐる。氏は家業のかたはら静岡酒造組合副組長、静岡少壯酒造研究會長等に推されて業界のために盡し、現時縣酒造聯合會役員、町會議員三期目、土

木委員、道路委員等を兼任する實力家である。



家庭に二男三女あり、長男務氏は明治大學を出て家業に従事する眞面青年。

由比町寺尾
勳七等 故大瀧謙吉
元郡水産組長

漁業界の大立物といはれ、名聲遠近に普き氏は明治十六年の所降である。抑々大瀧家は約六七代を経る舊家にして代々半農半漁を以て家業となし、嚴父平作氏は區長、漁業組合長等に擧げられし人望



長、郡水産組合副組長、同組合長等當

家に於て、六十八歳を一期に永逝した。氏は嚴父にも増して信望篤き人格者、明治三十八年壯丁検査に合格するや直に滿洲の戦地に送られ、功により勳七等を賜り曹長に任ぜられた。凱旋後推されて軍人分會長となり、また寺尾東倉澤漁業組合

由比町 四山寺

元蜜柑出荷組 豊島岩太郎
合長、元區長

當家は初代八右衛門氏以來七代に及び代々名主、庄屋、戸長をつとめ、また正法寺檀徒總代、西山神社總代を兼ねた。先代忠次郎氏は收入役、助役、村會議員等を多年勤務せる自治功勞者にて、明治三十三年五十歳を以て黄泉の旅人となつた。氏はその長男、明治二十一年九月二十三日を以て呱聲をあげ、家業農に従事しつ、公共のために盡瘁し、西山寺村道改修、西山寺水道建設、私設消防組の創設に特に奔走貢獻し、消防組頭たること四ヶ年、また區長にも任じ、蜜柑出荷組合創立主唱者にして同組合長たること二ヶ年に及んだ。家庭には五男二女を有し長男斯馬太氏は中泉中學校を卒業して家業を襲ひ、次男喜久治氏は東京農科大學を出て縣農事試験場勤務を経て現在西山寺産業組合職員である。

由比町 屋原

從七位勳六等 和田歳夫
退役歩兵中尉 元町會議員

當家は十一代を経る舊家にして元和元年神代源兵衛正之が當地に落着きしを以て始祖とする。代々農または商を營み、代々源兵衛氏を襲名、庄屋をつとめし家柄にて、七代八代九代は共に文人として

步兵中尉 和田歳夫
由比町

て多年頭取をつとめ、町會議員にも選ばれし信望家、大正二年二月六十六歳を一期に永眠した。當主歳夫氏はその男、明治十一年十月十五日に生れ、日露戰爭に出征し中尉に任じ勳六等を賜りし勇士由比町初代在郷軍人分會長にして、由比銀行取締役、町會議員等を多年つとめた

由比町 寺尾

元町會議員 小池泰三

小池家は部落有數の舊家にして代々農を營み庄屋をつとめし家柄である。先代は多三郎氏と稱し篤農の聞え高く、先代理三郎氏は副戸長、戸長、町會議員、郡會議員、助役、漁業組合役員、町農會役員等をつとめて自治産業に貢獻多く、また柑橘同業組合の創立に參劃して代議員たること多年、その功により銀盃を贈與され、その他諸方面に互つて盡瘁

由比町 寺尾 小池泰三

る有力者である。四男二女を有し、長男顯太郎氏は市京帝大出身の文學士農學士次男連二氏は同じく東京帝大出身の理學士、三男盛夫氏は早稻田大學商科を出、四男昌氏は早稻田大學理工科在學中である。因に氏の令弟堀田恭次氏は静岡信用組合常務理事にて名聲高く三弟節三郎氏は東京にて小唄の師匠をなし、四弟方平氏は横濱市に在任の船長、五弟章五氏は畫家圖案家として東京に活躍してゐる。

益するところが多かつたが、七十四歳の時歸らぬ旅の人となつた。當主泰三氏はその男として明治十九年十二月二日に生を享け、町會議員に當選活躍せるほか現時水道組合長の任にあり人望頗るあつた家庭には三男三女を有し、長男信吾氏は駿東農學校に學びし英才にして將來を囑望されてゐる。

由比町
町會議員 志田 武司
學務委員

電話由比一七番

當家は先代勝次郎氏が二十六歳の時、明治十三年分家獨立せるものにて、初め雜貨商を營み明治二十四年頃より米穀肥料等も併せて販賣するに至り、志田合資會社を設立して自ら代表社員に任じ、町第一の資産を造成せる大成功者である。尙先代は由比銀行の創立に參劃して取締役に任じ、駿州銀行に合併後は監査役として今日に至り、その他由比運送會社取締役、區長、町會議員、郡茶業組合役員



町商會副會長等を現任し、郡會議員に當選せることもあり、庵原清水柑橋同業組合の生みの親にして同組合役員及び縣聯合會役員をつとめ、更に由比町商會組合を

造つて組合長たりしことあり現在は同組合顧問である。年齢八十餘、壯者を凌ぐ元氣を持つてゐる。武田氏はその男、明治二十四年を以て生れ、町會議員に選ばれること三回、三期目を現任し、學務委員、由比町米穀商組合長、所得稅調査員等を兼ね、また森林組合副組長にも擧げられてゐる。かく父子揃つて公共の事業に關與して貢獻多きは他にその類を見ず誠に當町の誇りといふべきである。(寫眞は勝次郎氏)

由比町北田
信用販賣 組合
購買利用

電話 由由二五番・一三七番

當組合は明治三十九年の設立認可に係り、翌四十年より事業開始、大正十四年以來農業倉庫を兼營する。町一圓を區域とし、組織は保證責任、大正四年頃は中



となり、現組合長由比習治氏これに代つ

央會より表彰を受けたるもその後一時經營方法を誤つて不振に陥り遂に前組合長の



て昭和六年八月更生根本確立、十一月計畫成り、肥料配給計畫により改善、施設等を

行ひ今日に及んだ。現在組合員六百八十名出資七百餘口(一口三十圓)にて、昭

和八年以來由比驛前に出張所を設置する貯金總額五十二萬餘圓、貸付總額四十二萬餘圓を算し、購買部では配給に豫約販賣制を採り、販賣事業は柑橋だけで十三萬餘圓、鶏卵約一萬圓を取扱ひ、利用部は未だ見るべきものなきも、精米機設備、三輪車の購入により除々に發展しつ

つある。

蒲原町
元町長 志田 德治
元郡會議員

電話一〇八番

該博なる知識を有し、近代的思想に洗練された性格の持主たる氏は、明治七年の出生、六十餘歳の高齡を以て壯者を凌ぐ氣概を持つてゐる。始祖德治郎氏以來七代目に當り、夙に製紙、製茶、柑橋業等に力を致し、發達向上に寄與するところ尠なからず、郡制施行後二回目の郡會議員選挙に當選以來當選七期に及び郡政の偉大なる恩人であり、村農會長は十年の長きに及び、郡水産會副會長、同會長たること約三十年、また日本茶業組合中會議員としての活動にも見逃し難い功績がある。因に令息一雄氏は三和銀行に勤務する近代的サラリーマン、將來大成すべき人として普く囑望されてその前途は光明輝き洋々たるものである。

蒲原町

蒲原合同運送株式會社社長、庵原郡茶業組合幹事
五十嵐直喜

電話蒲原三〇番

高雅溫良、ひとりでに氣品溢る、人格者たる氏は、一面信念に強く意志堅固なる事業家である。明治元年故文作氏の男に生れ、夙に公益に盡し、町會議員に選出されること二回、その他所得調査委員、森林組合理事、學務委員、鹽小賣り組合長等に推され寢食を忘れて貢獻し、偉績筆紙に盡し難い。現在庵原郡茶業組合幹事として重きをなし、昭和二年に資本金二萬九千圓の蒲原合同運送會社を創立して社長の椅子に就いた。同社は店員十名、仲仕十一名を使用し、取締役は志田德治氏、笠井角太郎氏、久保田敏夫氏の三名、監査役は松永安太郎氏である。因に氏は日本古來の文學たる和歌に造詣深く、地方にその聞ひ高く忙中閑日月ありの格言を如實に示し餘裕綽々たり。

蒲原町 蜜柑罐詰製造所 久保岡虎吉

電話二〇番

當地 界に噴々たる 聲を博する氏は 慶應元年の出生なれば、齡すでに古稀を 越え、なほ赫灼たる元氣を有し、信望と 尊敬を一身にあつめてゐる。大正六年海 産物商を開業し、削節の製造販賣を開 始したが、これぞ東海頭筋一帯に於ける 削り節の嚆矢であつた。爾來事業順調に 發達し、大正十三年には工場及び店舗の 擴張を行つて現在地に移轉、昭和八年か らは蜜柑及びトンボ鮭の罐詰製造業を起 し、現在女工百人、男工十五人を使用し 年産一萬七千ケース（一ケース五圓平均） を製造し、ロンドン、ニューヨーク等に 輸出販賣しその販路は益々擴大の一路を 辿りつゝ、ありて常に繁忙を極めその前途 は實に洋々たるものあり。家庭には四男 五女あり、實氏は昭和二年に清水商業學 校を卒業せる春秋に富む材幹である。

蒲原町 漁業協同組合

電話一六番

當組合は明治三十六年創立の蒲原漁業 業組合と片濱漁業組合を合併して昭和七 年八月設立認可を得しものにて、當初蒲 原町漁業組合と稱したが、昭和十年九月 保證責任組織に變更すると共に現名稱に 改めた。組合員八十餘名、出資四百六十 口（一口三十圓）にて、準備金及び積立金 九千圓餘、借入金一萬三千圓餘、餘裕金 二千二百圓餘を有し、販賣及び購買共同 施設、資金の貸付、そのほか、遭難救助 等の事業を行ひ、共同購買事業には特に 力を注ぎ、石油、ロープ、綿綱、綿糸等 を主に二萬圓餘を取扱ひ大に組合員の利 便を圖つてゐる。なほ組合員の年漁獲高 は三十二萬貫、二十六萬二千餘圓に上る 組合長は合併後引續き小林庄藏氏で、組 合の今日めるは全く氏の努力の賜と云ふ も過言であるまい。

蒲原町 協立商會主 磯部愛治郎

電話五四番

直情徑行の人、名利に恬淡に、義侠に 強く、泰然たる度量を有し、當地同業者 中に輝々たる地位を占むる氏は、また人 格高き人であり、博識博學の士でもある 抑々磯部家は削り節問屋として古くか ら手廣く商賣し、所謂花カツオは全國津 々浦々にまで販路を有し、台所の王者と して好評がある。氏は曩に蒲原罐詰株式 會社を創立して事業界に確固たる地盤を 築き、昭和七年諸罐詰製造元たる協立商 會を設立、今年年産一萬數千圓に上り、 年々増産の趨勢を辿つてゐる。

蒲原町 蒲原罐詰株式會社

電話蒲原一四四番

當會社は昭和八年一月資本金六萬圓に て創立され、鮭類油漬罐詰、蜜柑罐詰の 製造に従事して今日に至り工場は敷地千



十坪餘、建物八百五十坪ありて又設備は 常に新しきものを整へ、年々五十萬圓程 度の販賣高にのぼつてゐる。原料の買溜 は絶対にこれをなさず、常に新鮮且つ優

良なる 品を選 び製品 の向上 を計る と共に 最新の 設備を有する新工場

の能力増進大いに見 るべきものあり、原料の購入並に製造と 販賣の順調なるは當社の最も特色とする ところである。取締役は草谷市作、三好 文吉、堀内直作、鈴木佐吉、志田定太郎 の五氏、監査役小林彦太郎氏である。

蒲原町 社會教育委員、庵 原郡水産會長、伊 可銀行蒲原支店長

小林庄藏

電話一一番

氏は蒲原町故龜吉氏の長男として明治

二十五年四月六日に呱呱の聲をあげ、同 四十二年御厨銀行蒲原支店に職を奉じ、 後清水支店主任に榮轉、更に大正十三 年蒲原支店に戻つて支店長心得を命ぜら れ、昭和五年支店長となつて今日に至つ た。因に御厨銀行は現伊豆銀行に合併さ れた。半生を地方金融界のために捧げ、 傍ら町會議員、青年團長等を歴任し、現 在社會教育委員、庵原郡水産會長、蒲原 町漁業協同組合長、静岡縣櫻網組合長 蒲原魚市場事務取締役、蒲原町産業組合 監事等の諸職を兼ね當地水産業界に重き をなす。

蒲原町 信用販賣組合

電話蒲原一四四番

當組合は大正六年十月森和作、福田力 太郎、清水彌五右衛門、服部安吉、朝原 松吉ほか數氏の發起により設立を見、翌 七年十一月より購買事業のみを經營し、 昭和元年より四種事業兼營となり、昭和 六年十月全畫經營宜しきに適ひ縣支會の



表彰を受け、同八年五月組織を保證責任 に改め、同十年には縣下經濟更生百組合 の一に加へられた。組合員約六百六十名 出資二千餘口（一口二十圓）、準備金及び 積立金二萬餘圓、借入金七千八百圓、餘

裕金二 十萬六 千餘圓 を有し 貯金は 四十二 萬四千 餘圓に 上り組 合の内 容充實 と従業 員の努

力組合員の組合精神の理解の程を如實に 物語り、貸付金十七萬四千圓、販賣高十 二萬二千圓、購買品賣却高十七萬六千圓 利用料二千餘圓を算してゐる。理事は酒

井彦太郎氏大野泰次氏、池上由太郎氏ほか四名、監事は名である。

蒲原町 蒲原 大野乙次郎

當家は氏を以て十代目とする舊家にして父祖は問屋場役人を務める傍ら採油業



に従事した。氏は明治三十三年八月二十四日の出

生、長じて當家の養嗣子となりしものにて、靜岡師範學校卒業後教鞭を執ること十二年、第二國民の養成に全精力を傾注し、典型的模範教育家として父兄の信任あつく、この間六週間現役兵として軍隊生活もした。退職後は町役場に入り、助役二期を経て、現在町長三期目の任にあり、その他町農會長、町會議員等幾多の

名譽職を兼ね自治の功勞者と稱される。町政に兎角紛議の多い蒲原町にあつて町長三期に及び、氏はの人望は如何に篤きを如實に物語るものである。因に長子は若き刀圭家として將來を囑望されしも不幸夭折した。

蒲原町 岩邊彌之助

從七位、陸軍中尉、町會議員。當家は二百五十年前より當地に住する舊家である。氏は先代平吉氏の男、明治三十五年五月二十日



を以て生れ、沼津商業學校

を出て一年志願兵として入營、後ち三十一歳の時中尉に任官した。かゝる早期の任官は實に氏を以て全國六人目なりとい

ふ。除隊後は在郷軍人分會長、青年團長將校團役員等をつとめ、よき統率者として人望を一身にあつめてゐたが、後ちこれを辭し専ら銀行業に勵み、傍ら土木請負を以て業とした。しかし最近再び推されて町會議員、學務委員、社會教育委員等を兼ねるに至つた。田中光顯伯の信任厚く、翁より贈られし盆、刀劍、その他諸種のもが氏の居室を飾つてゐる。また曩には荒木陸相、田中知事より軍事功勞者として表彰を受けるの光榮に浴した。書畫、骨董に興味を有す。因に次男は商學士、三男は齒科醫學士、四男は早稻田大學在學中である。

蒲原町 井上實三

蒲原町在郷軍人分會長。熱慮斷行の人として信望頗る厚き氏は明治三十年三月三十日の出生、年齒やうやく不惑に達したるに過ぎざるも町内有力者中に重きをなし、手腕ある中堅人物



よく車人會のために働き、分會副會長たること

十ヶ年、昭和十一年十月擧げられて分會長となり爾來銳意同會の擴充と會員の指導に當つて今日に至つた。リウ子夫人との間には四男一女を有し、外に出では嚴然たる武人的人格者、内に在つては溫容柔和なるよき父親である。

蒲原町 草谷信

濃厚篤實、事を圖るに周到、これを行



とめ大いに町政に盡瘁し自治功勞者として

ふに豪磊なる氏は明治九年六月十五日草谷松太郎氏の男として生をこの世に享けた。草谷家は三百年以前より相嗣ぐ舊家にて氏を以て十五代目とし、實父松太郎氏は町長、町會議員、その他幾多の名譽職をつとめ大いに町政に盡瘁し自治功勞者として

蒲原町 蒲原驛前郵便局

當郵便局は昭和八年四月の開局に係り蒲原本町郵便局に於いて集配事務を取扱つてゐる關係上、當局では集配をなさざるも、蒲原町の中心に位置し、鐵道との關係深きため郵便事務は日に日に輕便を極めてゐる。内外電信千二百通、航空郵便千通、郵便貯金三萬八千六百圓、特殊郵便三千百通等の取扱高は、繁忙を如實に語る生きた證據である。創設以來中島憲治氏が局長の任にある。氏は自ら郵便事務を掌るも、家人をして藥局を営ましめてゐる。抑々中島家は約百年前よりダルマ屋と號する藥種商にて、大正五年七月藥局を變更一般調劑に應じてゐる。

蒲原町 蒲原魚市場株式會社

電話蒲原二四番。當社は昭和九年九月の創立に係り、賣

本五萬圓、株主は殆んど漁業組合員及び仲買商にて百六十六名をかぞへる。一ヶ年の取扱ひ量は、鱒一萬五千圓、塩乾魚類一萬餘圓、生魚(蒲原木村漁場)約二萬圓、櫻海老二十五萬圓等を取扱ひ、設立後日尙淺しと雖も事業の成績大いに觀るべきものあり、年と共に四圍の情勢に従つて諸設備の完成を見、共存共榮の社是を以て町の發展に寄與するところ頗る多く、事業將來の發展は期して俟つべきものがある。社長は山本良作氏、事務取締役は小林庄藏氏、取締役は久保田定治氏ほか四名、監査役は海野茂三郎ほか二名である。

庵原郡 水産會

當水産會は明治三十六年庵原郡水産組合として創立され、大正十一年三月現名稱に改めた。會員は漁業者七百七十名、漁獲者八名、水産物製造販賣業者百七十名、その他七名にて合計九百五十名を

かぞへ、會長は小林庄藏氏、副會長は橋本森太郎氏である。検査委員二名を常置して庵原郡櫻蝦製造販賣同業組合と協力検査をなすほか、海洋観測、移出状況調査、水産デリーの開催、石油共同貯蔵等の事業を行つてゐる。試に昭和九年中の漁獲の主なるものを示せば、櫻蝦三十一萬六千圓、鮭一萬七千圓、鮭五萬二千四百圓等である。

高部村 柏尾
會長、勳七等 片平 佐吉

村治上に卓抜の手腕を發揮して、名聲噴々たる氏は、明治七年十二月五日の岳降である。日清、日露の兩役に出征して勳七等を授けられし勇士、明治四十年頃村役場に入り収入役十八ヶ年、助役六ヶ年をつとめ、昭和七年十二月引續き村長に選任して今日に至り、軍人らしい快活明朗を以て村政に當り、役場建築、道路改修、學校運動場の擴張、和田川改修、



經濟更生等に盡力貢獻する多く、一々筆紙に盡すに追なき程である。全村民の信望を一身にあつめ、三十年餘に及ぶ自治の経験を以て今後ますます公共に裨益せんとしてゐる。

高部村 信用販賣 組合

電話清水一〇番

當組合は昭和五年八月有限責任組織にて事業開始し、同九年二月保証責任に改めた。四種事業を兼營し、組合員四百五十餘、出資五百二十六口(一口三十圓)にて、餘裕金四萬圓餘を有し、貯金二十八萬圓、貸出二十二萬三千圓餘を算し、一

時農村不況により貯金の集中なくして貸出激増の悪傾向も今や全く解消し、貯金の増加は勿論、購買力に對する回収も頗る良好にて、昭和十一年の如き九月までにすでに五萬七千餘圓の購買高に上り、大いに意を安んずるところがある。利用機關の設備も整つて來た。歴代組合長は望月萬太郎、水上三作、梅澤洋司、片平義一(現任)の諸氏、現事務理事は生子重次氏にして、書記望月律三氏は創立以來の輝ける功勞者である。

高部村 押切

報徳社長、勳八等 杉山柳作

杉山家は現地に居住して七代を經る舊家、先代長十氏は區協議員その他をつとめ篤農家として聞えた。氏はその長男として明治十六年八月十九日に呱呱をあげ日露戦争の際には樺太島ルイコフの戦闘に参加し、功により勳八等瑞寶章を賜つた温厚なる人格者として知られ區長、區協議員、國勢調査員、農業調査員、軍友會



評議員等を兼任、現在を押し報徳社長、農事改良實行組合理長、戸數割調査員、檀徒總代等の任にありて功勞多く、また俳句の宗匠にて清雪園輝月と號し、花に鳥に彌生の天地朗なり、壺焼や濱の松風唄に聞く等の作がある。家庭には老母みよ女を極じめ令夫人、一男四女があり、至福を極める。

高部村 大内
軍事功勞者 勳七等功七級 見城 銀作

日清、日露の兩戦役に参加し、赫々たる武勳を有する氏は、明治四年十二月八日瀧勘兵衛氏の二男に生れ、後に見城利



八氏の養子となつて見城姓を名乗る。日清戦役では順安、平壤、虎山、水口嶺、析木城、海城、馬關子、瞭甲山、唐王山大富屯、牛莊、田庄台、蓋平等の各地に轉戦し、馬關子の戦闘には負傷を受けた。また日露の役には遼陽附近の戦争を皮切りに、沙河會戰、奉天會戰に加はり、奉天會戰の發展に用ゐる、眞摯敬虔なる人材。

高部村 梅ヶ谷

清心不昧 高橋 幸太郎

社會教育家、温厚且人格識見兼備の社會教育家とし

て近隣の尊敬をあつめてゐる氏は明治三年十一月五日の生れである。抑々高橋家は凡そ三百五十年を経る舊家にして當主清心不昧氏は八代目に當る。代々農業を營み、先代久七氏は救世済民の志を立て獨創的醫業を開始せることあり、郷民これが報謝の念を永く記念せんため碑を建立した。氏はその長男、幼時千之舎在學中文部省より賞を授けられしほどの聰明にて、後ち同村眞珠院内日曜學園講師として盡力した。俳句の宗匠にして號を清心不昧と稱し、子弟相謀つて氏の碑を建てに安達謙藏氏の揮毫を以てし

行き急ぎして蹟くな花の道

なる句を刻んだ。昭和三年、同五年に著はせる「思想善導いろは口説」並に「みどりの流れ」は世上廣く愛讀されし名著である。また知名人士との交誼多く。就中徳富蘇峯氏、平野光雄氏とは親交厚い仲である。

高部村 島坂
軍事功勞者 栗田源次郎
勳八等功七級



氣魄に富み氣概に滿ち氣骨ある氏は栗田源次郎氏の三男、明治十四年九月十六日を以て呱呱をあげた。明治三十七八年征露の軍に屬し、清國盛京省猴兔石に上陸後、

平附近、大石橋附近、海上附近、鞍山附近、沙河鎮等の戦闘に加はり、遼陽の大戦には戦捷に關する勅語を賜り、更に沙河の會戦、黒溝台附近の戦闘を経て奉天の大戦には名譽ある負傷を受けた各地の戦線に於ては常に先頭に立つて奮戦し、皇軍の模範といはれ、勳功により勳八等功七級を授けられ、また三十八年

十二月には善行證並に下士適任證書を授與された。凱旋後に専ら家業に精勵して今日に至る。

高部村 島坂
鳥坂消防組頭 望月輝司

多彩を誇る高部村有力者中、斷然異彩を放つてゐるのは望月輝司氏である。望月金藏氏の長男として明治三十三年一月に呱呱をあげた。抑々望月家は九代を相嗣ぐ舊家にして四代目太平治氏は永年庄屋をつとめ、且つ名字帯刀を許された逸材である。氏は温厚にして堅實味ある人物として全村の信用あつて、夙に鳥坂消防組に關與し、副組頭三年をつとめた。後ち組頭として今日に至り、六十二名の組合をよく統御して聲望が高い。また村農會總代も兼ね、農事關係方面に於ても功績少くない。家庭は老祖母と令夫人並に二男四女があり、平和に幸福な日々を送つてゐる。

高部村梅ヶ谷國光寺

鳳凰山眞珠院

當院は曹洞宗に屬し、本尊は釋迦牟尼佛、開基は國光寺殿暗庵心省大禪定門大和尚、開山は賢窓常俊大和尚である。六世實嚴全察大和尚は當時の名僧といはれし人、十八世愚谷良牛大和尚及び二十八



世龍雲大活大和尚は共に中興の業に力を致して

功あり、二十九世大滿覺祐大和尚もまた二十八世を授けて功績少なからざるものがある。本堂、庫裡、鐘樓門、山門、鎮守堂の建造物あり、山門は足利時代のものといはれる至寶、また古文書として今川氏親の禁制狀、今川氏兼の棟別免許狀、今川氏輝の禁制狀、今川長勝院の寄附狀、徳川家康の寺領掌狀等が所藏され

る。境内二千六十餘坪、檀家二百五十戸をかぞへ、現住職岡田智勝師は開山以來三十代目に當る。

高部村 梅ヶ谷
村會議員、在郷軍人分會長 田島勝太郎

少壯氣鋭、前途ますます多幸なる逸材と稱される氏は、明治三十九年七月二十一日田島正作氏の男に生れた。抑々田島家は部落有数の舊家にして、實父正作氏は夙に村會議員二期、學務委員等に選ばれて自治教育に貢獻多く現に區長をつとめる人望家である。氏は大正十三年中泉農學校を卒業、同年一年志願兵として靜岡歩兵三十四聯隊に入り、除隊後昭和三年三月少尉に任官、同年四月正八位に叙された。若き力と熱に燃え、村在郷軍人分會副會長を経て昭和九年四月同會長として活動し、また消防小頭を兼ね、前途有爲なる俊才と讃はれてゐる。

高部村 梅ヶ谷
梅ヶ谷農事實行組 合長、郡農會會長 田島圭三

酒厚にして手腕あり、人望高き氏は明治十六年八月の岳降である。亡夫長十氏は精農家の聞え高く、その祖先もまた代々農耕の業に従事せる舊家である。氏は夙に家業に精勵する傍ら自治産業の向上に意を用ふること多く、現に郡農會長の要職にあるほか梅ヶ谷農事實行組合長として部落のために盡し、家庭には三男二女あり、いづれも氏に肖て聰明の聞えが高い。梅ヶ谷農事實行組合は昭和七年從來の出荷組合を改組せるものにて、組合員二十五名、創立當初は梅澤祥司氏組合長たりしも昭和十年以來田島氏に變り、兩來組合の成績頗るあがり、優良實行組合の一に加へられるに至つた。

高部村 押切
村會議員、産業組合理事 伊藤巳代治

伊藤家は部落屈指の舊家として普く知

られ、代々農を以て家業とした。三代前又兵衛氏は名主役をつとめ、先々代貞藏氏は村役に任じ、また先考重兵衛氏は村會議員のほか區長、區會議員、郡會議員



氏子惣代 寺院惣代 等を多 年歴任 し、殊 に村會

議員は四度當選して四期間に亘つて功勞多く、七十一歳を一期に永眠した。當主伊藤已代治氏は明治三十八年四月十二日の誕生、静岡商業學校を中途退學後は専ら意を家業に用ひ、他面公共事業に關與し、若年ながら區長、消防組頭等を経て村會議員、産業組合理事、寺社總代、郡茶業組合代議員等を現任し、手腕の人、識見の人として、將來を有望視されてゐる。(寫眞は父君重兵衛氏)

高部村 柏尾 庵原郡聯合在郷軍人分會副會長、柏尾農事實行組合專務理事、正八位

近藤治郎

近藤家は部落の舊家にして祖先是庄屋職をつとめた。氏は明治三十六年十月故川端金作氏の五男に生れ、長じて近藤愛三郎氏の養子となつた。實父は庵原村にて農業に従ひ、實兄川端孝作氏は村會議員として村治に携はりし人、養父は村會議員、區長その他自治に貢獻するところ多い人である。氏は中泉農學校の出身、役場書記を振出しに村農會技術員と轉じ一年志願兵にて除隊後は、軍人分會副會長、同會長五年餘をつとめ、現に郡聯合分會副會長たるほか部落消防組頭、柏尾農事實行組合專務理事を兼ね、人望篤く其前途は多大の期待をかけられてゐる。

高部村 柏尾

部農會長 **近藤 正胤**
元柏尾區長

將來性に富み、人望四隣に普き氏は明

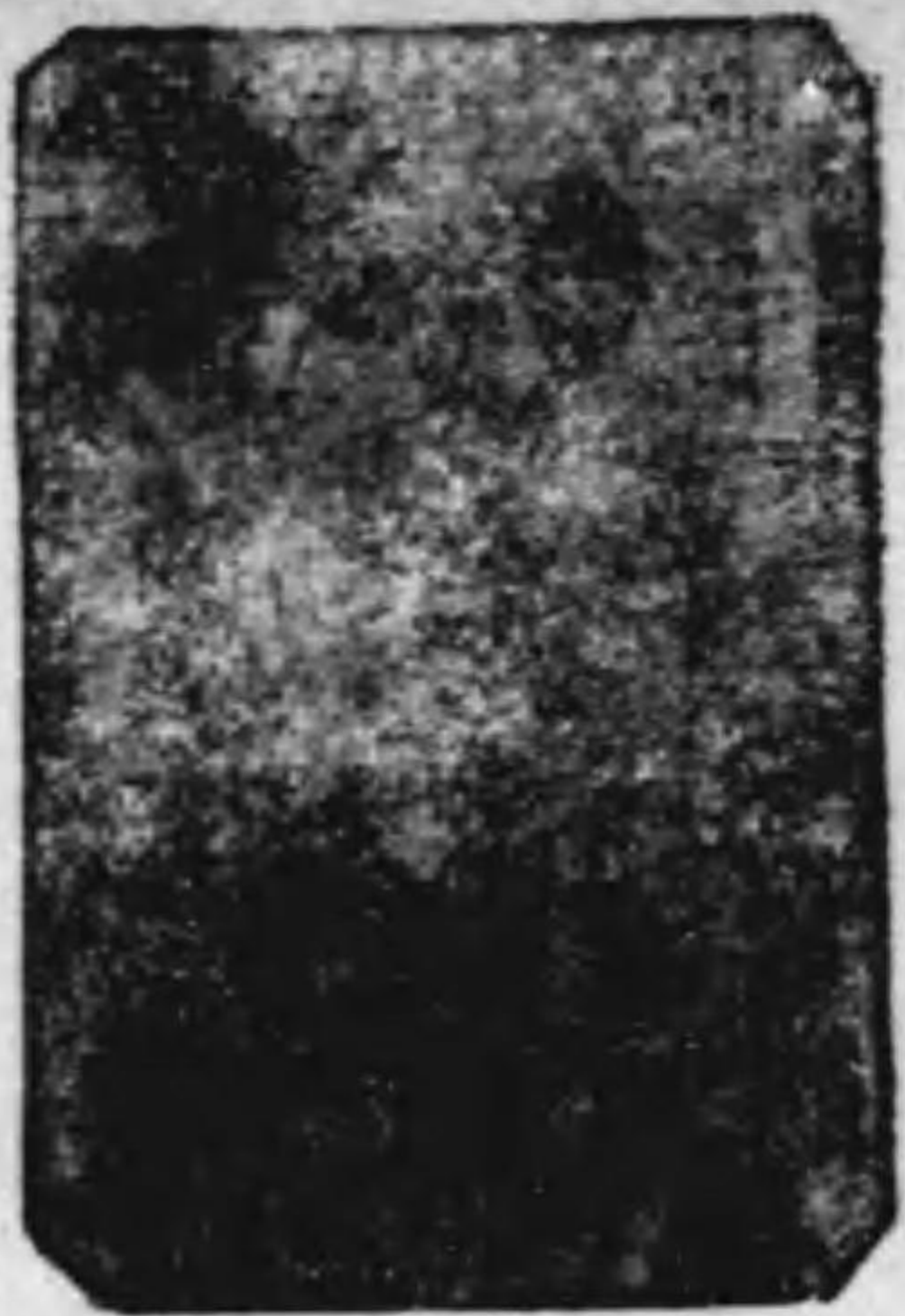
治三十年の誕生、その家は部落の舊家として知られ、嚴父文次氏は明治二年の岳降にて區長をはじめ區評議員、報徳社理事、郡柑橋組合柏尾小組長等をつとめたる材幹にして、特に柑橋組合のために盡力して小組合より感謝狀を贈られた。氏はその血を享けて早くより公益に力を竭し、區長、消防組頭を経て、現に部農會長、郷社龍爪山氏子惣代の任にある區の有力者にて、七人兄弟の長兄に當り、特に部農會の發展擴充のために盡すところ多く、同會より感謝狀を寄せられるの光榮に浴した。

高部村 押切

園藝家 **杉山 平作**

明朗快活、初對面の者にも親愛の情を感じしめる性格の持主たる氏は、寫眞に興味あり、すでに専門家的熟達を示してゐる。明治二十年杉山長十氏の男に生れ日露の戰亂鎮まりて間もなき明治三十九

年浩志を抱いて遠く米國カリフォルニア州サクラメント、コートランドに渡り、



刻苦精勵、凡ゆる艱難を嘗め、漸次成功して遂

に同地屈指の大地主エリオット氏の經營する農園監督となりて活動し、昭和十年十一月錦を飾つて歸朝した。誠に氏は立志傳中の人といふべく、目下新邸宅には夫人と二男ありて圓滿至福の日を送つてゐる。

高部村 押切

高部産業組合 信用評定員 **進藤 小一郎**
消防組小頭

落々たる雄心浩志を抱き、資性快活圓滿なる氏は明治三十二年三月一日小吉氏の長男に生れた。柑橋小組長、氏子總

代、村農會總代等を歴任し、消防組には十有餘年間勤績精勵して現に小頭の任にあり、組の中堅として信望篤く、また現時高部産業組合信用評定委員、區協議員報徳社員を兼ねてゐる。抑々進藤家は元祿以前より相傳へる舊家にして農を家業とし、尊父は村會議員、區長、區協議員、郡茶業組合代議員、氏子總代、國勢調査員、家屋稅調査員、戸數割調査員をつとめ、日清戰役には出征、功ありて勳八等白色桐葉章を賜はり、現在農事に精勵してゐる。

高部村 梅ヶ谷

前村會議員 **藤牧 常吉**
自治功勞者

明朗な人格者として聞え高き氏は明治三年九月二十五日を以て藤牧利助氏の男に生れた。藤牧家は部落屈指の舊家にして代々農耕の業に従つて篤農家と稱された家柄である。氏は夙に區長に擧げられること二回、部落のため貢獻するところ



を忘れ 共のた め寢食 を歴任 をよく公 査員等

頗る多く、また村會議員たること四期半堂々たる正論は常に村政に一脈清新の氣を注いでゐた。また村農會惣代評議員、部農會長、郡柑橋組合小組長、國勢調査員等を歴任し、松壽園を經營し隆盛を呈してゐる。

高部村 大内

元村長 **望月 萬太郎**

望月家は十代あまりを經る舊家にして代々農を營み、先考龜太郎氏は部落の發展に功績多かりし信望家である。當主望

月万太郎氏はその男、明治二年三月四日
を以て生をこの世に享け、同四十一年村
助役に任ぜられて勤続十八年の後村長
に選任、六ヶ年在任して昭和六年退職し



たが、
この間
産業組
合の創
立に當
つて盡
力し組

合長たりしほか、村農會副會長、郡町村
長會副會長その他を兼ね自治功勞者と讃
へられる。俳句の名人にて、元は雪草盧
今は百々庵祐之と號し、靜岡吟社を主宰
し相當知名である。曩に門人相謀つて靈
山寺の傍らに氏の句碑を建立した。家庭
には四男四女あり、長男喜久藏氏は村役
場書記、三男律三氏は産業組合事務員、
四男俊夫氏は東京高等師範學校及びアメ
リカ南加大學に學び現に札幌師範學校教
諭である。

高部村 島坂

元庵原郡農會 山内順吉
長、元村長

高部村の元老として尊敬される氏は戸
長、村會議員その他をつとめて名譽高き
故山内惣平氏の男にして代々農業に従事
せる山内家五代目の當主である。夙に公
共事業に關與して功あり、助役二ヶ年、
村長四期をはじめ、郡町村長會役員、郡



農會副
會長、
同會長
郡茶業
組合副
組長、
同組合

長等を歴任、自治に産業に貢献多から
ず、眞に地方發展の偉大なる恩人である
在職中の事績は一々枚舉に遑なく、現時
なほ學務委員として力を教育のために用
ひてゐる。資性濃厚、一村の長として將
た一郷の頭として申分なき器である。

高部村 柏尾

高部産業組合
長、柏尾農事
實行組台長 片平義一

熱と力の人と云はれる氏は明治二十九
年の出生、嚴父安吉氏は村會議員、部落
物代、區長その他の公職に歴任して令名



ありし
功勞者
である
氏は家
業に精
勵する
と共に

早くより自治産業のことに竭し、會ては
消防組頭たることあり、村内有力者中の
利け者にて、現に村會議員、村産業組合
長、柏尾農事實行組台長等を兼任し一意
公益の増大に盡力しつゝある。柏尾農事
實行組合は、昭和十一年四月氏のほか片
平佐吉氏、近藤治郎氏等の主唱により創
立され、生茶、柑橘その他の農産物の共

同販賣を主なる事業とし、組合員五十餘
名、専務理事は近藤治郎氏にして、他に
理事十一名をかぞへる。

高部村 押切

元郡會議員 故 大石淺次郎
元村農會會長

大石家は部落有数の舊家にして、翁は
大石惣兵衛氏の男、文久三年四月を以て
生を享け、昭和八年二月十三日永遠の眠
りに就いた。生前専ら意を社會公共のこ
とに用ひ、區會議員三十一年、村會議員
二十年、區長四年、學務委員十六年等をつ
とめ村自治の元老と謳はれ、また村農
會評議員及び同幹事たる事二十八年、押
切部農會長たること十九年の長きに亘り
その他庵原郡會議員、小作調停委員、村
農會長を多年つとめて功あり、他面押切
報徳社長として三十七ヶ年間を報徳精神
の普及實踐にあたり、その人格は正に一
村を風靡して餘りあるものがあつた。當
主大石惣太氏はその養子にして現時押切
組長として重きをなしてゐる。

高部村 梅ヶ谷

静岡縣茶業組 久保道太郎
合理事技師

久保田家は代々農を營んで八代に及ぶ
舊家にして、先代實五郎氏は區長その他
要職を歴任して聲望ありし人、氏はその
男明治二十三年十一月を以て生をこの世
に享け、父君と同様夙に自治公共の事業
につくすところ多く、村會議員三期、區
長等に任じ、村有力者として確固たる地
位を占め、また信望頗るあつく静岡縣製
茶業組合理事兼技師として縣下茶業の發
達に盡瘁貢獻するほか、民政黨支那書記
長として重きをなし、また村青年團長に
推戴されてゐる。

高部村 梅ヶ谷

自治功勞者 故 梅澤祥司

村内屈指の自治功勞者たる故梅澤祥司
氏は濃厚篤實の士として知られ、梅澤熊
次郎氏の男である。初代を安次郎氏と呼
び、五代目晋次郎氏は名主、戸長等をつ

とめ、七代熊次郎氏は篤農家として聞え
た。翁は即ち八代目に當り、明治二十年



の生れ
昭和十
一年一
月五十
歳を一
期に永
眠した

村會議員四期、消防組頭、消防組村聯盟
會長、部農會長、區長多年、社寺惣代、
産業組合長、學務委員、縣柑橘聯合會議
員、同郡評議員、國勢調査員、所得調査
委員その他を歴任、特に梅ヶ谷出荷組合
の創立には盡力した。養嗣子長雄氏は小
島村の人、元小島村長にして郡會議員た
りし平岡喜太郎氏の六男にて中泉農學校
を経て明治大學經濟科に學び前途有望の
材幹である。を以て、家業に盡しつゝ、あ
ると同時にまた、一村の更に大なる發展
への關心より村政方面に留意してゐる。
その躍進時代が待望される。

高 部 村
村會議員、學務 設樂 壽雄
委員、勳八等

設樂家は當主を以て六代目とし代々農業を営み、先々代茂平氏は村治に關與して功勞多く、教育會長、戸長等をつとめし人、先代角藏比もまた家業の傍ら部落



總代、學務委員等に任じて、職するところ多かる

つた。氏はその男、明治十五年二月二十二日を以て生を享け、日露戦争に出征、奉天の大戦に名譽ある負傷を受け、功により勳八等に叙された。區長三期、消防組頭一期を歴任し、現時村會議員三期目たるほか學務委員二期目、産業組合理事二期目、常設委員、淺間神社總代、保靈寺總代を兼ね郷土のため盡瘁してゐる

家庭には二男二女あり、長男茂平氏は會て青年團副團長をつとめし若き指導者である。

高 部 村 梅ヶ谷
村會議員、家 田島 健作
屋稅調査員

高き人格と豊富なる識見とを兼備し、村有力者中に重きをなす氏は、田島健作氏の長男として明治十六年十月二十一日を以て生を享け、幼少より頭腦明敏、奮闘努力の人であつた。家業農を營む一面區長、郡農會評議員等に推されて地方産業の發展向上に力を致し功勞甚大なるものあり、現在は村會議員に選ばれたほか家屋稅調査員、村農會評議員、區協議員等を兼ねて村勢の發展と村民の生活向上に努めつゝあり、信望頗る篤い。因に田島家は氏を以て七代目とし、代々農業に従事し、先代は區長、區協議員等を多年つとめたる村有力者でその信望と手腕は村民から絶大の信頼を受けてゐる。

高 部 村 大内
村會議員 見城 喜作

見城家は代數不詳なれども相當年數を経たる舊家として知られ、先代和十郎氏は區長その他の公職につきし人、氏はその長男として、明治二十六年九月健かな嗚聲をあげた。濃厚なる人士にして、博識且つ博覽、人格頗る高く、衆庶の以て範とするに足る材幹である。夙に區長に任じて部落のために盡し、今また村會議員並に村農會總代として一層の精進を自治公共のために致し、眞に一身を捧げての奉公といふも過言でなからう。家庭には兩親及び令閨、養子敏夫氏夫妻のほか一女あり、平和にして圓滿を極める。

高 部 村 大内
軍事功勞者 望月 武藏
勳八等

質實剛健、眞に軍人タイプの人たるわが望月武藏氏は、明治十六年四月十二日望月金太郎氏の長男として出生、日露戦



帆、元山に上陸するや三十六里の強行軍を以て

咸北咸興府に入り、同地守備に任じ、三十九年十一月内地に凱旋した。その後は家業の傍ら在郷軍人分會幹事、消防小頭等に任じて貢獻少なからざるものがある。令弟恭平氏、同茂二郎氏、同鏗作氏、同鋼作氏は共に兵役に服し、一家より五名の軍人を出したる廉により昭和六年木杯一組を賜ひ表彰されるの光榮に浴した。

高 部 村 梅ヶ谷
村會議員、高部 高橋 傳吉
産業組合理事
社會正義の顯現に力を致し、公共の利

益のため多年奮闘せる氏は明治八年五月十一日の岳降、資性濃厚篤實にして人格高く、家業は農、村内有力者の一に數へられ信望普きものがある。夙に高部信用購買販賣利用組合出納係として搖籃時代の産業組合を事務的方面から基礎を固くした功勞者、現に同組合理事として重きをなしてゐる。また村農會總代たりしことあり、現在は區協議員、村會議員等を兼ね、愈々自治産業に盡し、令名更に加はり、全村民尊敬の的となつてゐる。

高 部 村 大内
軍事功勞者 深澤 久作
勳八等

當家の祖は記録によれば武田氏の臣なりといひ、清水の小芝城主穴山大膳に仕へ、後、郡下西河内村具伏に土着するに至り、これより岐れたものと傳へる。氏は明治七年十一月十日の出生、圓滿なる人格者として知られ、區長、村會議員を経て、現在區協議員の任にあり部落のた

め裨益貢獻するところが多い。また日露戦役及び台灣征討に従軍して功勞あり、楡樹林子、本溪湖、上石橋子、下平台子三家子、大嶺附近、歪桃山等の戦闘に於ては奮戦これつとめて皇軍の範たるべき人物と稱揚された。しかも一家より五名の兵役服務者を出し、昭和六年木杯一組を賜ひ表彰されるの榮譽に浴した。

高 部 村 柏尾
軍事功勞者 近藤 淺吉
勳八等

濃厚にして篤實なる當地有力者たる氏は明治十年十月亡藤牧利助氏の男に生れ長じて近藤常五郎氏の養子となり、近藤家六代目を嗣いで今日に至つた。明治三十六年氏の發起により全國に魁けて高部村在郷軍人會を組織し、川口聯隊區司令官の臨場を得て發會式を舉行したが、これこそ在郷軍人分會の嚆矢をなすものである。日露戦争には豫備役に出征、第二軍麾下に屬し奮戦中得利寺の戦闘に於

て關部貫通銃創の名譽ある負傷を受けた凱旋後は家業農に精勵する傍ら公共のこゝとにつくし、區長、柑橋小組合長、庵原郡生茶共同販賣組合聯合會幹事等を歴任現在には農會總代及び區協議員として貢獻してゐる。

高部村 柏尾

學務委員 梅崎 尾桂

弓道印可

人望高き人格者たる氏は明治二十二年六月二十三日亡習癖氏の男として生をこの世に享けた。十數代連綿たる舊家に於て代々農を營み名主をつとめ、苗字帯刀御免の家柄である。先考は戸長、村會議員、郡茶業組合役員等を歴任功勞多きを以て知られたが七十一歳を一期に黄泉の人となつた。氏は父に肖て篤農の聞え高く、且つ自治産業等の功勞者、村會議員二期、區長、消防組頭、村農會總代等をつとめ、現時學務委員に任じ、また報徳社理事として功勞多き故を以て曩に表彰

されるの光榮に浴した。號を松龍閣李青



と稱し 三十一 文字に 趣味あり、俳句の達人とし

て知られ、日本古來の武術たる弓道にも達し現に弓道印可である。養子和夫氏はよく家業に精勵してゐる。

高部村 押切

高部村助役 齋藤 清一

高深なる人格者と謳はれる氏は明治二十五年九月二十日を以て故國太郎氏の男に生れた。中泉農學校卒業後、一時巴高等小學校に教鞭を執りしことあり、次で兵役に服し、除隊後大正五年有度村農會技術員に任じ、更に同八年庵原郡農會技手を拜命し、大正十三年には縣農會技手に任ぜられ、庵原郡農事監督として昭和

四年まで勤続した。精勵よく責務を果し優良技術者として信望あり、その後二ヶ年間専心に温室經營に従事し、昭和七年十二月より村助役として現在二期目の任



にある ほか、 村農會 副會長 區役員 高部産 業組合

監事等を兼ねて盡力する一面、引續き温室を經營し、主にカーネーションを栽培してゐる。今後村の繁榮は氏の力量に負ふところが多し。

高部村 押切

報徳社理事 栗田 與市

事副社長

當家は村内隨一の舊家に於て代々苗字帯刀を許され、その系圖を辿るに始祖は藤原鎌足公より出でたる名門である。屋敷の周圍は老樹鬱蒼として繁茂し自家

門の古きを誇り、就中、椎の木は廻り一丈一尺餘の大木にして高部村誌にも掲載されたる名木である。またこの椎の木と並んでなぎと稱する老木あり、これまた縣下稀に見る巨木として著名である。當主栗田與市氏は明治二十七年二月十八日を以て與三郎氏の長男に生れ、私設消防組の小頭及び部長を経て組頭を四ヶ年勤續せる本村消防組發達の功勞者、現時報徳社理事にして副社長の要職にあり。家庭は實母せい刀自、令夫人、一男六女の多數にて幸福を極め、殊にせい女は八十餘歳の高齡にして尙け赫灼たるものがあ

高部村 押切

高部産業組合理事 生子 重次

事、村會議員

眞摯着實の人格者たる氏は明治二十四年七月二十日鈴木長右衛門氏の男に生れ、生子由太郎氏の養子となつた。抑々生子家は當地に於ける相當の舊家にて、先々代庄太郎氏は多年村治に盡瘁せる功

勞者にして巴川の改修工事、北街道及び

龍南街道の開鑿には特に貢獻するところ多く、また村會議員二十年を勤続したる故を以て表彰されるの榮譽に浴した。氏もまた家業の傍ら早くより社會公共の事に竭し、區長、高部産業組合事務理事、私設消防部長等を経て、現時善應寺總代神社總代、報徳社幹事、高部産業組合理事、村會議員、消防組頭等の公名譽職を兼任し人望頗る高きものがある。家庭には祖母及び令夫人、三男一女があり平和を極める。

高部村 柏尾

柏尾區長、日本赤十字社特別社員 神戸 保

至誠實行の士たるわが神戸保氏は神戸勝次郎氏の長男、明治十四年五月六日を以て生を享け、夙に實業製造並に柑橋栽培の業に精勵す。傍ら、二市二郡醫療利用組合總代、産業組合理事、消防聯盟會長、消防組頭、青年尙能會長、青年夜學

會長等を歴任、現時柏尾區長たるはか、

柏尾報徳社長、産業組合監事、無柑橋聯合會議員、郡柑橋同業組合代議員、村農會評議員、軍人分會名譽會員、禮積神社氏子總代等を兼ね、人間の神化、即身成佛を抱負とし、物心善處、共存同榮、日本精神の發揚を以てその思想とする。和歌に趣味深く、つゝしみてむくいまつらむあめつちの神と君とのあつきめぐみにけな鳥もまた山水もさながらにわれとしたしむ友にぞありける等の佳句をものしてゐる。家庭は令関多



津子さ 子次男 定氏 同夫人 三千代 子さん

三男伸氏、四男傳氏、五男勝氏、次女晴子さん、三女美津子さん、令孫信君等頗

る賑かである。因に當家の祖は、往古神部を司りて姓とし、師農後土地の豪家として聞え、苗字帯刀を許されし名門、先代勝次郎氏は郡會議員その他公名譽職多數を歴任せる信望家である。

高部村大内新田

消防組頭 岡村 清造

威信並び篤く行はれるとは氏の如き人をいふのであらう。温厚にして眞面目、思想穩健にして一般人の範とするに足り一面意志強く信念に燃える努力家である



明治二十六年六月二十日、以て生を享け、區長、

部農會長を経て、先年大内新田消防組頭に就任するや、諸般の施設に改良を加へなほ消防精神を振作して、一時に名組頭

の名を高め、現に高部村消防聯盟會長の要職に擧げられてゐる。因に當家は舊家として知られ、由緒不詳なるも代々地方に聲望あり、嚴父久太郎氏は永年區長をつとめ部落のために功績多く、また篤農家として聞えた人である。

高部村 梅ヶ谷

教育功勞者 野村 政吉

天資重厚清節、生れながらに教育家たる素質を備へし氏は、明治八年十一月三十日安部千代田村川合に榮左衛門氏次男として出生、静岡中學校を経て師範學校講習科に學び、安倍郡千代田、西豊田、麻機各校歷任中、乞はれて野村惠祥氏の養嗣子となつた。その後庵原郡正教員養成所を修了、高部小學校訓導を経て明治四十二年には私立梅ヶ谷農業補習學校長となり、勤続十有餘年、この間農業專科教員の檢定誠驗に合格、大正十年三月村立高部農業補習學校專任教員となると共に中等教員待遇を受けた。致々として



教育に盡瘁すること實に三十餘星霜、勲育界の偉大な功勞者として表彰されること一

再止まらぬ。目下清香園花堂と號し俳句を友として悠々自適し丸い座も師の影踏ます月の宴の如き名句がある。

高部村 柏尾

日本赤十字社特別社員 高田八十次郎

氏は高田家十九代目に當り、明治十年九月二十九日亡作次郎氏の長男に生れた十三代目八平氏は當時極貧の中にも御屋敷大切に奉公をつとめて諸人に勝り、また一人の老母に孝養を盡し、右忠孝の道殿様の御意に叶ひ、養美として老母生涯

の内藏御米一俵宛年々下さるとの御墨付を頂戴し、現に當家の家寶として秘藏されてゐる。時は寛政十年午七月のことである。氏は祖先の遺風を受け、兄弟揃つて忠節を致し、日露戰爭には八十次郎氏久太郎氏、小作氏と兄弟三人が共に出征して勳八等白色桐葉章を賜り、庵原郡獎兵會長よりは記念盃並に感謝狀を贈られた。凱旋後は家業の傍ら區長、國勢調査員を歴任、現時赤十字社特別社員に推され、盡力多きにより昭和十一年縣知事より表彰を受け、また昭和六年一家より五名の兵役服務者を出したる故を以て木杯一組を賜ひ表彰された。

西 奈 村

地主、資産家 望月 銈次郎

乾を旋らし坤を轉するの力を有しながら自若としてゐるものは望月銈次郎氏であらう。資性英邁、衆に伍せば必ず一頭地を抜き、幼時より神童の名を以て呼ばれた。當村望月家の本家にして代々農耕

の業を營む舊家にして、地主資産家として知られる。現村會議員望月太次郎氏の令弟に當り、弟ながら本家の家督を嗣いで人望があつた。誠に「人多き中にも人ぞなき」と歌はれる如く、眞に我等が欣求するところの人物に逢ふことは難いが氏を有して我等は心安きを覺えることが出来る。材幹と稱すべく、人格者と呼ぶべきであらう。

西 奈 村 瀬奈川

村會議員 堀越 金作

不撓不屈の進取的思想の中に敦厚純朴の性格を育成してゐるわが堀越金作氏は普く信望を有し、自治公共の事業に功勞多き手腕家である。抑々堀越家は堀越源右衛門氏を以て始祖とし、數代相繼の家柄、先代銀次郎氏の代より農を業とした先代また消防組合設立委員として創設に盡力せる人で、本村消防組の先覺者である。昭和六年に永眠した。氏はその四男



また信用組合理事としても重きをなす。一男一女を有し、長男武氏は縣立農學校出身の秀才、次の時代を負ふ第一人者を以て遇される。

西 奈 村 瀬名

村會議員 望月 太次郎

長くも教育勸諭の中に、方今人文日に就り月に進み、と指摘されてゐる如く、文化の進運、時勢の伸張は實に目覚ましいものがある。この間に處して常に時代と共に進み、文化と共に向上し、多年自治公共に盡瘁し來れるは望月太次郎氏で

ある。明治二十三年五月二十日を以て故望月重吉氏の長男として呱呱をあげ、大正八年分家されたが、村會議員に選出せられて村政に貢献せるほか、部落の自治には殆んど參與し、功勞多き有力者と普く尊敬され、加ふるに濃厚なる資性は、ますますその人格に光を添へてゐる。因に家庭には、二男三女を有し圓滿を極める。

西奈村 瀨名 有力者 山崎嘉十郎

濃厚の聞え高きわが山崎嘉十郎氏は、村内有数の資産家にてまた有力者中の首位に据ゑられる。抑々山崎家は部落切つての舊家にして代々農を營み、山崎家の總本家たる由緒の家柄である。始祖は徳川三代將軍家光公の時代の人と傳へらる先代民藏氏は區長として部落の繁榮に盡せるほか村會議員に選ばれて村政に關與し、七十餘歳の高齡を以て今なほ矍鑠たる餘生を送つてゐる。氏はその男である

明治十八年十二月十五日を以て生をこの世に享け、家業に精勵しつゝ意を公益の増大に用ゐ、龍爪山總代に擧げられる。

西奈村 瀨名

大日本弓道會師 柴田喜作

吉田流弓術の大御所、弓道四段の免許を有し大日本弓道會師範たる氏は、千代田村沼上の産、明治六年三月二十日出木



小左衛門 柴田喜作 男、生れ、二十二年 十二月 十二日 柴田家の時

人となつた。當時より帶金儀作先生に師事して弓道を修め、爾來弓道のため盡瘁せられること四十有餘年、的中率の如き世に稀に見るところにして鬼柴田とさへ呼ばれる。その教を受くるもの數百の多

きに及び、先年門人より碑を建られた。大正十五年明治神宮競技大會に於ては一等の成績を得、詢に斯界の名射手たるの名に背かざるものがある。現時大日本弓道會幹事を兼ね、益々後人の指導に力を致してゐる。

西奈村 平山

龍爪山穂積神社 瀧藤太郎

當家の祖け武田家の落人にして慶長七年から穂積神社に仕へて今日に至る舊家である。氏は明治六年十二月十日の岳降先代寛一氏は當社が郷社となつてから初



代の社 司とな り、神 社に奉 仕する こと四

十年餘に及べる功勞者にて、學務委員に選ばれ村教育の振興に盡し、また部落自

治に貢献多かつた。氏はその男である。明治二十七年社掌となり、三十三年社司に昇位今日に及んだ。吉田流弓術の印可である。因に家庭には五女あり、相續人は兩河内村中河内博澤嘉吉氏の四男にて獨學を以て高等學校教員の資格を獲りし人、目下千葉縣茂原中學校教諭の任にあり、生徒父兄の信望をあつめてゐる。

西奈村 平山 前村長、勳八等、村會議員 古本大吉

各方面に人望高き氏は、明治十七年一月の岳降にして、區會議員、區長等自治搖籃時代に盡瘁貢獻せる古本丹藏氏を父とする。家業の傍ら早くより公共事業に關與し、特に自治及び産業には功績多く區會議員、區長、助役三ヶ年、村長一期村農會長等を歴任し、手腕の卓拔、頭腦の明晰は何人も等しく驚嘆し且つ畏敬して己まざるところ、村會議員として三期目を現任し、また三枝庵檀家總代の役になり、社會事業には特に功勞甚大である

因に氏は日露戰爭出征、勇士にして勳八等に叙せられてゐる。息を良策氏といひ氏に似て資性英邁大いに成すあらんの氣概を示してゐる。

西奈村 平山 區長 古林作五郎 村會議員

部落の有力者といはれ資性明快、初對面の人にも好感を與へ、親しみを感じさせ、信望普き氏は、明治十二年十一月三日古林淺次郎氏の男に出生、幼時より學を好んで博學の聞え高く、長じては家業に精勵しつゝ、公共のために盡瘁し、曩には高點を以て村會議員に當選し、區長、村農會副會長、寺院總代、區評議員を兼ね部落の繁榮に、本村農業の改善改良によき指導者として、また力強い統率者として全村長の信任篤く西奈産業組合理事となりては組合の擴充に力を致し、事績一々枚舉に遑がない。因に長男金一氏は平山部落の若き有能として重きをなし、

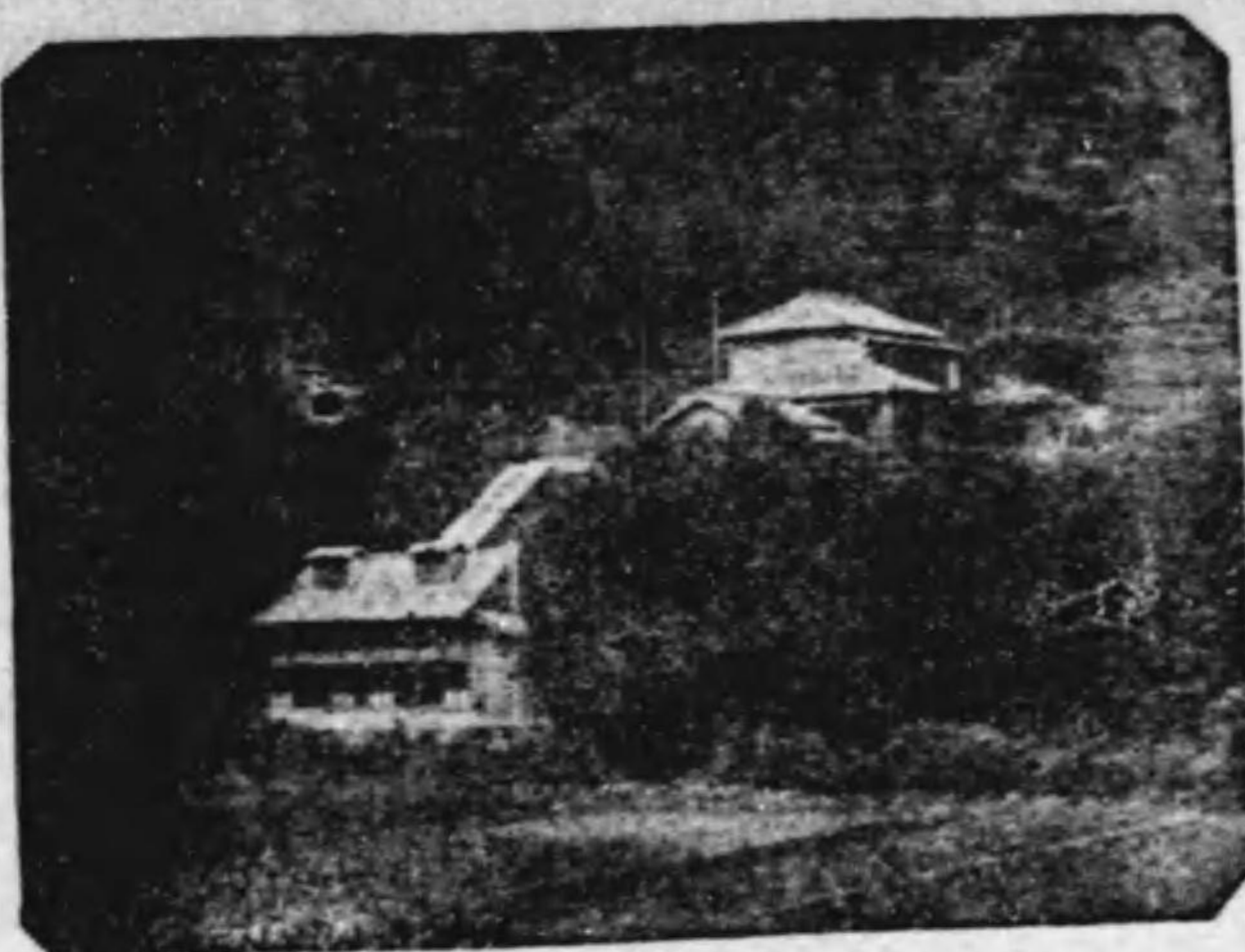
西奈村 龍爪山 龍爪山穂積神社

郷社。祭神は大己貴命、少彥名命の二柱の大神にましまし、速く有史以前の神話に出て遙かに天地開闢の古に遡り、その功德の洪大なること筆紙に竭し難い抑々龍爪山時雨の峯は海拔一千米、東は富士の巔峯と對し、南は駿河灣に面し、眺望雄大、しかも幽邃閑雅にして、武人守護の大神と鐵砲祭の名によつて人口に膾炙され、日清、日露の戦役はもとより近くは滿洲事變に於ける出征將士にして當神社を尊崇するものは身に寸傷だに受けず恙なき凱旋をしてゐる。されば古より崇敬の徒縣の内外より四時その踵を絶たざるは宜なりといふべきである。昭和七年の烈風に建造物及び境内の老樹等倒伏せるも、本殿、拜殿、幣殿の造營に一萬二千圓を投じて神威ますますその光輝

を發揚してゐる。

西奈村長尾 温泉龍南閣

當温泉は龍爪山より流れる長尾川の奇巖起伏の中より天然に湧出する靈泉で、



泉質は硫黄分に富み常に湯の花を生じ香氣深く主に胃腸病、神經痛、レウマチス、腦病、

婦人病、痔疾、皮膚病に特效がある。當館は眺望絶佳の地に位し、前方は高松海岸や大濱公園、後には海拔一千餘米の龍

爪山及び文珠ヶ嶽あり、附近には名勝舊蹟多く、浴槽は水晶のやうな清き流れの長尾川畔にありて入浴しながら河鹿の聲



(寫真右は故山田清三郎氏)



り。館主山田雄氏は明治二十五年十月十六日の出生、部落の舊家にて祖先是庄屋その他の公職を歴任せる名門、氏は劍道五段の資格を有し庵原中學校及静岡商業學校に教諭たるほか縣警察部囑託、清水市天武館及び静岡市春風館教授にして

縣下劍道界の大立物として名がある。

西奈村長尾

村會議員 岩科七之助

自家心中に道を有するもの、眞善美の理を有するものにして、はじめてよく社會公共の大義を盡すを得べく、わが岩科七之助氏はその恰適な一例である。先祖代々農を營んで由緒深き家に、明治九年七次郎氏長男として生を享け、祖業を繼承して篤農の譽れ高く、一面區長、區協議員等を歴任、また村會議員に選ばれて現にその任にあり、己れの信ずる道に向つて邁進し公共の福祉に裨益するところ甚大である。銃獵及び釣魚に趣味あり造詣頗る深く、この道に於て他に比肩する者なしと評される。誠に稀有の人物、圓滿温厚の紳士である。

西奈村瀨名

村農會長 山田與作
村會議員

智あり才あり力あり、人望四隣に普き

は山田與作氏である。明治三十年六月十日を以て呱呱をあげ、長じて山田仁作氏の養子となり家督を嗣いだ。山田家は初代忠七氏、二代庄次郎氏、三代仁作氏に



て氏は四代目に當り先代は村會議員四期學務委

員、國勢調査委員等をつとめた人である氏は豊橋騎兵隊に勤務せし模範兵にて、除隊後村在郷軍人分會副會長、同會長をつとめ、また産業統計調査員たることあり、目下土地調査員、米穀自治管理法案特別代議員、東下納稅組會長、郡柑橘組合瀨名小組會長、産業組合理事、農會長、村會議員等の要職にあり、縦横に手腕を發揮して公共に盡しつゝ、ありて前途を囑望されてゐる。(寫真は先代)

西奈村瀨名川

元西奈村長 故天石豊作
自治功勞者

一粒の麥地に落ちて死なずばた、一粒にてあらん、若し死なば多くの實を結ぶべし、——この犠牲的奉公心に終始せる翁は、夙に書記、收入役、助役をつとめ若冠三十代にて村長に選任され、勤続二期、その他村會議員、學務委員、保護者會長、郡茶業組合代議員、同縣聯合會議



員等を歴任して全力を注いで公益に盡すし、龍爪山總代、淨界寺總代にも擧げられたが不幸四十六歳を一期にこの世を去つた。明治十七年十二月十七日の出生にて、尊父五大夫氏は戸長、郡會議員、村會議員學務委員等地方自治に關係貢獻多き人で

ある。現在養子孟夫氏が家督を嗣ぐ、氏は富士郡大淵村の人で元村長小山茂作氏の四男、國學院大學出身にして現に燒津水産學校教諭である。その令兄小山章一氏は帝國大學出の英才にて現大淵村助役に任ずる。

西奈村長尾

學務委員 岩科藤太郎

陶冶された人格の持主にして温厚着實の士たる岩科藤太郎氏は岩科太七氏の長男、明治三十年九月三十日を以て呱呱の一聲をあげた。當家は氏を以て三代目とし、代々篤農の聞え高き家である。經濟更生や精神作興に關する各種施設が講ぜられるや、氏は率先その指導督勵に當ると共に身を以て範を垂れ實行の人、模範的存在として全村の信望を一身にあつめてゐる。西奈村産業組合理事として重きをなし、學務委員として教育教化方面にも盡す裨益するところも尠くない。家庭には兩親健在し、令閨は内助の功多き人

また四男二女がある。

西奈村 瀬名

西奈村 信用販賣 組合

購買利用

當組合は昭和八年二月の事業開始にして、保證責任西奈村信用販賣購買利用組合と稱して設立された。組合員約三百九十名、出資六百三十口(一口三十圓)にて村一圓を區域とし、各種事業とも頗る順調に發展し、貯金は十四萬四千圓餘に上り、組合精神の普及徹底見るべきものあり、貸付金は八萬圓を超え原則として堅實に然も低利につとめ、購買事業は倉庫未だ不備のため充分に活動し得られざるも配合肥料及び米を主に二萬二千圓を取扱つてゐる。組合長は創立以來中川鹿作氏、専務理事は天石勇藏氏である。天石氏は明治元年六月十九日の兵降、村會議員四期、専務委員、耕地整理組合長、村農會長等の經歷を有する村治功勞者にして現時村助役を兼任する。家庭には現村會議員たる長男信一郎氏のほか三男三女

がある。

西奈村

從七位勳六等 郡醫師會理事

勝亦秀三

電話有度二二番



金子を用立し ところの返却なき 破たの憂

當家の祖は元沼津にて醬油醸造を業とし、千石船二隻を有し東京方面と取引し盛大を極めしも、幕末の頃水野出羽守にき目にあつた。わが勝亦秀三氏は明治十四年六月二十六日重三郎氏三男として出生、二十二歳の時醫師試験に合格し現在地に開業、爾來今日まで三十有餘年、内科、外科の權威と稱されて繁榮を呈する慈恵醫學校の出身にて日露戦争には河村

部隊に屬して出征、二等軍醫に任じ、功により從七位勳六等旭日章を授けられた現時村醫、校醫、庵原郡醫師會理事、西奈村有働者會々長、在郷軍人分會顧問等を兼ね、園芸に興味あり、五男一女のうち次男純氏は慈恵醫科大學に在學し將來を囑望されてゐる。

西奈村 瀬名川

深澤 茂喜藏

防組頭



は區長をつとめ、部落の發展には一方なぬ功績

ありし人、一般の信望も高かつたその長男である。家業に精勵しつゝはやくより

公共事業に竭し、殊に警防に於て功勞あり、消防手四ヶ年、副組頭三ヶ年をつとめて組頭に推され、今や名組頭として部員の信任高く、日夜寢食を忘れて指導統制に當り、警備の重大責務を果し、瀬奈川消防組をして優良團體の一たらしむるに至つた。

西奈村 瀬名

元村會議員 山田源左衛門

區長

篤實温厚なる人士として令名高き氏は明治十八年三月十六日の出生である。嚴父は源七氏といひ、家は部落有數の舊家にして



代々篤農家を以て稱された氏は十

二歳にして親父の逝去に遭ひ、爾來よく奮闘努力し四人の令弟を世話しつゝ、農事に勵み

その行は衆庶の模範とするところであつた。されば高點を以て村會議員に選出され、學務委員、村農會評議員、郡農會議員等を多年つとめ、現在は西奈産業組合監事に推されるほか郡農會長及び區長の要職を兼ね居村の繁榮に盡すところが多い。家庭には二男四女を有し、長男政次氏は會て青年團長をつとめたる事あり若きジエネレーションの間に人望が高い。

西奈村

元西奈村長 故中川鹿作

業組合長

中川家は村内屈指の舊家名門である。代々郷黨に名聲あり、また信望をあつめて來た。中川憲之氏は村長をはじめ、郡會議員、縣會議員、村會議員等地方自治の諸方面に關與して功勞甚大なりし手腕家、わが中川鹿作氏はその男にして明治九年七月十五日の兵降、西奈村長たること二回に及び、村會議員、學務委員、村農會長、青年團長、そのほか公名譽職多

數を歴任、村治に貢獻頗る多く、加ふるに資性温厚にして眞摯なれば單に西奈一村のみならず普く遠近の信望を一身にあつめてゐた。令息和男氏は早稻田大學商科出身の俊才である。

西奈村 瀬谷

前西奈村長、駿河 銀行 藤卷久一

銀行 駿河 支店長

當家の祖は甲州藤卷より出で當地に移つてより六百年餘、代々農を營み、本村第一の資産家と稱される。先代重右衛門氏は村會議員、郡會議員、縣會議員等に當選し地方自治に功勞甚大ならざる人、現に八十二に垂んとしてなほ健在である當主はその男、明治二十四年十二月八日を以て生れ、大正二年早稻田大學政治經濟科を卒業、村收入役となつて在勤十ヶ年餘り、次で駿河銀行に入り、昭和七年静岡市譽田町支店長に任じて今日に至りその他消防組頭及び村長の要職を兼ねる號を觀村と稱し、竹彫りの名人として知られ、また加納鐵藏氏に師事して尺八に

堪能である。令弟俊男氏は、早稲田大學工科の出身にて静岡工業學校の教諭である。

西奈村 瀨名 村會議員 中川和十郎

中川家は瀬谷部落屈指の舊家にして、先代常吉氏は信望をあつめて村會議員に當選し村政に貢献勤なからざるはか村農會の幹事に推されて重きをなし、また寺院總代等をもつとめたる人望家である。當主中川和十郎氏はその男、明治十一年



三月十日を以て生を享け資性温厚、夙に部落の有力者として知られ、村會議員、納税組合長、土地貸賃價格調査員、米産統計調査員、光鏡寺世話役等を兼任して村治

に盡瘁するのみならず、郡柑橋同業組合小組台長として産業の開發に盡すところまた甚大である。家庭には三男三女を有し、長男祐一氏は在郷軍人分會副會長、同會長を歴任せる人材にて手腕あり將來を囑望されてゐる。

西奈村 瀨名 清涼山 光鏡院

當寺は曹洞宗に屬し、木像文殊菩薩を本尊とする。清和天皇七世の孫八幡太郎義家の遠孫今川源五郎勝秀公の開基にして惠雲用輪を開山とする。鶴見總持寺及び越前永平寺を本寺とし、末寺に松壽院がある。境内千二百六十坪、本堂、庫裡、禪堂、開山堂その他の建造物を有し、靈域の清掃自ら襟を正さしむるものがある。檀家百十戸、總代は中川和男、中川清、中川元司、中川和十郎、中川得次、山崎民藏、山崎惣一の七氏にして、現住職岡田良道氏は大正五年の出生、目下駒澤大學に勉學中、先代増田宗順師の令孫に當



り、當山第三十七世である。昭和三年十二月以來住職代理佐野範堂氏が良道氏に代つて一切を執掌してゐる。

西奈村 長尾 區長、産業組 合評定委員 森 岩次郎

森家は代々佐次衛門を襲名せる當地の舊家にして名主、庄屋、戸長等の名譽ある要職をつとめ、また清福寺檀徒總代、

白山神社及び龍爪山穂積神社の氏子總代を兼ね

多かつた。當主岩次郎氏は先代の長男、明治七年五月を以て生を享け、家業に従事しつゝ、意を公共の事に用ひ、現時區長及び産業組合評定委員を兼任する。

西奈村 瀨名川 無量山 淨界寺

瀨名川唯一の名刹たる當寺は曹洞宗に屬し、十一面觀音菩薩を本尊とする。慶長十八年二月高陽首座の開基に係り、永平寺を直本寺とする長源院の第十世呂南



傳序和尚を以て開山とする凡そ三百年前よりの歴史を有するに拘らず、前住職の代までは何等誇るに足るものを持たず、葬儀の際にも参列者が軽うじて雨露を凌ぐ程度の茅屋を有せしに過ぎなかつた。然るに

現住職山本周弘師(大忍大和尚)の盡力によつて本堂の新築をはじめ諸所の改増築が行はれ、全く面目を一新するに至つた境内面積三百有餘坪、經卷書類多數を藏する。檀徒總代は天石勇藏、杉山利作、堀越金作、天石孟夫の諸氏にして、住職大忍周弘和尚は安倍郡有度村の人、東洋大學哲學科を卒業し、鶴見總持寺に五年長源院に十年間修業を積み、大正元年淨界寺住職となり今日に至る。

西奈村 瀨名川 前村會議員 櫻井 善作

自治に通曉し、愛汗を以て主義とする氏は、精農家として聞え高き先代丈吉の男にして明治十八年十二月七日の出生である。専ら意を社會公共の事に用ひ、瀨名川消防組の創設には東奔西走頗る多く設立と共に副組頭を推されて在任二期の後組頭となり、また學務委員、村會議員區長、村農會惣代等の諸職を歴任し一身を捧げて公益に盡瘁した。されば村内の

信望極めて篤く、怒濤の如き稱讃を以て迎へられる。現時寺院總代及び龍爪山穂



精神社總代の役にあり、家庭では二男八女の上

き父である。因に長男格太郎氏は元青年團長に擧げられし材幹である。

西奈村 瀨名 西奈村收入役 俳句 宗匠 玉川福太郎

當家は先々代勝五郎氏を以て中興の祖とする。翁は夙に村農會長、區長等をつとめ、號を向雲社雪山と稱し俳諧の名人である。先代源太郎氏は弓道印可の達人にして村元老中での重鎮、村會議員たること二十年、學務委員二期村助役一ヶ年、村長一期、郡會議員二期、同參事會員二期

縣茶業組合聯合會議員多年、郡農米業組合役員多年、龍爪山穂積神社氏子總代、村農會長等を歴任せる人材、年齢七十六に達してなほ矍鑠たるものがある。當主



福太郎 氏は明治十六年六月に生を

年團長に任じ、現時消防組副組頭、村收入役、龍爪山氏子總代等の要職に就いてゐる。俳號を桂園秋翠と稱し、微笑門の重鎮にして宗匠である。氏の長男保治氏は豫備歩兵少尉にして、軍人分會長である。

鹿原村 茂畑
消防組頭 杉山 太喜治

嚴父金次郎氏は元區長を勤め、現に茂畑報徳社々長を奉職中、尙報徳社は明治

十年の立に係り金次郎氏は社長として昭和六年より勤続す。社員五十八名、事業として植林、救済事業等を爲す。太喜治氏はその長男、但し幾代目なるや舊家なるも由來代數等不詳、代々農を業となす。氏は昭和九年より茂畑消防組頭に就任し、同時に又茂畑産業組合理事たり。

明治三十三年九月二十四日生る。現在の消防組は、組頭以下五十七名、腕用ポンプ一台、而して昭和十一年中の火災に就き出動回数三回、父子俱に同滿なる人物にして村治功勞者として特筆大書すべきもの多々あり、未來の茂畑を双肩にすべく太喜治氏の前途は正に多望なり。

鹿原村 鹿原
村會議員 小川 金作

因襲に囚はれず新奇に走らず、中庸の道歩んで堂々たる地位を占むるものはわが小川金作氏である。代々精農家として世に知られ、初代を六右衛門と稱し、過去帳によればその妻女は寛永七年正月

に歿してゐる。先々代六右衛門氏は當地柑橋の始祖と敬はれる人、氏は先代小作



郎氏の長男に 明治二十一年十月十日に生を

亭け、小川家十三代目に相當する。父の遺志を受けて柑橋の普及發達に力を用ひ柑橋小組合長、郡柑橋同業組合代議員たるほか區長、國勢調査員を歴任、また村會議員に選ばれ、村農會總代に擧げられてゐる。家庭は母堂、令聞及び四男一女にて平和且つ幸福を極める。因に家業の傍ら第一徵兵保險會社代理店を兼ね契約頗る多い。

鹿原村 鹿原
元村會議員 柴田權太郎

當家の始祖に柴田權太夫氏といひ、今

川氏の家臣にて六百石を食み、當時鐵砲組隊長をつとめた。六代目慈溪氏は白隠禪師の門人にて漢學、禪學及び書をよくした。村内屈指の資産家なりしが、九代目に於て破産し、十代目堅節は勵精これを復興した。堅節氏は二宮尊徳翁の直弟子にて、陰徳頗る多く、明治二十四年歿後村内有志により功績を永久に讃へるための記念碑が建設された。碑文は勝海舟の筆に成る。先代雄三郎氏は名主、戸長等をつとめし人、當主權太郎氏はその長男にて明治九年一月三十一日の岳降、十二代目にあたり、會て村會議員に選出五回、また區長として功勞が多い。

鹿原村 鹿原
鹿原村産業組合 高田善三
理事、原區長

質實眞摯の材幹と謳はれる氏は明治二十一年十一月故淺次郎氏の男に生れた。當家は氏を以て第四代目とし、大體の基礎は初代善三郎氏によつて築かれ、爾來農業を營んで今日に及べるも二代目善三

右衛門氏は庄屋をつとめし家柄である。氏は精農家として聞え、傍ら社會公共に盡瘁裨益してゐる。原私設消防組頭、原



柑橋小組合長 原生茶 販賣組 合長、 原公會 堂建築

委員等を歴任して部落の發展に力を致すところ多く、目下區内橋梁の架け替へを目論見、これが實現に努力しつつあり、また鹿原村産業組合理事、區長、鹿原郡柑橋同業組合代議員、氏子總代、大乗寺檀徒總代を兼任する。家庭には母堂りゑさん、令聞並に五男二女がある。

鹿原村 鹿原
縣會議員、民政 黨支部幹事長、三上陽三
三上醫院長

人望高き刀圭家たる氏は明治二十年一

月一日の出生である。その祖は舊幕臣にて、十代餘を相繼ぐ舊家、氏は志太郎西益津村田中に生れ、大正二年名古屋醫專を卒業、直に三重縣名賀郡の猪木病院に入つて實地を研究し、翌大正三年十一月現在地に開業今日に至り、その間村會議員四期、消防組頭、縣參事會員、郡醫師會長を歴任、現時縣會議員三期目の任にあるほか村醫、校醫を囑託され、民政黨支部幹事長として聲望普く、鹿原郡部會長に擧げられ、縣政界に於ける大立物である。

鹿原村 山切
勳七等 元村會議員 土肥 杉太郎

濃厚篤實なる氏は明治二十三年兵にて日清戰爭には召集參戰し功により勳八等を賜ひ、日露戰爭に再度出征して勳七等に叙されたる皇國の勇士である。抑々當家は武藝の譽れ高き甲州武士土肥實平の末孫にして、當地に土着して十四代目、初代を貞常と呼び、代々農を以て家業

とした。先代茂平氏は山切戸長、庵原村
 會議員その他の公職をつとめし功勞者、
 氏はその男にて明治二十年十二月二十日の
 岳降、夙に公共の事業に關與し、村會議
 員二期、區長二回のほか東久佐那岐神社



總代た
 りしこ
 とあり
 現在
 大乗寺
 總代の
 任にあ

り、一面部落のため寢食を忘れて奔走し
 てゐる。因に長男彌十郎氏は村在郷軍人
 分會副會長に推され將來を期待されてゐ
 る。

庵原村 庵原
 村會議員 西ヶ谷喜三郎
 勳八等

敬虔眞摯にして濃厚なる人格者たる氏
 は栗田中右衛門氏の男、明治十三年八月
 を以て生れ、後西ヶ谷由藏氏の養子とな

つた。當家は享保年間の創始に係る舊家
 にして氏を以て十代目とし、代々農を營



んで今
 日に及
 んだ。
 氏は日
 露戰役
 に出征
 各所に

轉戦して武勳を樹て、勳八等白色桐葉章
 を下賜されてゐる。俳句を趣味として名
 作多く、また家業の傍ら公共に盡し、庵
 原區長二期、消防組小頭一期、國勢調査
 員二回をつとめ、現時村會議員として活
 躍するほか村農會總代三期目、庵原村軍
 友會理事を兼ね、なほ十年來檀徒總代も
 つとめてゐる。家庭は養父、長男夫妻、
 令孫のほか一男二女を有し平和である。

庵原村 伊佐布
 元村會議員 川端孝作
 産業組合理事

當家は氏を以て十七代目に相當する舊

家にて、代々農を營んで今日に及んだ。
 氏は故金作氏の長男として明治二十一年
 十二月に出生、家業の傍ら夙に社會公共
 に盡瘁し、青年團長當時青年團基本財産
 蓄積に志し、五町三反歩に櫛苗を植付け
 今や青年團植林地として一萬圓以上の價
 額を生ずるに至つた。伊佐布區長の職に
 あるこ



と三回
 私設消
 防組を
 組織し
 て組頭
 たるこ

と六年、庵原村會議員に當選しては伊佐
 布林道開墾に力を致し、現在區長の任に
 あり、村農會幹事、郡柑橋組合評議員、
 庵原清水生茶共同販賣組合聯合會長、靜
 岡縣茶業改善委員、靜岡縣柑橋聯合會議
 員、村産業組合理事、伊佐布農事實行組
 合長にして、また縣購販聯柑橋部役員と
 して統制販賣に盡力しつゝある。家庭に

は母堂かつ刀自及び令閨、二男一女があ
 り、圓滿を極める。

庵原村 茂畑
 茂畑産業組合長 杉山喜太郎
 勳八等

當家は氏にて十三代目とし、先代百太
 郎氏は名主、戸長、村會議員三期、茂畑
 報徳社長等を永年勤績せし篤志家にして
 氏はその長男、明治十四年三月十五日を



以て生
 れた。
 日露戰
 争には
 輜重兵
 として
 出征、

勳八等桐葉章を下賜された。眞面目な人
 格にて、村會議員二期、茂畑區長四期を
 經て、現時茂畑産業組合長及び茂畑報徳
 社理事として盡瘁される。家庭には實母
 をはじめ令閨、長男夫妻、一男、令孫等
 があり、長男保雄氏は明治三十一年の出

生、靜岡農學校卒業後昭和四年歩兵三十
 四聯隊に入營、同七年少尉に任官、目下
 庵原村在郷軍人分會長をつとめ、曾ては
 青年團長、青年訓練所主任指導員として
 活躍し令名が高い。

庵原村 庵原
 善原寺

當寺は臨濟宗に屬し、釋迦如來を本尊
 する。開基は村上天皇第一之宮水上皇子
 龍現國師大和尚にして、開山は功甫西堂
 和尚大禪師である。元庵原郡兩河内村大
 平に藥師如來ありしを、徳川家康公歸依
 し給ひ現所へ移せるものなりと傳へられ
 る。眼疾及び耳疾に靈驗がある。京都妙
 心寺末寺にて、本堂、庫裡、玄關、藥師
 堂、仁王門の堂宇あり、境内五百坪、寺
 寶に東照公御眞筆扇子、東照公響一連、
 白羽矢一手(二本)、鎗一筋等がある。盆
 施餓鬼及び春季大磬若祭には特に殷盛を
 呈する。現住職は二十三世今岡慶紹師に
 して檀家の信望あつく、總代は村上源六



白鳥金
 一、國
 持四郎
 西子徳
 三郎、
 村上信
 吉、村

庵原村 伊佐布
 安穩寺

當寺は日蓮宗にて身延山の末寺、身延
 山二十六世日進上人が身延の講堂を移し
 たに始まるといひ、十界曼荼羅を本尊と
 する。當寺山頂に安置せる七面天女は身
 延總本山、京都本山妙傳寺の一木三體な
 るを以て名高い。境内面積五百九十坪、
 本堂、七面堂、鬼子母神堂、不動堂、鐘
 樓堂、庫裡等の建物あり、寶物としては
 開山及審師、重、乾、遠、脱省享等各種
 の本尊がある。庵原村伊佐布字横手の北
 瀧には當寺の不動尊安置しあり有名であ

る。毎年一月、五月、九月の各十九日は七面天女の祭禮にて股賑を極め、八月十五日の盆施餓鬼、十月十二、三日の御會式も共に盛大に行はれる。現住職は二十六世服部辨旺師にして名僧といはれ、檀徒總代は川端孝作、川端道太郎、川端譽一郎、朝倉角藏の諸氏である。

原農事實 柴田 勇作
行組合長

柴田家は先祖の由來古きと同時に幕末明治の畫家柴田泰山の生家として著名である。當主勇作氏は明治三十二年の出生未だ比較的若年ながら手腕力量才能衆にすぐれ、思想穩健中正にして目下區民の信望を一身にあつめ、その將來を囑望されて居り、人格者なる點に於て近隣談辭の的となつてゐる。原農事實行組合長の要職に擧げられる。新築成れる組合事務所は正に原の一大偉觀であり、更に氏の如き有力者を得て躍進の大發展をなしつつあり、組合員の一致協力の實も相當學

つてゐる。

村會議員 牧田 小兵衛
報徳社々長

何か物事を考へることまでは誰もするが、考へるだけで實行に移さざるものが極めて多い。然るにわが牧田小兵衛氏は實行の人、斷行の士である。熟慮よく計



畫を練り、行ふや必ず成功する手腕家である。

村會議員 岩川 陸藏
學務委員

只管公共に殉ずるの信念を以て終始する氏は、一面温厚の人格者として好評がある。岩川家十五代目の家長に當り、先祖は元靜岡藩士として十人扶持を貰つてゐたといふ。明治二十九年二月に颯聲をあげ、先代正作氏が明治二十五年に創始せる清酒、焼酎醸造業を繼承して益々順調なる業績を擧げ、目下東京及清水に支店を有し、従業員十名を使用、年醸造五百石内外を示し、「地球正宗」として東西に販路を有する。曾ては家業の傍ら區長

消防組副組頭、同組頭、國勢調査員等を歴任し、現時村會議員、學務委員たるほか柑橋同業組合代議員を兼ね鋭意公共に盡瘁してゐる。家庭には令夫人及び三人の令息あり圓滿至福を極める。

村會議員 伏見 充造
學務委員

多年の経験と回熟せる頭腦とを以て社會公共に盡瘁貢獻多き氏は、明治八年十一月十日の岳降にして温厚篤實の士とし



て信望高く、村會議員に選ばれることす

期、學務委員にも二期目を現任し、その他社寺總代をつとめ、圓滿なる人格を以つて事に當り、一般村民の賞讃措く能はざるところである。自治に關係し、公共

に盡力する人は多いが、人材として且つ功績から見ても、性格から見ても氏の如きは實に稀に見る存在であらう。因に伏見家は氏にて十三代を経る舊家にして、現在家庭には五男三女あり、長子龍太郎氏は専ら農業に従事し、精勵他の範といはれ、篤農の開えが高い。

退役歩兵中尉 片平七太郎
分會長 從七位

當片平家は十餘代を経る舊家にて代々農を業とし、先代鐵次郎氏は村會議員、區長、學務委員、村助役、縣會議員、郡柑橋組合長等の要職をつとめたる部落及び村の功勞者當主七太郎氏は、その息にて明治二十八年二月一日の出生である。



の他村會議員、區長、杉山消防組頭等にも

任じ、産業組合理事及び杉山報徳社副社長を現任、曩には本村庵原に清水銀行支店を創設して支店長をつとめたこともある東京協調會、社會政策學院第二回修了生にして村内の中堅である。

元村長 山梨 紫朗
元郡會議員

誠實と眞摯と人格とを兼有する氏は明治十六年四月二十日の出生、村會議員十二年、村長、郡會議員、學務委員、産業組合理事等の要職を歴任して村内に重

きをなし、現在は郷社豊受神社總代及び一乗寺總代として専ら社寺興隆に盡してゐる。



東京農
保氏は
長男治
にして
女の父
四男四

大出身の俊英である。因に當家は十代餘り相嗣ぐ村内切つての名門にして、代々平四郎を襲名し、名主をつとめ、苗字帯刀を許されてゐた。有名な佛教家了徹居士、畫家鶴山、正五位碩學山梨精川の諸氏はいづれも當家より出で、先々代平四郎氏は戸長を務め、先代寛重氏は郡書記江尻貯蓄銀行支配人を歴任して令名高かりし人材である。

庵原村庵原

庵原消防組頭 小笠原民治

當家は氏を以て十七代目に相當する舊

家にて、代々農を営み、曾祖父彌三郎氏は當地に於ける柑橋及び茶栽培の創始者にて永年名主の役をつとめた。氏は明治三十年十月九日先代惣一郎氏の長男に生れ、長じて家業の傍ら消防組に關係盡力するところ多く、組頭たることすでに三年、金馬籠三條、感謝狀表彰を得たること一



再なら
す、當
村消防
組が縣
下有數
の優良

團体となりしは實に氏の功績に依る所甚大である。最近皇紀二千六百年記念として四ヶ年計畫の下にポンプ置場の擴張を圖るべくその實現に邁進してゐる。また氏は村農會指導員としても功績が多い。嚴父は村會議員四期、氏子總代、檀徒總代、區長等に推されし人、家庭には兩親揃つて健在し、令閨との間には四男一女

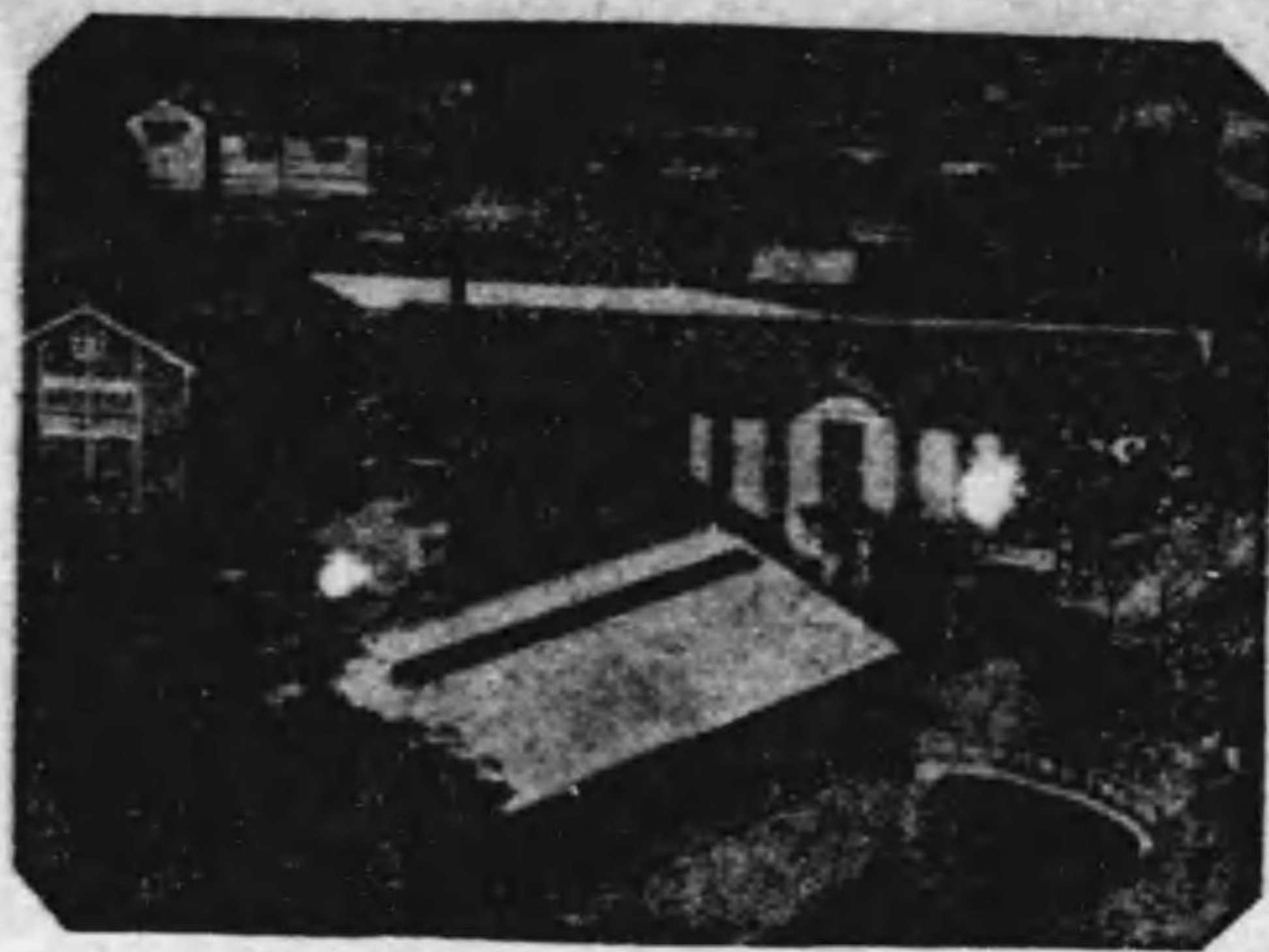
がある。

庵原村山切 杉山甚吾

武藝の聞え高かりし杉山源内左衛門尉貞常の二男杉山源左右衛門尉貞春が當家の始祖にして氏は十三代目に相當する舊家である。初代貞春氏は甲州武士、長徒合戦に敗れて以來當地に土着せるものにして、三代目に至り代官をつとめしことあり、爾來苗字帯刀を許されたが、七代目頃より農を營み今日に及んだ。先代和三郎氏は區長五回、村會議員一期をつとめし自治の功勞者、氏はその長男にして明治二十五年十一月十日の誕生、大正三年青島戦争に参加し勳八等瑞寶章を賜はりし勇士、凱旋後は消防組副組頭その他の要職に就きたるも、目下區長のみならず鋭意部落の融和と繁榮とに盡してゐる。一家より四名の軍人を出して表彰された。家庭は實父和三郎氏のほか令室及び四男四女がある。

庵原村庵原 庵原村庵原 信用販賣 購買利用 組合

當組合は昭和九年八月の創立にて爾來日尙淺きも事業成績顯著にして大いに觀るべきものあり、組合員八百六十名(内法人十)、出資二千四百二十口(一口三十圓)にて、組織は保證責任、信販購利の



四事業
を行ひ
吉原及
び廣瀬
には支
所を置
く。積
極的經
營と組
合員の
理解と
融合し
て今や

優良組合の一に加へられ、貯金は出世、結算、神木等の小額長期積立を奨励して

五十三萬四千圓を突破し、貸付は産業資金が大部分で約二十七萬圓、販賣品中の首位は蜜柑の十一萬圓にて北米、露西亞滿洲等に輸出し、製茶、鶏卵、繻も少なくない。購買事業は肥料取扱を以て第一とし、米穀肥料がこれに次ぎ總額約十六萬圓に上る。利用部には精米麥、製粉、製繻、肥料粉砕等十馬力機十五台を設備する。組合長は牧田誠一氏、専務理事乾藤吉氏、常務理事山梨三吉氏にして、理事は七名、監事は五名である。

庵原村廣瀬

庵原村軍友 杉山建次

實實剛健、村内中堅人物として將來を囑望される氏は、明治二十七年杉山松吉氏の長男に出生、在郷軍人分會長、消防組頭、青年團廣瀬分團長等を歴任、殊に軍人分會に功多く、大正十五年軍人會長、一戸大將より、昭和八年鈴木大將より、それぞれ表彰及び功勞章を受けた。大正十一年には廣瀬觀交會を創立して文

庵原村茂如

區長、長加産 杉山猪之助

材能智謀共に衆にすぐれ、資性濃厚篤實、人望高き氏は明治十九年十一月廿一日の岳降である。抑々當家は當地屈指の舊家にて、元祿時代建碑の墓石等あれど先祖の由來及び年代數は詳かでない。代々農業を營み、先代久助氏は精農を以て聞へし人、氏はその長男にして家業農に従事する傍ら昭和五年より日華生命保險

會社代理店を經營し、契約高頗る多く、



地方代理店中
に頭地を抜
いてお
る。ま
た夙に
茂畑消
防組小
頭に推
されて
活躍貢
献し、

現時區長として部落の向上發達に努力す
るほか、茂畑産業組合理事及び茂畑報徳
社幹事を兼ねて産業方面、社會教育方面
にも裨益貢獻なからざるものがある。

庵原村 吉原

報徳社長 望月 喜代松

公共心に富み多年各種公名譽職に關與

奉仕し來れる片平龜三郎氏は明治九年九
月の誕生、角左衛門氏の長男にて片平家
三代目に當る。日露戰爭に出征し、軍功
を樹て、勳八等に叙され、凱旋後庵原村
軍人分會の發起主唱者となり、また昭和
九年には庵原村軍友會を率先創設して會
長に任じ、後備役を終りたるもの二百十
五名を以て會員とし、一旦有事の際に備
へて精神的訓練を主眼とし、年額金五十
圓の村費補助を受けてゐる。また曩に杉
山消防組頭に推され、二十六馬力ガソリ
ンポンプ購入するなど功績を遺し、現時
庵原産業組合監事、區評議員、報徳社役
員を兼ね、ますます公共の事業に盡瘁し
てゐる。

庵原村 庵原

村會議員 片平 丑藏

精彩變々、曉天の星の如く、庵原村に
特異の存在を示すものは片平丑藏氏で
ある。資性濃厚にして着實、よく衆庶の
範とするに足る。重右衛門氏二男として

盡瘁し、その社會的貢獻枚擧に遑なき氏
は、現時報徳社長、區評議員、氏子總代
金錢債務調停委員を兼ね、人格者として
も有名である。明治六年七月十七日の岳
降にて、前歴の主なるものを擧げて、
氏子總代約四十年、區長五回、役場建築
委員、報徳社副社長、村會議員、吉原消
防組頭、庵原村植林造成監督、學務委員
十四年、郡茶業組合委員四年、郡畜産組
合委員四年、その他十指に及んでゐる。
曩に一家より六名の兵役服務者を出した
る廉により銀盃一個を賜つて表彰され、
有功者としては庵原村より銀盃三組を贈
り表彰せられた。望月家四代目に當り、
先々代喜代松氏は名主をつとめて苗字帯
刀を許されし人、嚴父喜助氏は土地調査
員、區長等に任じた人である。現在家庭
は、母堂いま女、令室、長男喜一郎氏夫
妻並びに令孫があり、平和幸福の主であ
る。

庵原村 草ヶ谷

區長 八等 瀧 龜太郎

思慮深謀周到にして濃厚なる材幹たる
氏は、明治十七年十一月十九日吉右衛門
氏の長男に生れた。先祖は不詳なるも二
十餘代を経る舊家にして先々代徳太郎氏
は庄屋をつとめ、先代は篤農の名が高か
つた。氏は日露戰爭出征の勇士である。
即ち三十八年六月大連上陸後、大石頭勾
附近、饒仁その他各地に守備隊に屬して
駐屯、凱旋後功により勳八等に叙された
その後格勤しつ、在郷軍人分會役員、部
農會長、氏子總代等に推されて盡瘁貢獻
少なからず偉績踏るべきもの多く、現時
區長並に區評議員として部落の信任を一
身にあつめてゐる。令室との間には七男
三女を儲け、長男銳一氏に二男あり、家
庭は頗る圓滿且つ平和である。

庵原村 杉山

庵原村軍友會 片平 龜三郎

眞我を打破し、肺肝を披瀝して公共に

明治十八年四月一日當村字原に呱呱を
げ、大正の頃、獨立して現所に呉服商を
經營、爾來顧客日に増し多く、卓越せる
商才と堅實なる營業とは近隣の信望を増
大して餘りあり、遂に今日の如き大商店
となつた。誠に氏にして初めて成功し得
られたといふべきであらう。先には區協
議員に擧げられ、今また村會議員並に戶
數割調査員として村治上に重要な役割を
果しつゝある。令室との間に二男一女あ
り、平和幸福の恵まれた家庭を持つてゐ
る。

庵原村 杉山

杉山消防組員 望月 吾郎

當家は凡そ二十有餘代を経る舊家にし
て、現住所は字杉山の岩と稱するところ
にて、戸數十戸の小區であり、この十戸
は昔全部當家より分れたるものなりと云
傳へられる。代々農業を營み、先代竹次
郎氏は報徳社役員、區長、産業組合役員
等をつとめたる自治公共の盡瘁者である

氏はその長男、明治二十年十月を以て生
を享け、杉山消防組の一消防夫より同小
頭、同副組頭と約二十五ヶ年間警防の責
務につくし、經驗深く消防に於てはすべ
てに精通し、昭和十二年一月組頭に昇進
意氣あり統制力ある手腕家として今後の
活動は一層期待囑目されてゐる。また先
には區長、國勢調査員たることあり、現
時報徳社役員を兼ねる。長男惣吾氏は庵
原中學校に在學の秀才で有る。

庵原村 原

原消防組頭 草ヶ谷 健次郎

統御の才に長じ聲望遠近に普き氏は、
明治二十一年四月二十三日草ヶ谷勝藏氏
を父としてその長男に生れた。大正元年
原青年協和會副會長常時主唱者となつて
青年消防組を創始した。これ即ち現消防
組の嚆矢にして爾來二十有餘年組頭に任
じて統制指導に當り、名組頭と稱はれて
ゐる。抑々當家の始祖は庵原清五郎忠邦
と稱し當時代官をつとめ、元祿十二年に

會社代理店を經營し、契約商頗る多く、



地方代理店中一頭地を抜いてゐる。また夙に防組小頭を推されて活躍し、

現時區長として部落の向上發達に努力するほか、茂畑産業組合理事及び茂畑報徳社幹事を兼ねて産業方面、社會教育方面にも裨益貢獻甚なからざるものがある。

鹿原村 吉原

報徳社長 望月喜代松

公共心に富み多年各種公名譽職に關與

盡瘁し、その社會的貢獻枚擧に遑なき氏は、現時報徳社長、區評議員、氏子總代

金銭債務調停委員を兼ね、人格者として有名である。明治六年七月十七日の岳降にて、前歴の主なるものを擧げて、氏子總代約四十年、區長五回、役場建築委員、報徳社副社長、村會議員、吉原消防組頭、鹿原村植林造成監督、學務委員十四年、郡茶業組合委員四年、郡畜産組合委員四年、その他十指に及んでゐる。曩に一家より六名の兵役服務者を出したる廉により銀盃一個を賜つて表彰され、有功者としては鹿原村より銀盃三組を贈り表彰せられた。望月家四代目に當り、先々代喜代松氏は名主をつとめて苗字帯刀を許されし人、嚴父喜助氏は土地調査員、區長等に任じた人である。現在家庭は、母堂いま女、令室、長男喜一郎氏夫妻並びに令孫があり、平和幸福の主である。

鹿原村 草ヶ谷 區 八等 瀧 龜太郎

思慮深謀周到にして温厚なる材幹たる氏は、明治十七年十一月十九日吉右衛門氏の長男に生れた。先祖は不詳なるも二十餘代を経る舊家にして先々代徳太郎氏は庄屋をつとめ、先代は篤農の名が高かつた。氏は日露戦争出征の勇士である。即ち三十八年六月大連上陸後、大石頭附近、壤仁その他各地に守備隊に屬して駐屯、凱旋後功により勳八等に叙されたその後格勳しつ、在郷軍人分會役員、部農會長、氏子總代等に推されて盡瘁貢獻少なからず偉績蹟るべきもの多く、現時區長並に區評議員として部落の信任を一身にあつめてゐる。令室との間には七男三女を儲け、長男銳一氏に二男あり、家庭は頗る圓滿且つ平和である。

鹿原村 杉山

鹿原村軍友會 片平龜三郎

眞我を打破し、肺肝を披瀝して公共に

率仕し來れる片平龜三郎氏は明治九年九月の誕生、角左衛門氏の長男にて片平家三代目に當る。日露戦争に出征し、軍功を樹て、勳八等に叙され、凱旋後鹿原村軍人分會の發起主唱者となり、また昭和九年には鹿原村軍友會を率先創設して會長に任じ、後備役を終りたるもの二百十五名を以て會員とし、一旦有事の際に備へて精神的訓練を主眼とし、年額金五十圓の村費補助を受けてゐる。また曩に杉山消防組頭に推され、二十六馬力ガソリンポンプ購入するなど功績を遺し、現時鹿原産業組合監事、區評議員、報徳社役員を兼ね、ますます公共の事業に盡瘁してゐる。

鹿原村 鹿原

村會議員 片平 丑藏

精彩變々、曉天の星の如く、鹿原村に特異の存在を示すものは片平丑藏氏である。資性温厚にして着實、よく衆庶の範とするに足る。重右衛門氏二男として

鹿原村 杉山

杉山消防組員 望月吾郎

明治十八年四月一日當村字原に呱呱をあげ、大正の頃、獨立して現所に吳服商を經營、爾來顧客日に増し多く、卓越せる商才と堅實なる營業とは近隣の信望を増大して餘りあり、遂に今日の如き大商店となつた。誠に氏にして初めて成功し得られたといふべきであらう。先には區協議員に擧げられ、今また村會議員並に戶數割調査員として村治上に重要な役割を果しつゝある。令室との間に二男一女あり、平和幸福の恵まれた家庭を持つてゐる。

鹿原村 原

原消防組員 草ヶ谷健次郎

統御の才に長じ聲望遠近に普き氏は、明治二十一年四月二十三日草ヶ谷勝藏氏を父としてその長男に生れた。大正元年原青年協和會副會長當時主唱者となつて青年消防組を創始した。これ即ち現消防組の嚆矢にして爾來二十有餘年組頭に任じて統制指導に當り、名組頭と謳はれてゐる。抑々當家の始祖は鹿原清五郎忠邦と稱し當時代官をつとめ、元祿十二年に

物せる人、その父は久林玄長居士と謂ひ常村内所在久林寺の開山として有名である。また玄長の父は庵原安房守忠胤と稱し當時三萬五千石を賜り、永祿十二年江尻城を築いた人である。かゝる由緒深き家柄にて、現に代官庵原清五郎氏が着用せしといふ太刀一振を家寶として秘蔵する。

庵原村 伊佐布

村會議員 望月 十三郎

直情徑行、責任感に強き氏は、篤農家として信望高かりし望月岩吉氏の長男、明治十年九月を以て生をこの世に享け、望月家五代目の家督を嗣いで今日に至つた。夙に庵原村役場書記を拜命し、専ら稅務、土木の事務を擔任し、實に勤続二十ヶと六ヶ月、昭和六年辭するに際して郡町村長會より表彰さるゝの光榮に浴した。國勢調査員たること五回、區長就任二回、また伊佐布信用購買販賣組合は氏が村役場在職當時發起主唱の下に設立

せしものにて組合長として活躍した。目下野鶴を友として悠々の日を送つてゐる。

庵原村 山切

區長 杉山 太郎

性氣光澤、人に迫るの力ある氏は、先きに庵原村在郷軍人分會山切班長たりし頃分會の基本金造成に役員と共に盡力し軍人會長一戸大將より表彰されし功勞者である。また大正十年山切消防組設立には主唱奔走して功あり、創設と共に小頭にあげられ、引續き組頭となり、組員の信望を一身にあつめた。明治二十七年六月四日の出生にて杉山家八代目の當主現に山切區長に任じ、産業組合青年聯盟山切支部長を兼ねる。尊父庄太郎氏は村會議員、區長、氏子總代等の職をつとめ殊に報徳社長當時は山切區内に報徳社が二社ありたるを統一指導せる人にて、昭和九年大日本報徳社より功勞により表彰

せられた、目下野鶴を友として悠々の日を送つてゐる。

庵原區長 山梨 榮作

英明なる資性と鋭敏なる頭腦とを有する氏は故山梨榮作氏の長男として明治九年十月に生を享けた。静岡歩兵三十四聯隊に入隊し、營勤務して善行證書を附與され、日露戰



日露戰 隊に入 營勤務 して善 行證書 を附與 され、 日露戰

役には野津大將の第四軍麾下として出征首山堡、遼陽、沙河、奉天、鐵嶺、開元昌圖の激戰に参加し、勳八等桐葉章を下賜された。凱旋後専ら農に従事したが明治四十五年頃より茶の製造業を開始し、傍ら袖師綠茶組合副組合長、那茶同業

組合代議員二期、庵原消防組小頭三期、同部長一期をつとめ、現時庵原區長及び檀徒世話人として郷黨のため努力してゐる。當地方に於ける機械製茶の草分にして昭和八年三月縣茶業組合聯合會長より製茶の優等賞を賜つた。家庭は實母と令関及び四男三女である。

庵原村 杉山

農會副會長 村會議員 産業組合長 牧田 泰司

郷黨に隱然たる勢力を有して人望高き氏は、明治二十二年七月の岳降である。思想健全意志鞏固、早くより社會教化並に自治産業のことに關與して功績多く、消防組頭、區長を経て、現在村會議員、學務委員、寺院檀家總代、杉山報徳社幹事、村農會副會長、産業組合長、その他村内各種要職を兼任する有力者であり實力家である。抑々當家は十代餘りの舊家にして農を業とし、亡祖父喜之右衛門氏は村會議員に選ばれ、區長に任じ、報徳

社副社長、産業組合理事をつとめし先覺者、また亡父角次氏も村會議員をはじめとし、區長、報徳社副社長、産業組合理事等に擧げられて郷土の發展に寄與多かりし人、父祖相續いて公共事業に奉仕せる名譽の家柄である。

庵原村 庵原

村農會會長 長澤 虎吉



虎吉氏 威福を擅にし、聲望遠近の普きは長澤

亡父嘉十郎氏は村役場書記を振出しに村會議員、區長、社寺總代、郡會議員、同參事會員、所得調査委員、那茶業組合委員、郡柑橋組會議員、縣茶業聯合會議員



區長二期、村農會會長、學務委

員、在郷軍人分會副會長、消防組小頭、同組頭を歴任、また大正十二年以來村農會會長たるほか産業組合理事、日本綠茶産業組合長、社寺總代を現任し、文字通り減私奉公の誠を致してゐる。

庵原村 吉原

前村會議員 國持 富太郎

才智鋭敏を以て鳴る氏は、村會議員に選ばれること二回、氏子總代、檀家總代、郡農會會長、村農會役員等の要職に就いて

公共に奉仕し、また清水市庵原郡茶業組合代議員、同常議員、國勢調査員三回、吉原消防組副組頭二期、同組頭二期をつとめ功績多く、現在清水市、庵原郡製茶業組合委員の任にある。明治二十年九月一日の出生にて静岡中學校出身の新時代人、信望普きものがある。當家は吉原區内國持姓の名家として知られ、相當由緒深き舊家であり。代々農を營み、尊父富治郎氏は戸長、學務委員、氏子總代、村會議員等を多年勤め、また幼年の頃より弓術を修め、目下吉田流三段の免許を有する達人である。家庭には四人の令嬢を擁し明朗平和である。

庵原村 吉原

村會議員 望月 利作
動八等

望月家七代目の當主たる氏は明治二十五年三月二十四日の岳降、祖先は代々農を營み、尊父岩次郎氏は永年區長、區協議員、氏子總代をつとめて部落のため努

力せし人望家である。氏は大正三年日獨戦争に出征し功により勳八等瑞寶章を賜りし人、早くより自治産業に關與貢獻し國勢調査委員にも囑託され、現時村會議員、庵



原村産業組合 監事、駿遠家 畜保險 組合副

組合長、郡畜産組合副組合長、村農會幹事、氏子總代、吉原區農事實行組合長、清水市庵原郡豚羊組合長を兼任し、殊に畜産方面には盡力多く、農事實行組合も氏が首班として事業は發達して、一ヶ年だけで、二十萬貫以上の共同出荷をしてゐる。

庵原村 伊佐布

消防組頭 川端 導太郎
動八等

道徳心強く、眞面目なる人格者として

知られる氏は、明治三十年十二月二十日を以て故才次郎氏の長男に生れた。祖先の由來は詳かならざれども、判明せる分だけによつても氏を以て十四代目とする舊家にして、代々篤農家として名あり殊に先代才次郎氏の如き當地農業に近代的经营法を取入れたる先覺者で、農耕の改善改良に寄與するところが多かつた。氏は大正三年日獨戦争に参加し、戦功により勳八等に叙せられた。郷に在つては一意家業に勵み、昭和十年からは伊佐布消防組頭に任じて部落警備の大任を果しつゝある。

庵原村 廣瀬

廣瀬區長 杉山 貞治

當家は當主貞治氏を以て十七代目に相當する舊家にしてその昔武田信玄没落と共ニその家臣分散の己むなきに至りし際一時當家に寄宿せしもの多數ありと傳へられる由緒ある家柄である。先々代は永年庄屋の役をつとめ、先代新作氏は區長



要職を兼ね、人格高く手腕に富み、日蓮宗の信仰に篤い。家庭には内助の功多き令閨との間に一男一女がある。

庵原村 原

畫家 故 柴田 泰山

泰山は、通稱正中、泰山はその號である。文政元年九月宇右衛門氏を父として生を享けた。幼より畫を好み、人々傳へて以て奇童となす。六歳の時父孝經を授くに一回にして能く記誦したといふ。七

村農會總代等に任じて信望を一身にあつめてゐた。當主は新作氏の三男、明治二十四年六月四日を以て生をこの世に享け村農會總代、私設消防組頭二期を経て

現時廣瀬區長 村農會 評議員 私設消防組頭 問等の

八歳の交、山梨鶴山に畫法を學び、文政九年九歳の時、上野輪王寺宮に召され御前に於て畫を描き、宮家より姓を石と賜つた。その後徳大寺中納言、日野大納言の御前にも揮毫し、神童と稱された。十五歳の時父宇右衛門氏の肖像を畫き、現に柴田家に所蔵する。十六七歳にて病を得るや大いに讀書に親しみ、太平記を讀んで人倫の大義、忠臣孝子の事歴を悟り、四書五經等を素讀して自ら德行を修め、弘化四年二十八歳にして京都に上り岸岱の門に入り、蘊奥を究め、業成りて郷に還る。嘉永四年居を駿府札の辻に卜す。當時泰山の名遠近に傳へて知らざるものなく、特に鶴を描くに妙を得、泰山の鶴と稱して有名である。温良の質父母に事へては孝、この事町奉行に聞え、安政六年褒賞五貫匁を賜ふ。世泰山を目するにた、畫工を以てするも、學は歴史に涉り、頗る書を能くし、天性仁慈にして深く佛教を信じ、繪畫の染筆料として鯉鰻等を贈るものある時は竊かにこれを附

庵原村 吉原

消防組頭 西子 孝雄
村會議員

近の川に放流したといふ。明治十七年九月札の辻の偶居に歿す、享年六十七歳。

氣概に富み、明朗快活なる氏は明治三十九年八月二十一日の誕生、而立を越えて僅かに二歳、しかも人望全村に普く、曩には村青年團長に推舉され、今亦中農産業組合青年聯明常任幹事、産業組合青年聯盟理事長としてヤンガーゼネレーションの間に人氣あり、又吉原消防組頭及び村會議員の任にあり、若年よく先輩に伍して堂々の論陣を張つてゐる。因に當家は吉原區隨一の舊家と傳へ、現住家屋は三百年前の建築に係るといふ。代々農を營み、先代傳作氏は静岡歩兵第三十四聯隊に在役中鬼軍曹の稱ありし大丈夫、一切の公名譽職を退けて一意家業農に従事し、精農の開え高かつた。現在家庭は母堂及び夫人並に令嬢あり圓滿を極む。

飯田村 片平 活太郎
信用組合長

才鋒鋭利、一村の首班として信望を一身にあつめる氏は明治十八年一月四日の誕生である。頭腦衆に勝れて明敏、加ふるに手腕と力量を有し、多年の経験によつて自治の運営宜しきを得、更生飯田村は氏の力によつて強く生きて行くのだ。助役をつとめしこと二期、村長も現在二期目で、大正十年頃から引續き今日まで村會議員に當選し、また本村産業組合の生みの親にて創立當初から組合長として貢献洵からず、誠に本村が有する誇りであり、至實とも稱すべき材幹である。

飯田村 山梨 勇作
元飯田村長
醬油醸造業

實性極めて快活、且つ業務に熱心なる氏は明治十五年一月の出生である。山梨家は部落屈指の舊家にして、尊父愛之助氏は村會議員及び村長たること多年、ま

た郡會議員その他の自治公職に選任されし功勞者である。氏はその血を享け公共に盡瘁するところ多く、明治四十五年醬油醸造業を創始し、醬油「ヤマ梨」は全國



醬油品 評會に於て一等賞を受けし優秀品 現在年

産五百石内外なるも販賣市場は年々擴大の一路を辿つてゐる。大正六年以來村會議員として活動せるほか、産業組合理事同監事、區長、村長一期、消防組頭等を歴任、現に學務委員を兼ねて村内屈指の有力者といはれる。

飯田村 高橋 組合
信用販賣 購買利用

電話清水一七四番
當組合は昭和九年八月村一圓を區域と

して事業を開始し、保證責任にて信販購利の四種を兼營する。組合員三百五十名出資七百三十餘口を算し

貯金 十萬八千圓
貸付高 四萬四千圓
購買高 五萬一千圓
販賣高 四萬五千圓

の事業分量を示し、組合員は多年の不況打開に自覺し組合絶對利用に關進しつゝあり、利用事業に於ては小規模ながら完全なる設備と低廉なる利用料とはますますその便益と實効の多きを認められ、近く雜貨陳列所も建設されんとしてゐる。組合長は片平活太郎氏、専務理事松永廣氏、常務理事岡瓊山氏、主事理事澤井清氏である。

飯田村 峰ヶ谷

元村農會長、元村 平井國松
會議員、學務委員

自治功勞者中一頭地を擯んじてゐるものはわが平井國松氏であらう。慶應三年

正月十二日代々農を營む部落の舊家たる平井家に先代彦治郎氏の男として生を享けた。彦治郎氏は戸長時代の用掛をつとめたる材幹、氏もまたはやくより社會公共のために私を去て、盡瘁し、村會議員たること多年、また區長、村農會長、消防組員、郡會議員、郡柑橋同業組合委員同聯合會委員、蜂ヶ谷報徳理事、同社長等擧げ來れば限りなき程地方自治及び産業關係の諸公名譽職に就任し事績大いに觀るべきものあり、現在は産業組合理事及び善應寺檀徒總代、八幡神社氏子總代等を兼ね、村治の元老として尊敬されてゐる。

飯田村 山原 村農會長 吉川 禎太郎

村内切つての由緒ある名門にして舊家たる吉川家に、明治二十四年を以て生を享けたる氏は、人格者として普く信望あり、また自治産業の功勞者として知られる。先々代宜英氏は區制時代の區制をは

じめ庵原郡長、縣會議員等をつとめたる地方自治界の重鎮、先代東平氏は村會議員、村長、村農會長、郡會議員、清水銀行頭取等、自治方面の有力者たるのみならず當地事業界の雄と稱され、六十五歳を一期に永眠した。氏はこれら父祖の遺風を受けて夙に社會公共に盡力し、東京大成中學校を経て東京農科大學卒業後、専ら郷黨のために奉じ、現時村會議員、學務委員、村農會長、産業組合理事等を兼ね、村内有數の人物といはれる。

飯田村 下野 村會議員 杉山 武七

當家の祖は鎌倉幕府の重臣にして武藝の譽れ高く、爾來十三代相次で代官その他の高職に就き、累代右近を襲名せる名門である。先代は初め嘉十郎と稱したが後、右近を襲ぎ、漢學の達人として令名がある。氏はその男、明治二十五年二月二十日を以て生を享け、人格高く人望は厚く、夙に消防組頭、區長等を歴任、現



時村會議員たるほか眞珠院檀徒總代を兼ねる。曩に高橋に三等郵便局を設立するに當つて盡力多く指し定局として許可されるに至つたのは氏の功績による所大である。家庭には三男六女を有し、長男嘉十郎氏は江尻電話中繼所に勤務する。因に叔父強之助氏は慶喜公に弓の指導をなせし程の名人である。

飯田村 山原 元村長 吉川 鉦太郎

己れを持する堅く、人を遇するに懇切なる氏は明治六年の出生に係る。尊父恒太郎氏は生前部落總代たること多年に及び、事績頗る多く、全部落民より慈父のごとく敬慕されし人である。氏は家業の

傍らにはやくより自治公共の事業に力を竭し、町村制實施後間もなく村書記を拜命して役場に入り、引續き収入役、村長に任じて功績多からず、又區長、村會議員たる



本村農
はよく
として
農會長
年、村
こと多
員たる

事の改良と多角的經營の獎勵につとめ、現時長福寺檀徒總代及び郷社關田神社總代を兼ね老後を神佛に捧げてゐる。長男有造氏は會社員にして、明朗な紳士である。

飯田村

醫學博士、内科 松永茂助
松永醫院長

電話清水五三八番

松永家は先々代文貞氏より飯田村に住して醫を業とする。文貞氏は皇漢醫とし

て令名高く、先代亮貞氏は東京帝大別科出身にして内科の診療に特技を有し、十五ヶ年間開業の傍ら村會議員、學務委員、村醫、校醫等を兼ねて自治及び公衆衛生に裨益



せると
ころ妙
なから
ざる功
勞者で
ある。

當主松永茂助氏は長野縣更級郡御厨村の産、明治十五年二月二十四日を以て呱呱をあげ、長野中學校を経て千葉醫學專門學校に學んだ。明治三十八年卒業と同時に日本赤十字病院に勤務して内科の實際に當り、更に鐘紡兵庫病院、千葉醫學解剖科、東京帝大病理學科等に研鑽を積み特に山極勝三郎、井上通夫の兩博士に師事すること深かつた。明治四十二年獨逸に留學、プレスラウ大學ではチエーハツセ氏に、ミュンヘン大學ではオンパウエ

ル氏及びマイ氏に就いて蘊奥を探り、歸朝後明治四十四年現在地に父業を繼承して開業今日に至り、大正四年六月分泌に關係ある三臟器と淋巴管に關する研究論文及び腹部按壓の血壓に及ぼす影響、脊髓癆と大動脈疾患に就いてなる論文を呈出して醫學博士の學位を授與された。會て郡醫師會副會長たることあり、現時村醫及び校醫を兼ねる。長男朗氏は慈惠醫大を出て目下母校内科教室に研究中、令弟吉澤五郎氏は醫學博士である。

小島村

郡町村長會副會長、小島村長、深澤方中
從七位勳六等

郡内町村長中の元老たる氏は慶應四年一月の岳降、同三十六年小島郵便局の開設と同時に局長に任じ、在任二十五ヶ年從七位勳六等を賜はり昭和五年退職するや、同年四月あけられて村長に就任今日に至る。村會議員は三十八ヶ年勤続にして今なほその任にあり、學務委員、郡會

議員二期、郡柑橋組合長十ヶ年、縣柑橋同業組合聯合會長三期、郡農會幹事十三ヶ年等を歴任、村長としては經濟更生に力を致し役場廳舎建築、道路改修、學校増改築等の事業を完行した。因に長男九郎氏は中泉農學校出身にて小島局長を現任し、先代敏郎氏は村會議員、助役等に推されし敏腕家である。

小島村

村會議員 山本新作

圓滿無礙の先覺者たる氏は明治十五年一月十八日の岳降である。祖先是遠く元祿に始まり、連綿三百年を相繼ぎ、祖父新右衛門氏は日清戰爭當時の功勞者、尊父重郎右衛門氏は人民總代、區會評議員をつとめ大正九年永歿した。氏は家督相續前より消防組小頭をつとめ、大正十四年より今日まで村有林監督の任に當り、また村會議員、家屋稅調査員、柑橋組合代議員、農會代議員、畜産組合代議員を現任し、村内屈指の功勞者である。昭和

五年頃より蓑の製造を獎勵し、當時村内生産六百枚に過ぎなかつたものが今では四千五百枚を産するに至り鐵道省その他に納めてゐる。長男惣氏は明治四十三年の出生、中泉農學校を出て農會の養蠶事務に携はり、將來を囑望されてゐる。

小島村 小河内

小島村農會幹事 北條皓信

當家は永祿年間北條新三郎氏によつて立てられ、爾來實に三百七十年、當地切つての舊家である。現在隱居の身となれる先代



國作氏
は區長
村會議
員、郡
會議員
等を勤

めし功勞者である。當主はその男、明治三十三年十一月十六日に生を享け、大正七年中泉農學校を卒業、昭和三年家督を

相續した。農會幹事たること六年、また村會議員、消防組副組頭、氏子總代にも任じて活躍目覚ましく、或は柑橋研究會を起し、或は消費組合を設置し、表彰されること十餘回に及ぶ。家寶に鏡、太刀、薙刀、馬具、田中光顯伯筆祭文等がある。趣味として姓名學、甲冑刀劍類の鑑定、史料蒐集がある。溫和且つ中庸を得たる紳士、家庭には三男四女を持つ子福者である。

小島村 小河内

元郡會議員、元小島村長、加瀬澤森太郎

加瀬澤家は部落の舊家にして代々庄屋を勤めし家柄、氏は元郡會議員山本文助氏の五男にて、明治十八年十一月十八日の出生、後ち加瀬澤家の養子となつた。明治三十六年村書記に任ぜられしを振出しに地方自治界の人となり、三十八年郡書記を拜命して四十四年まで勤続し、その後助役、郡會議員、學務委員に選ばれ大正十一年四月より昭和五年まで村長に

選任村政を司り、また郡置糸同業組合役員たることあり、現時郡茶業組合副組長及び社寺總代の任に就き、なほ多年村會議員を兼ねて今なほその任にある。部落の元老にして村治功勞の第一人者、名望頗る高い。

小島村 小河内
中島 一雄

意志堅固、方技に冴える氏は兵庫縣美方郡村岡町中島美郷氏の二男として明治十六年二月二十二日を以て生れ、京都同志社中學、大阪天王寺中學校等に學び、明治三十九年日本醫學校を卒業した。その後大正二年まで東京の各病院に研究勤務して臨床上の知識を積み、同年十一月當地に開業今日に至つた。開業と同時に小河内小學校醫、宍原小學校醫、小島村醫を囑託され、爾來村の衛生、殊に學校衛生に盡すところ多く、昭和三年村教育會長、同八年郡教育會長、同九年縣教育會總裁等より表彰された。尙日露戰爭の

際は功により勳八等に叙され、奉安殿及び小學校舎建築の際は學校建築委員に推されて盡力した。嗣子郷雄君は中學校在學中、尊父美郷氏は郷里村岡町長、町會議員等をつとめし人、令兄寛氏は元小學校長にして現町會議員、土地の名望家である。

小島村 小河内
中駿畜産組合長 瀧 貞吉

濃厚篤實にして庶人の人望厚き氏は明治十三年庵原郡飯田村高橋山梨喜次郎氏の次男に生れ、夙に教育家たらんことを欲し、師範學校講習科を出て飯田小學校に教鞭を執ること約五年、請はれて瀧家の養子となるに及び小河内小學校に轉じここに在勤八ヶ年、文字通り慈父の如き愛情を傾けて兒童の薫陶に力を注いだ。退職後は専ら意を自治公共の事業に用ひ區長代理をつとめ、信望をあつめて村會議員に當選して現にその任にあるほか、神社寺院總代、村農會幹事、郡畜産組合

松野村

秀村 醫院

電話 松野五番

元來醫は仁術とせられ、患家に對し打算を超越して接する美風が、殊にわが國には多かつた。最近極端に營利化するもの少なからざる中であつて、當醫院は患家の經濟的負擔を慮つて常に實費を以て投藥し、四隣に名聲噴々として高きものがある。經營者秀村末雄氏は明治十九年九月の岳降、愛知醫科大學を優秀なる成績にて卒業し、大正四年七月當醫院を開設した。内科を主に一般診療に當り、従業員三名を擁し、昭和六年からは富士郡芝川に出張所(電話芝川二二番)を設け益々隆盛の一途を辿つてゐる。松野小學

校醫にして郡醫師會理事の要職にあり、家庭は令閨僅か五人である。

内 房 村
本 成 寺

當寺は十開大曼陀羅を本尊とする日蓮宗の寺院にて、文明十一年の創草、相當



古い歴史を持つてゐる。境内廣く清鮮の氣に溢れ、日遠上人深草元政上人日蓮上人等が

實として日蓮上人の御眞筆、器物、什寶を蔵し、御例式、彼岸祭、節分會、舊三月三、四日大祭等の行事が行はれる。檀家は内房村、由比町、大宮町、芝富村等に亘り、總代は望月千代藏、森近太郎、遠藤亮、遠藤松太郎、森亮太郎、望月伍鹿、遠藤十太郎の諸氏、現住職志村要藏師は博學多才の善知識として近郷に定評がある。

小島村 但 組
小島村 信用販賣 組合

電話 小島三番

當組合は大正十四年十月の創立に係り有限責任にて四種事業を兼營し、昭和八年二月保證責任組織に改めた。設立の主動力となつたのは生茶共同販賣を以つて目的とする實行組合である。區域は村一圓組合員二百九十名、出資四百三十餘口(一口五十圓)にて、組合員は勤儉の思想に富み貯金十三萬圓を越え、付付金は堅實なる生産資金を主に五萬八千圓に上り

購買事業は肥料、飼料、農業藥品、雜貨等いづれも年々取扱數量を増し、販賣事業は蜜柑、生薑、生茶、鶏卵を主に年十萬圓を突破する盛況にあり、利用部は製粉、精白、製麵、肥料粉砕及び配合等利用料の低廉によつて盛況を呈し、特に自動車の活動は産業經濟に資するところ甚大である。現組合長堀池潔氏は現縣信聯事務理事にして斯界の重鎮としてその名聲噴々たり。

小 島 村
村會議員 瀧 常五郎

たとへば寒梅の魂として香氣を放つごとく、汲めども盡きせぬ氣品を有する氏は明治十九年一月十五日の誕生である。その祖は元祿十五年の頃より現在の地小河内村坂本に住した。氏は望まれて瀧貞次郎氏の養嗣子となり、區會議員、報徳社理事等をつとめて信望ありし貞次郎氏が昭和六年永眠するや、同八年その後を襲つて家督を相續した。人望頗る篤く、

昭和四年村會議員に當選するや引續き再選今日に至り、また養蠶組合長、報徳社理事の榮職にあり、嘗ては歩兵三十四聯隊に入營、退役後軍人組合（現軍人分會の前身）長を勤むること五年、消防組組長たること二十年の長きに亙り、表彰再三に及ぶ。政黨關係は民政黨系の中立である。家庭では六男四女の上き父であり長男義行氏は勳八等瑞寶章を有する將來有望の俊才である。

小島村 但 沼

元庵原郡會議長 平岡喜太郎
元小島村長

當家は部落の舊家にして元望月姓を名乗り數代前より平岡姓を稱へ、代々農業を營み百姓代を勤めた家柄である。氏は但沼報徳社創立の恩人にして、明治二十一年より昭和七年まで社長をつとめ、功により頌徳碑を建てられた。また明治二十三年より昭和七年まで郡茶業組合役員、同組組長、同組合長に任じ、その他



職名

に違なく、大正五年御大禮饗宴を賜り、翌五年大禮記念章を拜受、また昭和四年茶業功勞者として、賀陽宮、閑院宮兩殿下に拜謁を賜つた。齡七十餘、なほ雙鏢として壯者を凌ぐ。二男三女を有し、長男文雄氏は明治三十二年六月の出生にて中泉農學校出身、村會議員、學務委員、村農會幹事、報徳社副社長を現任し、次男長雄氏は明治大學を出で近代青年に

して、高部村の名望家梅澤家に養子とな

小島村 但 沼
小島村農會會長 望月喜多司

當家は代々小島村に住する舊家にして先考久作氏は明治四十三年三十六歳にて春秋に富める身を夭折したるも郡農會議員、村會議員、或は養蠶委員等を多年勤め、幾多部落のために盡力し功勞筆紙に盡し難きものがある。當主喜多司氏はその男、明治三十年十二月四日の出生にて漸く不惑を越えたばかり、圓滿篤實の紳士と長敬され、村農會副會長をつとめること十一年の長きに亙り、昭和九年農會長に擧げられて今日に至り、その事績は枚舉に遑がない。因みに村内屈指の名望家たる氏は、大正五年中泉農學校の出身にて、家庭には六人の子女を有し、長男信夫氏は庵原中學校を出て茶業試驗場に勤務中。

袖師村 西久保

靜岡縣町村長會副 柴田 忍

農を營み舊家として知られ、先考勝太郎氏は村會議員その他の公職を無任せる信望家、氏はその男にして明治十四年十月十五日を以て生れ、同三十四年靜岡中學校卒業、大正四年以來村長をつとめ、傍ら村農會會長、西久保耕地整理組合長を任、現時縣町村長會副會長に擧げられて町村長中に重きをなすほか、縣茶業聯合會所議員、庵原郡清水市茶業組合長、郡農會副會長、庵原郡清水市柑橘同業組合副組長等諸産業團體の重職を兼ね、また日本紅茶株式會社取締役にして事業界にも覇を稱へる。長男功氏は慶應大學醫科出身の新進刀圭家にて將來を囑目されてゐる。

丸共製材所 村 松 治郎吉

丸共製材所 村 松 治郎吉

志操堅實、確固不拔の精神を有し、木



材界第一人者の稱ある氏は、遠州濱松の出身にて、昭和二年清水市外袖師海岸に丸共製材所を設立した。次弟治平氏は同所に村松製材所を獨立經營して居り、三

第八郎 氏は製材所を 輔佐し 工場支 配人と して采

材界の重鎮、奇しとも偉なりともいふべきである。長兄たる氏は清水港材木商組合評議員の任にあり、製材所の製品は縣下一般は勿論京阪神、朝鮮、滿洲、北海道方面に販路を有し、昭和十一年度内の生産額十五萬圓に上り、製材製函建築木材を主とし、今後ますます發展の途上に

袖師村 西久保

日本綠茶 販賣 組合

當組合は昭和六年四月の創立に係り、初めは日本綠茶生産組合と稱しソヴエト、ロシヤ、モロツコ、トリポリ、アフガニスタン等へ綠茶の販賣をなすを主なる事業とし、その後保證責任日本綠茶販賣購買利用組合と改稱、組合員六十四名、出資八百六十餘口（一口三十圓）にて、生産者として直接輸出する産業組合は全國唯一であり、組合員の團結と大方の聲援により益々發展し、購買二萬圓、販賣十五萬圓、利用料二千五百圓の年額を示してゐる。現組合長は長澤虎吉氏である。

袖師村 横 砂

東海造船株式會社

わが重工業界は軍需關係、北鐵代價の船舶機械、その他一般の産業貿易の進展に伴つて活況を呈し、従つて當社も續々入渠申込役利し、新造修理共各部機能の

許す限りに於て極力註文主の要望に應ずべく努力するもなほ足らざるほどの繁忙である。昭和十年三月三十一日の創立なれば日尙濃きに拘らず、かゝる盛況を呈するは、當社の基礎の堅固なることを語らずして證するものであり、取りも直さず役員力量手腕に依るものである。資本金十萬圓、代表取締役甲賀英逸氏、常務取締役加藤啓次郎氏、同杉村一夫氏にして、取締役四名、監査役四名を算し、將來ますます工場設備を完からしめると共に、工費は格安、工事は絶對責任、のモットーのもとに業績を擧ぐべく邁進してゐる。

兩河内村

前村長 望月育治

意志堅固、圓滿有徳の人と畏敬される氏は望月家三代の當主にして慶應二年十月三十日の出生、幼時寺小屋に學び、明治二十五年靜岡師範を卒業、暫らく教育界に身を置き、退職後は公益に盡瘁し、

功績特筆大書さるべきもの多く、郡會議員は勿論のこと村長に選任されること前後四回、縣當局より木盃を贈られ、村よりは度々表彰された。今は道を後進に譲つて身



氏にゆ

つた。年齢七十有餘、なほ壯者を凌ぐ有様にて、村全般の衆望があり、兩河内村に於ける文字通り村實的人物である。趣味に基、養鶏、釣、小鳥がある。因に長男寛一氏は和島に於ける有力者にて産業組合長の要職に就いてゐる。

兩河内村和田島

兩河内信用販賣組合

電話和田島二番

當組合は昭和九年十二月の事業開始に

て、組織は保證責任、四種事業を兼營し、組合員約二百二十名、出資四百三十口(一口二十圓)をかぞへ、村一圓を區域とし、貸付金七千五百圓餘、貯金二萬圓餘、購買價格八萬圓餘、販賣價格五萬圓餘、利用料五百圓餘の成績を示し、販賣に於ては柑橋を第一とする。昭和十一年一月には中河内に支所を設置した。設立後日淺しと雖も事業の發展大に觀るべきものあり、今後の飛躍こそ刮目に價する初代組合長望月育治氏は村會議員、學務委員、消防組頭、村長、郡會議員等たりし自治の恩人、現組合長望月寛一氏は元消防組頭として令名高く、専務理事昌直一郎氏は中泉農學校出身の一年志願兵少尉にて正八位を有し、青年團長、消防組副組頭たりしことあり、現に在郷軍人分會長を兼ねる。

兩河内村

養田寺住職 鷺見義雄

鷺見家は代々中河内村小河に住し、先

代峻岳師は養田寺住職三十年に及び、昭和十一年永眠の床に就き、氏は法燈を嗣いで六世の住職となつた。明治三十年二月六日の出生にて大正七年岐阜師範學校を卒業し、興津尋常小學校訓導を経て、現時中河内小學校の教壇に立ち、また靜岡、沼津地方の布教研究會幹事を兼ね、和田島青年學校助教諭をつとめる。三年皆勤の表彰をはじめ、五年皆勤、七年皆勤により縣並に郡より表彰を受け、生徒一同の氏を敬慕すること慈父の如く、氏また生徒を愛することわが子の如くである。讀書講演に興味を持つ、家庭には三男二女あり、長男俊峻君は目下小學校に通學中、將來養田寺を繼ぐ人である。

松野村 南松野

松野郵便局

近時遞信事業は漸次重きを加へつゝあり、地方郵便局また地方文化及び産業の向上伸展に資するところ多く、生をこの世に享けしものにて遞信事業の恩恵を蒙

らざるものはない。當松野郵便局は松野村一圓を管轄區域とし、貯金、爲替、内外電信、電話等の事務を取扱ひ、四名の事務員並に集配手は、迅速正確をモットーとして局務に當り、庶民の感謝並々ならぬものがある。初代局長は清水玄一氏にして現局長は清水雅信氏である。氏は人格高く、識見豊に、局員からは云ふまでもなく、當地有数の人材として尊敬されてゐる。

松野村 南松野

東光寺

當寺は藥師如來を本尊とし、そして宗派は臨濟宗に屬する古刹で、本山を妙心寺とする。弘治元年の創建といはれ、年を経ること三百十八、中世二回ほど祝融の災に見舞はれ古記録、寶物等多數烏有に歸せしため由緒沿革の詳細を知るを得ざるは残念である。境内面積六反歩、舊蹟として地藏堂あり、善男善女の參詣す

内房村

内房郵便局

當郵便局は内房村一圓を管轄區域とし、開局と同時に郵便集配並に爲替貯金事務を開始し、通信文化に寄與せる貢獻多く當局出現により本村民は郵便物受配に於て一日或はそれ以上の短縮を得て利便頗る大きい。昭和八年には電話事務も開始同十年には内外電信を取扱ふやうになつた。一ヶ年の郵便取扱数は九千五百通を算し、各種保險年金加入数は約四百件弱である。吏員三名、傭人六名の従業員は

熱心に公務に従事し、望月彌作氏、森万太郎氏、森亮太郎氏(現任)の歴代局長また手腕を有して局務を總括し、當地三等局長會の中に於ても重きをなしてゐる。

庵原村

村會議員、郵便局長、鈴木敏一

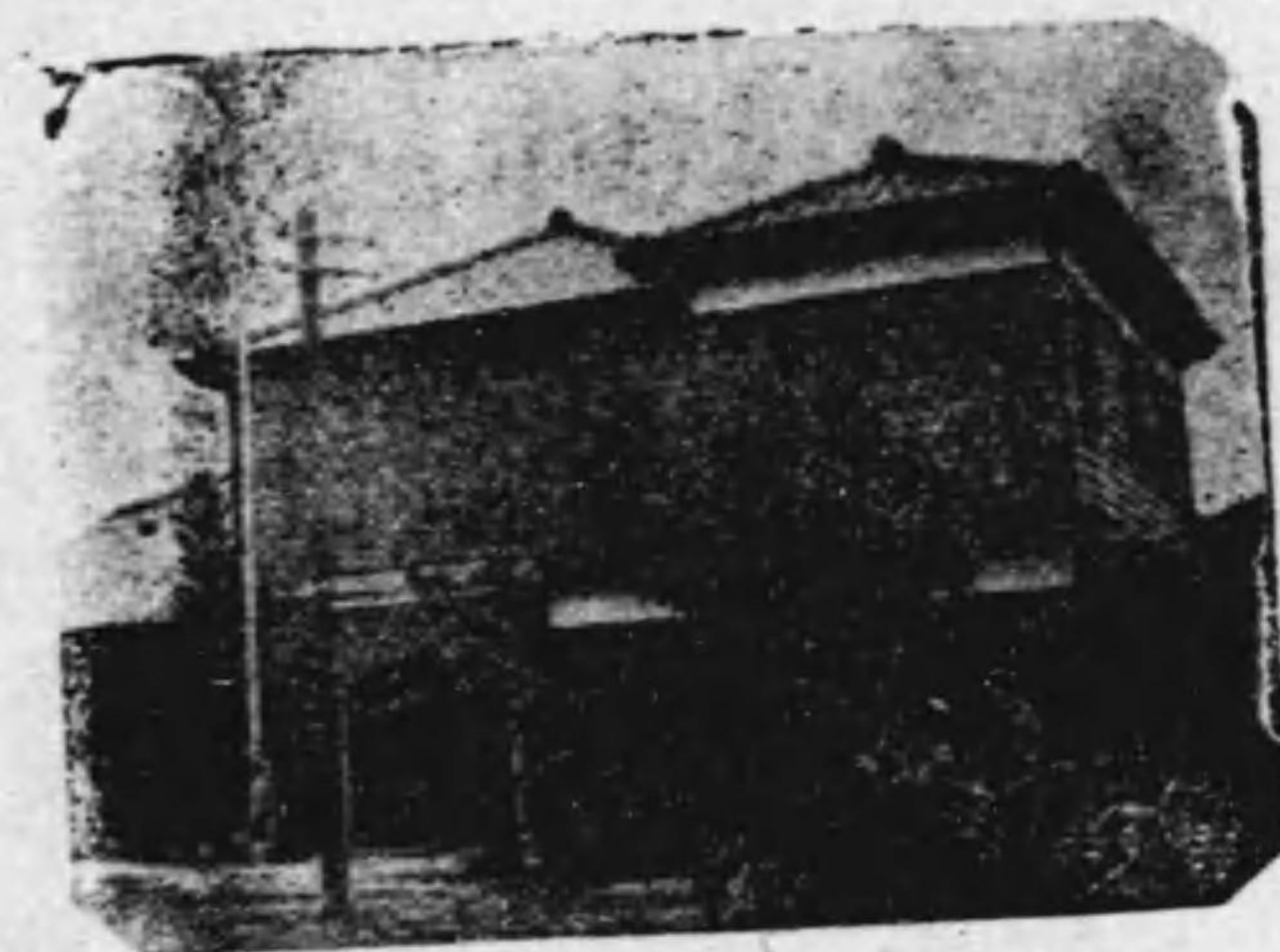
毅然として犯し難き風貌あり善良なる紳士といはれる氏は明治二十四年八月十日の出生である。鈴木家は村隨一の舊家にて古くは庄屋等をつとめ、嚴父昇一氏は村會議員及び郵便局長として功勞あり正八位勳八等に叙された。氏は家父歿後を承けて大正六年十一月局長に就任今日に及び、昭和三年以來村會議員たること三期、疲弊したる部落の振興のため奮起し大正三年早稻田大學政治經濟科を卒業したる才能を遺憾なく發揮し盡瘁頗る多く、表彰されること再三に及ぶ。また静岡縣救済委員、方面委員、學務委員、裁判所金錢調停委員、日本赤十字社特別

社員等の榮職にある。趣味として園藝、弓術をよくし、弓は邊置流免許の腕前である。家庭には一男二女あり、長男圭一氏は、立教大學商科に在學中の俊才である。

庵原村 杉山

庵原販賣利用組合

當組合は明治三十八年五月二十三日の



設立に係り、組合員六十餘名、出資總額二萬圓餘にのぼり、組織は保証責任である。報

徳精神による組合事業の經營は、他を壓して斷然頭角を顯はし、今や縣下組合中の模範と稱されるに至り、役職員の撻ゆむなき努力と、組合員一同の協力調和とは、組合精神の普及徹底と相俟つて、當組合をして益々發展向上せしめつゝあり殊に購買事業に於ては全國第一とまで云はれ、中央會より表彰を受けてゐる。組合生みの親にしてその後の發展の恩人とならぬ。當組合の今日あるは實に氏の力に俟つところが多いのである。なほ現組合長牧田泰司氏も組合功勞者にして組合員一同の信頼をあつめてゐる。

由比町

靈瑞山 本光寺

當寺は日蓮宗身延派の古刹にして、日興上人の開基なる。日興上人、父は美濃守善根の裔にして大井庄司某の子たる橋氏、母は由比氏、寛文四年丙午五月の出生にて、岩本山實相寺嚴譽を師とし、

建長五年薙髮得度せる名僧にて、爾來歴代の住職よく法燈を守つて寺運大いに興隆し、當地方屈指の由緒ある寺院として今日に至つた。境内に祀れる朝日祖師堂は元司法大臣子爵岡部長職閣下の常に愛せし御堂にて、子爵入江爲守、伯爵正親町實正、子爵堀田正養、子爵鳥井忠文、同松平直平、現樞密院議長子爵平沼騏一郎、元長谷川控訴院長各閣下、その他知名の士の無二の遊樂場たりし莊内字太樂窪の太樂堀を移せるものにして、遠近の老若男女早朝より重疊參詣し開運の願ひ諸病全快その他願つて叶はざるなき不思議に靈驗あらたかの佛で、當寺に於いては、參詣人の何人たるを問はず朝食を施食、また嚴寒時には溫暖の設備をなすなど、一意公共のため社會のため、また子女教育のため貢獻してゐる。現住職大石最純師は法號を日敬と稱し、明治十二年一月十日の出生にて、同二十五年大阪本長寺久保田純智和尚に就いて得度、岡山矢板檀林加藤智龍師によつて佛學を修め

た。また京都松ヶ崎檀林、身延大學院等に學び、明治四十一年岡山縣三勢村本妙寺住職となり、その後和歌山縣新宮市本廣寺住職を経て、大正六年六月當寺住職となつた。權僧都にて、無佛教會由比町分教會評議員を兼ねる。日露戰爭には野戰病院附にて出征、勳八等に叙された。

興津町 中宿

淺野小兒科醫院

當醫院は小兒科を主とし、由比町出張所を設け、近代醫學の粹を集めたる施設と方技に冴える刀圭家を擁して流行醫院の先頭を行く觀があり、従業員は三名を數へる。經營者淺野勉氏は明治二十九年六月二十七日の出生、皮相な流行や拵へられた理論に拘泥することなく、事實によつて與へられた信念を基礎とし、永年の經驗を緯として診療に當り、好評噴々たるものがある。大正九年の滿洲醫科大學卒業にて、曩に校醫をつとめ、今また町囑託醫たる外、方面委員、救護委

員を兼任して社會事業に參與貢獻する。家庭には窈窕たる三人の令嬢がある。因に淺野家は垂古天皇時代よりの舊家なりといひ、父祖代々醫を業とし、氏を以て醫業八代目とする。

庵原村 伊佐布 有 元在郷軍人分會長 乾 與作

明治二十年生をこの世に享けたる氏は燒津町の素封家長島忠太郎氏の實弟にして、長じて乾長平氏の養子となつた。靜岡中學校を優等で卒業し、明治四十年野砲兵第十六聯隊に一年志願兵として入營正八位陸軍砲兵少尉に任官せる皇軍の中堅、除隊後在郷軍人分會長、區長等に推された。昭和二年よりは住友生命保險代理店を經營して成績優良である。因に長男長平氏は東京商科大学を卒業して目下東京に居住、二男蕃氏は靜岡高校から長崎醫科大學に進み、現在内科小兒科を專門として郡下袖師村秋葉前に開業し隆盛を極めてゐる。

濱名郡

鷺津町 信用販賣 組合

鷺津町 信用販賣 組合

當組合は昭和五年十月二十二日の設立認可に係り、爾來組合事業は順調に進展し、組合精神の普及徹底よく行はれてゐる。組織は保證責任にて信販購利の四種事業を兼營し、現在組合員五百餘名、うち三百四十五名は農業従事者である。出資七百二十口、二萬一千六百圓弱にして事業概況左の如し。

準備積立金 二千五百圓
借入金 八百圓
預金及有價證券 五萬八千餘圓
貯金總額 二十萬五千六百餘圓
貸出金 十三萬四千六百餘圓
組合長小林儀一郎氏及び理事菅沼源太郎氏は創立當初からの役員として功勞多く、その他現理事は小林熊吉氏等十氏、

監事は木下友吉氏ほか三氏である。

笠井町 信用組合

笠井町 信用組合

電話 二二〇番

當組合は大正十五年四月有限責任組織にて設立され、町一圓を區域とした。昭和八年七月保證責任に變更、現在組合員四百四十餘名、出資千八百餘口（一口二十圓）をかぞへ、堅實なる營業方針の下に常に貯蓄の奨励を怠らず、一面組合員の融和を圖つて事業の進展大いに觀るべきものあり、昭和十一年末現在に於て、貯金總額は五十六萬四千餘圓、貸出總額十八萬圓に達し、餘裕金は四十三萬五千餘圓を算し、前年度より比較する時は、貯金に於て六萬圓、貸出金に於て二萬二千圓の増加を見せてゐる。剰餘金に於ては四千九百餘圓を計上するを得て他組合の羨望の的となつたのである。現組合長は創立主唱者の一人にして創立以來の理事たる山下吉十氏、専務理事は創立

以來の功勞者たる杉山清太郎氏である。

新居町 新居

濱名紡績株式會社

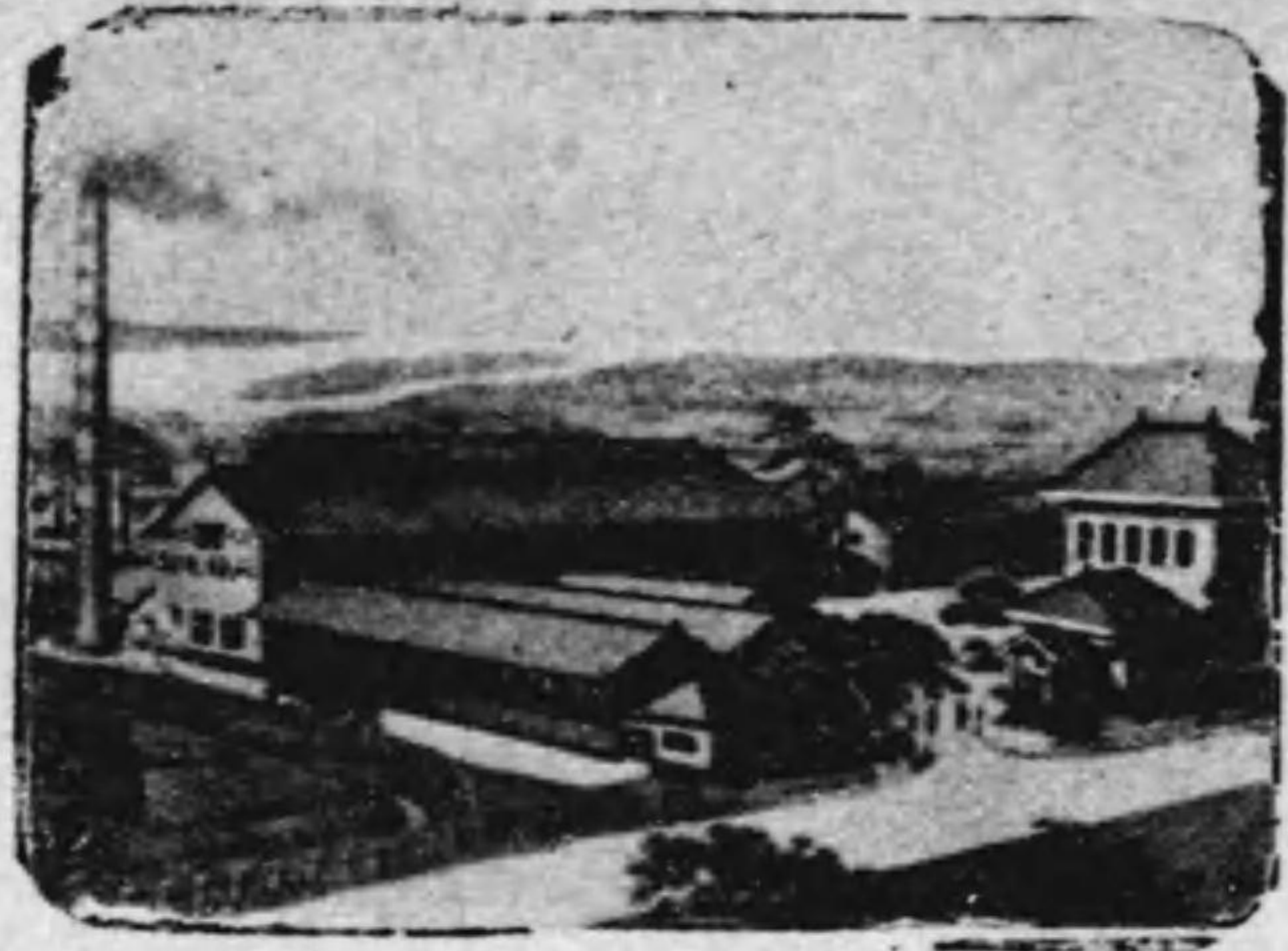
電話 新居六番

當會社は資本金五百萬圓にして株主四百二十餘名、二百株以上株主百二十名を算し、取締役會長は宮本甚七氏である。本社及び工場は新居町で海水浴場として有名な新居辨天に接し、現在紡績七萬三千錠、原棉の常なき騰落によく善處しつゝ一意製品の向上と能率増進につとめ、相當の業績をあげ、近く六萬錠餘を増設すべく工事着手中である。勞資相協和し男女寄宿舎、女學校、病院、食堂、住宅俱樂部、その他娛樂慰安救済の諸設備等すべて完備し、従業員の教養及び幸福増進については最も力を盡してゐる。

天龍川 驛前

天龍製鋸株式會社

當社は本邦に於ける製鋸事業の嚆矢に



して端を明治四十三年の丸鋸改造に發すその後歐洲大戰勃發し、從來専ら輸入を仰ぎたる舶來品は全くその跡を絶ち、殆んど十倍の高價を拂ふも猶且つ一枚の鋸

を見出すに苦しむの右様となつた本社は茲に於て必需品を全然輸入に待つ心の許なきを痛感し、大正九年社員を英國に派遣し、燒入その他製鋸に關する一切の技術を研究し、爾來國產奨励の御趣旨を遵守し諸種鋸の製造に従事し、品質優秀、價格低廉にして且つ効用の顯著なるを賞讃され

芳川村 信用販賣 組合

芳川村 信用販賣 組合

芳川村 二十割

芳川村長、濱名 古山半四郎

郡町村長會幹事

當組合は明治四十二年十二月有限責任芳川村信用販賣組合として創立され、大正十五年販賣及び利用事業を加へ、昭和五年利用部に精米機、肥料粉砕機等を取付け、同八年二月には農業倉庫業を開始すると共に保證責任に變更した。村一圓を區域とし、組合員六百七名、出資千五百四十餘口にて、出資拂込高二萬六千七百七十餘圓を算し、準備金及び積立金は二萬七千七百圓を越え、その他事業概況を見るに

貸付金 十一萬八千二百餘圓

貯金 十二萬五千四百餘圓
購買品賣却高 十三萬七百餘圓
販賣高 三萬七千七百餘圓
利用料 一千圓
にして、組合長は大場菊治、桑原楯雄、三輪新五郎の諸氏を経て現在高橋誠太郎氏、理事は足立勇三郎氏ほか八名、監事は鈴木國光氏ほか六名である。

剛直明快なる氏は濱松市三組町醬油製造業大場虎次郎氏の令弟にして、虎吉氏の三男として明治四年十二月六日出生二十三歳の時古山卯平氏の養子となつて今日に至つた。卯平氏は土地の名望家、村會議員その他の公職を現任する。氏は静岡中學校卒業後約十ヶ年間濱松高等小學校の教壇に立ち、退職と共に濱松銀行の前身たる芳川銀行取締役兼支配人となり、更に遠江銀行支配人となり同行が遠

州銀行に合併されるや相生町支店長に任じ約八ヶ年勤続、その後は専ら自治關係に意を用ひ現に村長、濱名郡町村長會幹事の任にあり、曩には郡會議員三期、村會議員滿二十五ヶ年をつとめた。團茶、盆栽等に趣味あり、とさ子夫人との間には六女を有したが長女はま子さんけ惜しくも夭折された。

蒲神明宮

蒲村 神村

縣社。天正六年戊寅正月二日及び寛政五年癸丑の二回に互り蒲家焼失のため古文書類多數失ひしたため勸請年月不詳と雖も、神位は三代實録に、貞觀十六年五月十一日正六位の上蒲大神に従五位を授くと顯然たるものあり、以後蒲明神宮と稱し、大正十年十一月十九日縣社に昇格した。祭神は

伊雜宮—伊佐波登美命、玉柱屋命
西之宮—姪子命
巖島神社—市岐島姫命

稻荷神社—大宮姫命、大田命、倉稻魂命、宇賀魂命、大市姫命、伊耶那岐命
である。例祭は毎年十月十五、六兩日、



境内面
積九反
五畝十
歩、氏
子二千
二百人
を數ふ

社司金原廉平氏は從七位勳五等を有す。氏子總代は鈴木初藏、上村謙太郎、伊藤平吉、大石藤吉、林一郎の諸氏である。

蒲村 宮竹

蒲村長、蒲村産業組合長

伊藤榮松

釣に趣味深く、投網の手腕家と定評ある氏は明治二十三年六月十七日伊藤謙一氏の長男に生れ、静岡師範學校に學び、榛原郡中川根村上長尾小學校訓導をはじ

め、芳川小學校、神久呂村神ヶ谷小學校、蒲小學校、濱松西小學校等に約十ヶ年間教鞭を執り、昭和二年三月教育界に身を置くこと十五ヶ年にして退職、昭和四年四月蒲産業組合の獨立と共に獨立初代組合長に擧げられて就任、同十二年、同村長に選ばれて今日に至つた。自治及び産業經濟の向上に寄與せる所甚大である。花惠夫人は神久呂村袴田伴重氏の息女、一男五女あり、長男吉之助氏は長野縣産業組合學校の出身にて目下近衛歩兵第一聯隊入營中である。因に尊父謙一氏は助役、村會議員、郡會議員を歴任、蒲産業組合の設立に際しては功績多く、理事、監事等をつとめた信望家である。

蒲村

蒲村信用販賣組合

電話濱松六三三番

當組合は大正十年七月の創立なるも、當時は有限責任にて信用事業のみを行ひ昭和八年五月に至つて保證責任に變更す

ると共に四種事業を兼營して今日に至り同時に從來役場内にあつた事務所を現地に移轉新築した。區域は村一圓、組合員は二百四十四名、出資二万三千三百圓を算し、貸付十六万六千餘圓、貯金二十五万三千餘圓、購買年額一萬六千餘圓、販賣年額二万三千四百餘圓の概況を示し、農業倉庫一棟二十五坪を有し、年々約二千五百俵を收容する。貸付は人物本位に同一利率を以てし、利用十年以上に及び回収せざりしものも利息完納者には更に年賦償還その他の便法を講じてゐる。組合長は代々村長が兼任し、創立以來河合孝太郎、鈴木喜三郎、甲藤俊作、伊藤榮松(現任)の諸氏が就任した。

氏は蒲村初代の消防組頭として多年盡力せられその功績甚大なる功勞者にて村内の信望もあつて、一村の範として尊敬せられた。氏はその長男にして静岡縣立染色講習所を卒業し、家業に精勵する傍ら消防組頭として一村警備の大任を果しつつあり、その行爲たるや誠に衆庶の手本ともいふべきである。實に仲谷氏父子こそ本村消防組の生みの親にして育ての親である。

白脇村 寺脇

白脇村信用販賣組合

信用販賣 購買利用

當組合は大正六年十二月有限責任信用購買販賣組合として創立され、昭和六年二月利用を加へて四種兼營となり、同八年四月保證責任組織に變更した。白脇村一圓を區域とし、村内特産物たる太蘭産米、卵、甘藷、小麦、茶種等の販賣統一に重きを置き、現在太蘭産は十三万二千餘圓、卵は一万一千餘圓、小麦は四千五百餘圓を販賣する。組合員は四百餘名に



六十圓
貯金十
六萬三
千五百
四十圓
に餘り
購買三
萬五千
圓餘、
利用部
には親
摺機、
脱穀機

精製機の設備あり、また百五十坪の共同作業所を有し、且つ明治生命代理店も兼ねる。現組合長は松下金三郎氏である。

白脇村 三島

遠州板紙株式會社

當會社は、大正七年遠江製紙株式會社と

蒲村

仲谷利吉

電話濱松二二九八番

博識多能、加ふるに統御の才を有し、右聲嶺々たる氏は明治三十三年十月十八日を以て生をこの世に享けた。嚴父重吉

して創立されしものにて、昭和四年中村氏がこれを買収して現名稱に改め今日に到つた。資本金三十萬圓(一株五十圓)である。マニラボール、茶ボール、白ボールの製造販賣をなし、品質の良好と価格の低廉なるを以て日毎に販路の擴張を見るところに好評を博してゐる。従業員は百六十餘名を算す。現社長中村藤吉氏は濱松市切つての資産家にして中村米糖三立製菓、三龍運送、丸遠運送、濱松木材等の各會社々長の任にあるほか、幾多會社の重役として實業界の大立物といはれる。なほ専務取締役は伊藤五郎氏である。

三島信用組合

當組合は大正七年五月有限責任蟹草信用購買販賣生産組合として創立、昭和八年四月現名稱に變更、保證責任となつた組合設立前三島字蟹草に製糖所あり、これが當組合の母体となつたもので、大字

三島一圓を區域とし、總戸數百四十戸のうち百十餘名が加入し、出資一萬百二十圓(拂込七千六百圓弱)にして

貸付總額	一萬七千圓
貯金	十萬六千圓
購買價額	二千五百圓
販賣價額	九萬餘圓
利用料	四百八十圓

の概況を示し、準備積立金は約五百圓を有する

三島信用組合

組合長 藤田 猪徳

初代組 合長藤田源太郎氏、
二代土屋勇吉氏、
氏は共に土地の名家にして現村會議員、



温厚篤實、地方金融界の實力家として令名ある氏は明治十二年九月七日の出生である。祖先是下總國金原郷に別當たりしが、鎌倉幕府に拔擢せられて橋羽に來り、浦ノ

中ノ町村 金原 亨

三代目現組合長藤田猪徳氏は村會議員一期、區長二期等をつとめた人、昭和十一年令夫人を失ひたるも養子巖氏は中ノ町校に教鞭を執り、將來を囑望されてゐる。

始祖に當り、昔に聞へた名門家、先代鐵平氏は漢學塾を開き子弟の教育に盡されたほか地方公職等に歴任して名聲あり、當主はその長男、早稻田専門學校政經科出身にて、遠州銀行中ノ町支店が中ノ町銀行と稱した頃から同行に勤務すること十七年餘、後ち支店長代理となり、大正六年退職、東海保險會社静岡監督所中ノ町保險代辦會社を創立して専務取締役に就任、一面村會議員として自治方面にも活躍し功績甚だ多い、との子夫人は濱名郡三方原村の出身、長男皓一は見付中學を出て現に富士樂器會社に勤務し將來を囑望されてゐる。

天龍信用組合

當組合は大正十年二月有限責任天龍信用購買生産組合として創立されたが、後ち保證責任天龍信用購買組合と改め今日に至つた。濱名郡中ノ町村及び和田村を區域とし、和田村に出張所を置く。

組合員六百五十名、出資一口五十圓にて總數三千百二十餘口、餘裕金十五萬圓を越える。最近貯金貸出金共に金利の引下をなし、細心の注意を拂つて負債整理資金の回收、債權の確保等の方策につとめてゐる。貸出金總額五十六萬五千餘圓、貯金總額約五十二萬圓、利用料九百二十圓の數字を見せ、堅實且つ順調な發展を遂げてゐる。組合長は鈴木米太郎氏、常任理事は鈴木茂次氏である。

中ノ町村

天龍製鋸、天龍木材、天龍機械業、富士樂器各株式會社、取締役、村會議員

大庭與市

大庭家は享保年間以來十五代に及ぶ舊家にして土地の名門である。氏は明治十六年十月二十五日を以て生をこの世に享け、後ち先代秀太郎氏の養子となつて當家を嗣いだ。二十五歳の若冠にしてすでに村會議員に選ばれ爾來引續き今日まで重任し、その間學務委員、方面委員、家

中ノ町村 國吉

天龍製材株式會社

當會社は資本金七十五萬圓にして、株數七千五百、株主は百十九名である。軍需工業化學工業の股盛を極める中にあるが、木材界は獨り不振をかこつて來たが、最近諸物價の漸騰につれて漸く活氣を呈し、製品の活況も大いに見るべきものあり、當地製材界に瀟然たる地位を占める當會社も繁忙日に増し多きを加へつ、あつる。清水市上清水に支店を置いて主に北洋材を取扱はしめ、これまた上乘の成績

を擧げてゐる。社長中村藤太郎氏は清水



清水市萬世町に東海商船株式會社を設立して社長に任じ、昭和十一年十月には清水酸素商會を興すなど同地實業界の雄といはれる人である。

中ノ町村中野町 郵便局 和 當局は集配三等局にして中ノ町村、和

市會議 市會同 商工會 議所副 會頭、 同學務 委員、 市勢發 展調査 委員等 の要職 にあり 昭和二 年六月 田村、飯田村をその區域とし、明治九年 通常郵便事務を開始以來、順次内外爲替 小包、内外電信、電話の取扱ひをなし、 現在郵便取扱数は通常引受二十九萬七千 五百、同配達四十三萬三千六百、小包引 受八千餘にして、内外電信は一萬二千 通餘を扱ひ、堂々二等局を摩する成績を 示し、簡易保險も二千六百餘口を受持ち 年々三百餘の新契約を得てゐる。事務員 八名、傭員六名を數へる。初代局長淺野 茂兵衛氏、二代淺野徳治氏、三代河村直 次郎氏にして、現局長河村正太郎氏は三 代局長の男、明治二十六年九月十五日に 呱聲をあげ濱松第一中學校出身、當局長 たるはか遠江三等郵便局長曾第七部長と して重きをなす。てふ子夫人は濱松市立 高女出身の才媛にして二男三女がある。

北濱村 在郷軍人分會 杉山博夫 長、正八位 杉山家は先々代まで農を業として篤農 の聞え高き舊家、先代茂平氏に至つて米



毅肥料商を営み、鄰には珍らしき氣骨の 士として隆々たる繁昌を呈して現在引續 き盛業中である。先代はまた丸松合資會 社を創立し現に代表社員として多年の經 驗と卓 抜の手 腕を發 揮して 絶大の 抱負を 實現せ しめつゝある。當主杉山博夫氏はその長 男、明治四十二年十月二十七日を以つて 呱聲をあげ、濱松商業學校を優秀なる成 績で卒業するや、昭和四年十二月一年志 願兵として靜岡歩兵第三十四聯隊に入營 除隊後は家業の傍ら専ら在郷軍人會のた めに壽瘁、目下本村分會長の要職にあり 昭和八年少尉に任じ正八位に叙された。 家庭には兩親のほか、富子夫人及び二人 の令息あり圓滿を極めてゐる。

北濱信用利用組合

北濱村 西美園 電話小松七四番

當組合は大正十四年十一月の創立に係り、北濱村一圓を區域とし、有限責任組織にて信用利用の事業を行ふ。組合員七百三十名、出資千三百五十餘口（一口三十圓）にて四萬五百餘圓が拂込済である。近年經濟界の安定の方向に向へる時組合事業は大口債權の整理も順調にして貯金總額は十九萬圓を越へ、所有物の價額償却は二千二百餘圓、剩餘金四千四百餘圓を計上し、業礎いよいよ固きを加へてゐる。三浦又三、横田英次郎、瀧口彦四郎、富永彌市、村松金一郎、吉川庄三郎、中村小平治、瀨美傳一郎、森下条藏の諸氏は現任役員にして創立の功勞者、現組合長鈴木賢一氏は初代組合長鈴木英壽氏の男にして昭和十一年一月の就任である。

尾野信用組合

赤佐村 尾野 大正元年頃、當時の校長町田啓次郎氏の斡旋により青年團員三十名程にて積立貯金會を起し、毎月一定の積金をなし、後ち新會員を募集して百餘名に達するや團員一同の意志により信用組合組織に改め、大正八年二月設立認可を得て生れ出たのが當組合である。赤佐村尾野を區域とし、現在組合員百四十餘名にして出資一萬四千二百圓を算し、昭和十一年度末現在に於て貸付三萬五千七百圓、貯金三萬六千圓に上つてゐる。創立より昭和十年一月まで鈴木彌作氏が組合長に任じ、十年二月より藤本長太郎氏が組合長となつて今日に至つた。専務理事は町田清氏事務員足立龍道氏である。

赤佐村 龍宮山 岩水寺 當山は人皇四十五代聖武天皇の御宇釋行基が自ら尊像を彫刻し一の堂宇を建立



僧都（現地安坊権現）の力によつて舊に復するを得た。延喜以來興廢數次、徳川治世の始め舊によつて四十三石の寺領を賜ひ且つ數院を合して一寺となした。當寺の内佛本尊子安地藏尊は田村一子俊光そ

の御母公の姿を模倣し安置せるものにして、
 照臨殊に著しく女人安産子孫長久の祈
 願をこめるものが常に絶へない。毎年二
 月二十四日の星祭、八月二十四日の金坊
 祭典には特に殷盛を極める。現住職高橋
 孔淳師は名古屋の出身、高野山にて修業
 を積みし善知識にして學事功勞者として
 表彰されてゐる。

赤佐村 根 堅

赤佐村 信用販賣 組合

當組合は赤佐村一圓を區域とし、大正
 十三年九月有限責任組織にて設立され、
 昭和八年四月保證責任に變更した。組合
 員約二百四十名、出資四百二十餘口、(一
 口二十圓)にて、準備積立金一千萬圓を
 有す。歐洲各國の實狀、殊に隣邦支那に
 於ける内政とにより國內はますます複雑
 多岐なるも、財界は稍々光明を認め、組
 合事業に於ても貯金の増加著しく五萬
 一千餘圓の現在高を示し、貸付金に於て
 も年々増加し四萬五百餘圓に達してゐる



谷高佐平次氏は共に組合創設の功勞者、
 其他現役員は理事五名、監事八名。

市野信用 販賣 組合

電話市野一六番

當組合は大正十一年一月有限責任組織

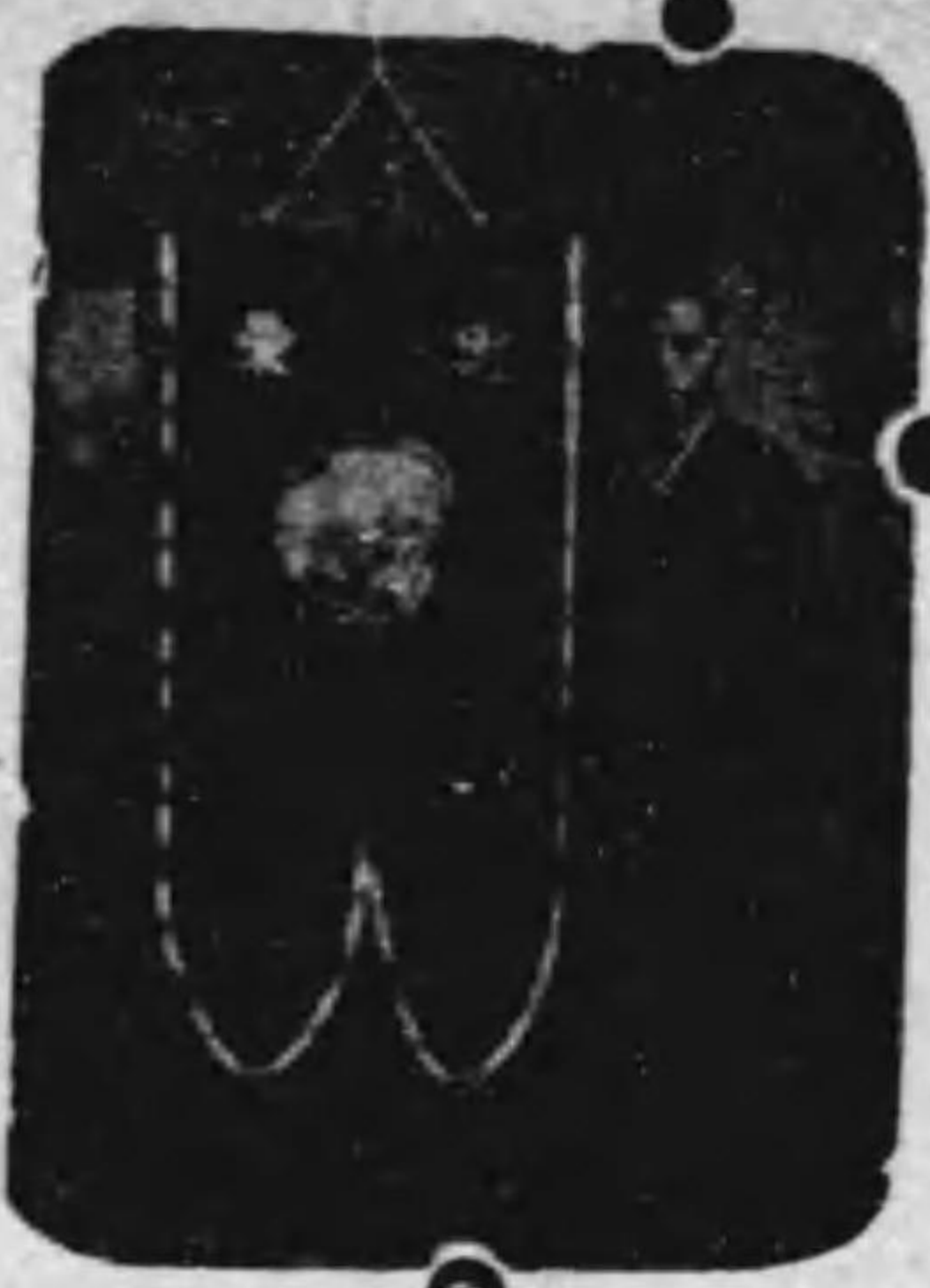
購買も比較的順調に進み、肥料を主に二
 萬五千圓弱を取扱ひ、販賣は小麥及び甘
 藷類を
 主に扱
 ひ、利
 用部に
 於ても
 相當の
 成績を
 擧ぐ。
 現組合
 長河合
 榮太郎
 氏、常
 務理事
 にて設立され、昭和八年六月保證責任に
 變更、同十年現事務所を新築、現在組合
 員三百十名、出資千三百四十口(一口二
 十圓)、準備金及び積立金七千四百圓、
 餘裕金十二萬圓餘にて、四種事業を兼營
 し、區域は長上村のうち市野及び上石田
 の二大字である。常に堅實なる方針を以
 て進み業務の進展大に觀るべきものあり
 貸付は農業資金を主に約七萬四千圓の現
 在高を算し、貯金約十二萬圓、購買部の
 四種事業中最高の躍進を示し年賣却高一
 萬三千圓に上り、利用事業も年々幾何級
 數的に利用高の著増を見てゐる。初代組
 合長平尾與四郎氏、二代目現組合長袴田
 周吉氏は大正十三年の就任、専務理事は
 創立以來松島啓而氏である。

小池信用 販賣 組合

電話市野二三番

當組合は大正七年二月有限責任、信用
 購買販賣組合として創立し、その後利用

事業を加へ、昭和八年四月保證責任に變
 更して今日に至つた。長上村小池(百七
 十戸)を區域とし、組合員約百五十名、
 出資五百七十口(一口二十圓)にて、社會



經濟狀
 勢に順
 應して
 固定貸
 付金及
 び未收
 入利息

等の整理につとめ、堅實なる方針の下に
 順調に發達し、今や擴充五ヶ年計畫の實
 行もその終期に近づき、貸付に貯金に購
 買に利用に驚異的躍進を示してゐる。殊
 に精米及び醬油醸造の斡旋は當組合の特
 色とするところである。現組合長馬淵源
 次郎氏は安政六年の岳降、市野村助役、
 同村長たること前後二十四ヶ年、長上村
 會議員を歴任せる材幹にして長男郷一郎
 氏は濱松一中卒業興進小學校教員として
 今日に及んでゐる。なほ専務理事は平野

甚一郎氏、理事は山本一氏ほか三名、監
 事四名である。

天王信用 販賣 組合

電話市野三七番

當組合は大正十二年四月有限責任天王

信用購買販賣利用組合として創立、昭和
 八年四月保證責任に變更すると共に天王
 信用販賣購買利用組合と改めた。長上村
 のうち天王、下堀、天王新田、下石田、
 原島、中田を區域とし、組合員三百十六
 名、出資千五百五十口(一口三十圓)を算し
 共存同榮を目的として相當の成績を擧げ
 つ、あり、殊に貸付金整理及び日用品購
 買は良好である。貸付總額七萬四千七百
 圓、貯金總額十四萬六千四百圓餘、購買
 價額千二百餘圓、販賣價額四百圓弱の數
 字はその概況を示してゐる。初代組合長
 佐藤伸司氏以來、竹山竹一氏、原田太郎
 氏、竹山千氏を経て現組合長は佐藤省三
 氏にして、理事は松浦郁次氏、竹山甫義

氏ほか四名、監事は廣森修氏ほか二名で
 ある。

平野甚一郎

小池産業組合専
 務理事、勳八等

陶冶された人格と噴々たる名譽とを有
 する氏は明治十五年十一月の誕生である
 長じて豊橋第十八聯隊に入營、日露戦争
 の際は第二軍に屬して奮戦し功により勳
 八等に叙せられた。凱旋除隊後愛知縣巡
 査を拜命、人民保護の重任を果して同僚
 先輩の人氣をあつめ、退官と同時に小池
 信用販賣購買利用組合に入り、現時専務
 理事として一身を捧げるほか家屋税調査
 委員、村會議員、區長代理等を兼ね、一
 意社會公共のため盡瘁してゐる。令聞と
 の間に一男二女を儲け、長男一夫氏は濱
 松二中に學んで目下濱松飛行聯隊に入營
 中長女は他に嫁し、次女ゆきあさんは北
 濱高女に在學し才媛の譽れが高い

長上村市野

萬松山 宗安寺

當山は曹洞宗に屬し、十一面觀世音を本尊とする。開山は潛龍慧湛の弟子玉山泰礎である。泰礎は土地の司、徳川の直臣市野惣太郎の援けを得て當山を興し、



後今川徳川の乱起るや、市野氏は兵を小笠郡

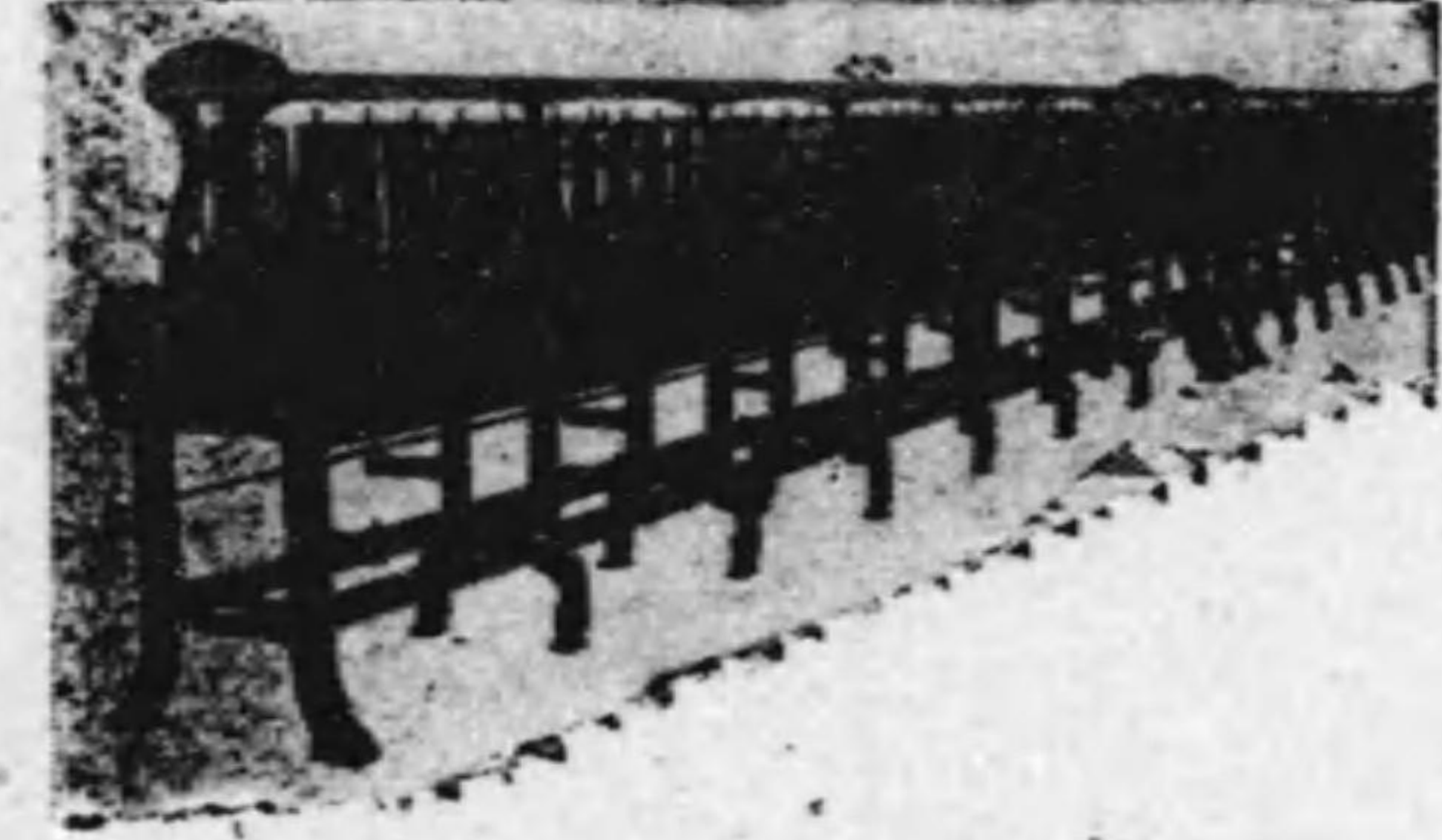
朝比奈の郷閑田院に進め、戦勝するや閑田院の僧敗走するに及んで同院に轉じ、當山は章香文賢師が後を襲いだ。寺實に雨乞の裝束二重あり、種々の傳説により靈驗あらたかなることが證されてゐる。また元祿年間市野吉兵衛の息女が刺殺せる醜迦如來文珠普賢兩菩薩、十六羅漢畫像等が寶物として所藏される。境内一町四段、本堂、總門、庫裡、書院、開山堂

衆療等の堂塔あり、檀家百八十戸、現住職仲川喝玄師は可睡齋學林の出身、布教養成所を経て布教師として全國を巡回しまた諸佛教會の幹事を兼ねる。

可美村 高林

遠州織機株式會社

當社は大正九年二月資本金二百萬圓を



以て創立、工場及び本社を濱松市砂山町に置いたが、同十一年百二十萬圓に減資し、昭和十一年

年には本社及び工場を現在地に移轉した營業の狀態は極めて順調にして從來見本機として世界各地へ輸出せるものが漸くその聲價を認められ着々として實を結びつゝあり、昭和十一年下半年だけで南米西歐からの注文數百台にのぼり、今や高塚新工場もほゞ完成したるを以て製産に大ピツチをあげ、他面高級織機織物準備機等の完成を急ぎ、また諸外國に於ける市場開拓に力を致してゐる。材料の撰擇、精密なる設計、工作の精巧、價格低廉等は本社製品の誇りとするところである。初代社長は喜多又藏氏、現社長は阪本久五郎氏にして共に手腕家として聞えたる人である。

和田村 牛場

天龍木材株式會社

電話中ノ町三番

當會社は明治四十年四月の創立で、創設當時の資本金は二十五萬圓であつたが大正六年十一月、三十七萬五千圓に、

八年五月、七十五萬圓に、同九年二月に百五十萬圓に逐次増加し、支店を名古屋市南區熱川新尾頭町四八ノ一、東京市深川區平井町三ノ一、台北市新富町五ノ一〇三の三ヶ所に設立、ます／＼向上發展へと精進してゐる。そして現在の一ヶ年の製材力は約三十二萬石で、原木は内地材、殊に天龍材を主とし、米材沿海州材を加へ、最近は台灣檜材を盛んに販賣しその製材のために新たに羅東工場を設け社員五十五名、従業員四百餘名が活動してゐる。現取締役社長は鈴木信一氏、専務取締役稻勝清三郎氏が就任してゐる。

小野田村 小松

遠州織物工業組合 北盛社

當組合は昭和八年四月織物工業の改善を圖るため共同の施設をなす目的を以て設立され、濱名郡小野田村、北濱村、積志村、笠井町、豊西村、龍池村、中瀬村、赤佐村及び引佐郡龜玉村を以て區域とし小巾綿織物、小巾絹織物、小巾人絹織物

小巾毛織物及び以上の交織物の製造業者四百五十名を以て組織する。検査取締、染色統制、圖案展覽會、能率指導、小巾生産地の視察、講習會等の事業を行ひ、業界の向上と進展に拍車をかけ、組合員の生産は年々その量を増し、價格染色意匠等各點に於て需要者の好評を博し到るところに歡迎されてゐる。昭和九年には工費二千五百餘圓を投じて現事務所を新築、組合の基礎いよいよ固く、遠州織物の聲價ますます高きものがある。理事長は久米徳太郎氏で書記長と共に常に東奔西走その發展に努力して居る。

積志村

積志村長、濱名郡在郷軍人聯合分會長、從七位勳六等功五級 榎木伸

當家は村内屈指の舊家にして代々農を營み、庄屋をつとめたる家柄である。先代要一郎氏は維新後戸長に任じ信望があつた。氏はその男として明治十二年十二

和田村 檜羽

長光山 妙恩寺

當山は當國宗門最初の靈場にして、應長元年花園天皇の御宇宗祖日蓮大士の法孫日像尊者の開創に係り、宗祖御直檀金

原法橋左近將監の建立である。妙思法尼を第二祖とし、爾來師資相傳法鼓鐘々として三百年を経、十一代中興の主日豪上人に及ぶ。上人は甲州武田の家臣馬場美濃守の季子、時に徳川家康三方原の戦に敗れて當山に来るや、上人の俗縁は家康の敵なりと雖も、身は正に法華經の行者進んで家康の難を救つた。後出家康天下を一統して濱松城にあり、園基を友とし相往來、且つ齊田二十四石の朱印及び制札を受けた。それより百餘年、二十五世日淳上人の時現本堂を造營、天保年間三十六世日滿上人は學徳共に高く、加ふるに徳川家朱印寺として寺威遠近に振つた老樹蒼鬱たる森に圍繞せられて七堂伽藍を併べ山門堂々たるものである。寺實として主なるものは、弘安年中宗祖より法橋に賜りたる大曼荼羅一幅、正和元年開山尊者より法橋に賜りたる曼荼羅一幅、日朗尊者筆御本尊一幅、法橋看經傳大師作大黒天像一體、菅原道眞公細字法華經一卷、運慶作四天王像四體等あり、當

山最古の建築物は表門にして三百餘年前のもの、次で本堂は百八十年前の建築、九間四面の御堂造りである。末寺十二を有す。境内外に百餘株の櫻樹あり梅林ありて四時花を見るべく天龍川驛前一小公園たるの觀がある。

加久呂村志都呂

元村長 高部 廣八

當家は代々農を營みし舊家にして、先代末廣氏は二宮尊徳翁の長敬者にして、勤儉を尊び些細なる紺屋業よりよく今日の隆盛を築きあげた人で、公共事業にも買献鈔からざるものがある。當主高部廣八氏は明治元年十月四日の兵降、後ち先代の養子となつて業を嗣ぎ、明治四十五年織布業を創始し、傍ら西遠染色株式會社を興して社長となり、實業界に令名を馳せた手腕家、現在は引退せるも、當地方に五十町歩の養鱈池を有し、その他舞坂製氷株式會社、遠洋銀行の事務取締役を兼ね當地方切つての實業家として名

高い。昭和五年四月より同七年七月まで加久呂村長の任にあり、また區長二期をつとめ自治方面にも功勞が多い。政務、趣味等すべて中庸を貴び、敢て片寄らずとの信念を持つてゐる。

中 瀬 村

養 春 堂 醫 院

當醫院は伊藤健治氏の經營に係り、内科、外科、小兒科を専門とする。伊藤氏は實名を避け常に實直を尊び陰徳救舉に遠なく、縣知事、在郷軍人會長、村長等より衛生及び教育功勞者として表彰七回に及べる人材である。明治二年十月二十日を以て生れ、濟生學舎を卒業、現時開業醫たる傍ら村醫、校醫、濱名郡學校衛生會理事、濱名郡醫師會副會長理事、同評議員等の任にあり、往年腸チフス流行の際は無料豫防注射を施し、また村民中貧困者には無料施療のほか滋養品を給與するなど德行多大にして校醫としては月二十回位トラホーム治療を行ひ、また檢

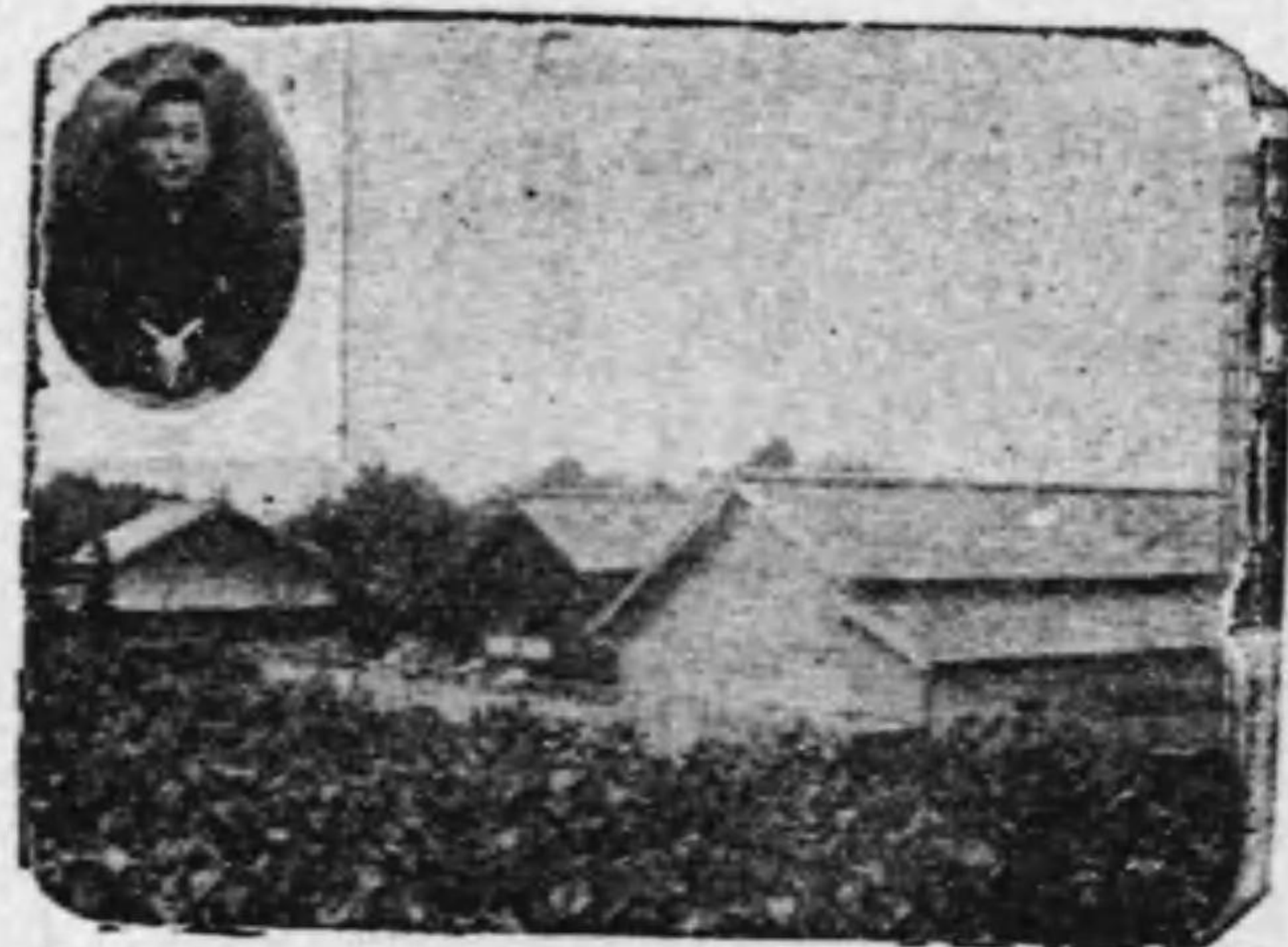
便を精密にするなど他の追隨し得られぬところである。尊父泰順氏は漢法醫として引佐郡龜玉村宮口に開業し、實家はその後引續き同村に於て醫業を營んでゐる。ふぢ子夫人は周智郡奥山村の人、長男貞雄氏は日本大學醫學部卒業後富士紡績濬津分工場囑託醫を現任し、次男文夫氏は日本大學商科を出て前記工場に勤務し、三男裕氏は河松工業學校出身、四男一夫氏は濱松一中在學中である。

中 瀬 村 中 瀬

中 瀬 村 信 用 販 賣 組 合

當組合は大正九年四月有限責任組織にて設立され、同十三年より四種事業を兼營、昭和八年四月保證責任に變更今日に至つた。大正十二年三月までは事務所を清水組合長宅に置いたが、同年現在地に新築移轉した。設立の動機は報徳精神による經濟關係の調和を圖るにあり、經營方針も茲に重點を置きて進み、現在組合員五百六十名、出資四萬七千四百四十圓に

て、貸付十一萬四百圓弱、貯金十五萬五千三百圓餘、購買年額十三萬三千五百圓餘、販賣年額十七萬六千五百圓、利用料三千二百圓弱をあげてゐる。農業倉庫三棟、内二棟は函倉庫あり、製糸業、醬油



醸造、蠶種製造、雜糧共同飼育、共同桑園の經營等は本組合の特色とするところ

他面青年團の指導に任じ、處女會婦人會の創設に盡し、また助役、村會議員、學務委員、郡聯合青年團長二期、村農會副會長、同評議員、中瀬村養蠶組合副會長三期、國勢調査員二回等を歴任、現時當組合長たるほか濱名郡青年團顧問、村青年團總裁、村女子青年團及婦人會顧問等に擧げられてゐる。當産業組合創立に當つては特に功勞多く、今日縣下中堅組合の筆頭として認められるまでに業績を擧げ居るは實に氏の功績によるものである。大正十一年産業組合西遠部會創立以來昭和九年まで評議員に選任、また中央會縣支會理事、縣農村産業組合理事、中瀬村振興委員を兼任する。縣知事、郡長文部大臣、教育會長その他より表彰されること十回に及んでゐる。令閨トメ子夫人との間には三男三女あり、長男邦夫氏は縣立産業學校出身にてまさる夫人との間に一男がある。

原法橋左近將監の建立である。妙恩法尼を第二祖とし、爾來師資相傳法鼓鐘々として三百年を経、十一代中興の主日豪上人に及ぶ。上人は甲州武田の家臣馬場美濃守の季子、時に徳川家康三方原の戦に敗れて當山に来るや、上人の俗縁は家康の敵なりと雖も、身は正に法華經の行者進んで家康の難を救つた。後ち家康天下を一統して濱松城にあり、園基を友とし相往來、且つ齊田二十四石の朱印及び御札を受けた。それより百餘年、二十五世日淳上人の時現本堂を造營、天保年間三十六世日滿上人は學徳共に高く、加ふるに徳川家朱印寺として寺威遠近に振つた老樹蒼鬱たる森に圍繞せられて七堂伽藍を併べ山門堂々たるものである。寺寶として主なるものは、弘安年中宗祖より法橋に賜りたる大曼荼羅一幅、正和元年開山尊者より法橋に賜りたる曼荼羅一幅、日朗尊者筆御本尊一幅、法橋看經傳大師作大黒天像一體、菅原道眞公細字法華經一卷、運慶作四天王像四體等あり、當

山最古の建築物は表門にして三百餘年前のもの、次で本堂は百八十年前の建築、九間四面の御堂造りである。末寺十二を有す。境内外に百餘株の櫻樹あり梅林ありて四時花を見るべく天龍川驛前一小公園たるの觀がある。

加久呂村志都呂

元村長 高部 廣八

當家は代々農を營みし舊家にして、先代末廣氏は二宮尊徳翁の長敬者にして、勤儉を尊び些細なる紺屋業よりよく今日の隆盛を築きあげた人で、公共事業にも買献助からざるものがある。當主高部廣八氏は明治元年十月四日の兵降、後ち先代の養子となつて業を嗣ぎ、明治四十五年織布業を創始し、傍ら西遠染色株式會社を興して社長となり、實業界に令名を馳せた手腕家、現在は引退せるも、當地方に五十町歩の養饒池を有し、その他舞坂製氷株式會社、遠洋銀行の専務取締役を兼ね當地方切つての實業家として名

高い。昭和五年四月より同七年七月まで加久呂村長の任にあり、また區長二期をつとめ自治方面にも功勞が多い。政黨、趣味等すべて中庸を貴び、敢て片寄らずとの信念を持つてゐる。

中 瀨 村

養 春 堂 醫 院

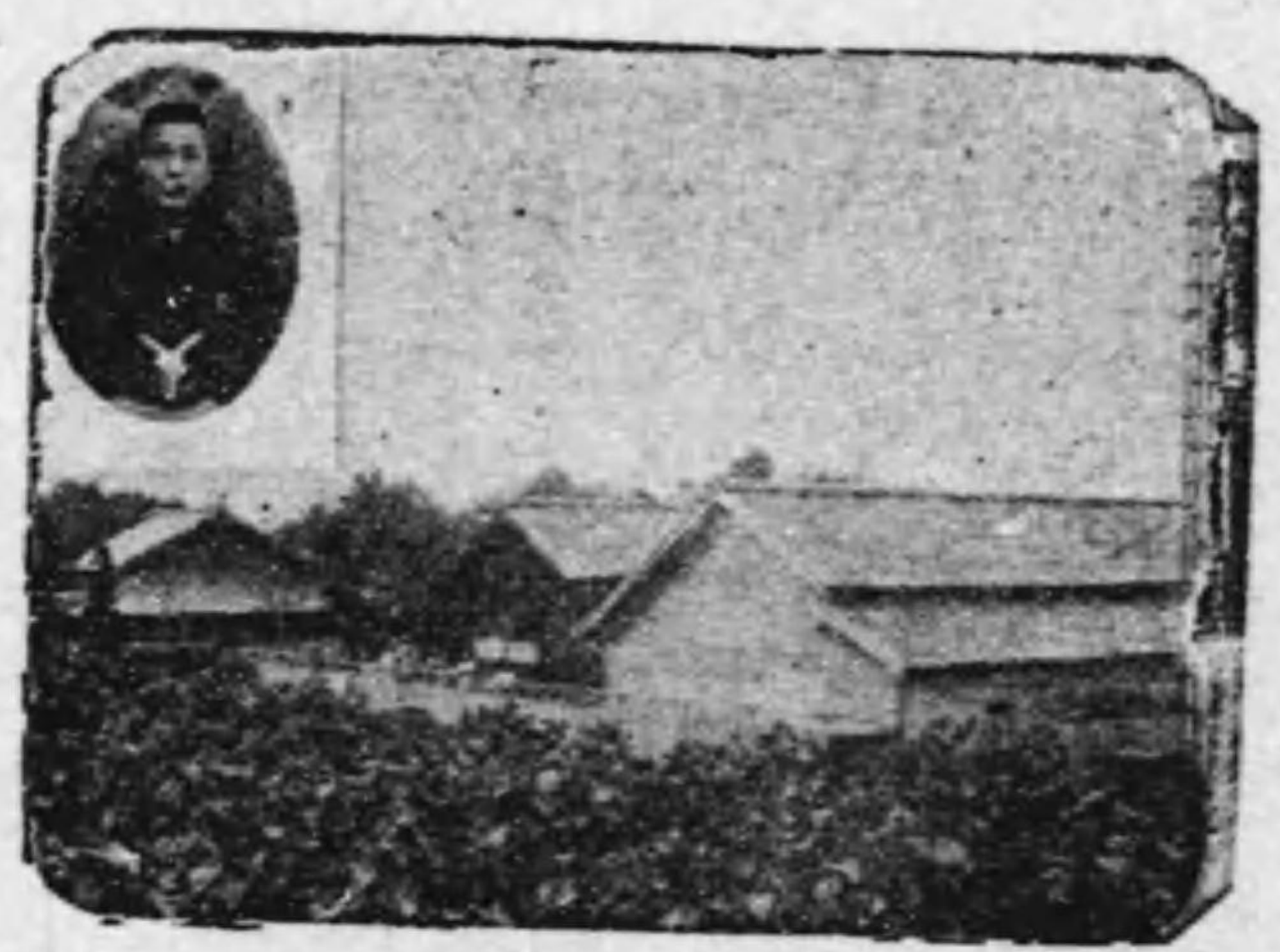
當醫院は伊藤健治氏の經營に係り、内科、外科、小兒科を専門とする。伊藤氏は實名を避け常に實直を尊び陰徳牧舉に違なく、縣知事、在郷軍人會長、村長等より衛生及び教育功勞者として表彰七回に及べる人材である。明治二年十月二十日を以て生れ、濟生學舎を卒業、現時開業醫たる傍ら村醫、校醫、濱名郡學校衛生會理事、濱名郡醫師會副會長理事、同評議員等の任にあり、往年腸チフス流行の際は無料豫防注射を施し、また村民中貧困者には無料施療のほか滋養品を給與するなど德行多大にして校醫としては月二十回位トラホーム治療を行ひ、また檢

便を精密にするなど他の追隨し得られぬところである。尊父泰順氏は漢法醫として引佐郡龜玉村宮口に開業し、實家はその後引續き同村に於て醫業を營んでゐる。ふち子夫人は周智郡奥山村の人、長男貞雄氏は日本大學醫學部卒業後富士紡績鷺津分工場囑託醫を現任し、次男文夫氏は日本大學商科を出て前記工場に勤務し、三男裕氏は河松工業學校出身、四男一夫氏は濱松一中在學中である。

中 瀨 村 中 瀨

中 瀨 村 信用販賣 組合

當組合は大正九年四月有限責任組織にて設立され、同十三年より四種事業を兼營、昭和八年四月保證責任に變更今日に至つた。大正十二年三月までは事務所を清水組合長宅に置いたが、同年現在地に新築移轉した。設立の動機は報徳精神による經濟關係の調和を圖るにあり、經營方針も茲に重點を置きて進み、現在組合員五百六十名、出資四萬七千四百四十四



て、貸付十一萬四千四百圓弱、貯金十五萬五千三百圓餘、購買年額十三萬三千五百圓餘、販賣年額十七萬六千五百圓、利用料三千二百圓弱をあげてゐる。農業倉庫三棟(内二棟は函倉庫)あり、製糸業、醬油醸造、蠶種製、蠶種製、造、稚、蠶共同、飼育、共同桑園の經營等は本組合の特色とするところ

他面青年團の指導に任じ、處女會婦人會の創設に盡し、また功役、村會議員、學務委員、郡聯合青年團長二期、村農會副會長、同評議員、中瀨村養蠶組合副會長三期、國勢調査員二回等を歴任、現時當組合長たるほか濱名郡青年團顧問、村青年團總裁、村女子青年團及婦人會顧問等に擧げられてゐる。當産業組合創立に當つては特に功勞多く、今日縣下中堅組合の筆頭として認められるまでに業績を擧げ居るは實に氏の功績によるものである。大正十一年産業組合西遠部會創立以來昭和九年まで評議員に選任、また中央會縣支會理事、縣農村産業組合理事、中瀨村振興委員を兼任する。縣知事、郡長文部大臣、教育會長その他より表彰されること十回に及んでゐる。令閨トメ子夫人との間には三男三女あり、長男邦夫氏は縣立産業學校出身にてまさあ夫人との間に一男がある。

篠原村 篠原

篠原村 信用販賣 組合

電話 (本所) 篠原二番
(坪井支所) 篠原四二番

當組合は大正十三年十一月在郷軍人を中心設立せられ、爾來順調に發展して今や組合員七百二十餘名、出資一千四百口四萬一千七百圓を算し、準備金及び積立金九千八百圓、餘裕金十四萬一千餘圓を有し、貯金は累年増加の一路を辿つて三十六萬二千餘圓にのぼり、貸付は養魚家の飼代並に借地料の支拂、或は機業家の融資等を主に十萬四千圓弱を算してゐる。購買部は昭和十一年度中に於て政府拂下米のみにて千八百六十餘俵、金額にして二萬餘圓を取扱つた。販賣は小麥だけで少量である。因に當組合は有限責任組織にて四種事業を兼營し、坪井には支所を置く。現組合長柳本滿之助氏は創立當初からの在任にて功績少なからざるものがある。

篠原村 馬耶

遠洋銀行

電話舞坂二五番

當行は、日清戦役後地方金融機關設立の必要を感じて堀内萬吉、高柳熊吉、鈴木邦作、鈴木信一、古橋源藏、内田初藏等の發起により明治三十年七月舞坂停車場に開業したるを以てその濫觴とする當時資本金五萬圓なりしも、拮据艱勉大に努めたる結果業績の靚るべきものあり大正五年には十萬圓に増資し、昭和三年白須賀銀行を買収して資本金は五十萬圓となり、同五年濱浦銀行を合併したるほか明治銀行白須賀出張所の權利義務を繼承して今日に至つた。創立當初の重役は十年間無報酬といふ特殊例を以て盡瘁したるため現在繁榮の基礎が固まつたもので、雄踏川ほか三ヶ所に支店出張所を有し、準備金三十七萬一千圓、預金四百二十六萬圓餘、諸貸付二百三十五萬圓餘を算する。初代頭取は堀内萬吉氏、現頭取はその男たる堀内國吉氏である。

龍池村

龍池村 信用販賣 組合

電話笠井一七六番

當組合は大正七年六月の創立に係り、村一圓を區域とし、保證責任にて四種事業を經營する。組合員三百四十名、出資八百口餘(一口二十圓)を算し、堅實なる經營の下に成績良好を極め、貸付は擔保貨の増加に反して信用貸の減少を示し現在九萬三千圓弱を算し、貯金は二十三萬二千餘圓に上る。購買は配合肥料の配給に主力を注ぎ年四萬三千餘圓を取扱ふ。販賣利用は未だ僅少なるも、なほ將來を樂觀させるに足るものがある。初代組合長永井銀次郎氏をはじめ、小松市平氏、松本熊吉氏は組合の功勞者、現組合長加藤儀作氏は明治三十二年の東京法學院出身、翌三十三年より大藏省主計局に勤務し、退官後朝鮮銀行に入り、歸村後は村會議員、村農會長、學務委員等に任じ自治公共のため盡瘁してゐる。

小野口村 小松

小野口村 信用販賣 組合

電話利用

當組合は大正八年六月二十八日の設立にして、初めは有限責任なりしも、後ち保證責任に改め、現在組合員四百三十餘名、出資九百七口(一口二十圓)にて、準備積立金八千八百圓、餘裕金二十六萬七千八百圓を算し、信用利用の二事業を行ふ。近時農村經濟が不況の域を脱せんとする時、當組合は組合本來の精神に則農村金融の使命を全ふせんことに努力し、肥料農具共同購入資金、養鶏、養豚資金副業資金、土地借入資金の貸出をなし六萬八千八百圓の貸付現在高を示し、農家經濟の好轉により貯金も三十三萬七千五百圓に増加し成績頗る良好である。因に初代組合長は竹内市太郎氏、現組合長足立伊助氏は二代目にて大正十三年の就任理事は袴田客平氏ほか十二名、監事は小栗周平氏ほか四氏である。

小林又十郎

小林又十郎



氏の家は土地の舊家であるが、その始祖の何んであつたか、そしてその幾代目であるか等これを詳かにすることは出来ないが、古くから重きをなした村の有力家である。氏は父祖の業を繼ぐや、熱心これに與り、精勵よく家運を起して今日をなさしめる

二年五月、村會議員候補の名乗りをあげて出馬するや、氏を村會に送らざればばかりに氏に投ずるもの多く、目出度く當選の榮を贏ち得て村治に與つて居るが氏の心は常にこれ等村民のために努力し貢獻して以てその期待に副はんとの念願

水野 島重

水野 島重

資性恬淡、典型的宗教家たる氏は、博覽強記、稀に見る頭腦鋭敏の材幹で、その生活は文字通り至信至樂そのものであり、解悟の高き心は、曉の花の如く鮮新にして力強さを感じさせる。明治九年三月を以て生をこの世に享け、幼時より宗教に關心を持ち、自己を鞭つて修業に努め、中年より天理教に轉向、天地の大道に則つて救け一條の信仰を己れのものとし、布教に教化に大いに努めるところあり、現在宗教界を隱退せるもなほ後進青年子女のため宗教的教化事業に盡瘁貢獻しつゝ、あるは誠にわれらの以て利とす待するものである。

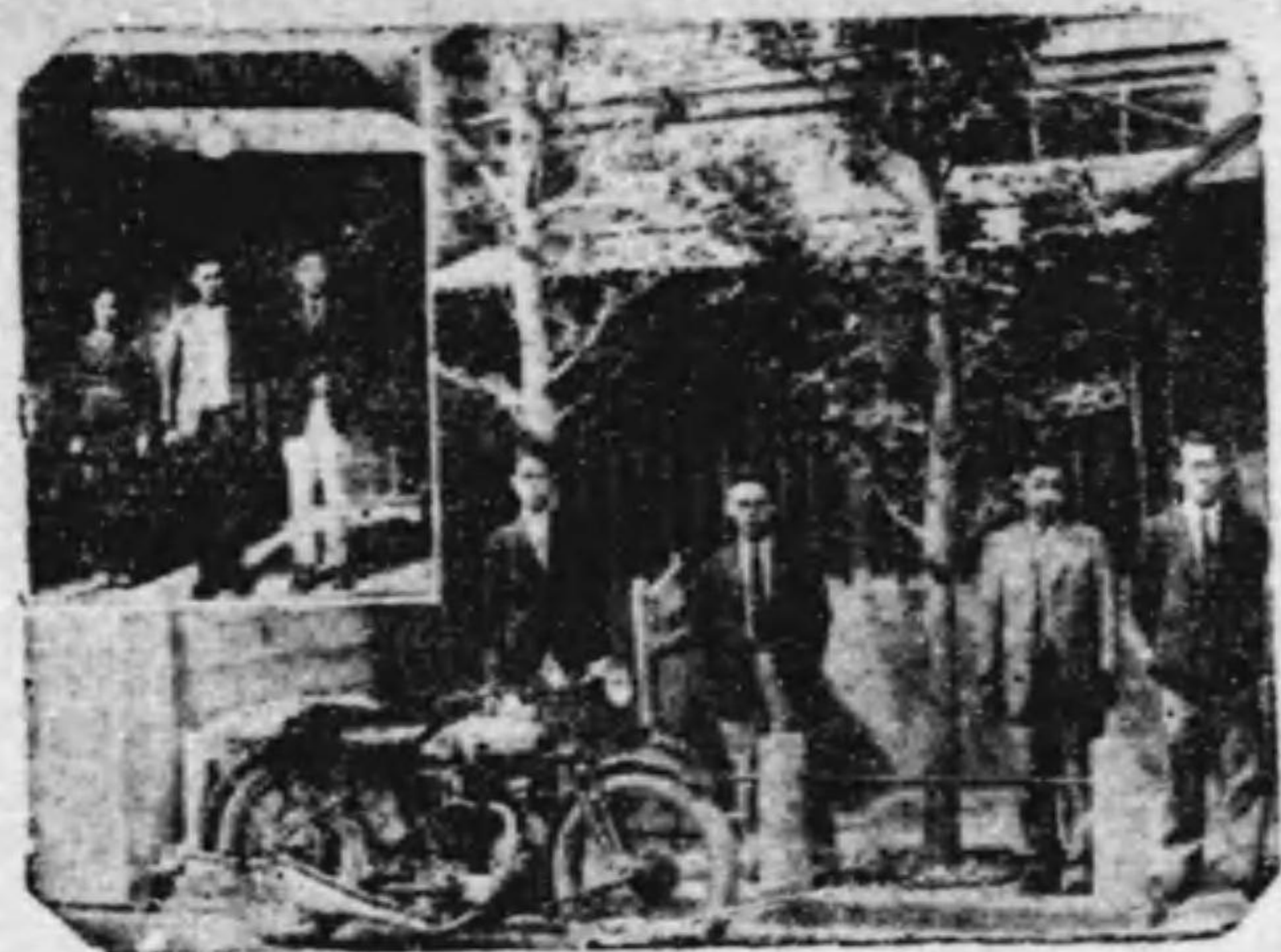
小笠郡

掛川町

掛川信用組合

電話三一〇番

本組合は二宮尊徳翁の高弟岡田良一郎氏の創



元年七月八日、勸業資金を信用組合に變

唱によつて設立せられたもので、その淵源は資金貸付所にある。即ち明治二十

更し、掛川信用組合となしたのであるがこれ實に我が國に於ける信用組合設立の嚆矢で、その組合區域は報徳御趣法の精神に遵據して小笠、榛原、磐田の三郡とな



して認許され居る。有限責任掛川信用組

合となるや、出資一口の金額を二十五圓と定め、爾來利益配當金を以て出資に振り向け、利益増殖したことによつて資金は年々増大し、組合員の需要に對し些の支障なく低利の資金を供給することを得ると共に、組合の基礎は非常に鞏固となり、組合員の組合に對する信頼は年と共に倍増するに至つた。明治四十四年十二月に至つて出資一口金五十圓の豫定額に達し、總額金十四萬一千三百餘圓、各種積立金二萬七千四百餘圓を算し、大正元

年以降始めて剰餘金の配當を行ふの盛況を呈するに至つたのである。昭和十一年の組合員現在数は千四百四十四、出資金三十二萬五千九百五十圓、貸付總額五十八萬三千三百二十九圓、貯金は百二十八萬八百三十圓に上つてゐる。

掛川町

小笠郡茶業組合

本組合は事務所を掛川町に置き、郡内製茶の改良促進を圖るべく生れたものである。現在の組合員数は實に一萬一千四十名で、これを内譯すると栽培戸數六千七百五十五、製茶戸數四千二百九十二、製茶商百九十三、生葉商二百五十七名である。そしてこれ等の組合員が異身同体一致團結してあらゆる方面から茶に對する研究を重ね、以てよりよき製茶をなし本郡産出茶の聲價を高め、一層販路の擴大を圖つて郡内茶業同業者の利福を増進しつゝある。創立以來の組合長が組合の發展に鋭意精進し着々業績を擧げつゝ遂

に今日の組合となしたのであるが、その初代組長は永田太郎一、丸尾文六、栗田淳吉、富田庄吉、松浦五兵衛氏等を経て現棟葉幸藏氏に及んでゐる。

堀之内町島川

西方信用販賣組合

電話五六番

本組合は大正五年十一月十一日の認可によつて創立されたもので、組合區域を町一圓となし、出資一口の金額三十圓、出資總額二萬五千八百三十餘圓で、その組合員數は三百二十餘名である。昭和十一年九月現在の貸付總額は六萬四千四百十六圓餘で、貯金は總額七萬四千四百八十五圓餘である。事業の概況は販賣、購買、利用事業に就ては、取扱種類は略ぼ前年と同一ではあるが、その利用は頗る増加し、販賣事業總額十萬一千餘圓で、購買事業總額は約五萬圓である。更に利用事業に至つては年と共に著しい増加を示し、殊に取扱業務は殆んど統制されて

良成績を収めてゐる。なほ特筆すべきは組合事務所新築を契機とし、組合員新加盟者一躍百名以上を増加し得たこと、これは農事進展上眞に祝福すべきことである。本組合長理事棟原忠藏氏は、組合創立當初より引續き今日に至つたもので現に町長、縣會議員、縣購買販賣利用組合聯合會長等にある大立物である。また専務理事の沖野氏は、元日清製粉會社の社員であつたが、昭和三年、本組合の専務理事となり、本組合の今日をあらしめた上に、多大の功勞を稱へられてゐる。

原泉村

前村長 木下小周

當家は祖父清左衛門氏の代に分家し、農を本業となして相繼ぐこと三代目、現在本村に於ける素封家の一人で、また名望家である。先代周平氏は精農家、君はその長男、明治六年十月十五日の出生、家業に精勵するところあつたが、全村の一致を以て村長に選ばれ、約十ヶ年

村政に與つた。次で村會議員にあげられこれまた業績大なるものがあつた。現在は産業組合理事、森林組合理事を兼ねて今日に至つてゐるが、今や村内に於ける先輩として重きをなし、敬慕されてゐる夫人はなく、令息氏に夫人を迎へてゐるが、令孫三人あり、つや子氏は掛川高等女學校出身で目下家庭を手傳つてゐる。

原泉村 佐賀野

原泉村第七區長 森下善吉

當家の祖は大井川の川上、田代村からこの地に移つて土着し、爾來連綿として相續くこと約三百年の永きにわたつてゐると、土地の古老が言ひ傳へてゐるほどの舊家であり、また名望家でもある。代々農業を營み、茶及び椎茸栽培等をも兼ねて來たのである。先代善五郎氏は區長を振り出しに森林組合評議員等に推され、多大の業績を擧げてゐる。君はその長男、明治三十四年一月十九日、今の家に生れ、長じて父業を助けて大に努むる

ところがあつた。初め青年團第七部長に選ばれ、また帝國在郷軍人會原泉村分會

森下善吉

班長に
擧げら
れ、こ
の方面
に盡力
し、目
下は區
長として區内の弊を矯め、清淨明理化へ
と精進してゐる。その他森林組合理事
あり國防協會の評議員でもあり、氏子總
代、納稅組合議員、第二小學校保護者副
會長、農會第三小組會長なども兼ねて
八方に馳驅してゐる。氏は春秋に富む人
村自治に對する今後の活躍進出振りこそ
正に大に刮目すべきものがある。父君母
堂共に健在、夫人さだ子氏は榛原郡下川
根村家山大橋要藏氏の令妹、間に子なく
令弟留吉氏を準養子となし、令姪氏を配
して家庭又圓滿である。

原泉村炭燒

村會議員 三浦和二郎

當家は代々農、製茶並に椎茸栽培を業
となして、今日に至つてゐる。土地の裕
幅者。氏は明治十六年三月十二日の出生
當家先代亡佐平治氏に望まれて同家に入
つた人。夙に家業に精勵、よき後繼者を
射當てたことよなど評判されたもの、今
日の産を成したること當然と謂ふべきで
ある。同時にまた村内の事に心を砕き、
期せずして衆望を荷ひ、村會議員に當選
村政に關與する二期に及んでゐる。資性
溫良にして素朴、今は村内に於ける先輩
として後輩者指導の立場に置かれ、その
一舉手一投足が常に注目されてゐる。い
ち子夫人は又貞淑にしてよく内助の功を
稱へられてゐる。長男重作氏は目下掛川
教員養成所に在られる。

原泉村炭燒

青年團理事 三浦虎雄

當家は土地の舊家、農を以て家業とな

して来たもので、先々代虎松氏は村會議
員たること三期、且つ夙に貯金思想の普
及に盡力し、會で逓信省管理局長より感
謝状を受けてゐる。先代豊平氏また村會
議員に選ばれて村治に與り、その功績多
大なるものがある。氏は明治四十三年三
月十七日、その長男に生れ、早くから家
業を助けて来た。現在は原泉青年團理事
帝國在郷軍人會原泉村分會班長、森林組
合總代等を兼ねてそれ／＼盡力してゐる
氏は春秋に富む人、公共方面へ努力して
止まざるの精進振りは、やがて村内一般
の印象づけるところとなり、必ずやその
期待に副ふに違ひない。

原泉村炭燒中塚

農會部農會長 森下八郎

當家は舊家で、粟代茶、椎茸栽培並に
農を業となして今日に至つてゐる。祖父
久藏氏は元炭燒村と稱した頃、同村戸長
を勤めて村内治績に貢献し、明治十六年
頃、原泉村に合併するに及んで辞した人

である。先代豊太郎氏は父君の後を襲ふ
て村會議員となり、村政に與ること二期

森下八郎

また中
塚十戸
長とし
ても功
勞があ
つた。
氏はそ
の男、明治三十一年七月一日の出生、長
じて家業に就き、會で原泉村青年團評議
員だつたが、現在は原泉村農會部農會長
家屋稅調査委員等を兼ねて盡力してゐる
夫人ひで子さんは、本村佐賀野前區長杉
山熊藏氏の令妹で、五男一女がある。

村會議員 弓桁政平

當家は祖父氏の代に弓桁爲吉氏の家か
ら分家したもので、爾來約百年今日に及
んでゐるが、煙草、米穀、雜貨、印紙、
切手を賣捌いて居る。氏は彌吉氏の長男



明治八年十二月十日の出生。十六歳の時
父君の死に遭つて二十歳の代から村内の
ために活躍して来た立志傳中の一人であ
る。郡制當時、郡民の輿望を負ふて郡會
議員に當選、先んじて郡政の刷新にあた
り、大にその硬骨振りを見せたものであ
る。その他産業組合理事、區長、村農會

長等に
就任そ
れ／＼
盡力し
功績を
稱へら
れてゐ

る。現在は村會議員であるが、約三十ヶ
年も引續き村政に關與、また日本赤十字
社終身社員として日赤の思想普及に努め
るところがあつた。なほ目下原泉郵便取
扱所を出願中であるが、地形の關係上、
やがて許可を見るであらうと豫期されて
ゐる。趣味といつては俳句があるのみ。
家には母堂健在、實に八十三歳の高齡、



原泉村前第七區長 杉山熊藏

當家は古い家柄で、世襲的に椎茸及び
茶を本業となして營んで来たのである。

先代喜
重氏は
區長と
して多
大の成
績を擧
げ、後

ちまた村會議員に選ばれてこれまた甚大
の功勞を稱へられてゐる。氏は先代四男
二女の長男として明治三十六年六月二十
八日、今の家に生れた。長じて濱松歩兵

第六十七聯隊に入營兵役に服し、後ち大正三年の日獨戦争の時、青島に出征、四年に凱旋したが、戦功によつて勳八等を下賜された。後ち家業の傍ら公共方面に力を致し、區長をはじめ森林組合評議員、帝國在郷軍人會原泉村分會評議員等を兼ねて、大に活動盡力するところがあつた。現在は衛生組合委員を帯びてゐるが、併しその前途はこれを以て甘んじさせておくものではあるまい。第一弟虎藏氏は志太郡徳山村に分家し、第二弟和平氏は清水警察署警官として勤務、第三弟孝一氏は名古屋市の官廳に在勤中である。なほ家には父君亡じて母堂六十一歳の高齡を以て健在。夫人ちめ子氏は周智郡三倉大河内の松本榮藏さんの息女、間に四男二女あり、長男實氏は森高等小學校を了へ、長女よし子さんは三倉高等小學校を卒業、共に家業に就いてゐる。

原泉村 居尻
村會議員 佐藤 眞太郎
同家は舊家、相繼いで農を營んで來た

もの、祖父廣治氏は若くして村内の事に與り、東奔西走、よく民心に副ふところがあつたので、後ち村會議員に推薦され熱心村政に盡力した。また區長としても好典型を後輩の士に残してゐるなど、公共方面に致した功勞は多大なるものがあつた。氏は先代準八氏の長男明治二十七年一月九日の生れ夙に家業を助くることろあつたが、後ち役場収入役に推されて就任、滞納税の刷新に大に力癪を入れて着々これが減少を計つた。現在は村會議員として村政に參與、しかも公私の別を明かにし、常に正を正として堂々の陣を張つて邁進してゐる。蓋し村會議員稀に見るの人と謂ふべしである。

平田村 下平川
平田 郵便局
本郵便局は明治十四年四月十八日、指定によつて開局、四等局中村郵便局と稱し、同十九年五月二十五日、三等局に昇



格、同二十四年四月一日、今の名に改稱した。集配事務は開局、同時に開始、貯金事務

數の古い局。初代局長は熊切庄右衛門氏二代目は同信平氏で、現局長はその男信平氏である。

平田村 下平川
平田郵便局長 熊切 信平

當家先代信平氏は父君の後を襲ふて平田郵便局長となり、功によつて從七位に叙し、勳七等を下賜された功勞者である。氏はその男、幼名を英夫氏と稱し、後ち父君信平氏を襲名したのである。葦山中學校を卒業するや、明治四十年十月より通信事務員となり、大正十年九月二十八日、局長を拜命、父君の椅子を繼ぎ今日に至つてゐる。現在は二級俸、なほ區會議員を兼ね、また三等局長會第二部幹事としても活動してゐる。

平田村 上平川
元收入役 小林 實三郎
小林家は古來醬油醸造業に従事、傍ら農を營んでゐるが、明治五年頃、醸造業

を廢し、専ら農耕に心を注いだ。五代目惣次郎氏は、永年上平川村戸長に就き、その在職中公租の高きを憂慮、しばしばこれが減額を出願して漸く素志を貫徹しまた隣村地内に溜池の新設を企圖して東奔西走、終にこれを實現して上平川村五十餘町歩の廢田を沃田に化するなど、村民福に貢獻する多大なるものがあり、目下建碑の計畫中である。氏はその男、明治八年九月三日の出生、村役場書記を振り出しに収入役等を勤め、現に四期目の村會議員であり、また學務委員、區長に携はり自治に功勞ある人。嗣子正雄氏は一年志願の主計少尉、正八位、青年團長、在郷軍人會分會長を勤め、また役場収入役として前途益々多望である。

平田村 下平川
有力者 相羽 精一郎
當家は土地に知られた舊き家柄で、累代農を以て相繼いで來たのである。先々代仙三郎氏は會て庄屋を勤め、一村の東主として功績があつた。先代芳太郎氏は

村會議員となり、學務委員となり、また村長に推さるゝなど、多年にわたつて村自治に盡瘁、昭和十一年、六十八歳を以て長逝したが、今なほその功勞を稱へられてゐる。氏は本郡朝比奈村下朝比奈の丸尾熊次郎氏の長子、明治二十四年四月十二日を以て生れ、後ち同家先代氏に望まれて養嗣子となつた人である。性極めて温厚の士、祖父の業に熱心従事してゐるが、一面村に重きをなし、やがて村治方面に乗りだして躍進また躍進すべきことを、村内一般から期待されてゐる。

平田村 東嶺田
前村長 鈴木 治兵衛
當家は五代目の舊家、農を本業となし先代軍平氏は糖農家として知られてゐた氏は山本松次郎氏の次男として明治五年十一月二日、本郡笠原村に生れ、初め幸治郎氏を名乗つたが、明治二十八年、當家の養子に迎へられ、後ち今の名を襲名した。同三十四年、役場収入役に就任し



たをき
つかけ
に助役
となり
大正四
年一月
全村一

有限責任となした嶺田信用購買販賣利用組合を創立したもので、大正十五年一月嶺田を平田と改稱、次で昭和八年、有限責任を保証責任に改め、引き続き現在に及んでゐる。組合区域を村全部となし、昭和十一年九月末現在の組合員数は二百二十五名で、その口数は三百四口である。

當代は國京利作氏が任期中である、また専務理事としては三浦松吉氏その任にあつて活動してゐる。

平田村 下平川
村會議員 宮城 和夫

電話 五番

致の下に村長に擧げられ、その他村會議員、學務委員、區長、産業組合創立主唱者として、またその組合長であるなど、村治の上に甚大な功績を樹てゐる。日露戦争當時は助役在職中で、功に依つて勳八等を下賜された。實兄故山本重五郎氏は笠原村に於ける村會議員、學務委員収入役、助役、郡會議員等を勤めた村治功勞者である。なほ夫人との間に三男二女あり、長男英一氏は役場に勤めたことあり、目下家業に精勵中である。

平田村 嶺田
平田 信用販賣 組合
購買利用

電話平田四五番

本組合は大正六年三月十九日、組織を

出資一口の金額は二十圓で、出資總額六千八十圓に上つてゐる。貸付總額は有擔保無擔保を合して二萬六千六百五十二圓貯金は六萬二千四百六十五圓を示し、組合利用者数は年を逐ふて増加するばかりで、購買價額は四萬一千六百六十圓、販賣優額は九萬二千七百五十二圓並に利用料として三百六十圓といのが、昨年一ヶ年に於ける當組合利用の成績である。なほ本組合は未加入者に向つて積極的に加盟を勸奨し、一層組合の内容を充實して産業方面に努力貢獻し、名實共に耻るなきの組合たらしむべく鋭意精進してゐる。

本組合のこれまでの組合長理事は、初代が鈴木治兵衛氏、次代は杉田吉五郎氏で

當家は七八代の舊家、相承けて農を本業となし、五代前の甚藏氏より庄屋を勤めて村内に信望のあつた名ある家柄である。亡父甚藏氏は廣くから村治方面に進出、村會議員、村長等あらゆる公職に選ばれて献身的手腕を振つて功績を讃へられた人である。日露戦争當時は、恰も村長として内治に當つてゐたこと、平和克復後、その功によつて勳七等を下賜された。氏はその男、明治三十五年、今の家に生れ、家業に熱心すると共に、他方村内の事に意を注ぎ、村民の重望を荷つて村會議員に當選、現に村政に關與してゐるが、會つて私設消時代には、その組頭に推されて相當の業績を擧げてゐた

ほどで、氏の眞の活動は將にこれからである。

平田村 中嶺田
元村會議員 寺本 朝平

當家は代々農を營んで來た舊家、そして七郎作氏を襲名したが、先々代からこれを廢した。慶安四年、當時の七郎作氏は今の藥師堂を初めて建立、次代の七郎



作氏は
寶永二
年にこ
れを再
建、明
和三年
三度建

立、文化十二年に至つて新築したが、今の藥師堂である。先々代長作氏は戸長を勤め、日露戦争當時は役場助役奉職中だつたので、内治の功に依り勳八等を賜はるなど、村治に與る三十年間の業績は甚大なるものである。氏は昭和五年三月

長逝するまでは村會議員、その他の榮職にあつてまたその功を認められた人。當主主計氏は大正元年十一月二十八日生れの前途有望の青年、當主先代に望まれて迎へられたもの、夫人との間に一男達良氏がある。

西山口村南ヶ谷
助 役 山 内 文 平

山内家は舊家、また本村に於ける篤農家として知られ、村民の信望極めて厚く先代亡儀平氏は収入役、農會長等を勤め



あつた
人。氏
は明治
二十一
年七月
の生れ

明治三十九年、静岡師範學校を了へて訓導となり、佐倉小學校を振り出しに東山口、西郷、堀ノ内の各小學校を歴任、次

で原泉小學校に昇進、教職にあること十八ヶ年、昭和二年に退職して役場助役に推され、現に二期目の助役として今日に至つてゐる。その他村會議員、學務委員、産業組合理事、衛生組合長、土木委員、金錢債務調定委員、菌ヶ谷報徳社副社長第一、二回國勢調査員、家屋税調査員等を勤めた。濃厚篤實の報徳主義者、夫人すゑ子さんは愛國婦人會員で間に四男二女がある。

西山口村
村會議員 森下 九郎平
元村長

當家は既に十四五代を経た土地の舊家で、本村に於ける森下姓の本家である。代々農を本業となし、幕政當時は庄屋として、また組頭として村内に貢獻した名ある家柄である。先代半六氏は篤農家として知られ、村會議員等の公職の上に相當功績を樹てゐる。氏は明治六年九月十五日、その長子として生れ、會て役場助役たること二期、次で村長に選ばれる

など、大に努力貢献し、そして現在は村
會議員に小笠郡畜産組合議員を兼ねてゐ
る。なほ村長退職後、掛川會信銀行の常
務取締役を勤め、また村産業組合創立當



時の委
員にし
て理事
大に活
動する
所があ
つた。

性温厚、頗るの信仰家で、現に堀ノ内町
龍雲寺並に本村満水の流水寺の檀家總代
を勤めてゐるほどである。その趣味とし
ては俳句、園藝がある。俳句を任天と稱
し、斯界に名聲が高い。園藝また妙手と
して響いてゐる。母堂は八十四歳の高齡
を保つて家にあり、しげ子夫人又貞徳の
譽れ高く、三男一女がある。長男氏は早
世、二男博一氏は周智農林學校を卒業、
元青年團長として活動したが、目下は家
業を助けてゐる、二人の令孫がある。

西山口村 塩崎 萬吉

氏は淺吉氏の長男、明治三十二年三月
今の地に生れ、長じて三島重砲第二聯隊
に入營、大正十一年、除隊歸郷したが、
同十四年、勤務演習のために召集され、
成績優良の故を以て伍長に昇進した。そ
して消防組には除隊後加盟、引續き十餘
年間盡力、衆望を負ふて組頭に就き、組
の改良、組織等について目下努力してゐ
る。會ては西山口村在郷軍人分會長を勤
めてゐる。消防組勤功勞者として縣警
察部長より、また成績優良として消防協
會からそれ／＼表彰されてゐる。趣味は
スポーツで、常に青年にスポーツスピリ
ットを鼓吹し、家には兩親建在家業を見
てゐる。夫人せい子さんは堀之内町の出
身で、夫君との間に三男二女がある。

西山口村 満水 無量山 萬水寺

本山は永祿元年、本芝圓訓と稱する人



で、間口六間三尺、奥行三間三尺の木造
瓦葺の本堂、間口五間に奥行三間三尺の
庫裡と
あり
二月十
五日、
四月八
日、二



初めて堂宇を建立、龍雲寺の二世光山座
致師を請じて間山の祖となしてゐる。本
寺は堀之内龍雲寺、曹洞宗派、阿彌陀如
來を本
尊とな
してゐ
る。境
内面積
四百四
十五坪

であるが、師は明治五年八月九日、清水
市上清水の商匠澤重兵衛氏の長男に生れ
明治十八年八月二十八日、周智郡天方村
藏雲院の前住職福島信芳師に就いて得度
し、同十九年三月一日より越後國中魚沼
郡千手町村長福寺に、次で同廿四年九月
より同二十七年九月までは遠州濱名郡富
塚村の普濟寺にあつて修業を重ねた。斯
くして修業の功成つて同三十一年、満水
寺住職に就き、引續き現在に及んでゐる
が、檀徒の崇仰極めて高い。趣味は俳句
自ら知是と號して令名を馳せてゐる。夫
人なか子さんは愛知縣南設樂郡新城町の
出身、三男子あり、長男貴之氏は齒科醫
として東京豊島區に開業してゐる。

西山口村 梅田 金平

在郷軍人分會
長、正八位
當家亡祖父伊吉氏は村會議員に選ばれ
るなど、一村のために大に計るところが
あり、自治の功勞者として稱へられてゐ
る。氏は平重氏の長子で明治三十九年一

原谷村 本郷 白瀧 啓次郎

月十三日の出生、堀之内農學校を了へて
中央大學法科本科に學び、同校卒業後靜
岡歩兵第三十四聯隊へ幹部候補生として
入營、昭和七年、歩兵少尉に任官、正八
位に叙せられた。後ち内務省名古屋土木
出張所に勤務、昭和九年、本郡平田出張
所に轉任、現在同事務所に事務主任とし
て勤務中である。帝國在郷軍人西山口村
分會長であり、日本赤十字社終身社員で
もある。趣味はスポーツ、撞球。兩親健
在、夫人さだ子さんは袋井町鈴木清馬氏
の息女で愛國婦人會員、間に二男子があ
る。

今は廢寺となつてゐる原谷村法珠庵の
住職に白瀧觀山氏なる人があつて、母堂
きん子さんを養子となして育て、更に原
田村寺島より代吉氏を迎へて養子となし
後ち代吉氏分家して今の家をなしたので
ある。農を本業となし、一方組長に選ば

原谷村 西山 杉山 明

れ、煙草耕作總代などにも推されて相當
活動した人だつた。氏はその長男で、明
治二十四年八月二十四日の生れ、小學校
を卒へるや家業を手傳つて父君を助け、
後ち濱松聯隊に入營、天津山海關守備隊
として渡支、一旦除隊となつて歸郷した
が、翌年召集されて青島に出征して彈雨
下を潜り其の功に依つて勳八等に叙せら
れた。目下村會議員として村治に當つて
ゐる。夫人さよ子さんは森町大門伊藤仙
藏氏の女、三男四女の子孫者である。

當家先代安太郎氏は、杉山保次郎氏の
家から分れたもので、農を本業となし、
西山報徳社副社長として現に任期中。原
泉村長中山平作氏は實に氏の令弟であ
る。氏はその長男、明治三十一年九月二
十六日の出生、通稱は隆造氏。前に青年
團副團長として活動し、現在は村會議員

また大正六年來消防組西山部長として勤め、日本赤十字社通常社員でもある。消防部長としての抱負は、まづ火の見鐵塔の新設實現である。昭和九年十二月十日、静岡縣消防聯合會掛川支部長から多年勤務に依る功勞者として、同年十一月二十六日、静岡縣警察部長から勉勵技術熟練功勞者として、何れも表彰された。兩親建在、夫人はしづ子氏で、愛婦會員六男一女あり、長男晋己氏は周智農林學校在學中で、長女秀子氏は周南高女卒の才媛で目下家庭にある。

原谷村 西山

朝照山 善福寺

當山は曹洞宗、東方藥師如來を本尊となし、最福寺を本寺となしてゐる。開山は本村轉錄最福寺二十餘世の住職月堂宗致大和尚で、現住職は松下禪底師である。師は大坂府三島郡高槻町の豊松下九一郎氏の二男、明治八年三月二十八日の出生七歳の時、滋賀縣蒲生郡日野町慈眼院住

職諏訪周禪師の養子となり、當時の宗教學校たる専門支校に學び、十六歳の時、



長野縣 下水内 郡飯山 町大聖 寺に轉 住、二 十二歳

の時、九州方面に修業、長崎市暗台寺に隨寺、後各地に修業、伊勢國山田市の正方寺住職となり、明治三十四年頃、静岡縣西郷村法泉寺、春性寺等を経て、同四十二年頃、當山に轉じて住職となり今日に至つてゐる。檀家は西山三十三戸山本勘七、鈴木百十、永井覺氏等檀徒總代として轉じてゐる。

原谷村 細谷

松井 政平

村會議員 消防組頭 當家は農業を營んで來たもの、氏は同地平尾元吉氏の四男として明治三十一年

一月七日に生れ、その二歳の時、當家先代安平氏に望まれて松井家の人となり、周智農林學校卒業後、村役場に入つて書記を勤むること五ヶ年餘、後助役に推され、村長を助けて村治績を擧げること三期に及んで、衆望全く氏が双肩に集まつた。現に村會議員、消防組頭、産業組合理事等を兼ねて精進してゐるが、今後の活躍振りが思はれる。性温厚篤實、趣味としては和歌、俳句があり、閑あれば即ち句作に没頭してゐる。夫人こう子さんは曾我村松浦金作氏の息女、一男五女あり、長女安江子氏は森高等女學校に通學、その他小學校に在學中である。

原谷村 本郷

原谷村 信用販賣 組合

電話 四番

本組合は昭和三年十月九日の創立であるが、これが呱呱の聲を擧げるまでの村内衆望の叫びは、實に喧しいものであつた。それだけにこの組合の前途は大なる



有擔保を合して三萬六千四百餘圓を示し貯金は組合員並に産業組合法第一條第二項の規定によるものと合して、實に四萬七千餘圓に達してゐる。そして貸付金の利息、販賣歩合金、購買益金、利用

期待をかけられてゐる。有限責任を保證責任に改めたのは昭和十一年二月で、出資一口の金額は三十圓、出資總額一萬一千七百圓、組合區域を村全体とし、その

數約二百六十 餘名に 上つて ゐる。 創立以 來漸次 成績を 高め、 現在貸 付の總 額は無 擔保、

料並に預金利息、配當金、雜收などを計上すると約三千五百圓で、損失金を差引いてもなほ約一千圓の剩餘を見せてゐるといふ好成绩振りである。前組合長は熊谷藤一郎氏であつたが、氏は元村長をはじめ村農會長などに就任して村政に貢獻した人、現組合長理事山本政情氏は元村農會長で、現に學務委員として寄與してゐるが本組合専務理事として永年活動して來たもので、昭和十一年、遂に組合長に選任されたもので、信望が厚い。

原谷村 西山

佐藤 五平

村會議員 當家は土地の舊家として知られてゐる累代農を本業となし、先代藤七氏は永年區長を勤めて、その功を稱へられた。氏はその長男、明治十年の出生、早くより家業に就いたが、衆の望みに囑せられて村會議員に擧げられ、村治の刷新、實行に鋭意すること二期、まづ區長としては三期、その他産業組合監事としても盡力

してゐる。性温順、常に村内に於ける先輩功勞者として仰慕され、自らもまた進んで青年指導の上にたち、精神的方面の修養に心を練つてゐる。家に一男三女あり、長男氏は高等小學校卒業後、村役場に職を得、現に書記として、勤めてゐるか同僚間からは早くも前途を囑望されてゐる。

新 野 村

吉野 茂八

村會議員 元村長 當家は農を以て相繼ぐこと既に七代目氏は文久三年七月一日の出生、見るからに柔和温容の風格、夙に衆望を集め得たことがうかがはれる。明治四十年の五月村民一致の推舉によつて村長に就くや、鋭意して村政に邁進、大に村民の期待に副ふところがあつた。大正九年三月、再選されたが、この間郡會議員として郡政に與つた、同十二年、耕地整理組合を組織し、推してその長となり、現任中であ

ると同時に、四期目の村會議員でもある
また養蠶方面にも率先して奨励し、目下



は副業として養鶏を主として白色レグポイン種
の普及に努めてゐる。現に老境にあるの
身を以て、今なほ日夕村政に盡力さるゝ
その功勞や偉大なりと謂ふべしである。
家に二男二女あり、長男源三郎氏は今、
協和銀行に奉職中である。

新野村 信用販賣組合
本組合は昭和三年御大典記念事業とし
て、同年一月九日に創立したもので、組
合区域は本村全部で、全戸數三百九十餘
戸のうち、三百十九戸の加入者を占め、
未加入者に對しては組合の必要なる所以

新野村 信用販賣組合

を説いて自覺を促し、以て全部の加入を
得るやう計畫してゐる。そして産業の振
興を圖るには資金の潤澤が必須條件であ
るが、併し貸付金は對人信用を旨とし、
その人格を最も大切な擔保となして、信
用調査に重きを置き、忠實な組合員を養
ふやう心がけてゐる。昭和十一年十二月
末現在の貸付總額は四萬九千二百九十九
圓で、貯金は九萬五千七百五十五圓餘に上
つてゐる。そして購買部にあつては前年
と同じく肥料を主とし、農會と協力し、
農林省より補助を仰いで設備した配合機
によつて配合し、配合肥料の普及に力め
てゐる。また販賣部、利用部、農業倉庫
部にあつては、その取扱ひ種目は同一で
はあるが、その成績に於ては前年に比し
て向上を見せてゐる。また本組合では、
この外に事業の一つとして一般家庭婦人
に組合精神を普及するため村當局、更生
會、農會と協調して各區に婦人會を開催
したが、その結果は頗る好成績を擧げて
ゐる。

西南郷村 下俣 村會議員 萩田 丹治

當家の先代茂平氏は、本郡和田岡村の
村會議員として村政に與り、村會議員中
の逸物の名を馳せ、一村の利福利榮のた
めには是を是となし、寸毫だも私情を容る
るを許さぬといつた純潔の士だつた。従
つて村治革新の上に多大の功績を残して
ゐる。氏は明治八年、その長男として出
生、長じて家業に勵むところあつたが、
明治四十五年、感ずるところあつて居る
今の場所に移し、間もなく貸座敷業を營
み、引き続き今日に及んでゐる。曾て掛
川貸座敷業組合取締役に擧げられ、斯業
界永年の弊風を矯め、大に面目を新たに
するところがあつた。現在は二期目の村
會議員として村治に參し、また家屋税調
査委員を帯びて鋭意努力してゐる。貸座
敷業といへば、とかく世間は蔑視、冷罵
を浴せたるものであり、業者中また當然
呪はるべき悪業を重ねつゝあるものもある
が、併し氏はこれ等の輩と類を異にし、

親切丁寧、お客本位の店となして迎接し
てゐるところから、一般の評判は頗るよ
く、店のものに對する待遇にも不斷留意
し、萬遺漏なきやう努めてゐるので、こ
れはまたこよなき主よと歡ばれてゐる。

西南郷村 上西郷中ノ谷 村會議員 戸田 萬三郎 消防組頭

當家の家系は詳かではないが、とにかく
相當の舊家でもあり、また名望家でも
ある。先代亡林五郎氏は郡會議員として
村會議員として、またその他の公職等に
就いて甚大なる貢獻をなし、その聲望は
今なほ高い。氏はその長男として明治二
十一年二月二十六日、今の家に生れ、昭
和六年以降消防組頭、家屋税調査委員
第一、二回の國勢調査員に擧げられて功
あり、現在は村會議員、消防組頭、本村
産業組合監事としてそれぞれ活動してゐ
るが、しかも村會議員は三期目であり、
以て信頼の度を量るべきである。趣味は



狩獵で免狀所持者、期ともなれば山野に驅ける
その勇姿が想見される。家には八十一歳
の母堂はじめ夫人はる子さんあり、間に
二男子があり、共に掛川中學卒業後、實
業に就いてゐる。

西南郷村 下俣 丸西信用販賣組合

本組合は明治三十四年六月二十八日、
産業組合法に準據して創立、有限責任丸
西製茶販賣組合となし、事務所を今のと
ころに新築移轉して事業を取扱つてゐた
が、當時の組合區域は本村一圓に會我村
の一部と南郷村の一部とを加へてゐた
併し組合の成績は少しも上らず、寧ろ衰
頹して解散説を主張するものさへあつた

が、組合長はじめ首腦幹部は飽くまでも
存續説を支持し、組合員數が漸次減少し
て最小限度に至らぬ限りは解散せずと頑
張り、同時に製茶販賣のみを以ては發展
の望みなきを自覺し、明治四十四年二月
有限責任丸西信用販賣利用組合と改
稱、その區域を西南郷村のみとなし大正
八年他の經營せる共同製造場を買収、本
組合に於て共同加工するに及んで、加入
者俄然増加し、曾ては不満を懷いて脱退
したものさへ再度申込をなすの状態を呈
した。そして出資一口の金額は、初めは
五圓であつたが、後十圓に増額、更に
また二十圓に増額して現在に至つてゐる
現在茶葉作業場、薬工品作業場を有し、
製茶、薬工品の加工、肥料の配合、鶏卵
の集散等に努めてゐる。前組合長松浦才
治氏は本組合創立主唱者でありまた組合
の今日をあらしめた功勞者である。現組
合長理事は袴田銀蔵氏、専務理事は松浦
榮一氏である。

丸西信用購買販賣利用組合長 袴田 銀藏

當家は十代目、二百七十年相繼いだ舊家で、しかも名望家として知られてゐる先代亡藤次郎氏は助役、村會議員等に選任、村自治の功勞者であつた。氏はその長子、明治九年八月二十日の生れ、會て村役場收入役たること十一年、村長の任にある事廿五年二月月の勤續者、現在は丸西信用購買販賣利用組合長、日本赤十字社特別會員であり、全國町村長會から自治功勞者として、縣知事より一般自治功勞者として、靜岡地方裁判所長より戸籍事務功勞者として、その他本郡長、本郡地方改良會長、掛川警察長等よりもそれ／＼表彰されてゐる。趣味は郷土の研究、旅行、骨董觀賞、讀書などで、良妻賢母の譽高い夫人つま子さんとの間に四女子がある。

曾 我 村 平 野

村會議員 太田 彦惠藏

元村長
當家は舊家で、先祖は庄屋を勤めた名

望の家柄である。氏は先代彦惠藏氏の長男、文久元年六月廿五日の出生、幼名を鹿太郎氏と稱し父君長逝後これを襲名して今日に及んでゐる。曾て郡會議員に擧



げられ
て郡政
に與り
また本
村々長
として
村治の

革新に先鞭を打つて功を稱へられてゐる現在には村會議員、區長、日本赤十字社名譽社員、郷社熊野神社總代、靜岡縣氏子總代会評議員等を兼ねてゐる。前に愛國婦人會から表彰されて三等有功章を賜はつた。夫人きよ子さんは磐田郡長野村前野の名望家鈴木五郎八氏の息女、四男四女のり長男雄三氏は靜岡師範學校の出身現西牟浦小學校訓導奉職中、夫人常子さんは西郷村の名家中村重藏氏の孫女である、次男芳夫は掛川中學校、東京物理學校

出身で現在神戸氣象台に勤務してゐる。

曾 我 村 高 御 所

曾我村 信用販賣 組合

購買利用

本組合は大正五年九月二十一日、有限責任曾我村信用組合として創立されたもので、後ち販賣、購買、利用事業を加へ有限責任を保證責任に改組し、爾來組合の向上發展を目指して邁進、今日に至つてゐる。組合區域は村内全部で、出資一口の金額は二十圓、組合員は昭和十一年



の現在
三百四
十七名
で、そ
の口數
八百八
十九口

出資總額一萬七千七百八十圓である。そして貸付總額は十三萬三千六百餘圓で、貯金は十二萬八千六百餘圓を示してゐるが、販賣部や購買部や利用部その他の取

扱ひによつて擧げ得た一ケ年間の剩餘金は一千八百四十餘圓で、六分の配當をしてゐるほどである。販賣部の手數料は比較的少なかつたが、購買部の益金七百四十圓餘に、利用部の約一千八百圓は、前年度のそれに比して増加してゐる。従つて一般組合員の本組合に對する認識の度は逐年高まり、進んで利用せんとする熱を見せつゝあることは、本組合將來のために歡ぶべしである。現組合長は理事戸田濱雄氏であるが、實に創立以來の功勞者でその他伊藤誠太郎、橋本半平、高橋良一郎、宮川伊作、高柳喜平、桑原八郎氏等を理事に、大庭利平、松浦玉次郎、松浦半次郎、齋藤幸次郎、鈴木啓一郎氏等を監事となしてゐる。

櫻 木 村 遊 家

村會議員 小柳 津一郎

元村長
當家は十二三代を累ね來つた舊家で、村内に重きをなしてゐる。先代善平氏は村役場の收入役を振り出しに、助役に推

されて村長を輔くこと多年、大に村治績の見るべきものをあらしめ、また村會議員に選ばれては、常に硬骨の士を以て鳴らしてゐた功勞者である。氏は明治十一年二月十一日、その長子として出生、町村制實施前舊雨櫻村長となり、後ち櫻木村役場助役として村長を輔佐し、その他上垂木區會議員、舊雨櫻消防組頭を経て垂木雨櫻兩村合併當初の村長として大に手腕を揮ひ、村民に對してこの人ある哉を思はしめたのである。そして現在は村會議員に擧げられて村治に關與、銳意貢獻しつゝあると共に、櫻木村雨櫻産業組合長、遊家報徳社長を兼ねて、所期の目的達成に向つて邁進してゐる。一度これぞと思ひを馳せるや、徹底的に貫徹せずには指かぬ性格の士だけに、その成果は期して俟つべしである。趣味は俳句、讀書、盆栽。なほ消防組頭當時、縣警察部長より功勞者として表彰さるゝこと數回、また濟南事變の際は村長として表彰されてゐる。夫人みつ子さんとの間に二

女あり、長女よし子さんは掛川高女出身女精禮太郎氏は掛川裁縫女學校に奉職してゐる。

櫻 木 村 家 代

前雨櫻村長 山崎 九八郎

電話櫻木 番

當家は二十數代を経た舊家で、且つ村内有數の素封家であり、また名望家でもある。先代莊七郎氏は町村制實施前にあつては戸長として一村を束ね、實施後は



村會議員等の公職に就くなど、多年村政に與つて功勞を讃へられてゐる。氏は磐田郡下阿多古村松野平九郎氏の三男で、明治九年四月十日の出生、慶應大學經濟科を卒へた人、當家の先代氏に望まれて同家に

迎へられたのである。村政方面に對しては舊雨櫻村長に推されて鋭意村自治に力を致し、村内の聲望高きを加へ、また舊雨櫻村會議員、同務委員等に選ばれたる職二十有五ヶ年にわたつて盡瘁せる功績は、洵に甚大なものがある。現在は産業組合理事、學務委員を兼ね、老驅を厭はず努力してゐる。人格は圓滿なかく、の人の望家で、趣味としては盆栽、書畫、圍碁、飼犬などであるが、盆栽や書畫に對する鑑識眼は、優に一家をなしてゐる宗派は曹洞宗。夫人さは子さんは愛婦三等有功章を有し六男一女がある。長男庄太郎氏は慶應大學經濟科出身、千代田生命保險社台北支店長を勤め、次男三男氏は分家、四男氏は夭折、五男岩夫氏は早大政經科卒業、六男英司氏は今、早大商科に在學中。長女氏は磐田郡下阿多古の素封家松野源九郎氏に嫁してゐる。

櫻木村 遊家

土木委員 村松 眞治

當家は舊家、代々農業を營んで今日に至つてゐる。先代清藏氏は區會議員に擧げられて區内の刷新に功のあつた人。氏は明治十年三月二十八日、その長男に生れ、小學校卒業、堀内塾に學ぶところであつた。公共方面への進出は、舊雨櫻村會議員たること七期、同遊家區長たること四期、同務委員、舊雨櫻農會評議員等に推されて多大の業績を稱へられてゐる。現在は櫻木村土木委員であり、また雨櫻産業組合監事であり、それ〴〵盡瘁してゐる。夫人との間に三子あり、長男眞一氏は、周智農林學校を了へて家業に従事次男清太郎氏は同農學校を卒業、和田岡

土木委員

村松 眞治

櫻木村



櫻木村 下櫻木

櫻木郵便局長 山崎 彌三郎

當家は現櫻木村長山崎好知氏の家から分家したもので、農を以て相繼ぐこと七代、その祖は村内公職に就いて功を樹てゐる。氏は房吉氏の長子、明治十五年十一月二十三日の出生、その十一歳より三十歳までの間は、病弱の父君に仕へたる

孝行振りは、今なほ世の翫鑑と仰がれてゐる。會て舊垂木村助役、同村會議員、消防役員を勤め、現在は櫻木郵便局長に産業組合理事を兼ねてゐる。同郵便局に昭和五年五月二十六日取扱所となり、同

十一年一月二十六日昇格、同十年七月十五日電話開始、同十一年十月二十四日交換事務取扱つて今日に至つてゐる。なほ次弟氏は分家、三弟孝平氏は名古屋市役所に勤務中である。うら子夫人、長男昌平氏は事務員として活動してゐる。

櫻木村 山崎 保平



櫻木村 上櫻木

當家は五代前の祖清五郎氏が、本村現戸主山崎九八郎氏方から分家したもので、に百三十有餘年を閱し、當村切つての素封家として知られ、また名望家の名も高い。先代仲平氏は永年村會議員として村政に功勞のあつた人。氏はその長男明治十六年四月七日の出生、静岡中學校を経て早稻田大學政治經濟科に學び、卒業後の明治三十八年、名古屋森山歩兵第三十三聯隊に一年志願兵として入營、歩兵少尉に任官、正八位に叙せられた。會て舊雨櫻村長として一期、前櫻木村長として同じく一期間就職し、また帝國在郷

元村長 中山 太郎平

當家は代々太郎平氏を襲名、農を家業

となして相繼ぐこと十四代、その十代の祖は道路請請、その他公德事業に努めるなど多大の功績を累ねて時の掛川城主より褒賞された記録が残つてゐる。先代太郎平氏は、町村制實施前の會所役議員を勤めた公德の厚い、極めて信望の高かつた人だ。氏はその長男明治十一年十一月十一日の出生で、會ては舊雨櫻村長に推されて功を稱えられ、その他同農會長、小笠原町村長會議員、上垂木區會議員等を勤め、目下は閑居、悠々自適してゐる。夫人たよ子さんとの間に三男二女あり、長男郁郎氏は掛川中學校出身、今名古屋市にあつて實業界に躍進しつゝあり、前途を囑望されてゐる。

元村長

中山 太郎平

櫻木村

櫻木村

櫻木村 上櫻木

原田村原里

農會長 山本 芳平

當家は舊き家柄、代々農を本業となして今日に及んでゐる。氏は先代亡峯吉氏の長男、明治二十三年の一月五日、現在の家に生れたのである。長じて原田小學校を了るや、家業に就いて父君を助け早くも村人からその將來を卜され、氏もこの期待を裏切らざらんことを、深く心に銘じて精進した。一方立憲政友會に籍を置き、着々村治方面に心を展べた。後ち村内一致の推薦によつて村長の椅子に就き、村内に蟠まる弊風の掃蕩に留意し、明るく強き村たらしむべく努力を惜まなかつた、今日日本村の一新を見たる、決して故なきではない。また産業組合長として、消防組頭として貢献した功勞は没却すべからざるものがある。現在は村農會長にあり、常に新種の農耕の方法を加味して刷新に資し、産業組合幹事としては村内に於ける金融の圓滿を企圖し、

またこれが具現化に努め、その他森林組合長、原田養蠶實行組合長などを兼ねてゐるが、これ等に對してもまた多大の努力を拂つてゐる。夫人は郡内西郷村の出身、賢夫人の稱あり、夫君の片腕となつて助けつゝある。准養子五平氏は周智農林學校を了へて家業に従事、その夫人はきく子さんと一男一女の令孫がある。

原田村 寺島

村會議員 黒田 英一

當家先代要三郎氏は村長に推され、且つ農會長、村會議員として村政の刷新に精勵するなど、功勞多大なるものがあつた。氏はこの長男として明治二十九年六月二十九日に生れ、中泉農學校卒業後家業に従事、大正五年、朝鮮羅南騎兵第二十七聯隊に入營、同八年に除隊となつたが、昭和二年、騎兵伍長に昇進した。會て消防組頭、帝國在郷軍人會原田村分會長、青年團長に擧げられて盡瘁、現在は村會議員、在郷軍人會原田村分會顧問を

兼ねて活動してゐる。昭和七年一月在郷軍人第三師管聯合支部長より向上發展による功勞を表彰され、同九年一月靜岡縣警察部長より、同十二年四月、掛川警察署長より何れも消防功勞者として表彰された。兩親健在夫人はしげ子さん。

消防組頭 地代 藤一

氏は宗七氏の長子、明治三十一年九月二十九日の出生、森町小學校高等科を卒業、後



業、後 ち濱松 歩兵第 六十七 聯隊に 入營、 學術科

共に優秀の故を以て上等兵に昇進した。除隊歸郷後は雜貨、化粧品、酒等を販賣して今日に及んでゐる。前に帝國在郷軍人會原田村分會副長として軍事精神普及

に努力し、また消防組副組頭として盡力するところがあつた。現在は消防組頭として、産業組合理事として活動してゐるが、氏が村政の本舞台に踊るは正にこれからのことで一層の自愛を念とすべきである。よし子夫人は磐田郡久野村國本永田保二氏の令妹、間に一男五女あつたが不幸次女氏は夭折した。

原田村

原田郵便 取扱所長 山本 源吉

山本家は當村に於ける名望家で、先代長松氏は町村制實施初代の村長で、其後更に村長に就任せる外、村會議員等の公職に擧げられ更に郡會議員並に同議長に推されて多年自治郡政に功績を稱へられてゐる。氏は櫻木村上垂木萩原三藏氏の二男、明治九年八月一日の出生、後ち同家に迎へられて後を嗣いだ人、前に村會議員、郡農會總代會員、郡茶業組合委員、郡米穀改良組合代議員、郡畜産組合代議員、村産業組合理事等に擧げられて功あ

比木村

比木 信用販賣 組合

本組合は明治三十五年五月十二日、比木製茶販賣組合として、創立したのが初めで、大正七年、信用、購買、利用の三種事業を加へ、昭和八年、保證責任に改め、引續き今日に至つてゐる。組合區域は村全段で、出資一口の金額十圓で、出資總額五千五百四十圓である。昭和十一年九月末の現在貸付總額は八萬九千圓餘、貯金十萬六千九百圓に上つてゐる。そして購買價額は三萬六千圓餘、販賣價額は三萬六千圓、利用料は三百六十圓餘の統計を示してゐる。前組合長萩原佐吉氏は何回となく村長に選ばれ、郡會議員

比木村

消防組頭 田川 武平

氏は明治三十二年二月五日、平川村亡赤堀宇兵衛氏四男に生れ、その二十歳の時、當家の先代吉平氏に望まれて同家に入つた人。當家は相當の舊家で代々農業を營んで來たのである。氏の學歴としては小學校を出たのみであるが、農耕に専心精進、夙に篤農家を以て知られてゐる昭和十年、比木村私設消防組頭に推されて今日に至つてゐるが、これを振り出して今後の村政に進出、年來の大抱負を實行へと向けるであらうと一般から期待されてゐる。クワ子夫人は二男五女あり、長女シゲ子さんは池新田裁縫女學校在學中、二女はハル子さん、長男藤雄氏、三女久子さん、四女は繁子さん、五女千代

子さん、二男吉次君。

比 木 村
村會議員 橋山 清一
勤八等

橋山家は代々農を本業となし、相承くること實に十一代目の舊家である。氏は明治九年三月二日、亡元右衛門氏の長男に生れ、疾くより家業に精進するところがあつた。後ち村内の事に關與、明治四十三年には村會議員、大正四年には郡會議員に當選、その他役場收入役、助役、村農會



長、蠶糸業組合代議員、國勢調査員、土木委員、學務委員、茶業組合代議員、土地貸貸調査委員等を勤め、また明治四十五年より大正七年まで村長に推され、同十五年、再び村長に就任、現に村會議員

であり、また正福寺檀家總代である。曾て兵事々務執掌の功に依り勤八等に叙しまた日獨戦争には自治功勞に依つて天杯を下賜された。夫人静子さんとの間に四男二女がある。

土方村 入山瀬
信用販賣 組合
電話佐東一八番

本組合は大正十年十月十八日の認可を得て創立したもので、後ち昭和九年有限責任を保證責任に改組し、入山瀬一區を組合區域となして、引續き今日に至つてゐる。出資一口の金額は二十圓、出資總額五千一百六十圓で、昭和十一年十一月末現在の組合員数は百十九名である。貸付總額二萬四千圓餘、貯金六萬一千圓餘に達し、購買價額一萬八千圓餘、販賣價額二萬二千圓餘で、利用料は四百六十圓餘を計上してゐる。そして本組合の販賣品として米、麥、製茶、鶏卵などである。初代組合長理事は青野文之丞氏

次代は青野源治郎氏で、現在は角替太郎市氏が鋭意その衝に當つてゐる。

土方村 上土方
信用販賣 組合
電話佐東二〇番

本組合は明治三十二年、有限責任土方製茶販賣組合として創設、同三十四年五月二十五日、産業組合法に準據して土方信用購買販賣組合となし、後ち利用部を加へて今日に至つてゐる。組合區域を村一圓とし、出資一口の金額二十圓、組合員數二百三十名で出資總額一萬二千二百四十圓である。借入金はなく、貯金は九萬二千圓餘に上つてゐる。組合長理事は溝口金作、山崎岩藏氏等を歴て溝口敬次郎氏がその任に就いてゐる。

土方村 下土方
信用購買 組合
電話佐東一六番

本組合は明治三十四年、共進社製茶販

賣組合として創立したに初まり、後ちこれを現在の四種事業に改め、引續き今日に及んでゐる。本組合の組合區域は下土方一圓で、下土方戸數二百二十名のうち百七十一名の加盟者があり、出資一口の金額二十圓で、その出資總額は六千七百二十圓である。貸付總額は四萬餘圓で、貯金は六萬五千圓に上り、そして貯金は年次増加する一方である。なほ一ヶ年の購買價額は二萬八千圓、販賣價額は四萬一千圓餘の成績を見せてゐる。現組合長理事は藤田文一氏であるが、氏は他方村會議員であり、學務委員であり、元役場助役を勤めた自治功勞者である。因に農業倉庫は大正十一年に新築、建坪五十坪である。

南 郷 村 上 張
村會議員 落合 善作

當家は先々代の時、落合助左衛門氏の家から分家したもので、農を以て本業となして居る。氏は明治四年十二月春吉氏

南 郷 村
村會議員 原田 清四郎

の長男として今の地に生れ、七歳の時、父君に先立たれ、故祖父善平氏の手によつて撫育されたのである。幼にして父君の死に遭つたといへ、それがために自らの不幸を嘆き、前途に陰影を描くが如き事なく、進んで家業に思ひを致し、今日の財を積むに至つた。前に家屋税調査委員に推され、現在は村會議員として村政に與つてゐるが、現村會議員中の長老を以て重きをなしてゐる。きう子夫人との間に子なく、友三郎氏を迎へて養嗣子となした。氏は今、櫻木村北校訓導を拜し、熱心教鞭を執つてゐる。

原田家は原田權四郎氏より五代前の祖萬四郎氏から分家したもので、先代龜藏氏は日清並に日露の兩戦役に從軍参加して偉功を樹て、歩兵軍曹に昇進、勳七等に叙せられた勇士である。後ち村會議員に選ばれること二回、茶業組合役員たる

大 淵 村
村 長 加藤 政平

こと三期、今七十一歳の高齡を以て健在でありなほ家業を見つゝある。氏はその長男で明治十八年八月一日の生れ、掛川高等小學校卒業後は父業を助け、同時にまた村内公共方面に留意し、事あれば必ず先んじてこれに當り、期せずして村の信任を厚くするに至つた。現二期目の村會議員、小笠那茶業組合南郷村委員、産業組合評議員等を兼ねてゐる。趣味は茶の研究。夫人との間に女子あり、長女しんさんに鉄一氏を迎へて、嗣子となしてゐる。

當家は農を本業となし、先代長藏氏は區長として貢獻するところがあつた。氏は明治十八年十月十三日、相原村大字赤土の農齋能友一氏の二男に生れた人、實父氏は村會議員、郡會議員、村長等に推されて功勞があつた。氏は當家先代氏に見込まれて同家に入つたもので、掛川中

學校卒業後、家業に就いたが、後役場収入役、助役、村長に選ばれ、十五ヶ年間村政に與つた。現在は村長であり、消防組頭、村農會長、小笠郡町村長會議議員、郡農會評議員、農會評議員、郡農會總會議員、村經濟更生委員、氏子總代等を兼ねて盡瘁し、現在は學務委員、産業組合理事である。元西大淵銀行にも關係してゐた。昭和九年六月、勤続三十五ヶ年に對する功勞者として、縣氏子總體會小笠郡支部長から木杯を授けられた。夫人はせん子さんと長男氏は夭折、三男一夫氏は内務省大販土木出張所技手として勤務中である。



農會評議員、郡農會總會議員、村經濟更生委員、氏子總代等を兼ねて盡瘁し、現在は學務委員、産業組合理事である。元西大淵銀行にも關係してゐた。昭和九年六月、勤続三十五ヶ年に對する功勞者として、縣氏子總體會小笠郡支部長から木杯を授けられた。夫人はせん子さんと長男氏は夭折、三男一夫氏は内務省大販土木出張所技手として勤務中である。

村養鶏組長、村債務調停委員等を兼ねて盡力してゐる。大正三年、自治功勞として木杯を下賜され、また青島事件に關して表彰されてゐる。家には養母氏健在てふ子夫人との間に四男一女がある。

大淵村 新井

學務委員 水谷 伊平治
元村長

當家は五代前の祖宇吉氏の代に、現戸主水谷長三郎氏の家から分れたもので、代々農を営んで來たもので、村内有力者

として人望が高い。先代藤四郎氏は戸長村會議員、學務委員、區長等の公職に就いて功績を稱へられたもので、氏はその男、明治七年九月十日の出生、會ては郡會議員、村長、役場助役、村會議員、村農會長、村債務調定委員、圖勢調査員、郡農會總會議員、村經濟更生委員、氏子總代等を兼ねて盡瘁し、現在は學務委員、産業組合理事である。元西大淵銀行にも關係してゐた。昭和九年六月、勤続三十五ヶ年に對する功勞者として、縣氏子總體會小笠郡支部長から木杯を授けられた。夫人はせん子さんと長男氏は夭折、三男一夫氏は内務省大販土木出張所技手として勤務中である。

南川村 高橋

信用購買 組合
販賣利用

電話 南山二番

本組合は大正十二年有限責任南山村信用購買販賣利用組合として生れたもので

後ち昭和八年、今の保證責任に組織を改めたのである。出資一口の金額は二十圓で、出資總額二萬八千圓に上り、保證金總額は三萬圓である。組合區域は村一圓で、組合員數は三百八十名を數へ、その殆んどは農業者である。現在貸付總額は十二萬五千圓餘で、貯金高は十三萬五千圓餘を計上してゐる。そして本組合の特色とも見るべきは購買部の利用であつてその一ヶ年の購買高は二萬圓餘に達してゐる。本組合事業の概況を見るに、當地方の經濟界は漸く緩和の曙光を認め、金融緩漫にして貸出しに於て約九千圓を減じ、購買部にあつては肥料、飼料、雜貨の取扱高が増加し、殊に肥料の如きは單肥よりも組合配合肥料の需要増加の傾向がある。これは要するに村農會の提携協調宜しきを得、配給上の改善に専心した成果とも見るべきである。販賣部に於ける米、鶏卵の取扱高は前年度と大差なく利用部にあつては製粉、製麵機の設備をなして、小麦の自家消費を奨励し、また

粗摺機の増加によつて統制改良に努め、良好の成績をあげてゐる。現組合長理事は松下三郎氏、専務理事は會根五郎八氏である。

南山村 河東

方面委員 松下 三郎治

當家は五代目の舊家、歴代農業を營んで來た。氏は明治十七年、亡駒吉氏の長男に生れ、明治四十年三月、靜岡師範學校を卒業するや、堀ノ内尋高小學校訓導を拜命



後ち四方、大淵尋高小學校を経て川野村

川上尋常高等小學校長に進級、次で南山池新田、再び川上尋高小學校長に就任、昭和五年三月退職したが、育英に従ふ實に二十有四年、その功績多大なるものが

あつた。昭和九年五月、南山村役場收入役、學務委員等を勤め、現在は方面委員と南山信用組合幹事を兼ねて努力してゐる。溫良篤實の士。長男忠勇氏は今、濱松市元城校の教授であるが、油繪の大家として風評が高い。

南山村 河原

村會議員 齋藤 憲三郎

當家は代々農を本業として來たもの。氏は亡憲藏氏の三男、明治三十三年三月十日の出生、二十四歳の時、今のところに分家、父祖の業を承けて今日に及んで



小學校卒業後直ちに家業に就き、傍ら村

内の事に心を馳せて青年團長となつた。昭和四年、村會議員に擧げられて村治に

與り、また南山村消防組頭を兼ねて活動してゐる。大正九年、小笠郡青年團中より選抜の明治神宮參拜者の光榮に浴し、また消防組としては縣知事、警察署長、郡長等より表彰を受け、昭和十二年の消防組頭大會に出席、木杯を受けた。なほ本年一月に少年消防義會を組織し、目下着々實行中。チカ子夫人との間に一男一女がある。

川野村

村會議員 永田 金作
元村長

當家は代々豪農を以て鳴り、實に二十三代の永きにわたつてゐる。その昔は名主、庄屋を勤め、土地切つての由緒深い家柄として知られてゐる。氏は明治二年三月十四日の出生、疾くより家業に従ふと共に、また村政に貢獻すること多大なるものがあり、大正八年、初めて村會議員に出馬して當選以來、引續き今日に至つてゐる。昭和四年九月、推されて村長の職に就くや、減私奉公の意を以て村治

に與り、村政大に擧るものがあつた。また氏子總代、積徒總代としても功があり表彰されたこと再三にして止まらない。性溫和にして謙讓、村人等しく敬仰してゐる。家に二男三女あり、長男弘氏は目下巴製紙會社に勤務中。

川野村川上

元教育家 加茂喜次郎

加茂家の祖は遠く本田采女守に起り、名ある家柄として代々濱松城下に住し、十一代目の當主に至つて今の地に居した



のであ
る。氏
は明治
七年九
月三日
の出生
十五歳
の時准教員として川野小學校に奉職した
を振り出しに教育界に入つた謹直廉潔の
士、後ち静岡師範講習生を了へて正教員

となつてからは江州膳所中學、静岡中學
大垣中學、静岡工業、同商業學校等に教
鞭を執ること約三十年間、その育英事業
に貢献したる、正しく特筆大書すべきも
のがある。昭和十二年四月一日よりは橋
本弘綱氏經營の私立双松學舎の人となつ
て、教へ子に接してゐる。元村長永田金
作氏とは園基の友。一子正男氏はスポー
ツマンとして鳴らしたるもの、目下新潟に
教鞭を執つてゐる。

河城村

村長、勳八等 鈴木簾作

當家は土地に於ける舊家として知られ
て來たもの。氏は明治十一年七月十八日
今の家に生れたのである。明治三十四年
初めて役場助役に選ばれ、村長を輔佐し
て村治續に手腕を揮ひ、一村の信望を高
めた。昭和二年、村長の改選に際して村
内一致、異議なしで村長に當選、引きつ
づき今日に至つてゐるが、郡内町村長中
の古参として仰慕されてゐる。明治三十
七八年日露事變中は、恰も助役として内

河城村宮田

河城信用販賣組合

電話堀之内五八番

本組合は大正十一年十二月十五日の創
立にかゝるもので、有限責任として信用
販賣、購買、利用の四種事業を取扱つて
來たが、昭和八年、有限責任を今の保證
責任に改めたのである。出資一口の金額
は二十五圓で、組合區域を村一圓となし
同十一年九月の組合員數は六百八十一名
で、その口數は八百八十一、出資拂込額
は二萬一千二百四十五圓餘に達してゐる
貸付總額は十一萬六千五百六十圓餘、貯
金は十六萬六千四百九十二圓餘である。
そして購買價額は四萬六千八百八十圓餘、販

賣價額は十五萬七千二百三十八圓餘、利
用料は一千四十六圓餘で、利益一萬五千
三百六十圓餘から損失の一萬三千四百九
十餘圓を差引いた剩餘金は一千八百七十
餘圓であるが、この統計によつて本組合
の活躍振りが窺はれるのである。しかも



本組合長理事落合寅十氏は、組合創立の
主唱者であり、そしてまた設立當初より
の組合長で、甚大な功績を樹てゐる。

この組
合の利
用は、
組合員
の理解
を強む
ると同
時に一
層増加
を見る
ことは
勿論で
ある。

なほ村會議員を現任中である。専務理事
には赤堀喜十氏が擧げられてゐる。

加茂村

加茂信用販賣組合

電話一〇二番

本組合は大正十二年十一月、無限責任
加茂信用販賣購買利用組合として創立、
民家を借り受けて事務所となし、昭和三
年、御大典記念に新たに事務所を建設、
同八年、無限責任を保證責任に改めて今
日に至つてゐる。組合區域は村一圓、出
資一口の金額は二十圓、出資總額一萬二
千二百六十圓に上つてゐる。同十一年九
月末現在の組合員數は戸數二百七十餘戸
のうち二百二十八名で、殆んど全村の加
盟を得てゐるわけである。貸付總額六萬
五千圓餘に對し、貯金は八萬二千圓餘に
達してゐる。販賣價額は五萬圓餘、購買
價額は五萬七千圓餘、利用料は一千二百
圓餘である。これが最近一ヶ年の成績で
ある。そして信用部にあつては産業資金

は努めて供給し、殊に年末にあつては聯
合農業倉庫による年末資金を貸し出して
その潤滑を計つてゐる。購買部にあつて
は肥料、飼料を主としてその他の雜貨を
取扱つてゐるが、從來の肥料の取扱ひを
減少して飼料の著しく増加したといふこ
とは、農家經濟上特筆すべきものである
本組合創立以來の組合長理事は白松佐平
白松弓次郎氏等を歴て、清水貫七氏が現
任中で、また役場助役、村會議員を兼ね
てゐる。専務理事織部五郎氏は、創立以
來の理事で、村會議員として村政に與つ
てゐる。

六郷村牛淵

大淵信用利用組合

本組合は大正元年、有限責任大淵信用
組合として創立、後ち利用事業を加へ、
昭和八年に保證責任に改めて今日に及ん
でゐる。出資一口の金額は十圓、出資總
額八千圓、保證金額二萬四千圓である。
大淵一區を組合區域となし、その人員九

十七名、貸付総額四萬三千八百餘圓、貯金七萬二千八百餘圓の業績を見せてゐる。要するに一般組合員の作業經營は逐年堅實味を加へて貸付金の償還、貯金の増加といふ好成绩を示すに至つたのである。また利用部の利用は、組合員の理解によつて漸増を見せてゐる。前組合長は内田久七氏、現組合長理事の内田良平氏は、元村長、村議その他の公職に就いて功勞のあつた村内の元老株で、最も重きをなしてゐる。

六郷村 信用販賣 組合

電話場之内四五番

本組合の創立は大正十一年三月三日で有限責任信用購買販賣の三種事業を經營したが、後利用事業を加へ、昭和八年保證責任に改めて現在に至つてゐる。組合區域は村一圓で、昭和十一年九月末現在の組合員数は四百七十五名に達してゐる。出資一口の金額は十圓、出資拂込額

一萬六千五百圓で、貸付総額は無擔保有擔保を合して九萬二千二百餘圓、貯金高は八萬八千八百四十四圓餘を示してゐる。販賣部にあつては玄米、小麦、茶種等を主となし、その額一萬六千四百六十七圓餘で、購買部にあつては肥料、産業用品、經濟用品等を合して三千九百十四圓餘、利用部にあつては精米、精麥、粉碎、粉末等の利用料合して八百九十一圓餘に上つてゐる。そしてその剩餘金は九百二十八圓餘を見せ、これを組合準備金として配當金としてまた翌年度繰越金としてそれ／＼處分してゐる。なほ農業倉庫は大正十四年五月二十五日、認可を得て建設引續き利用しつゝある。本組合歴代組合長は宮城兼太郎、森本孫平、内田良平の諸氏で、現在は樽松啓太郎氏であるが、また村長として村政に當つてゐる。また専務理事は福島源平氏であるが、氏は元村會議員で力量手腕共に申分なき人である。

相草村 赤土 消防組頭 奥野 國平

氏は家は代々農を本業となして來たもので、氏は治郎吉氏の長男、明治三十六年十一月二日の出生、私立双松學舎を了へてから父祖の業に就いて精進してゐる



大正十一年十一月、消防手を拜命し、たを振り出し

に昭和五年十月、小頭に、同十年十二月副組頭に、翌十一年十一月、組頭に進級して今日に至つてゐる。昭和七年一月に聯合會より十ヶ年勤続證を授與され、同九年三月には堀之内支部より模範消防員として表彰、また同十一年十月、聯合會から十五ヶ年勤続の故を以て勤続證を授與されてゐる。因に相原村消防組は明治二十八年、私設赤土消防組を設立、同二

十九年五月、相原村消防組として認可され、現在組員は五十八名である。

岩滑 信用販賣 組合

本組合の出資一口の金額は二十圓で、出資總額は八千圓であるが、拂込済出資額は三千五百六圓餘に過ぎないが、信用部にあつては、農家經濟に好轉機を與へると共に、組合員の組合に對する利用程度が増進された結果として、貸付總額二萬九千九百三十四圓の數字を示し、貯金二萬九千八百七圓餘を見せてゐる。販賣部にあつては主として統制販賣に意を注ぎ、殊に米の共同出荷に全力を傾注し村農會の協力を仰いで効果を收めてゐる。また購買部にあつては田肥、桑肥、茶肥ともこれに適合する完全肥料を調製配給したので、前年度よりも取扱數量を増加し、その日用品、雜貨等に於ても非常に便宜を與へて居る。なほ組合長理事は安藤傳三郎氏で、専務理事は鈴木仙三郎氏

東山口村 信用販賣 組合

東山口村伊達方

本組合は大正十四年六月二日、有限責任の四種兼營組合として創設、昭和九年今の保證責任に改めたもので、從來村役場内に事務所を置いてあつたが、本年四月、新築竣成と共に現在のところに移したのである。出資一口の金額は二十五圓で、組合員数は三百五十七名、その口數六百四十三口、出資總額一萬六千七百七十五圓である。そして最近の事業狀況は無擔保貸付は成るべく償還をなさしめて有擔保に力を注ぎ、販賣事業にあつては主として製茶と小麦とを扱ひ、購買部にあつては肥料、飼料、雜貨類を取扱つて業績をあげてゐる。初代組合長は鈴木正一氏で、現在は竹島善雄氏であるが、氏は現に村長として村治に當つてゐる。専務理事岡本市平氏は村役場助役で、同じく村政に銳意してゐる。

西山口村 信用販賣 組合

西山口村 成道

本組合は大正十一年十一月二十二日に創立したもので信用、販賣、購買、利用の四種兼營である。組合區域は村一圓で組合員数は三百四十八名で、その口數一千百十四口、出資一口の金額二十五圓、その出資總額二萬七千八百五十圓であり最近一ヶ年間の販賣部の價額は二萬九千三百六十圓餘で、購買部の價額は三千五百九十九圓餘を計上、二千六百八十二圓餘の剩餘金を占めてゐる。創立以來の組合長理事は菅沼九郎兵衛氏であつたが、現在は村松彌作氏が選ばれて衝に當つてゐる。

上朝比奈郵便局

朝比奈村上朝比奈

本郵便局は昭和四年、河原崎孝太郎氏によつて新たに開設、昭和十一年に三等局を拜したのである。同年二月、集配事

務、内外爲替事務を開始し、その區域は上朝比奈、佐米町原、杉山村原、大知谷、柏草原、新野村原、南山原等で、郵便取扱数は四百通に上つてゐる。また郵便貯金現在高は三萬圓餘で、各種保険年金加入者は八十口、従業員として女事務員一名がある。局長は河原崎孝太郎氏、氏は大正二年、濱松歩兵第六十七聯隊衛生隊として入隊、上等看護兵となり、日獨戰爭に従軍参加して功を樹て、平和克復後勳八等に叙せられたのである。因に祖父幸太郎氏は、本郵便局創設主唱者として功のあつた人、また電話事務は今期中に開設されるであらうとの見込である。

朝比奈村上朝比奈

朝比奈村 信用販賣 組合

本組合は大正七年十二月十六日、創立したもので、後ち昭和八年、有限責任を保證責任に改めたのである。組合區域は上朝比奈の内行僧、原區、山ヶ谷上區、上ヶ谷下區、小泉區、横身上區、横身下

區、大字下朝比奈一圓に跨り、出資一口の金額二十圓で、組合員数は三百四名、その出資總額は一萬圓である。そして貸付總額十六萬二千五百七十餘圓、貯金九萬六千七十餘圓に達してゐる。最近一ケ年間の本組合利用を見るに、購買價額七千五百七十餘圓、販賣價額二萬七千三百四十餘圓、利用料七百十六圓餘を計上してゐる。支部を下朝比奈一、二九六に設け、組合長理事官本雄一郎氏が専心してゐる。經營に當り事業の發展向上に鋭意努力してゐる。

栗本村 水垂

栗本村 水垂 村 長 榛葉 五三郎

常家は三百餘年來、連綿として續いて來た舊家で、先祖は代々庄屋、戸長等を勤め、土地に重きを於かれて來た。先代兵作氏は既に喜の字の祝ひを迎へてなほ嬰傑、壯者を凌ぐの概あり、曾て村長たること二回、その他村會議員等の公職にあつて功勞を顯はれた人である。氏はそ

の長男、明治二十六年十一月十一日の生れ、中泉農學校卒業後は家業に就き、また一面一村のために顧慮するところがあつた。前に役場助役として村長輔佐の任を果し、また學務委員として、消防組合部長として盡す所あり、現在は村長に座し、村會議員、産業組合理事を兼ねて努力してゐる。夫人みゑ子さんは愛國婦人會栗本村幹事長で、間に一男四女あり、長男氏は今、掛川中學校在學中である。

栗本村 初馬

栗本村 信用販賣 組合

本組合は昭和五年五月に創立したもので、組合區域は村一圓で、組合員数は百六十七名を占め、出資一口の金額二十五圓で、出資總額五千七百五十圓である。貸付總額は一萬二千圓餘、貯金は一萬五千圓餘で、最近一ケ年間本組合を利用したの購買價額に於て二萬圓餘、また販賣事業では二萬五千圓餘の成績を見せてゐる。本組合は創立して日がまだ浅いので

組合員の組合精神の理解が不十分ではあるが、年と共に自覺を促しつゝあるから前途に大なる期待をかけ、樂觀して可なりである。これまでの組合長理事は倉山多十、中山喜作氏等で、現在は倉山多十氏が再びその任に就いてゐる。一方村長でもある。専務理事は岡田信太郎氏で、氏はまた現村農會長でもある。

大坂 坂村

大坂 坂村 信用販賣 組合

電話大坂二一番

本組合は明治三十七年、大坂製茶販賣組合として創立、後ち産業組合法に準據して信用、販賣、購買、利用事業等を順次經營して今日に至つてゐる。組合區域は本村をはじめ三濱、三俣の兩村で、出資一口の金額は十圓、昭和十一年現在の組合員数は千四百八十五名で、その出資總額は一萬八千四百五十圓である。そして貸付總額は有擔保無擔保合して七萬九千七百餘圓で、貯金は二十九萬九千八百

中内田 村

中内田下内 栗本 孫四郎

熱と力に溢れた人として、且つ徳業多

餘圓を示してゐる。信用部にあつては、貯金に於て前年度に比して一萬六千四百六十餘圓を増加し、貸付金に於ては前年に比して二萬圓を減じてゐる。販賣事業にあつては農會、部落機關など、協力して品質、調製、荷造等に一層の改善を加へ、他而市場宣傳などを行ひ、本事業の向上發展を圖ると共に系統機關による販賣統制の強化に努めてゐる。販賣の主なるものは米、製茶、菓子、鶏卵、甘藷、菅笠、黒千石大豆、蕪などで、取扱總額十四萬三千二百餘圓を販賣して好成绩を収めてゐる。購買事業に於ても前年度に比して二萬一千圓の増加を見せ、利用事業に於ては、常に合理的經營並に機能の發揮に努めてゐるので、また好成绩を擧げてゐる。現組合長理事は大石寅吉氏で専務理事は大石猪末氏である。

中内田村 中内田

中内田村 中内田 銀行

電話佐東二四番

本行は昭和四年十月末に内田銀行、上

内田實業銀行、土方銀行の四行を合併して新たに設立したもので、資本金は五十萬圓、拂込高三十八萬八千五百圓、一株金は五十圓である。目下内田、土方兩



村に支店を設けて金融方面に活躍してゐる。その本行の營業の景況は、前期に續いて

財界いよ／＼強固となつて安定を示し、政府は國民生活安定のために低金利方針を進めて鋭意公債の借換を行ひ、國防の完備と貿易の振興、産業の發展とを計り軍需事業に關する株式は一層の好況を呈するに至つた。また地方農村は製茶、蠶繭の好況から米價の高上によつて聊か愁眉を閉き、活氣を見せてゐるので、今後資金の需要は漸く多きを加へんとしてゐる。この間にあつて本行は主として内容の整備、支拂準備の充實に努め、以て將來に備へを立て、ゐる。なほこれ迄の取締り頭取は竹内彌平、小笠原徳太郎氏等現在に角替九郎平氏が任期中である。

土 方 村
内田銀行頭取 角替九郎平

穩健に推移して來のであるが、突如として起つた不祥事件のため、全般に對して一大衝動を與へて人心の不安は勿論のこと、證券市場は立命休止の状態に立ち至つたが、その後方策成つて徐ろに回復し

當地實業界にその人ありと聞えたる、わが角替九郎平氏は、土方村の豪農にして、多年村會議員に任じ、また村長に擧げられて自治に盡せる功勞甚大なる本村の元老である。一言一句みな衆庶の福利



を慮り私心を捨て、公共の事業に貢献せること

氏の如きは誠に稀である。重厚にして周到、事に當つては熟慮よく難事を處理し現に内田銀行取締り頭取として、地方金融界に君臨し、卓抜の手腕を顯はれてゐる。

下 内 田 村
信用販賣組合 購買利用

電話平田二九番

本組合は大正十二年五月二十四日、有限責任下内田信用販賣購買組合として創立、後利用事業を加へ、昭和八年、今の保證責任に改めたのである。組合區域を村一圓となし、出資一口の金額二十圓を組合員數は全戸數の過半數の八十八名を

有し、出資總額七千一百四十圓である。そして貸付總額は二萬五千餘圓で、貯金は二萬八千餘圓に上つてゐる。購買價額は五千圓餘、販賣價額は二萬餘圓で、前年度の剩餘金は七百三十圓餘を示してゐる。組合長理事は杉山勝平氏であるが、氏は本組合創立主唱者であつて、創設當初から就任してゐる。氏は村役場書記を振り出しに助役に推され、村長を輔けて貢献するところあり、現に村會議員である。

佐 東 村
村 長 尾 澤 富 平

當家先代亡平四郎氏は戸長時代の用掛を振り出しに村長に擧げられ、次で郡會議員に選ばれ、再び村長として地方自治に貢献すること多大なるものがあつた。氏は明治十六年七月五日の出生、會役場助役、村長、村農會長等を勤め、昭和十年、再び選ばれて村長の椅子を占め、現に村自治の要衝に立つてゐると同時に

四期目の村會議員であり、信用組合理事であり、二回目の消防組頭でもある。資性溫良、典型的紳士として村内の聲望を高めてゐる。一度公の職に就くや、家業も身も、すべてを忘却して精進するの氣魄が、常に深く村民の心内に印象づけ、名村長たるの名を讃へしめてゐる所以でもあるらうか。

横地村 東横地
横地信用 販賣購買組合 購買利用

電話平田之内七七番

本組合は明治三十六年一月十日、有限責任横地製茶組合として設立されたのが初めて、同年七月二十一日、事業部を開始し、大正八年信用、販賣、購買の三種の事業に改め、後昭和六年二月六日に利用部を加へたのである。創立當時は、組合區域は本村の外に六郷村の一部を加へてゐたが、信用、販賣、購買等三種の事業取扱ひに改めた際、當村を區域となして今日に至つてゐる。なほ保證責任



て販賣價額は七萬七千二百餘圓、購買價額は三萬一千八百八十圓、更に利用料は八百五十

餘圓といふ最近の統計を見せてゐる。優良組合として大正十年三月、郡長より、また十五年二月、縣支會長より何れも表彰されてゐる。現組合長理事三ツ井莊一氏は前組合長三ツ井彌平氏の男で村會議

員、縣信用組合聯合會の専務理事を兼ねてゐる。専務理事杉田榮次郎氏は明治四十四年五月、事務員として勤めた人で、昭和六年に現任、大正十五年四月、郡部會長より、昭和四年十月、縣支會長より表彰されてゐる。

千濱郵便局

本郵便局は大正六年一月二十一日に始めて開局、現在三等郵便局として昭和三年二月



年二月十一日 電話通話事務を開始 同五年四月二

十六日、同交換事務開始、同九年十一月一日、電話事務を開始し、事務員四名、集配手一名によつて取扱に従事してゐる 通常郵便受数は千二百七十餘通、小包郵

引受数は八百七十九で、電話取扱数は發信一千七十七、着信一千四百六十六、中繼信は二十五を數へ、航空便は五口である。更に貯金にあつては預入口數一萬七千六百六口で、六萬九千五百九十二圓餘で、拂渡口數は二千二十六口、八萬三千八百八十五圓餘である。なほ保險加入者數は三百五十口、年金加入者數は二十口、水野小次郎、小野一郎二氏を経て岩瀬庄平氏が局長である。

山 村

元村長 松下 平八

氏の家は舊家である。氏は曾て全村一致の推薦によつて村長の要職に就き、挺身一村のために盡瘁、大に村治績を挙げるところがあり、現在では、村内元老の一人として、村民の信頼を集めて、氏の功を稱へると共に、その徳を敬慕してゐる。

堀内 虎男

氏の家は資産家として知られ、そしてまた村内に方ける有力者でもある。氏は家業に就くと共に、その心を絶えず村政に注ぎ、早くも信頼を擔つて村役場收入役に推され、現に任期中にあるが、一般村内の氣うけは頗る良しくして、更らに今後の躍進振りを期待されてゐるのである。

池新田村

池新田郵便局長 丸尾 安太郎

氏は今、池新田郵便局長として通信事務に與りつゝあるが、一方また村治にも關係して村會議員、學務委員に選ばれて努力して居る。また氏は三等局長小笠那部長に就任し、郡内局長中の有力者として重きをなして居るのである。

磐田郡

袋井町 高尾

中遠鐵道株式會社

電話袋井五〇番

本社は中遠一帯住民の交通と 輸との便を圖るを主眼として大正元年の九月十一日、十萬圓の出資額によつて設立されたもので、後同四年五月に十萬圓、同十二年十月に二十萬圓に増資し、更に昭和三年十一月にまた増資して現在資本は五十萬圓、一株金額五十圓となつてゐる 大正十三年、自動車部をも開設して鐵道業、自動車業、運送業を披ひ、米國財界の好轉と内地に於ける軍事工業方面の繁忙によつて生繭、製茶、その他農産物一般騰勢を持続した反映として、旅客の往復が逐次増加の傾向となり、約一割五分強の増収を見、また他方自動車運送業は車輛の改善、旅客吸集等の對策に努め



社長芝田庫太郎氏を はじめ 現取締役社長 塩谷桑平氏、芝田佐平治、荒井丈平兩氏の重役連、支配人村瀬莊三郎氏その他の役員諸氏等の懸命な努力の勞が、與つて力あるものと見ねばならぬ。

袋井町

中遠鐵道株式會社 村瀬莊三郎

氏は爲藏氏の六男、明治二十五年六月

遠州製薬工業組合

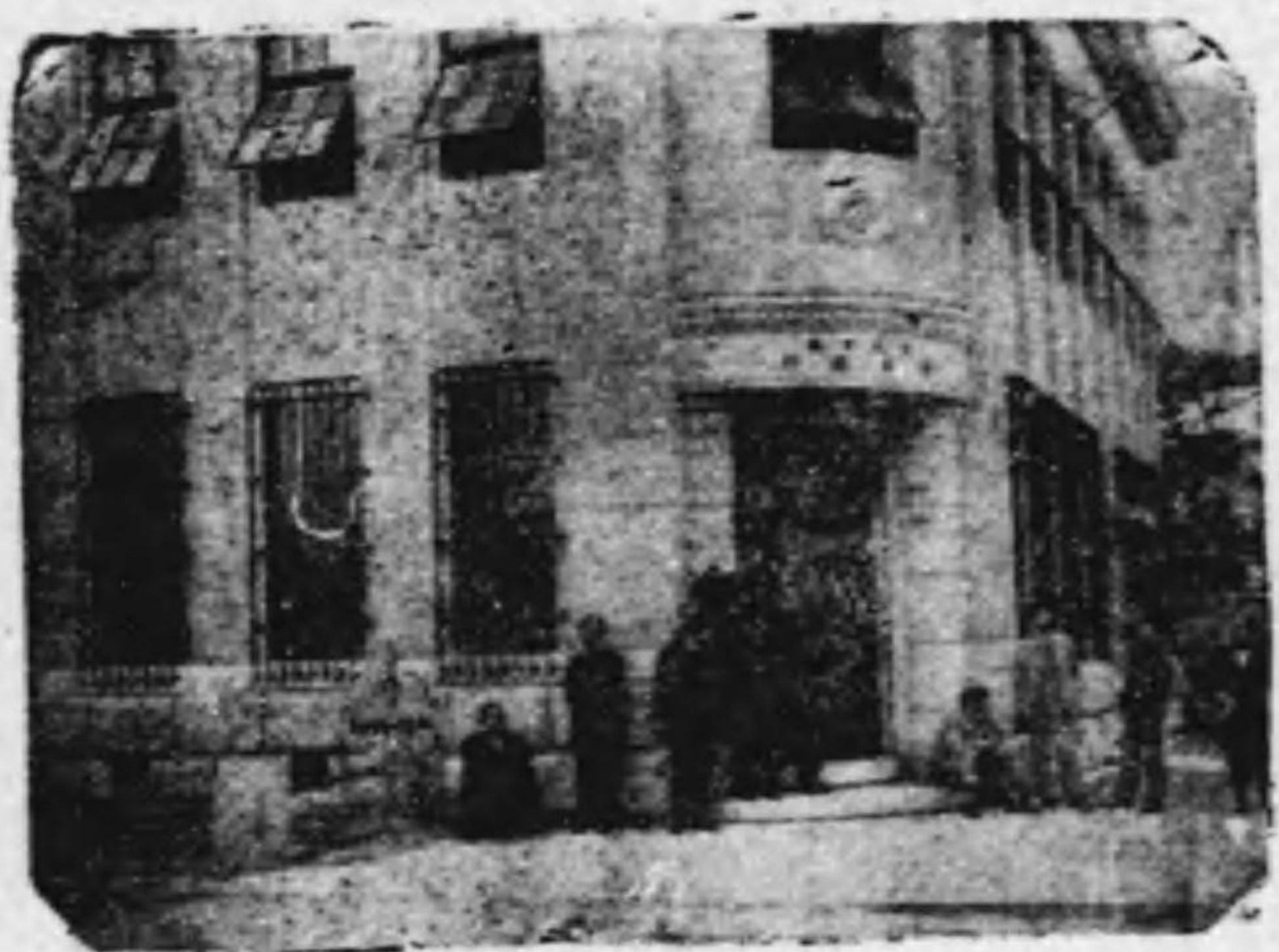
本組合は組合員協同一致して薬工品の改良統一を圖り、その生産販賣及び取引における弊害を矯正し、組合員の利益を増進するを以つて、目的とする趣旨の下

に生れたものである。初め大正十五年二月、遠州薬工品改良組合を起し、成績稍々見るべきものがあつたが、更に生産家各自の覚醒と相俟つて一段の成績向上を計るべく、視察員を香川、兵庫、茨城の各縣に派して調査せしめ、同年十二月二日、今の名に改め、同月十五日、農林大臣の認可を得て今日に至つてゐる。組合地区は磐田郡野部村以南三十一ヶ町村、周智郡天方村以南八ヶ町村に亘り、その數七千餘名を算し、最近一ヶ年の生産品發達噸数は實に約一萬五千噸に上つてゐる。現組長は岡本保次氏である。

中和銀行

當行は昭和五年五月袋井銀行、森町銀行、飯田銀行の四行を合併して新に中和銀行と稱して設立今日に至り、資本金百萬圓、一株五十圓の株主六百四十餘名である。常に四圍の情勢に對應して慎重經營に努むる。

電話袋井二五番



營につとめ、基礎ますます堅實を加へてゐる。近時低金利の壓迫及び遊資運用に困難を來せるは止むを得ざるどころである

昭和十一年六月末に於ける状況を見るに
 準備金 五一、七二五圓
 預金 二、二二一、六九八圓
 割引手形 二七、七二一圓
 貸付金 一、七〇四、九九四圓
 支店は、周智郡森町、同飯田村、磐田郡上淺羽村、小笠郡曾我村、磐田郡袋井町、同豊濱村、同福田町の七ヶ所に

あり、現頭取鈴木茂氏は周智郡飯田村の村長たりし経歴を持つ名望家にして、常務取締役は岩井保幸氏、取締役は永井伊三郎、大橋善太郎、久保田林平、大石源太郎の四氏、監査役は鈴木運貞、山下五作、鈴木保、溝口寛の諸氏である。

田代新作

町長、郵便局長 田代新作 正七位勳七等
 田代家は元今川氏の家臣、主家滅亡と共に歸農して元和二年、見付宿から今の地に移住し、相繼ぐこと十三代目、幕政當時は木陣を勤め、明治二年、明治天皇御東行の御御駐蹕遊ばされたといふ由緒ある名望家、今に古書古物を藏する事が多い。先々代吉次氏は初代郵便局長を拜命、先代八郎平その後を襲ひ、氏は三代目局長を拜命した。氏は森町城下藤井元治氏の二男、明治十年十二月九日の出生後ち田代家に入つた人、遠江三等郵便局長中の長老として信望が厚い。前に町會議員に選ばれる、こと二期、現に町長、郵

便局長、遠江三等郵便局長會第三部長、袋井報徳社長、學務委員、方面委員等を兼務、昭和四年勳七等に、同五年正七位に叙せられた。夫人はりつ子さん、養子光治氏は通信官吏練習所卒業、目下通信省簡易局に在動中である。

淺羽芳郎

淺羽家は東淺羽村梅山に於ける舊家であり、また名望家でもある。父多一郎氏は同村産業組合長並にその他の公職を帯びて活躍してゐる人、氏はその養子、明治四十三年二月一日の出生、見付中學校卒業後、静岡縣農産物検査所に勤務、大に將來を囑望されたが、昭和十一年四月一日、袋井驛前に無集配三等郵便局の開局を見るや、若冠二十八歳の身を起して局長に就任、爾來事務の上にはりきり振りをを見せて業績をあげてゐる。趣味は讀書、閑あれば必ず書見に親んでゐる。夫人政子さんは濱名郡北濱村下小林鈴木安

平氏の五女、北濱高女出身の才媛、間に三男二女あり、育兒に留意すると共にまた内助の功勞者として稱へられてゐる。

二之宮組合

本組合は大正五年四月七日に創立を見つたもので、出資一口の金額は二十圓で、組合員は約二百、出資口數は五百餘に上つてゐる。今當組合の業績を見るに、信用部にあつては貯金額が逐年増加の傾向を見せ、貸付金額は主として米穀資金の融通などによつて増加を示してゐる。購買部として肥料がその最を占め、販賣部は米穀のみで、數量の増加と共に金額の増加を見、利用部も相當成績を擧げてゐる。この際組合員各自は、一層組合そのものを活用してそれらの福利増進を圖ると共に、組合の基礎を確實鞏固ならしめることに精進すべきである。なほ現在組合長理事松井謙三郎氏は、本組合設立

以來の就任者で、その功勞亦大なるものがある。

飛龍山行泉寺

當山は龍山師を開山の祖とし、眞宗高田派、南朝の忠臣村上義輝の菩提寺として有名なもの。高田派中興眞慧法印、下野より法鼎をうつして以來、念佛の宗風頗みに揚り龍山、空圓を経て誓願に及んだが、師は一代の學匠、律師に任官、清淨院の院號を許されたり。次で七世性順これを再建し、十二世性順重ねて堂宇を建立してゐる。師は宗學に秀で、詩文を好み、自ら一代を詠じて「人生一代利與名、嘗識辛酸漸頽、憂海波高舟覆沒、



岸頭認得淫痒城と。境内は千百餘坪、本堂は間口三十尺、奥行三十六尺、庫裡五十尺四面、親鸞聖人、筑波山俄鬼御濟度の經石、源空聖人、御舍利、本山御門主の名號等を寶物となし、毎年十一月二十日より二十八日まで報見講を行ふ。現任龍泉寺順師は大宗教育家として知られ、數ヶ市町村に檀家をもつて居る。

三俣坊 小笠寺

當山は京都市眞言宗總本山醍醐寺末寺眞言宗醍醐派に屬し、大寶二年、文武天皇の勅願によつて開山したもので、三俣坊大權現を本尊となしてゐる。初め聖觀世音菩薩と大聖不動明王との二尊を安置し、眞言宗小笠山祐嚴寺を創立したが、寺蹟六百九十餘年を経て宗良親王の臣藤原政義が再興し、享祿四年に三俣坊大權現を勧請するに及んで遠州七坊の隨一と稱され、頗る盛大を極めた。本尊の歸依者は一生一度の大願は必ず成就し、なほ

火災鎮護、病氣平癒等神變不可思議の靈驗があり、信徒一萬有餘に及んでゐる。總面積七百坪ばかりで本堂、庫裡の假堂に一千餘株の躑躅と皋月を配植し、殊に徳川家康公御手植の蘇鐵が世に知られてゐる。毎年四月二十七、八日に大典執行現法主小笠敬順法師は實に十六世目。

中泉町 高橋初藏

當家は土地の舊家であり、資産家でもある。祖父初藏氏の代より肥料商となり今日に至つてゐるが、米穀並に肥料商としては郡内屈指のもの、大正八年、合資会社に改組、氏はその代表社員として牛耳つてゐる。氏は明治十九年十二月十五日生れ、夙くから家業に従事し、他面公共方面に心を伸べ、會て消防組頭、社寺總代として功を稱へられ、現に町會議員、中泉町米穀商組合長等を兼務してゐる。電話は自宅は三五番、店用は五六

中泉町信用利用組合

當組合は昭和二年七月の創立に係り、中泉町一圓を區域とし、信用利用の二事業を經營する。組織は保證責任にて、組合員三百三十餘名である。一般地方經濟界の不況により資金の需要極めて稀薄なりとはいへ、貸付年額四十萬圓を越え、一面貯金はその取扱口數金額共に常に増加の道程を辿り、現在總額約三十九萬圓に達し、口數八百五十餘に上る。組合長には創立以來石川治三郎氏が任じ、理事は四名、監事は三名である。

中泉町 中泉

中泉合運送株式會社

當會社は昭和二年丸泉、丸通、丸エスの三運送店を合併して設立せるものにして、運送業、倉庫業を營み、これに關する荷賃、荷爲替、貸金、資物保管、商品の委託販賣及び賣買仲介、勞力請負を取扱ふ。資本總額十五萬圓は全額拂込所、株式總數は三千株である。事業は、農産物輸送を主とし終始好調を示し、また石炭、光明電鐵古レール、木材等が主要取扱である。倉庫部及び自動車部も共に順調なる成績を見せてゐる。現社長伊藤五郎八氏は會て幾多銀行の重役をつとめ、また長野村長、同村會議員等選ばれて自治にも貢獻多き信望家である。取締役は磯部喜作、神谷八太郎、松本藤一、高橋初藏の四氏にして、支配人は山田新太郎氏、監査役は川合廉作、平野市郎の兩氏である。

中泉町 寺田常五郎

寺田家は當町に於ける有力な舊家、前數代は町長に推されて功績をあげ、織布業を經營して今日に及んでゐる。氏は亡八郎氏の男、明治四年四月五日の出生、高橋是清子を崇拜、常に交通網の徹底と上水道の完成とを念願となしてゐる。會つては福田天龍社の初代理事長として盛名を博し、現在は商會會長をはじめ郡水産組合長、縣水産議員、學務委員等を兼ね、周到なる關心をもつてそれ〴〵功績を累ねてゐるが、押しも押されぬ當地方の長老格、後進者の指導と開發とに熱注してゐる。その男祐一氏は慶應大學出身の逸材、今後の活動振りが一般注視の標的となつてゐるが、氏また必ずその期待を裏切るものではない。

福田町 福田徳太郎

當組合は明治四十四年の設立に係り、兩米順調なる發達を遂げ、大正十二年に

は組合員五六八人、出資(一口十圓)、一五八〇口となり、昭和八年には出資一、六五四口が増加、同十年四月總工費一萬一千圓を投じて現在事務所を完成した。保證責任組織にて、信購販利の四種事業を営み、信用部に於ては専ら滞貨の整理に専念し、不良貸付は漸次減少して現在十三萬圓の總貸出高を有するのみ、一方貯金に於ては年々増加し、金五十五萬五千餘圓を示し、餘裕金は四十四萬五千餘圓を算してゐる。即ち貯金に對する餘裕金歩合は八割強を得て業礎いよ／＼固く組合員の組合精神の理解程度高く、年々利用率も増嵩してゐる。購買部に於ては多數地方營業者の立場を考慮し、經濟匡救援助を計り、政府拂下米一千百餘俵、その他肥料等一萬五千四百餘圓を配給し販賣部に於ては本町産米、小麦及び甘藷その他いづれも農會と提携して總價格四千三百餘圓を受託販賣してゐる。現組合長は大竹五郎氏、専務理事は寺田徳太郎氏にして、理事は寺田常五郎氏ほか七名

監事は宮本重太郎ほか四名である。

遠州自動車株式會社

當社は時運の進轉に先鞭を打つて現はれたもの、即ち秋葉自動車運輸商會と、そして濱松電氣鐵道株式會社とが合同、二十數萬圓を資本金となして昭和十一年十一月一日に成立を見たのである。當社の主なる目的は自動車運輸業と運送業とであつて、成立以來、斷然スタートを切つて新業界に邁進、新進會社としては全く驚異的な活躍で、今日の華々しき盛況を見せつゝある。社長一木米吉氏、専務取締役鈴木俊雄氏、常務取締役一木茂氏、監査役坪井俊平、一木惣平の兩氏、取締役青葉延太郎、鈴木信一、小池友義氏等の一致協同によつてますます發展途上へ目指し、濱松、中ノ町村に出張所を設けてある。

珠玉山 宣光寺

本山の沿革は明かではないが、見付の大地蔵は日本三地蔵の一として知られ、宿内火災の際、大地蔵は身を小兒の姿にかへて東西に馳驅して火防に盡したといふ口碑が今に傳へられてゐる。この大地蔵の寺號を宣光寺と改め、大淵龍道和尚を開山の祖とし、三世仙翁を中興の祖となしてゐる。宗派關係は曹洞宗、十一面觀世音菩薩を本尊となし、檀家は當町の全部と中泉町の一部とを占め小川定七、名倉彦十、金子徳太郎氏等を檀徒總代とし、毎月二十一日は豊川祭禮、二十四日は大地蔵念佛等を行事となしてゐる。實物には梵鐘をはじめ佛祖影像類などなかなか多い。七百餘坪の境内には、本堂、庫裡、開山堂、鐘樓堂、總門等立ち並んで參詣者の襟を正さしめるの感がある。住職は久我尾俊雄師でその名近隣に高い

掛塚自動車株式會社

氏は明治九年十二月二日、隣村十束村本間圓次郎氏の弟に生れ、後ち今の井川家の養嗣子として迎へられた人である。明治三十七年、四圍の状況に迫られて貸座敷業を起し、吾妻樓の名を以て經營、今日に至つて居るが、他面また自治方面で開闢して努力すること多く、明治三十五年以來、引續き町會議員に選ばれて町政に與り、その他幾多の公職を帯びるなど、その人と爲りを察知し得ると共に、信望の極めて厚きものあるを知ることが出来る。現に掛塚自動車株式會社の常務取締役並に丸津織布會社の監査役として職を努力して居るがこれまで本町公私方面に盡せる功勞は、決して尠なるものではない、一層の健康を祈る。

掛塚自動車株式會社

電話掛塚一三番
本社は時代の要求に鑑みて大正十三年

四月に創立したもので、當時の資本金は一萬五千圓だつたが、後ち逐次増資すること四回、現在は八萬圓となり、大型車輛十八台、タクシー用小型一台を有し、八



路線に互つて大々的飛躍經營をなしてゐる。本創立以來、交通の極めて簡便になつたことを、沿線農民は何れも歡呼讃辭の聲を放つてゐる。本社は經營の上に更に刷新を加へ、車台の如きも努めて舊型を捨て、新型を取り、一般乗客の好意に副ふことを念としてゐる。横須賀、中泉、

祥雲山 龍雲寺

當山は數回震火災の厄に遭ひ、由緒沿革等を詳かに知ることは出来ないが、永祿年間、心更宗性禪師によつて創建されたものといひ傳へられてゐる。禪、臨、曹に屬し、方廣寺を大本山となし、釋迦牟尼佛を當寺の本尊となしてゐる。境内は宏大で、藥師堂、地藏堂、庫裡あり、本堂、玄關、書院、牌堂等は目下工事中である。實物としては運慶作と稱せられる藥師如來の木像があり、約二百戸の檀徒を持ち、津倉貞三氏これが總代となつて何彼と世話してゐる。現住職の光墨禪秀師は明治三十一年八月十五日の出生、深く佛學の蘊奥を極めた人、大正十一年前任職の後を承け就任、今日に及んだ。

掛塚信用組合 袴田 幸三

當家先代亡金藏氏は助役、町長、町會議員等あらゆる公職に推薦されて盡瘁、自治功勞者として今に傳へられてゐる。氏はその三男、掛塚信用組合創立當初より參畫して功あり、現に専務理事として同組合を背負つて立つてゐる。また掛塚自動車會社の重役であり、地方自治團體方面にも心を練つてゐる。長兄完一氏は濱松市役所に勤務、後ち課長に進級した人次兄賢二氏は往年中央證券株式會社を起して専務取締役に座し、斯界に腕腕を誦はれ、郷里道路改修工事費として金一萬二千圓を寄附し、その功によつて紺綬褒章を下賜されたが、不幸昭和五年九月他界したのは惜むべきである。令弟庫吉氏は材木商を營み、次弟金作氏は輜重兵少佐で、關東軍司令部付である。

神道修成派靜岡縣 第二十一教務支局

本教會は明治九年十一月、今田豐藏氏が創建したもので、同廿五年四月八日格式の許可を得た。天之御中主神、高皇產靈神、神皇產靈神、伊邪那岐神、天照大神を祭神となし、大己貴神、少彥名神を當教會の本尊として病災消除の特願に努め、現に八千餘の信徒がある。當教會關係名士には經濟學博士太田正孝氏、倉元要一氏、北小路子爵家などがあり、孝明天皇御冠を寶物となしてゐる。大祭は毎年四月三日、十一月三日で、月並祭は毎月一日、五日、信徒の參拜で混雜を極める。創建者今田豐藏氏より内田利吉氏を経て、松田源喜知氏が現主宰者に座してゐる。氏は明治十七年八月十日の生れ、十五歳より信仰に入り、二十一歳の時、見付町教務を設立、大正三年五月十一日當支局に就任した中教正である。

磐田郡北部茶業組合

電話一〇〇番

當組合は敷地、野部、二俣、光明、龍川、龍山、山香、佐久間、熊、上阿多古下阿多古の十一ヶ町村内の茶業を統一し、そしてこれが改善發展に資し、本縣茶業界のために大に氣を吐くべく、明治五年二俣町に茶業組合なるものを創立したが、抑も當組合の濫觴である。同二十二年、農商務省第九號茶業規則に準據して組織を改め、名稱を磐田郡北部茶業組合となし、更にその後年度の改正を加へて今日に及んでゐる。現在組合員數は約二千八、その茶園別別は二十八町餘、製茶機械台數は約一千五十台、動力使用戸數は百七十餘戸、それ等によつて一ヶ年間に生産される茶量は七萬六千九百餘貫に達するの成績を示し、將來ますます伸びゆくの盛運が約束されてゐる。

敷地信用組合

電話廣幡八番ノ乙

當組合は明治四十年設立の有限責任敷

地信用組合に濫觴し、その後購買販賣利用の事業を追加、昭和八年保證責任に變更し今日に至つた。川資總額二萬八千八十圓、一口金額二十四圓、組合員二百六十餘人を算し、事業は名稱の如く四種兼營にして十有餘名の従業員は熱心に事に從

築いて脱澁をなし、また火力乾燥装置を有し、これがため枯露柿をつくり市場に相當成績を収めてゐる。大正五年には成績優良なるを以て中央會及び縣支會より表彰された。現在準備金二萬四千四百餘圓、特別積立金七千四百餘圓を有し、貸付六萬二千五百餘圓、貯金二十五萬、圓購買高三萬八千圓、販賣高二萬圓、利用料千八百餘圓をかぞへる。現組合長淺

東淺羽信用組合

買利凡

本組合の創立は明治四十一年十二月七日で、初めは有限責任東淺羽信用購買組合であつたが、事業の發展するに伴ひて販賣と利用との二事業を加へる同時に



ひ、殊に購買部には二台の自動車

機械を運轉して米、麥の精白、肥料の粉碎をなし、就中作業部には本村の原産たる藍柿(立石)の加工用としてタンクを



岡治三郎氏は昭和六年三月の就任にて組合發展の功勞

者、専務理事は富田泰司氏にして、理事は伊藤功、乗松萬作、佐野逸平の三氏、監事は山下泰一郎、松井熊太郎、鈴木次郎平の諸氏である。設立功勞者たる伊藤翁は自治の要職にあること四十有餘年、



保證責任に改組、一口金額五十圓、組合員を村全休となし、二百七十餘の組合員に達して

る。現に貸付総額は十萬三千圓餘、貯金高は二十萬四千圓餘、購買價額は二萬三千九百圓餘、更に販賣價額は十三萬六千圓餘、利用料は千二百圓餘を計上し、その盛況を示してゐる。なほ昭和四年に農業倉庫を建設、同八年十月七日、縣支會から功勞を表彰された。岡本三太郎、岡本節太郎、原門大郎氏等の前組合長を経て、淺羽多一郎氏現組合長となり、組合員を統率鞭撻してゐる。

東 淺 羽 村

東淺羽信用購買利用組合長 淺羽多一郎

氏の家は土地の舊家として知られ明治十三年七月、今の家に生れた人、大正三年東淺羽信用販賣購買利用組合監事に選ばれて同事業に當るや、既に敏腕を顯はれ將來を卜されてゐたが、果然同十年、理事となり、同十四年、専務理事となり、昭和九年、前組合長の後を襲ふて終に組合長に就任、一身を捧げて組合に盡瘁、今日に至つてゐる。外に氏は村會議員と

して、また村農會長として一村自治の上の功績を累ね、會では役場助役、學務委員、常設委員として、それぞれ多大の功勞をあげてゐる。

東 淺 羽 村

東淺羽村長 岡本保次

當家は部落の舊家にして代々大庄屋をつとめたる家柄である。先代三太郎氏は自治制施行後初代東淺羽村長に擧げられし人望家にて村會議員、郡會議員、産業組合長等を歴任し自治産業に貢献多き功勞者である。氏はその男、明治三十年十月十六日の出生である。明治三十年靜岡師範學校本科を卒へ、庵原郡由比小學校小笠郡城東高等小學校に教鞭を執り、後ち校長に陞進。小笠郡朝比奈、笠原、横須賀、掛川の各小學校長を歴任、大正十年退職歸村し、爾來村長に推されて今日に至り、村農會長、消防組頭たることあり、現時郡農會顧問、磐田周智郡農工品同業組合長その他を兼ね、また縣會議員

井 通 村

井通村信用販賣購買利用組合

本組合は實に明治四十年十一月九日の認可創立で、概して順調な針路を辿つて今日を迎へてゐるが、事業分量の多いことは郡内隨一と稱せられてゐる。全村を組合區域となし、出資一口の金額は二十五圓、保證金額また二十五圓で、組合員數は約四百七十、出資口數約千五百に及んでゐる。現在の貸付總額は約十六萬であるが、貯金は約四十萬圓といふ好成绩を擧げてゐる。そして今日の本組合を見るに、組合員は昨年より今年と増加の傾向で、信用部に於ける貸付金は前年度に比して、約三千圓を増加し、貯金も亦前年に比して約三萬圓を増し、預金は一萬餘圓を増し、て約二十二萬圓、有價證券は約六萬圓に達してゐる。購買部にあつ

ては肥料、飼料、雜貨等を購入約七萬五千圓を算し、農業倉庫の入庫は米穀を主とし小麦、茶種などで、利用部にあつては豆粕の約八千枚を主なるものとして數へられてゐる。なほ本組合には共同作業場を設置するなど、ます／＼組合としての整備を見せてゐる。縣下産業組合中から特に表彰の光榮に浴したのも宜なるかなである。現組合長理事は倉島與平氏、専務理事は松本明氏である。

井 通 村 森 本

村會議員 野口長吉

野口家は土地の舊家、先代兵吉氏は村長たること二回、その他助役、收入役、村會議員、區長たるなど村治の功勞者として讃へられた人。氏はその長男、明治十四年二月十四日の出生、見付高等小學校卒業後は家業を助け、他面村内西ノ島にガソリンスタンド並に中泉町に運輸業を経営して居る。會で村會議員、區長に選ばれ、また消防組第三部長として四期



八年間努力し、現在は村會議員、學務委員、靜岡縣自動車業組合聯合會代議員、同會遠州部會副會長、中遠自動車組合トラクタ部々長等を帯びてそれぞれ執掌活躍して居る。曹洞宗の信者、家には夫人まつ子さんとの間に二男あり、長男八郎氏は中泉農學校修、今は父業を助けて居る。

中遠自動車組合トラクタ部々長等を帯びてそれぞれ執掌活躍して居る。曹洞宗の信者、家には夫人まつ子さんとの間に二男あり、長男八郎氏は中泉農學校修、今は父業を助けて居る。

井 通 村

消防組頭 井伊覺平

前代利八氏は會で喜の字の祝に村青年敬老會より木杯一個を受け、現に八十五歳の長壽を保つて斐然として居る。氏はその長子、明治二十三年七月の生れ、豊橋輜重兵を志願して輜重兵伍長に昇進、



除除後は一重家業に専ら、青年會長、消防組頭、在郷軍人分會副會長、同分會長初代農事監督、煙草組合理事として、多大の業績を擧げて居る。女子青年團の前身處女會員に射撃習習を行はしめ、當時全國噴矢の名を稱へられたのは實に氏の在任中

のことで、金馬旗を授與されたのも亦氏の任期中であつた。現消防組頭、井通村畜産小組副組合長として盡力して居る興味は柔道に剣道。夫人との間に一女あり、要一氏を迎へて家庭極めて圓滿、要一氏は株式會社門倉商店に勤務中。

井 通 村 一 言

元村長 鈴木芳之助

氏は文久三年一月一日の生れ、父祖の

業に従事する所があつたが、明治三十九年、一村推挙の下に村長に就任、村治に手を下した。當時當村は政黨關係の弊百出、縣下屈指の難治村と目され、三十三年以來の納稅滯納金六千圓に達し、自治の運行停止の危機に陥り、小學校教員俸給不拂の状態にまで直回した時、氏はまづ納稅整理に全力を傾注すること四ヶ年、不撓不屈の精神は酬はれて漸く回復の曙光を呈した。次で産業に留意し、自らこれが發起を主唱して現在の郡模範組合たらしめ、また崇祖の念を高むるため率先して墓地改良に着手し、終に成功するなど、氏が村長在任中の三大功績として人口に膾炙して居る。氏今や閑雲野鶴悠々自適の三昧境に浸つて居る。

井通村 一言
村會議員 松本市太郎

一家の稱徳によつて家系等を詳かに知ることとは出来ないが、字切つての舊家、累代農を業とし、先々代は庄屋を勤めた



ほどの家柄として傳へられて居る。氏は明治十二年十二月三日、今の家に生れ、見付高等小學校卒業後は家業に従事、終始農桑方面に盡力して居る。曾て消防組小頭として功を樹て、また自ら一言青年農會なるものを創設し、試作地を起し、て農事改良に盡瘁するところがあり、昭和四年より八年に至る一期間學務委員として教育方面にも功を擧はれて居る。現在は村會議員性温順にして意志鞏固、また俳句、茶の湯、生花等趣味の人であり、宗匠格でも

ある。夫人はみつ子さん、長男一可氏は中泉農學校出、一男一女の孫がある。

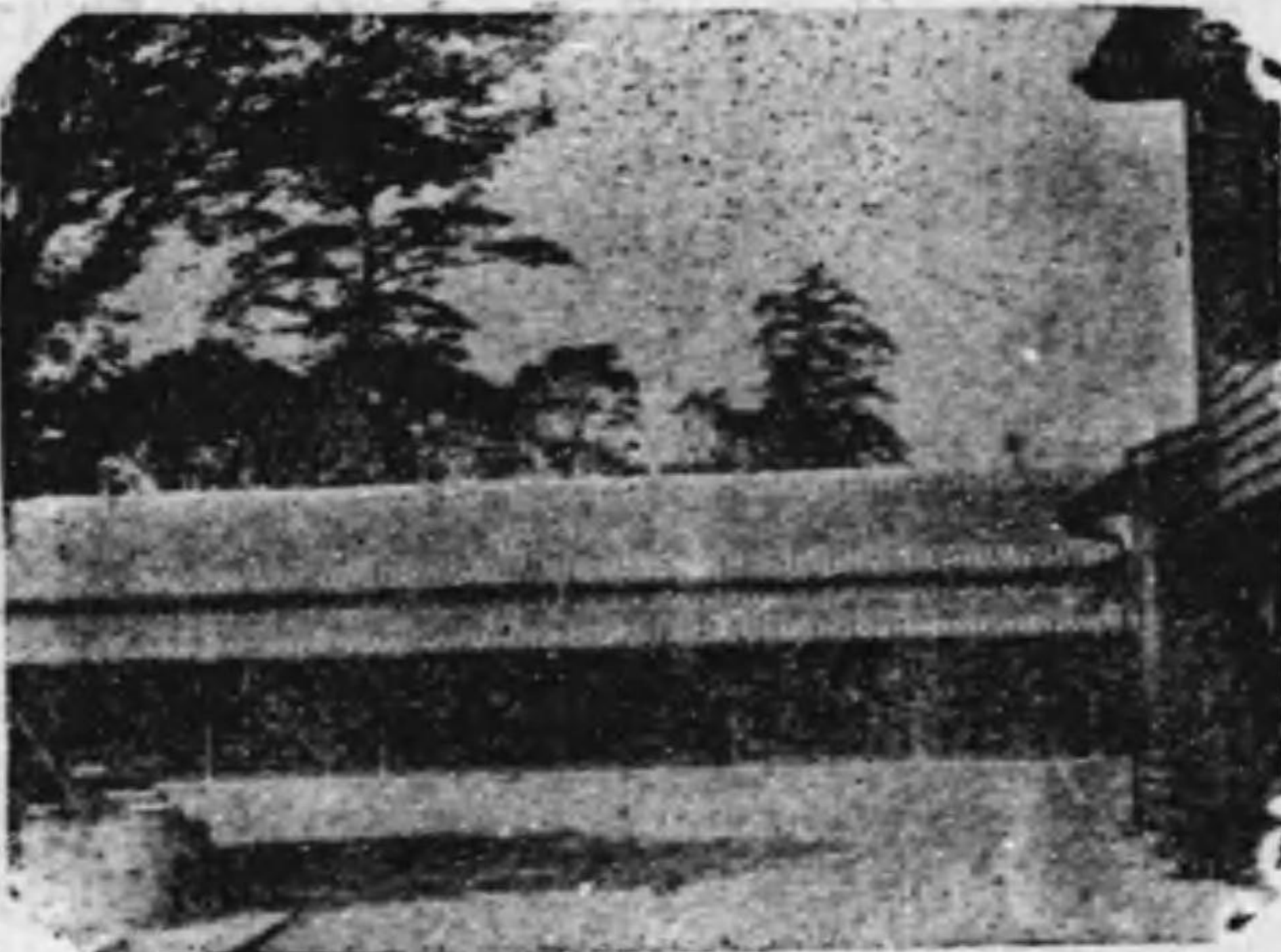
御厨村 鎌田
鎌田神明宮

當社は縣社、祭神は豊受姫神、拜殿に通々藝命、天兒屋根命、太玉命を祭り、幼兒虫除の神徳顯著の故を以て知られて居る。今より千三百餘年前の天武天皇白鳳二癸酉年、豊受姫勢州より農具の鎌と箭と共に當郷に渡御し、この里に鎌田の名を残したもので、今も御鎌田と稱する田があり、崇敬者は祈願御禮として御鎌を奉獻してゐる。往古御厨十七郷一圓を神領地となしたが、應永年間の際に拜領され、次で永祿、天正の兵燹に神殿、神領古證文等悉く焼け失せたのである。徳川家康公の駿府在城の折、高百石の御朱印を賜はり、また武器、鏡をも下賜されが、今は當社の寶物となつてゐる。當社式年御遷宮は二十年毎に造營を營まれて来たもので、境内は約三千五百坪あり

その中に天照皇太神宮、船魂神社、伊雜宮、塩釜神社、青麻神社、稻荷神社、若宮神社、奇神社、高根神社、白髮神社、八幡神社、磐戸神社、大福神社、若宮八幡宮、八王子神社等を祭祀、例祭は毎年十月十五、十六の兩日で、昔は神樂などあつたが、今日では既に中止されてゐる。氏は七ヶ村十九字にわたつて一千餘戸に及び、社司は袴田家の世襲で、現在には袴田桂太郎氏これに就き、白井兼吉、青木鐵平、新貝次三郎氏等氏子總代として幹旋してゐる。

上淺羽村 淺羽
信用購買 販賣利用 組合

本組合は昭和三年十二月二十六日、有限責任上淺羽村信用組合として創立認可を得、主として信用事業にのみ關與したが、同七年二月十八日、更に購買、販賣利用事業を加へて認可を受け、次で有限責任を保證責任に改めて同十一年五月十



八日認可されて現在に至つてゐる。初め事務所を村内淺羽に設けたが、昭和八年二千一百餘圓の工費を以て倉庫並に作業場と共に新築に竣工と同時に今の地に移したもので、倉庫の坪は六十坪、作業場は四十坪ある。當組合の區域は本村一圓で、一口金二十圓、總口數一千四百餘口、組合員約五百に達し、現在の貯金は二十數萬圓、貸付金額十餘萬圓に上つてゐる。農村過去、創痍は全く回復したものとはいへないが、漸次好轉を見せつゝあるは



疑ひのないことで、本村米作の如きも、年々増收を示し、新規經濟資金需要者の少ないのに反して貯金の増額せるは顯著なるもので、組合員各自の經濟更生の領域に進みつゝあることが窺はれ、洵に喜ぶべき現象である。なほ農業倉庫利用者未だ十分でないのが遺憾である。本組合初代組合長理事は大石福次郎氏で、現在は鈴木宗四郎氏、専務理事は創立以來村松泰治氏が就任してゐる。

長野村 鮫島
元村長 本間 徳四郎
勤七等

氏の家は備前藩士の出、祖喜兵衛氏は天龍川防水堤防構築問題に關し隣村との爭議紛糾に際し一村の代表者としてこれ

が解決に當り、一敗塗るゝや自責の念に堪へず、祖先の墓前に刺腹自刃した武士道典型の人物である。氏は萬太郎氏の長子、明治二年一月二十六日出生、日清日露の兩戦役に出征した近衛歩兵軍曹、功に依つて勳七等瑞寶章を下賜された。曾て村長



て村長 産業組合長等に努力するところあつたが

最も意を注いだのは軍事思想の普及で、殊に適齡軍人教育のために私財を投じて青年訓練に貢献し、また自ら産業組合事業を創設して着々完成に力め、その功空しからず、今日中遠に誇る中堅組合の隆盛を見るに至つたのである。因に一子萬四郎氏は今、名古屋市で銘木卸商を営んでゐる。

南御厨村

南御厨村信用購買組合

本組合は明治三十四年三月十一日認可設立したもので、組合区域は全村に互り組合員數約二百五十、出資口數は約六百に近い。現在信用部にあつては、負債の整理と貯金の奨励との結果、貸付にあつては十萬六百餘圓に減じ、貯金にあつては二萬數千圓を増加して約十六萬圓に達してゐる。而して購買部にあつては肥料その他雜貨等の取扱數量が年々増加し、賣上金は一萬數千圓に及び、利用部にあつては製粉機を設備してこれを利用した結果、その利用料は金一千數百圓に達してゐる。それから農業倉庫部にあつては米、小麥などの入庫が大部分を占めてゐるが、漸次これが利用者の増加を見んとしつゝ、あることは喜ぶべき現象である。なほ本組合では、村民一般の自給自足による生活改善を圖るために新たに製麵場を設け、これによつて自家製油麵造その

他に利用させてゐるが、これは確かに自村更生の上に至大の利益をもたらすものである。現在組合長理事は大谷賢治郎氏理事は三上庄作、山下清次郎、淺井安吉太田清一の諸氏で、監事としては中崎庫太郎、鈴木一、八木勇次郎氏等が就任、それ／＼事務に當つてゐる。

豊濱村信用購買組合

本組合は昭和三年の創立で、一口金額三十圓、三百有餘名の組合員を有し、出資總額千口に上つてゐる。現組合長は加藤市郎氏、常務理事は加藤禮助氏。なほ同九年に農業倉庫を開設した。

光明寺

當山の開闢は行基菩薩にして、今を去る千二百年前、即ち人皇四十四代元正天皇の養老元年三月である。當地は天地開

闢の始めより神明佛陀の守護し給ふ靈場にして、晝は樹上に瑞氣あり、夜は巖中より光明を現はした。行基菩薩はこの奇瑞を見て歡喜にたへず、壇場を結界して虚空藏菩薩の求聞持法を修するに、寶劍飛び來つて空中に瑞應を現すを拜し、更に鏡山の巖下に坐して摩利支天の應現に接する等の靈驗多く、この故に行基菩薩は當山の圖面を作つて事の由を奏聞し奉りしに、天皇御歡感あらせられ、直ちに伽藍造營の宣布を下され、皇室の御祈願寺、國家鎮護の道場とし給ふたのである。三満殿、光明殿、大黒殿、奥之院、その他堂塔伽藍、然として由緒の深きを思はせる。

幸浦村信用購買組合

當組合は大正十一年九月設立認可を得、最初は専ら農村に於ける金融機關たるに止まりしも、昭和二年鈴木熊次郎氏事務

理事となるに及び肥料その他の日用雜貨品の共同購入を開始し、昭和四年一月廣岡要作氏組合長に就任するや、翌五年末農業倉庫の認可を得て完全なる米穀統制販賣を實施するに至り、これと同時に精米麥機、粉末機、粉碎機、麵製造室等を設備して利用事業を營むに至つた。昭和八年四月有限責任より無限責任組織に改革、更に組合員の加入増加を計り外形内容の完備無實につとめ、今や資本合計二十一萬圓、純財産四萬三千圓を有する殷盛を見、殊に米穀販賣は自主的機能確立しこれが取扱高一萬四千俵に達し、縣下有數の地位を占めてゐる。組合設立前に於ける本村金融機關としては西に江川報徳社、中央に西同笠信用組合、東に寄木信用組合ありしも、概ね小黨分弱の嫌ひあるため、當時の村長伊藤園七氏、助役石原倫作氏等の主唱發起によつて當組合の誕生を見たもので、現在組合員四百四十名、貸付十一萬一千餘圓、貯金十六萬一千五百圓、購買四萬二千七百圓、販賣

向笠村信用購買組合

本組合は昭和七年二月に認可を得て創立したもので、全村を組合區域と定めてゐる。本村は太田川の西に位置した農村であるが、農産物に對する經營改善が不徹底であり、また生産、購買、販賣が餘りにも無統制であり、且つは金融機關の不備等のために、農家經濟を一段と疲弊せしめ、ます／＼負債を増さしめるの憂慮すべき状態に置かれてゐたので、これが更生策の一方法として本組合が生れたものだと思ふべきである。そして本組合の出資一口金十圓で、三百餘名の組合員があり、その出資の總額は約七千圓を計